

かみ こ
市原市能満上小貝塚



1 9 9 5

福 山 通 運 株 式 会 社
武 蔵 屋 商 事 株 式 会 社
財団法人 市原市文化財センター

序 文

市原市は気候温暖な房総半島のほぼ中央に位置し、市内を南北に流れる養老川を擁するたいへん自然環境に恵まれた地であり、本市に残された数々の遺跡が示すように原始より多くの人々がこの環境に魅せられて生活の拠点としてきました。

一方、首都圏の都市化の波はわたくしたちの住む市原市にも徐々に押し寄せてきており、交通網の整備・住宅建設・レジャー施設の建設などが日夜続けられております。これらの開発行為は現代を生きる者にとって必要不可欠なものでありますが、反面古来より残されてきた貴重な文化遺産の破壊にもつながります。時代はひとりの個人の物質的な利益のみを追及する価値観から、人間本来の精神的にゆとりのある生活を求めるものへと移行しつつあります。そんな中で、目先の利益のみにとられることなく、開発との調和を図りながら文化財を保護し、後世の人々に伝えてゆく努力が我々に課せられた義務といえます。

市原市とくに国分寺台周辺には、全国的にも著名な山倉・西広・祇園原などの大規模貝塚をはじめとする貝塚を伴う縄文時代の集落遺跡が数多く存在し、集落や貝塚研究には欠くことのできない地域となっております。今回トラックターミナル建設に伴い発掘調査を実施しここに報告する「能満上小貝塚」も、この一角に存在する小規模な貝塚を有する縄文時代の集落跡であることがわかりました。全国的にも珍しいイノシシ形土製品や手燭形土器をはじめとする祭祀関係の遺物が比較的豊富に出土したことから、発掘調査時点から注目を集めておりましたが、これらの他にも当時の集落のようす、周辺の環境やそれらに適応した食生活の一面など数多くの貴重な情報が得られております。

本報告書は、この調査成果をまとめたものであり、学術資料としてばかりでなく埋蔵文化財の保護・普及のために広く市民の皆様にも活用されることを願ってやみません。

最後に、千葉県教育庁文化課・市原市教育委員会ふるさと文化課・福山通運株式会社・武蔵屋商事株式会社をはじめとする関係諸機関・諸氏の御指導・御協力に深く感謝いたします。

平成7年3月

財団法人 市原市文化財センター
理 事 長 佐 野 年 男

例 言

1. 本書は、千葉縣市原市能満字上小貝塚1926-15他に所在の能満上小貝塚の調査報告書である。
2. 調査はトラクターミナル建設に先行して実施されたものであり、福山通運株式会社・武蔵屋商事株式会社の委託により、千葉県教育委員会・市原市教育委員会の指導のもとに、財団法人市原市文化財センターがおこなった。
3. 調査対象面積は工事対象の13,927㎡であり、このうちの10%について遺跡範囲の確認調査を実施し、この結果をうけ建物建設による削平部分の5,735㎡について本調査をおこなった。それ以外の部分については簡易舗装され、直接遺跡にはダメージはないものと判断し本調査対象からは外された。
4. 発掘調査、整理作業は下記のとおりおこなった。

確認調査	平成4年7月16日～平成4年9月24日	調査担当	忍澤成視
本調査	平成4年11月11日～平成5年3月31日	調査担当	忍澤成視
整理・報告書刊行	平成5年4月1日～平成7年3月31日	整理担当	忍澤成視

5. 本書の執筆、作成は忍澤が担当した。動物遺存体の同定・分析は早稲田大学講師金子浩昌氏に、貝殻成長線分析については日本学術振興会特別研究員樋泉岳二氏に、テフラ分析についてはパリノサーヴェイ株式会社に委託し、執筆いただいた。また、テフラの一部の分析結果について神奈川県立旭高校教諭上本進二氏・都留文化大学教授上杉陽氏から玉稿を賜った。

石器の石材鑑定は千葉県立姉崎高校教諭沢野弘氏にお願いし、不明発泡体については国立奈良文化財研究所沢田正明氏に、アスファルト状の物質については国立歴史民俗博物館助教授永嶋正春氏に御教示を得た。

6. 財団法人市原市文化財センター調査コードは、確認調査がセ155・本調査がセ160である。
7. 本書を作成するにあたり、当センター大村直氏、市原市ふるさと文化課近藤敏氏、東海大学校地内遺跡調査団秋田かな子氏、横浜市ふるさと歴史財団石井寛氏、横浜市歴史博物館安藤広道氏、木曽郡町村会新谷和孝氏、(財)千葉県文化財センター加納実氏・高柳圭一氏、(財)長生郡市文化財センター菅谷通保氏、東京大学文学部助手大塚達郎氏、国立歴史民俗博物館助手設楽博巳氏より御教示を得た。記して謝意を表したい。また、整理作業では植月学・小高健太郎・牧野光隆（早稲田大学）、木口裕史（明治大学）ら学生諸氏の協力を得た。

凡 例

石器・石製品、土器・土製品実測図中の記号、遺構実測図中のトーンの意味は、次のとおりである。

摩耗痕	←●→	摩耗強	←●●→	炉	
敲打痕	←○→	敲打強	←○○→	貝層	
凹み状の摩耗	←▼→			テフラ層	
研磨痕	←□→				
敲打面					
赤彩					

財団法人 市原市文化財センター組織表

平成4年度（調査）

役 員	職 員
理 事 長 星野 一郎（市原市教育委員会教育長）4. 10. 31まで	庶務課
植草 久善（市原市教育委員会教育長）4. 11. 1 より	課 長 田丸 萬富
副理事長 田中 信雄（市原市教育委員会社会教育部長）	主 事 大鐘 光江
常務理事 鈴木 太郎（市原市教育委員会副参事）	主 事 阿部 茂之
理 事 加藤 晋平（千葉大学教授）	調査課
理 事 寺村 光晴（和洋女子大学教授）	課 長 米田耕之助
理 事 木村 千春（郷土史家）	主任調査研究員 田中 清美
理 事 佐野 年男（市原市企画部長）	主任調査研究員 浅利 幸一
理 事 落合 泰（市原市総務部長）	調査研究員 大村 直
理 事 加瀬 睦郎（市原市財務部長）	調査研究員 近藤 敏
理 事 田中 俊夫（市原市都市計画部長）	調査研究員 高橋 康男
監 事 高橋 孝（市原市会計課長）	調査研究員 木對 和紀
監 事 青柳四郎治（市原市教育委員会総務課長）	調査研究員 忍澤 成視
	調査研究員 田中 茂良
	調査研究員（囑託） 半田 堅三
	主 事 高浦 貞子

平成5年度（整理）

役 員	職 員
理 事 長 植草 久善（市原市教育委員会教育長）	庶務課
副理事長 田中 信雄（市原市教育委員会社会教育部長）	課 長 田丸 萬富
常務理事 鈴木 太郎（専任）	主 事 大鐘 光江
理 事 加藤 晋平（国学院大学教授）	主 事 阿部 茂之
理 事 寺村 光晴（和洋女子大学教授）	調査課
理 事 木村 千春（郷土史家）	課 長 米田耕之助
理 事 佐野 年男（市原市企画部長）	主任調査研究員 田中 清美
理 事 落合 泰（市原市総務部長）	調査研究員 大村 直
理 事 加瀬 睦郎（市原市財務部長）	調査研究員 高橋 康男
理 事 田中 俊夫（市原市都市計画部長）	調査研究員 木對 和紀
監 事 中村 知之（市原市出納室長）	調査研究員 忍澤 成視
監 事 深澤 和良（市原市教育委員会総務課長）	調査研究員 田中 茂良
	調査研究員 小川 浩一
	調査研究員 櫻井 敦史
	調査研究員（囑託） 半田 堅三
	主 事 高浦 貞子

平成6年度（整理・報告書刊行）

役 員

理 事 長 佐野 年男（専任）
 副理事長 山口 唯一（市原市教育委員会生涯学習部長）
 常務理事 鈴木 太郎（専任）
 理 事 加藤 晋平（国学院大学教授）
 理 事 寺村 光晴（和洋女子大学教授）
 理 事 木村 千春（郷土史家）
 理 事 植草 久善（市原市教育委員会教育長）6.7.14逝去まで
 理 事 大野 皎（市原市教育委員会教育長）6.9.19より
 理 事 石井 作二（市原市企画部長）
 理 事 加瀬 睦郎（市原市総務部長）
 理 事 田中 俊夫（市原市都市計画部長）
 監 事 斎藤 初男（市原市出納室長）
 監 事 田邊 義夫（市原市教育委員会総務課長）

職 員

庶務課

課	長	古宮 祐助
主	事	大鐘 光江
主	事	阿部 茂之
調査課		
課	長	米田耕之助
係	長	田中 清美
主任調査研究員		大村 直
主任調査研究員		小出 紳夫
主任調査研究員		田所 真
調査研究員		忍澤 成視
調査研究員		小川 浩一
調査研究員		櫻井 敦史
調査研究員（嘱託）		半田 堅三
主	事	高浦 貞子

本文目次

序 文

例 言

財団法人市原市文化財センター組織表

I 序 説

1 遺跡の立地と環境	1
2 調査方法と概要	6

II 遺構と遺物

1 土器捨て場	12
2 住居址	28
3 調査区中央削平部分検出のピット群	141
4 土坑	144
5 縄文時代以外の遺構	204
6 遺構出土の動物遺存体	212

III 貝 塚

1 貝塚の調査方法と概要	215
2 貝層出土の人工遺物	233
a 骨角貝製品	233
b 石器・石製品	237
3 貝層出土の動物遺存体	240
a 軟体動物門（腹足綱・斧足綱・微小貝種）	240
b 節足動物門（甲殻綱）	253
c 脊椎動物門（軟骨魚綱・硬骨魚綱・両生綱・爬虫綱・鳥綱・哺乳綱）	253
d 人骨	280

IV 遺物包含層

1 遺物包含層の概要と調査方法	281
2 包含層出土の人工遺物	285
a 土器	285
b 土製品	405
c 石器・石製品	423
d 骨角貝製品	483
3 包含層出土の動物遺存体	483

V 自然科学分析

1 貝殻成長線分析	484
2 テフラ分析	502
3 不明発泡体	518
4 アスファルト状の物質	521

VI 考 察

1 能満上小貝塚集落の変遷	522
2 祭祀関係土製品・石製品の出土状況	532
3 能満上小貝塚における生業活動の展開	537

挿図目次

第1図	市原市内貝塚分布図	3～4
第2図	能満上小貝塚遺跡調査範囲	5
第3図	能満上小貝塚遺跡全体図	7～8
第4図	遺構配置図	9～10
第5図	S－1号遺構遺物出土状況図	13～14
第6図	S－1号遺構出土遺物(1)	15
第7図	S－1号遺構出土遺物(2)	16
第8図	S－1号遺構出土遺物(3)	17
第9図	S－1号遺構出土遺物(4)	18
第10図	S－1号遺構出土遺物(5)	20
第11図	S－1号遺構出土遺物(6)	21
第12図	S－1号遺構出土遺物(7)	22
第13図	S－1号遺構出土遺物(8)	23
第14図	S－1号遺構出土遺物(9)	24
第15図	住居址出土土器組成	26
第16図	1号住居址実測図および出土遺物(1)	27
第17図	1号住居址出土遺物(2)	28
第18図	2号住居址実測図および出土遺物(1)	29
第19図	2号住居址出土遺物(2)	30
第20図	3号住居址実測図および出土遺物(1)	32
第21図	3号住居址出土遺物(2)	33
第22図	3号住居址出土遺物(3)	34
第23図	4号住居址実測図	35
第24図	5, 6, 7a・b・c, 8号住居址実測図	37～38
第25図	5号住居址出土遺物(1)	39
第26図	5号住居址出土遺物(2)	40
第27図	6号住居址出土遺物(1)	41
第28図	6号住居址出土遺物(2)	42
第29図	7a号住居址出土遺物	43
第30図	7b号住居址出土遺物	44
第31図	7c号住居址出土遺物	45
第32図	8号住居址出土遺物	46
第33図	9, 10a・b・c・d号住居址実測図	47～48
第34図	9号住居址出土遺物	49
第35図	10a・b・c・d号住居址出土遺物	51
第36図	11号住居址実測図	53～54
第37図	11号住居址出土遺物(1)	55
第38図	11号住居址出土遺物(2)	56
第39図	11号住居址出土遺物(3)	57
第40図	11号住居址出土遺物(4)	58
第41図	11号住居址出土遺物(5)	59
第42図	11号住居址出土遺物(6)	60
第43図	11号住居址出土遺物(7)	61
第44図	11号住居址出土遺物(8)	62
第45図	11号住居址出土遺物(9)	63
第46図	11号住居址出土遺物(10)	65
第47図	11号住居址出土遺物(11)	66
第48図	11号住居址出土遺物(12)	67
第49図	12号住居址実測図	69～70
第50図	12号住居址出土遺物(1)	71
第51図	12号住居址出土遺物(2)	72
第52図	12号住居址出土遺物(3)	73
第53図	12号住居址出土遺物(4)	74
第54図	12号住居址出土遺物(5)	75
第55図	12号住居址出土遺物(6)	76
第56図	12号住居址出土遺物(7)	77
第57図	12号住居址出土遺物(8)	78
第58図	13号住居址実測図	79
第59図	13号住居址出土遺物(1)	80
第60図	13号住居址出土遺物(2)	81
第61図	13号住居址出土遺物(3)	82
第62図	13号住居址出土遺物(4)	83
第63図	13号住居址出土遺物(5)	84
第64図	13号住居址出土遺物(6)	85
第65図	13号住居址出土遺物(7)	86
第66図	14号住居址実測図	87
第67図	14号住居址出土遺物(1)	88
第68図	14号住居址出土遺物(2)	89
第69図	14号住居址出土遺物(3)	90
第70図	15号住居址実測図	91～92
第71図	15号住居址出土遺物(1)	93
第72図	15号住居址出土遺物(2)	94
第73図	15号住居址出土遺物(3)	95
第74図	15号住居址出土遺物(4)	96
第75図	15号住居址出土遺物(5)	97
第76図	15号住居址出土遺物(6)	98
第77図	15号住居址出土遺物(7)	99
第78図	16号住居址実測図および出土遺物(1)	101～102
第79図	16号住居址出土遺物(2)	103
第80図	17号住居址実測図および出土遺物、1号人骨実測図	104
第81図	18号住居址実測図および出土遺物	105
第82図	19・20号住居址実測図	106
第83図	19号住居址出土遺物(1)	108
第84図	19号住居址出土遺物(2)	109
第85図	19号住居址出土遺物(3)	110
第86図	19号住居址出土遺物(4)	111
第87図	20号住居址出土遺物(1)	112
第88図	20号住居址出土遺物(2)	113
第89図	20号住居址出土遺物(3)	114
第90図	21・22号住居址実測図(1)	115
第91図	21・22号住居址実測図(2)および21号住居址出土遺物(1)	116
第92図	21号住居址出土遺物(2)	117
第93図	22号住居址出土遺物(1)	118
第94図	22号住居址出土遺物(2)	119
第95図	23号住居址実測図および出土遺物	120
第96図	24号住居址実測図および出土遺物	121
第97図	確認①号住居址出土遺物	123
第98図	確認②, ③号住居址実測図および出土遺物	124
第99図	確認④, ⑤号住居址実測図および出土遺物	125
第100図	確認⑥号住居址実測図および出土遺物	126
第101図	確認⑦号住居址実測図および出土遺物	127
第102図	調査区中央削平部分検出のピット群	139～140
第103図	調査区中央削平部分検出のピット群出土遺物(1)	142
第104図	調査区中央削平部分検出のピット群出土遺物(2)	143
第105図	土坑形態分類模式図	146
第106図	西広貝塚S S 1区N 2 0 4号遺構遺物出土状況	153
第107図	1号土坑実測図および出土遺物(1)	154
第108図	1号土坑出土遺物(2), 2号土坑実測図および出土遺物(1)	155
第109図	3・4・5号土坑実測図および出土遺物, 6・7・10・11号土坑実測図, 6号土坑出土遺物(1)	156
第110図	6号土坑出土遺物(2), 11号土坑出土遺物, 8・9号土坑実測図および出土遺物	157
第111図	12・13号土坑実測図および出土遺物, 14号土坑実測図および出土遺物(1)	158
第112図	14号土坑実測図および出土遺物(2), 15～25号土坑実測図および出土遺物	159
第113図	26～31号土坑実測図および出土遺物, 32号土坑実測図	160
第114図	32号土坑出土遺物(1)	161
第115図	32号土坑出土遺物(2), 33・34号土坑実測図および出土遺物	162
第116図	35・36・37号土坑実測図および出土遺物, 38号土坑実測図および出土遺物(1)	163
第117図	38号土坑出土遺物(2), 39～42号土坑実測図および出土遺物	164

第118図	43・44号土坑実測図および出土遺物	165
第119図	45～48号土坑実測図および出土遺物, 49号土坑実測図	166
第120図	49号土坑出土遺物, 50・51号土坑実測図および出土遺物	167
第121図	52～54号土坑実測図および出土遺物, 55号土坑実測図および出土遺物(1)	168
第122図	55号土坑出土遺物(2), 56号土坑実測図および出土遺物, 57号土坑実測図および出土遺物(1)	169
第123図	57号土坑出土遺物(2), 58号土坑実測図および出土遺物, 59・60号土坑実測図	170
第124図	59号土坑出土遺物, 61号土坑実測図および出土遺物	171
第125図	60号土坑出土遺物	172
第126図	62～64号土坑実測図および出土遺物, 65号土坑実測図	173
第127図	65号土坑出土遺物, 66～68号土坑実測図, 67号土坑実測図および出土遺物	174
第128図	66号土坑出土遺物(1)	175
第129図	66号土坑出土遺物(2), 68号土坑出土遺物(1)	176
第130図	68号土坑出土遺物(2), 69号土坑実測図および出土遺物	177
第131図	70・71号土坑実測図および出土遺物	178
第132図	72～75号土坑実測図および出土遺物	179
第133図	76・77号土坑実測図および出土遺物, 78号土坑実測図および出土遺物(1)	180
第134図	78号土坑出土遺物(2), 79～82号土坑実測図および出土遺物, 83号土坑実測図	181
第135図	83号土坑出土遺物, 84～86号土坑実測図および出土遺物	182
第136図	87・88号土坑実測図および出土遺物, 89号土坑実測図および出土遺物(1)	183
第137図	89号土坑出土遺物(2), 90・91号土坑実測図および出土遺物	184
第138図	92～94号土坑実測図および出土遺物, 95号土坑実測図および出土遺物(1)	185
第139図	95号土坑出土遺物(2), 96～101・103号土坑実測図および出土遺物	186
第140図	102・104～107号土坑実測図および出土遺物, 108号土坑実測図	187
第141図	108号土坑出土遺物, 109～112・114・115号土坑実測図および出土遺物	188
第142図	113号土坑実測図および出土遺物(1)	189
第143図	113号土坑実測図および出土遺物(2)	190
第144図	113号土坑実測図および出土遺物(3)	191
第145図	116～121号土坑実測図および出土遺物	192
第146図	122～128号土坑実測図および出土遺物, 129号土坑実測図	193
第147図	129号土坑出土遺物, 130・131号土坑実測図および出土遺物	194
第148図	132～136号土坑実測図および出土遺物, 137号土坑実測図	195
第149図	137～141号土坑実測図および出土遺物, 142号土坑実測図および出土遺物(1)	196
第150図	142号土坑実測図および出土遺物(2)	197
第151図	143・144号土坑実測図および出土遺物	198
第152図	145号土坑実測図および出土遺物(1)	199
第153図	145号土坑出土遺物(2), 146・147号土坑実測図および出土遺物	200
第154図	148～151号土坑実測図および出土遺物	201
第155図	152～157号土坑実測図および出土遺物	202
第156図	158号土坑実測図, 159号土坑実測図および出土遺物(1)	203
第157図	159号土坑出土遺物(2)	204
第158図	1・2号溝実測図および1号溝出土遺物(1)	205

第159図	1号溝出土遺物(2), 2号溝出土遺物	206
第160図	貝層分布範囲および分析対象貝層サンプル位置図	223～224
第161図	分析対象貝層サンプル採取地点断面図(1)	225
第162図	分析対象貝層サンプル採取地点断面図(2)	226
第163図	貝層サンプル中内容物の比較(地点別・時期別)	227～230
第164図	貝層サンプル中内容物の比較(層位別)	231～232
第165図	骨角貝製品(1)	234
第166図	骨角貝製品(2)	235
第167図	貝種組成(地点別・時期別)	245～248
第168図	貝種組成(層位別)	249
第169図	ハマグリの殻高分布(地点別・時期別)	250
第170図	ハマグリの殻高分布(層位別)	251
第171図	時期別魚種組成比較	270
第172図	山田橋玄の海道貝塚ブロック別魚種組成比較(堀之内1式期)	270
第173図	遺物包含層分布範囲	282
第174図	遺物包含層断面図	283～284
第175図	遺物包含層出土土器の時期別分布状況1(中期中葉)	286
第176図	遺物包含層出土土器の時期別分布状況2(後期中葉)	287
第177図	遺物包含層出土土器の時期別分布状況3(後期初頭)	288
第178図	遺物包含層出土土器の時期別分布状況4(後期前葉)	289
第179図	遺物包含層出土土器の時期別分布状況5(後期中葉)	290
第180図	遺物包含層出土土器の時期別分布状況6(後期後葉)	291
第181図	遺物包含層出土土器の時期別分布状況7(晩期前葉)	292
第182図	遺物包含層出土土器の時期別分布状況8(晩期中葉)	293
第183図	遺物包含層出土土器の時期別分布状況9(晩期後葉)	294
第184図	遺物包含層地点別出土土器量の比較	295
第185図	遺物包含層出土土器地区別組成	296
第186図	1 A区遺物包含層出土土器・2a層(1)	298
第187図	1 A区遺物包含層出土土器・2a層(2)	299
第188図	1 A区遺物包含層出土土器・2a層(3)	300
第189図	1 A区遺物包含層出土土器・2a層(4)	301
第190図	1 A区遺物包含層出土土器・2b層(1)	302
第191図	1 A区遺物包含層出土土器・2b層(2)	303
第192図	1 A区遺物包含層出土土器・2b層(3)	304
第193図	1 A区遺物包含層出土土器・2層(1)	305
第194図	1 A区遺物包含層出土土器・2層(2)	306
第195図	1 B区遺物包含層出土土器・2a層(1)	307
第196図	1 B区遺物包含層出土土器・2a層(2)	308
第197図	1 B区遺物包含層出土土器・2b層(1)	308
第198図	1 B区遺物包含層出土土器・2b層(2)	309
第199図	1 B区遺物包含層出土土器・2層(1)	310
第200図	1 B区遺物包含層出土土器・2層(2)	311
第201図	1 C・1 D・2 A区遺物包含層出土土器	311
第202図	2 B区遺物包含層出土土器(1)	312
第203図	2 B区遺物包含層出土土器(2)	313
第204図	2 C区遺物包含層出土土器	314
第205図	2 D区遺物包含層出土土器(1)	315
第206図	2 D区遺物包含層出土土器(2)	316
第207図	2 D区遺物包含層出土土器(3)	317
第208図	2 D区遺物包含層出土土器(4)	318
第209図	2 E区遺物包含層出土土器	319
第210図	3 B区遺物包含層出土土器(1)	320
第211図	3 B区遺物包含層出土土器(2)	321
第212図	3 B区遺物包含層出土土器(3)	322
第213図	3 B区遺物包含層出土土器(4)	323
第214図	3 C区遺物包含層出土土器(1)	324
第215図	3 C区遺物包含層出土土器(2)	325
第216図	3 C区遺物包含層出土土器(3)	326
第217図	3 C区遺物包含層出土土器(4)	327
第218図	3 C区遺物包含層出土土器(5)	328
第219図	3 C区遺物包含層出土土器(6)	329
第220図	3 C区遺物包含層出土土器(7)	330
第221図	3 D区遺物包含層出土土器(1)	331

第222図	3 D区遺物包含層出土土器(2)	332	第286図	8 C E区遺物包含層出土土器	393
第223図	3 D区遺物包含層出土土器(3)	333	第287図	8 D区遺物包含層出土土器(1)	394
第224図	3 D区遺物包含層出土土器(4)	334	第288図	8 D区遺物包含層出土土器(2)	395
第225図	3 D区遺物包含層出土土器(5)	335	第289図	8 D区遺物包含層出土土器(3)	396
第226図	3 D区遺物包含層出土土器(6)	336	第290図	8 D区遺物包含層出土土器(4)	397
第227図	3 E区遺物包含層出土土器	336	第291図	8 E区遺物包含層出土土器	398
第228図	4 B区遺物包含層出土土器	337	第292図	9 C区遺物包含層出土土器	398
第229図	4 C区遺物包含層出土土器	338	第293図	9 D区遺物包含層出土土器(1)	398
第230図	4 D区遺物包含層出土土器	338	第294図	9 D区遺物包含層出土土器(2)	399
第231図	(6 B)・6 C区遺物包含層出土土器(1)	340	第295図	カクラン層出土土器(1)	400
第232図	6 C区遺物包含層出土土器(2)	341	第296図	カクラン層出土土器(2)	401
第233図	6 C区遺物包含層出土土器(3)	342	第297図	カクラン層出土土器(3)	402
第234図	6 D区遺物包含層出土土器(1)	343	第298図	カクラン層出土土器(4)	403
第235図	6 D区遺物包含層出土土器(2)	344	第299図	カクラン層出土土器(5)	404
第236図	6 E区遺物包含層出土土器(1)	344	第300図	遺物包含層出土土製品(1)	408
第237図	6 E区遺物包含層出土土器(2)	345	第301図	遺物包含層出土土製品(2)	409
第238図	7 C区遺物包含層出土土器(1)	346	第302図	遺物包含層出土土製品(3)	410
第239図	7 C区遺物包含層出土土器(2)	347	第303図	遺物包含層出土土製品(4)	411
第240図	7 C区遺物包含層出土土器(3)	348	第304図	遺物包含層出土土製品(5)	412
第241図	7 C区遺物包含層出土土器(4)	349	第305図	遺物包含層出土土製品(6)	413
第242図	7 C区遺物包含層出土土器(5)	350	第306図	遺物包含層出土土製品(7)	414
第243図	7 C区遺物包含層出土土器(6)	351	第307図	遺物包含層出土土製品(8)	415
第244図	7 C区遺物包含層出土土器(7)	352	第308図	遺物包含層出土石器・石製品(1)	427
第245図	7 C区遺物包含層出土土器(8)	353	第309図	遺物包含層出土石器・石製品(2)	428
第246図	7 C区遺物包含層出土土器(9)	354	第310図	遺物包含層出土石器・石製品(3)	429
第247図	7 C区遺物包含層出土土器(10)	355	第311図	遺物包含層出土石器・石製品(4)	430
第248図	7 C区遺物包含層出土土器(11)	356	第312図	遺物包含層出土石器・石製品(5)	431
第249図	7 C区遺物包含層出土土器(12)	357	第313図	遺物包含層出土石器・石製品(6)	432
第250図	7 C区遺物包含層出土土器(13)	358	第314図	遺物包含層出土石器・石製品(7)	433
第251図	7 C区遺物包含層出土土器(14)	359	第315図	遺物包含層出土石器・石製品(8)	434
第252図	7 C区遺物包含層出土土器(15)	360	第316図	遺物包含層出土石器・石製品(9)	435
第253図	7 C区遺物包含層出土土器(16)	361	第317図	遺物包含層出土石器・石製品(10)	436
第254図	7 C区遺物包含層出土土器(17)	362	第318図	遺物包含層出土石器・石製品(11)	437
第255図	7 C区遺物包含層出土土器(18)	363	第319図	遺物包含層出土石器・石製品(12)	438
第256図	7 C区遺物包含層出土土器(19)	364	第320図	遺物包含層出土石器・石製品(13)	439
第257図	7 D区遺物包含層出土土器(1)	365	第321図	遺物包含層出土石器・石製品(14)	440
第258図	7 D区遺物包含層出土土器(2)	366	第322図	遺物包含層出土石器・石製品(15)	441
第259図	7 D区遺物包含層出土土器(3)	367	第323図	遺物包含層出土石器・石製品(16)	442
第260図	7 D区遺物包含層出土土器(4)	368	第324図	遺物包含層出土石器・石製品(17)	443
第261図	7 D区遺物包含層出土土器(5)	369	第325図	遺物包含層出土石器・石製品(18)	444
第262図	7 D区遺物包含層出土土器(6)	370	第326図	遺物包含層出土石器・石製品(19)	445
第263図	7 D区遺物包含層出土土器(7)	371	第327図	遺物包含層出土石器・石製品(20)	446
第264図	7 D区遺物包含層出土土器(8)	372	第328図	遺物包含層出土石器・石製品(21)	447
第265図	7 D区遺物包含層出土土器(9)	373	第329図	遺物包含層出土石器・石製品(22)	448
第266図	7 D区遺物包含層出土土器(10)	374	第330図	遺物包含層出土石器・石製品(23)	449
第267図	7 D区遺物包含層出土土器(11)	375	第331図	遺物包含層出土石器・石製品(24)	450
第268図	7 D区遺物包含層出土土器(12)	376	第332図	遺物包含層出土石器・石製品(25)	451
第269図	7 D区遺物包含層出土土器(13)	377	第333図	遺物包含層出土石器・石製品(26)	452
第270図	7 D区遺物包含層出土土器(14)	378	第334図	遺物包含層出土石器・石製品(27)	453
第271図	7 D区遺物包含層出土土器(15)	379	第335図	能満上小産ハマグリの死亡季節分布	494
第272図	7 D区遺物包含層出土土器(16)	380	第336図	Walford の定差図による能満上小産ハマグリの 成長速度	495
第273図	7 D区遺物包含層出土土器(17)	381	第337図	第4地点(6C-78グリッド)2b層出土土器	503
第274図	7 D区遺物包含層出土土器(18)	382	第338図	テフラサンプルおよび土壌サンプル採取地点	505
第275図	7 D区遺物包含層出土土器(19)	383	第339図	テフラサンプルおよび土壌サンプル採取地点断面図	506
第276図	7 D区遺物包含層出土土器(20)	384	第340図	時期別遺構分布 1 (中期後葉～後期初頭)	526
第277図	7 D区遺物包含層出土土器(21)	385	第341図	時期別遺構分布 2 (後期前葉)	527
第278図	7 D区遺物包含層出土土器(22)	386	第342図	時期別遺構分布 3 (後期中葉)	528
第279図	7 D区遺物包含層出土土器(23)	387	第343図	時期別遺構分布 4 (後期後葉)	529
第280図	7 E区遺物包含層出土土器(1)	388	第344図	時期別遺構分布 5 (晩期前葉)	530
第281図	7 E区遺物包含層出土土器(2)	389	第345図	時期別遺構分布 6 (晩期中葉)	531
第282図	7 E区遺物包含層出土土器(3)	390	第346図	西側調査区祭祀関係土製品・石製品出土状況	535
第283図	7 E区遺物包含層出土土器(4)	391	第347図	東側調査区祭祀関係土製品・石製品出土状況	536
第284図	7 E区遺物包含層出土土器(5)	392			
第285図	7 E区遺物包含層出土土器(6)	393			

表 目 次

第1表	市原市内貝塚一覧	2
第2表	S-1号遺構出土土器観察表	19
第3表	能満上小貝塚住居址リスト	25
第4表	住居址出土土製品計測表	128~130
第5表	住居址出土石器・石製品計測表	131~138
第6表	縄文時代土坑時期別形態分類表	145
第7表	能満上小貝塚土坑リスト	147~150
第8表	能満上小貝塚溝リスト	150
第9表	49号土坑覆土内検出獣骨の出現数一覧	172
第10表	土坑出土土製品計測表	207
第11表	土坑出土石器・石製品計測表、弥生木棺墓出土ガラス玉計測表	208~211
第12表	両生綱・爬虫綱・鳥綱・哺乳綱遺体出現数一覧（住居址覆土・炉址覆土）	213~214
第13表	両生綱・爬虫綱・鳥綱・哺乳綱遺体出現数一覧（貝層を伴わない土坑）	214
第14表	貝層サンプル内容物組成	219~220
第15表	住居址覆土・炉址覆土サンプル内容物組成	221
第16表	貝層および遺構覆土サンプルの量と分析に要した作業量	221
第17表	骨角貝製品計測表	236
第18表	貝層サンプル中検出のフレーク・チップ	238
第19表	住居址覆土・炉址覆土サンプル中検出のフレーク・チップ	239
第20表	住居址検出のコア・フレーク（発掘調査時）	239
第21表	出土軟体動物種名一覧	240
第22表	軟体動物出現数一覧	241~242
第23表	出土微小貝種名一覧	251
第24表	微小貝種出現数一覧	252
第25表	出土した脊椎動物遺体の種名一覧	253~256
第26表	魚類遺体出現数一覧	259~266
第27表	能満上小貝塚貝層出土魚類遺体地点・時期別最小個体数	268
第28表	山田橋亥の海道貝塚 3c層検出魚類遺体ブロック別最小個体数	269
第29表	スズキ歯骨高計測データ	271
第30表	クロダイ前上顎骨長計測データ	271
第31表	両生綱・爬虫綱・鳥綱・哺乳綱遺体出現数一覧（貝層）	274~276
第32表	埋葬以外の人骨出現数一覧	280
第33表	遺構出土の土製品時期別出土点数一覧	407
第34表	遺物包含層出土の土製品グリッド別出土点数一覧	407
第35表	遺物包含層出土の土製品計測表	416~422
第36表	遺構出土の石器・石製品時期別出土点数一覧	426
第37表	遺物包含層出土の石器・石製品グリッド別出土点数一覧	426
第38表	遺物包含層出土の石器・石製品計測表	454~482
第39表	両生綱・爬虫綱・鳥綱・哺乳綱遺体出現数一覧（遺物包含層）	483
第40表	能満上小貝塚ハマグリ貝殻成長線分析用試料採取地点	496
第41表	能満上小貝塚産ハマグリの死亡季節推定用試料・結果一覧	497~499
第42表	廃棄1回当たりのハマグリ個体数の試算結果	500
第43表	能満上小貝塚産ハマグリ成長速度推定試料・冬輪殻高一覧（大型殻）	500
第44表	能満上小貝塚産ハマグリ成長速度推定試料・冬輪殻高一覧（小型殻）	501
第45表	能満上小貝塚テフラサンプルリスト	504
第46表	土坑および住居址試料テフラ分析結果	513
第47表	第1地点（試料A 1A-58グリッド）試料テフラ分析結果	514
第48表	第2地点（試料B 7C-56グリッド）試料テフラ分析結果	514
第49表	第3地点（試料C 2D-73グリッド 11号住居址）試料テフラ分析結果	515
第50表	第4地点（試料D 6C-78グリッド）試料テフラ分析結果	515
第51表	富士系テフラサンプル観察表	516
第52表	不明発泡体計測表	520
第53表	アスファルト状の物質計測表	521

写真図版目次

- 図版 1 調査前風景、1 A・1 B区遺物包含層検出状況、1 A・1 B区遺物包含層断面、西側調査区遺物包含層検出状況、東側調査区遺物包含層検出状況、東側調査区遺物包含層断面、S-1号遺構（土器捨て場）、S-1号遺構 近景
- 図版 2 1号住居址、2号住居址、3号住居址遺物出土状況、3号住居址、4号住居址、5・6・7a・7b号住居址、7c号住居址、7c号住居址埋甕（第31図-2）
- 図版 3 8号住居址、9号住居址、9号住居址埋甕（第34図-11）、11号住居址、11号住居址手燭形土器・円形土版出土状況（第46図-19・20）、12号住居址遺物出土状況、12号住居址（東から）、12号住居址（南から）
- 図版 4 13号住居址遺物出土状況、13号住居址、14号住居址遺物出土状況、14号住居址、15号住居址遺物出土状況、15号住居址、15号住居址イノシシ形土製品出土状況、イノシシ形土製品出土状況・近景（第75図-2）
- 図版 5 16号住居址遺物出土状況、16号住居址、西側調査区検出の晩期中葉住居址群、確認調査時検出の17号住居址・110号土坑、18号住居址、19号住居址、19号住居址浅鉢形土器出土状況（第85図-105）、19・20号住居址
- 図版 6 20号住居址、20号住居址炉体土器（第87図-10）、21号住居址、21号住居址浅鉢形土器出土状況（第91図-10）、22号住居址、22号住居址柱穴内出土の注口土器（第93図-32）、23号住居址、24号住居址
- 図版 7 確認②号住居址遺物出土状況（第98図-3）、確認⑤号住居址、確認⑥号住居址遺物出土状況（第100図-2）、1号土坑、2号土坑、7号土坑、10号土坑、6・11号土坑
- 図版 8 14号土坑、16号土坑、17号土坑、30号土坑、32号土坑、33号土坑、34号土坑、35号土坑
- 図版 9 36号土坑、37号土坑、38号土坑、40号土坑、43号土坑、44号土坑、47号土坑、49号土坑
- 図版10 52号土坑、53号土坑、54号土坑、55号土坑、57号土坑、58号土坑、59号土坑、60号土坑
- 図版11 61号土坑、62号土坑、65号土坑、66号土坑、67号土坑、70号土坑、71号土坑、72号土坑
- 図版12 73号土坑、82号土坑、83号土坑、84号土坑、89号土坑、90号土坑、94号土坑、95号土坑
- 図版13 96号土坑、97号土坑、98号土坑、99号土坑、102号土坑、105号土坑、106号土坑、107号土坑
- 図版14 108号土坑、110号土坑、113号土坑、114号土坑、115号土坑、116号土坑、124号土坑、127号土坑
- 図版15 130号土坑、131号土坑、132号土坑、137号土坑、138号土坑、142号土坑、143号土坑、144号土坑
- 図版16 145号土坑、147号土坑、148号土坑、150号土坑、152号土坑、154号土坑、156号土坑遺物出土状況（第155図-1）、157号土坑（集石遺構）
- 図版17 158号土坑、159号土坑、1号溝、2号溝
- 図版18 1号人骨（17号住居址内）、2号人骨（61号土坑内）、49号土坑覆土内検出の獣骨、イヌ下顎骨検出状況（49号土坑）、No.13貝層（35号土坑内）、No.14貝層（36号土坑内）、No.15貝層（38号土坑内）、No.31貝層（66号土坑内）
- 図版19 No.42貝層（102号土坑内）、No.46貝層（124号土坑内）、No.47貝層（133号土坑内）、No.48貝層（142号土坑内）、No.49貝層（147号土坑内）、No.55貝層（8号住居址内）、No.8テフラ（51号土坑内）、No.15テフラ（58号土坑内）
- 図版20 No.16テフラ（60号土坑内）、No.20テフラ（61号土坑内）、土壌サンプルA（第1地点）、土壌サンプルB（第2地点）、土壌サンプルC（第3地点）、土壌サンプルD（第4地点）、第4地点（6C-78グリッド）2b層出土土器
- 図版21~24 遺構出土遺物 S-1号遺構
- 図版25 1号住居址、2号住居址、3号住居址
- 図版26 3号住居址、5号住居址、6号住居址、7a号住居址、7b号住居址
- 図版27 7c号住居址、8号住居址、9号住居址、10a号住居址、10b号住居址、10c号住居址、10d号住居址
- 図版28~30 11号住居址
- 図版31 11号住居址、12号住居址
- 図版32 12号住居址
- 図版33 13号住居址
- 図版34 14号住居址、15号住居址
- 図版35 15号住居址
- 図版36 16号住居址、17号住居址、18号住居址、19号住居址
- 図版37 19号住居址、20号住居址
- 図版38 20号住居址、21号住居址、22号住居址
- 図版39 23号住居址、24号住居址、確認②号住居址、確認③号住居址、確認④号住居址、確認⑤号住居址
- 図版40 確認⑥号住居址、確認⑦号住居址、1号土坑、2号土坑
- 図版41 6号土坑、9号土坑、12号土坑、13号土坑、25号土坑、26号土坑、32号土坑、33号土坑、34号土坑、36号土坑
- 図版42 38号土坑、39号土坑、40号土坑、42号土坑、43号土坑、46号土坑、47号土坑、48号土坑、49号土坑、50号土坑、52号土坑、53号土坑、54号土坑、55号土坑、56号土坑、57号土坑
- 図版43 58号土坑、59号土坑、60号土坑、61号土坑、62号土坑、63号土坑、65号土坑、68号土坑

- 図版44 66号土坑、70号土坑、72号土坑、76号土坑、77号土坑、78号土坑
図版45 80号土坑、81号土坑、82号土坑、83号土坑、84号土坑、85号土坑、86号土坑、87号土坑、89号土坑、91号土坑、94号土坑、95号土坑、98号土坑、102号土坑、106号土坑、114号土坑、116号土坑
図版46 113号土坑、117号土坑、124号土坑、129号土坑、130号土坑、131号土坑、132号土坑、133号土坑、137号土坑
図版47 142号土坑、143号土坑、145号土坑、147号土坑、150号土坑
図版48 156号土坑、157号土坑、159号土坑、1号溝、2号溝、**骨角貝製品**
図版49 **調査区中央削平部分検出のピット群出土遺物、貝層出土の自然遺物** <軟体動物門> 腹足綱・斧足綱
<節足動物門> 甲殻綱
図版50 <脊椎動物門> 軟骨魚綱・硬骨魚綱
図版51 両生綱・爬虫綱・鳥綱・哺乳綱
図版52 49号土坑覆土内検出の獣骨 124号土坑貝層（資料No.46）内検出の獣骨
図版53 11号住居址覆土（焼土）中検出の焼獣骨
図版54 **遺物包含層出土土器** 1A区、1B区
図版55 1D区、2B区、2C区、2D区、3B区
図版56 3C区、3D区、3E区、4C区
図版57 6C区、6D区、6E区、7C区
図版58 7C区
図版59 7C区、7D区
図版60～62 7D区
図版63 7E区、8D区
図版64 8D区、9D区、カクラン層
図版65 カクラン層、**遺物包含層出土土製品** 土器片錘
図版66 土器片錘、土製円盤
図版67 土製円盤、有溝土錘、ミニチュワ土器、蓋形土製品
図版68 有孔円盤、耳飾、土版、未詳品、イノシシ形土製品、土偶
図版69 土偶
図版70 **遺物包含層出土石器・石製品** 石鏃、石錐、コア・フレーク
図版71 浮子、軽石製品、小型磨製石斧、磨製石斧、打製石斧
図版72・73 磨石
図版74 小型磨石、凹石
図版75 凹石、敲石、石皿
図版76 石皿、砥石
図版77 石棒・石剣、独鈷石、石製円盤？、垂飾
図版78 結晶片岩系コア・フレーク
図版79 焼成粘土塊、発泡土器、発泡体、アスファルト状の物質

I 序 説

1 遺跡の立地と環境（第1・2図、第1表）

市原市には現在確認されているだけで、42カ所の貝塚が存在する。これらはその立地によって次の4つに大きく分類することができる。1つは千葉市と市原市の境界を東西に流れる村田川流域の10箇所の遺跡からなる貝塚群で、手永貝塚を中心とする7カ所の貝塚が下流域に、草刈貝塚が中流域に、西鹿ノ原貝塚と多竜台貝塚が上流域に存在する。草刈貝塚を除けばすべて南岸に存在する。このうち、手永貝塚 1)・実信貝塚 2)・草刈貝塚 3) 以外は未調査で詳細が不明である。また(財)千葉県文化財センターの調査した実信貝塚のように、台地上ではなく低地に立地する貝塚の存在も明らかになってきており注意が必要な地域である。2つ目は、村田川と市域の中央をほぼ南北に流れる養老川に挟まれたいわゆる市原台地上にある20箇所の遺跡からなる貝塚群である。市内の貝塚の半数がこの地域に存在し、そのうちの12箇所が何等かの調査をうけ内容の一部を明らかにしているがまだ十分とは言えない状況にある。なかでも祇園原 4)・西広 5)・山倉 6)・分区 7)・堂谷・天王 8) など大規模貝塚の実態解明は、市原市の貝塚研究上最重要課題の一つである。3つ目は、市域の北西部いわゆる姉崎地区にある4箇所の遺跡からなる貝塚群であるが、椎津貝塚の一部以外は調査例がなく詳細が不明な地域である。椎津貝塚は5地点の貝層が現在までに知られているが、このうちの一地点を平成6年に尾崎遺跡として発掘調査したところ、9世紀初頭の大規模な土坑内に堆積した貝層が検出された 9)。したがって、残りの4地点やこの付近に存在する初崎貝塚など時期の不明な貝塚も、あるいは縄文期以外の時期のものである可能性がある。第1表の貝塚一覧には今回加えていないが、市内には弥生、古墳、奈良・平安などの時期の小規模貝層の類例が徐々に増えつつあるので、これらについては機会を改めて述べるつもりである。4つ目は養老川中流域の西岸台地上に存在する8箇所の遺跡からなる貝塚群であるが、荻原野 10)・山見塚 11) 以外は未調査であるため詳細不明な地域である。

能満上小貝塚はこのうちの2つ目の貝塚群の一角に存在し、村田川水系の2つの小支谷に挟まれた台地上に立地する。付近の遺跡としては、南約1kmに中～後期の分区貝塚、中～後期の小田部貝塚、中期の烏掘込貝塚 12)・小谷吹上貝塚、南約3.5kmに(財)千葉県文化財センターの調査した後期の武士遺跡 13)、西約2kmに後期の亥の海道貝塚 14)、西約2.5kmに後期の祇園原貝塚、南西約2kmに中～後期の山倉貝塚、後～晩期の西広貝塚、南西約2.5kmに中期の堂谷貝塚、後期の天王貝塚がある。

注

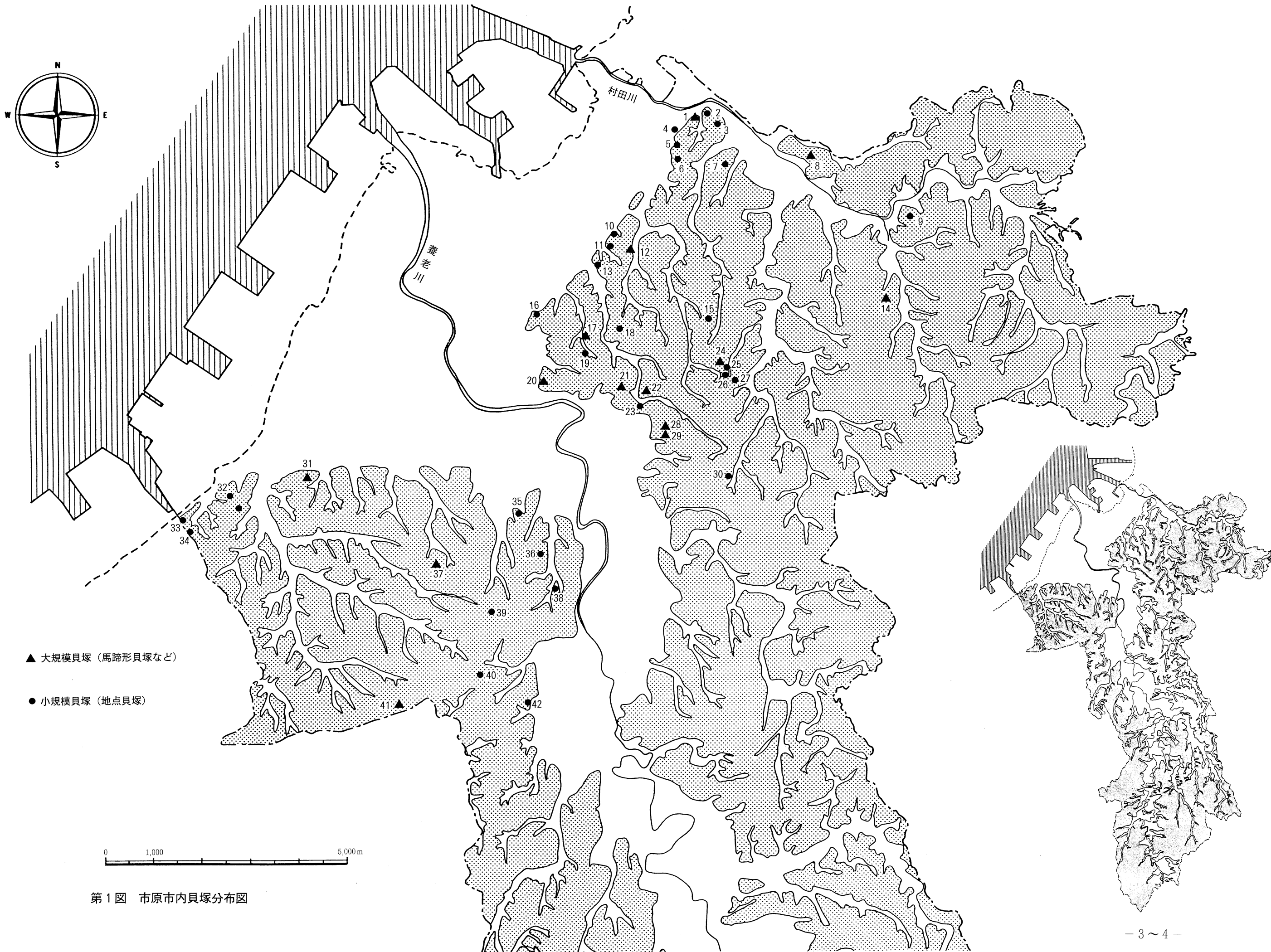
- 1) 近藤 敏「菊間手永貝塚」『市原市文化財センター年報 昭和57・58年度』1985
- 2) (財)千葉県文化財センター「市原市条里制遺跡（実信地区）」『千葉県文化財センター年報No.16－平成2年度－』1991
- 3) (財)千葉県文化財センター「千原台ニュータウンⅢ 草刈地区」1986
- 4) 米田耕之助・鷹野光行・小川静夫「祇園原貝塚」『上総国分寺台発掘調査概要Ⅴ』1978
米田耕之助・鷹野光行・小川静夫「祇園原貝塚Ⅱ」『上総国分寺台発掘調査概要Ⅵ』1979

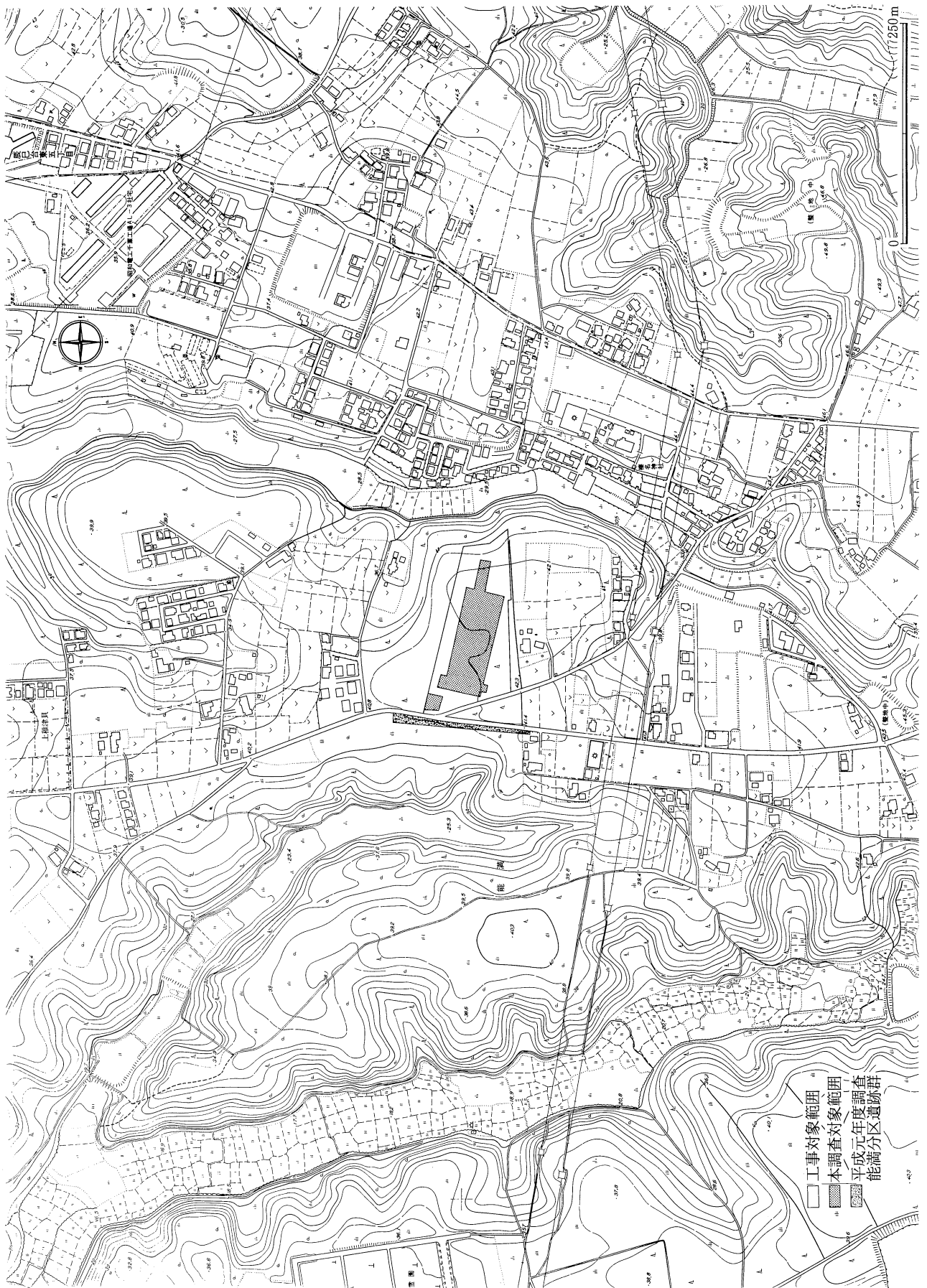
第1表

市原市内貝塚一覧

No.	貝塚名	所在地	時期	種別	遺跡No.	備考
1	手 永	菊間字手永	後～晩	馬蹄形	918	昭和46・58年調査消滅
2	北 野 谷	菊間字姫宮北野前	?	地 点	919	一部削平
3	福 寿 院	菊間字柿込	?	地 点	933	福寿院境内
4	実 信	菊間字実信860	中～後	地 点		平成2年県センター調査
5	徳 永	菊間字徳永	?	地 点	913	
6	袖 ケ 台	菊間字袖ケ台	?	地 点	911	八幡神社境内
7	細 野	大厩字細野	?	地 点	982	二子塚古墳西側
8	草 刈	草刈字谷畑	中	馬蹄形		県センター調査
9	西鹿ノ原	番場字鹿ノ原	中	地 点	974	2地点
10	阿 須 波	市原市阿須波	?	地 点		貝層露出
11	多 聞 寺	郡本5-29	?	地 点	980	半域消滅 多聞寺境内
12	門 前	門前一丁目	中～後	馬蹄形	811	社宅裏 ほぼ消滅
13	向 原	郡本680番地他	?	地 点	879	県水道局市原浄水場
14	多 竜 台	喜多字多竜台	中～後	弧 状	850	
⑮	上 小	能満字上小	中～後	地 点	780	西側は平成元年能満分区遺跡群として調査 東側は今回調査
16	根 田	根田字根田	?	地 点		根田神社
17	祇 園 原	根田字祇園原	後	馬蹄形	732	国分寺台調査 一部保存
18	亥の海道	山田橋字表通	後	地 点	737	2地点 東側平成3年度調査
19	北 中 台	惣社字北中台	後	地 点		国分寺台 消滅
20	諏 訪 台	村上字諏訪台	早	点 列		国分寺台調査 一部保存
21	西 広	西広字上ノ原	後～晩	馬蹄形	759	国分寺台調査 消滅
22	山 倉	山倉字南貝塚	中～後	馬蹄形	625	昭和43年調査 『こどもの国』内一部保存
23	若 宮	山倉字若宮	?	地 点	618	切り通し貝殻散布
24	分 区	能満字貝殻塚	中～後	馬蹄形	781	平成元年測量調査 一部削平
25	小 田 部	小田部字打越台	中～後	地 点	782	畑内 2地点
26	烏 掘 込	能満字烏掘込	中	地 点	981	昭和60年一部調査 5地点
27	小谷吹上	小田部字小谷吹上	中	地 点	294	昭和52年一部調査
28	堂 谷	山倉字堂谷	中	馬蹄形	624	平成元年測量調査
29	天 王	山倉字西猿子谷	後	馬蹄形	623	平成元年測量調査 一部削平
30	武 士	勝間字土器石	後	地 点	592	県センター調査 土器石貝塚
31	台	姉崎字台	早中後	馬蹄形	978	鬼子母神貝塚 12地点
32	椎 津	椎津字尾崎他	?	地 点	310	5地点 うち1地点を平成6年度調査 9世紀初頭の貝層
33	初 崎	椎津字初崎	?	地 点	292	消滅
34	下 中 台	椎津字下中台	早	地 点	295	2地点
35	分 目	宮原字布谷台他	?	地 点	436	堂谷台遺跡 2地点
36	荻 原 野	新生字東荻原野他	?	地 点	286	平成元年調査
37	諸 久 蔵	海保字諸久蔵	中～晩	馬蹄形	270	砲台設置一部削平
38	瓜 ケ 岱	高坂字北瓜岱	後	地 点	505	3地点 一部消滅
39	山 見 塚	立野字山見塚	後	地 点	279	昭和60年調査 一部保存
40	堀 込	中高根字堀込	?	地 点	219	
41	瀬 戸 崎	深城字瀬戸崎他	後	馬蹄形	214	深城貝塚 5地点
42	上 高 根	上高根字塚越	中～後	地 点	225	養老川流域最奥部

* No.欄の数字は貝塚分布図中の番号と同一、また遺跡No.に記載した数字は、昭和63年3月市原市教育委員会発行の『千葉県市原市埋蔵文化財分布地図－北部編－』中の遺跡番号と同一である。





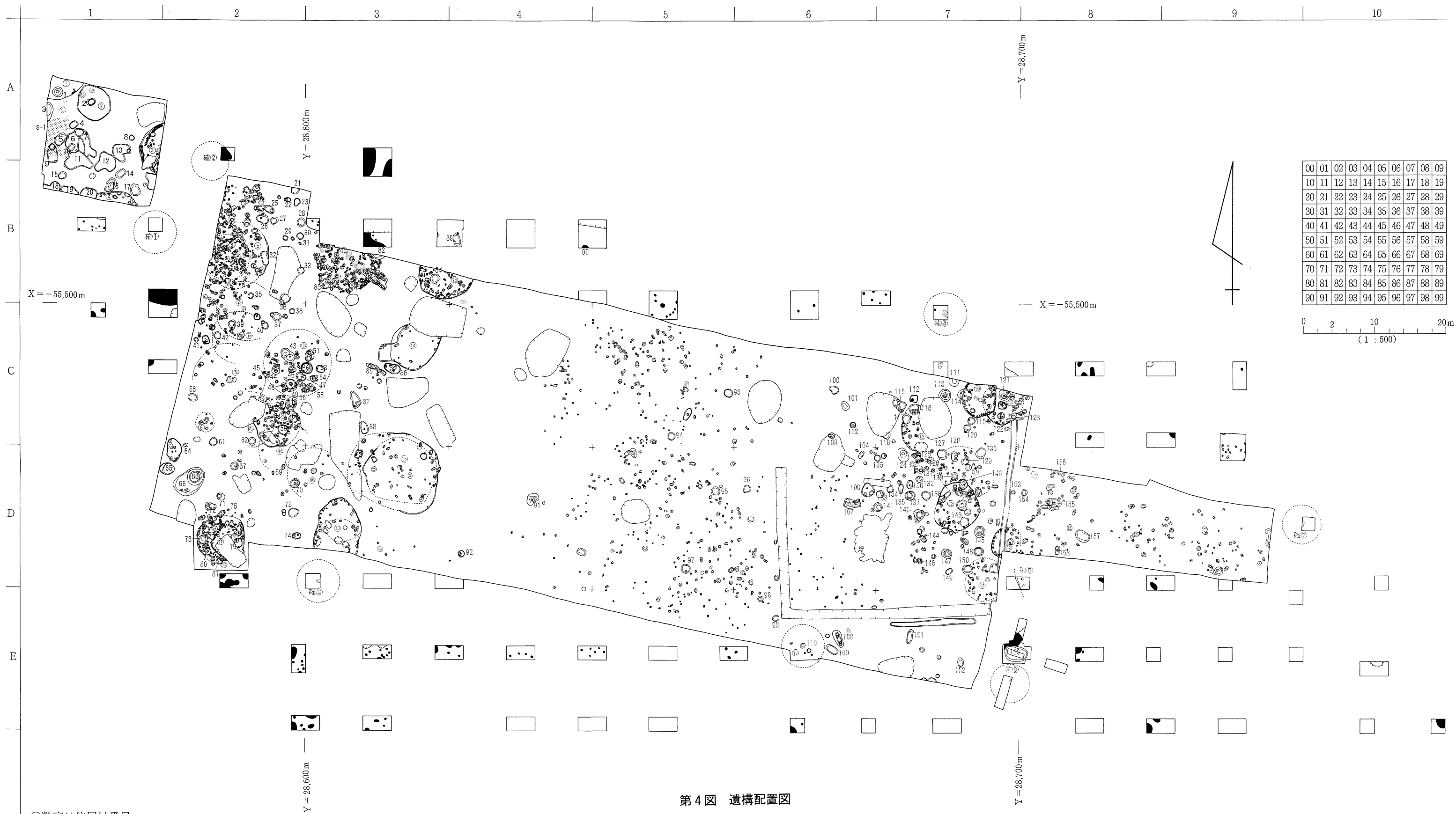
第2図 能満上小貝塚遺跡調査範囲

- 小川和博・鷹野光行「祇園原貝塚Ⅲ」『上総国分寺台発掘調査概要Ⅺ』1983
- 近藤 敏「根田祇園原貝塚（第5次調査）」『第7回市原市文化財センター遺跡発表会要旨』1992
- 5) 忍澤成視「縄文時代の後・晩期の装飾観念―市原市西広貝塚出土の骨角貝製装身具を中心として―」
『市原市文化財センター研究紀要Ⅱ』1993 P33～39「1. 西広貝塚の調査歴と概要」 参照
- 6) 山倉貝塚調査団「昭和43年度 市原市山倉貝塚調査報告（住居址・遺構編）―付・山倉貝塚人骨
所見概報」1969
- 7) 忍澤成視「能満分区貝塚」『市原市文化財センター年報 平成元年度』1994
- 8) 忍澤成視「山倉天王・堂谷貝塚」『市原市文化財センター年報 平成元年度』1994
- 9) 桜井敦史「椎津尾崎遺跡」『第10回市原市文化財センター遺跡発表会要旨』1995
- 10) 近藤 敏「新生荻原野遺跡A区・一本松塚」『市原市文化財センター年報 平成元年度』1994
- 11) 木對和紀「外迎山遺跡・唐沢遺跡・山見塚遺跡」『財団法人 市原市文化財センター調査報告書
第20集』1987
- 12) 高橋康男「烏掘込貝塚」『市原市文化財センター年報 昭和60年度』1986
- 13) 財団法人千葉県文化財センター「武士遺跡（福増浄水場）」『千葉県文化財センター年報No.13』1987
財団法人千葉県文化財センター「市原市武士遺跡（福増浄水場）」『千葉県文化財センター年報No.14―
昭和63年度―』1989
財団法人千葉県文化財センター「市原市武士遺跡（福増浄水場）」『千葉県文化財センター年報No.15―
平成元年度―』1990
- 14) 忍澤成視「市原市山田橋亥の海道貝塚」『財団法人 市原市文化財センター調査報告書 第48集』
1992

2 調査方法と概要（第3・4図）

今回の調査に先立つ3年前の平成元年度に、今回の調査区の西側に隣接する地区を市道の改良工事に伴って調査したところ、道路幅を南北に140mという限られた範囲ではあったが縄文中期を主体とする住居址4軒、陥し穴1基、土坑31基を検出し、その上部に形成された最大約50cmほどの遺物包含層中からは中期から後期の遺物が多量に出土した。また、数箇所の小規模な地点貝塚や複数の人骨を埋葬した墓壇1基も検出しており、同一集落の本体部分が今回の調査範囲に存在しているであろうことが予想された1)。

調査の結果、調査区のほぼ中央に位置する浅い谷状の地形を中心に縄文時代中期後半から晩期中葉までの集落が調査対象地のほぼ全域にわたって展開し、この時期に伴う多量の遺物包含層と小規模な地点貝塚のあることが明らかとなった。しかし、後世の攪乱が調査対象区域のかなりの部分に及んでいたため、その保存状況は必ずしも良いものではなかった2)。遺跡の規模は、東西に小支谷が存在することからこれを東西の限界と考え250m、南は今回調査対象範囲以南の畑地でほとんど遺物が採集できないことからこれを限界ととらえ、北は東から入り込む谷状地形によって台地の幅が狭められる現在住宅地となっているあたりを限界とみなし、南北150mほどと推定した。したがって今回の調査は上小貝塚集落のほぼ中心部にあたると考えられる（第2図）。グリッドは国土方眼座標を基準に、



20m四方の大グリッドを設定し東西方向は1から10、南北方向はAからEとし、さらにその中を2m四方の100個の小グリッドに分割し、北西隅を00、南東隅を99とした。したがって2m四方の小グリッド一区画を1A-00というように呼称した。

調査は調査区中央の浅い谷状の地形の両側に残存した遺物包含層に対し、2m四方の小グリッドごとに遺物を採集し、遺物包含層除去後あるいは途中で検出された遺構を調査し、さらに遺構覆土中に存在する貝層については、地点・層位別にその全てを貝層サンプルとして採集した。また住居址覆土の一部や炉址覆土についても土壌サンプルとして採集した。

<遺 構>

縄文時代中期後葉から晩期中葉までの住居址36軒、土坑（貯蔵穴・陥し穴・集石など）158基、弥生時代後期の木棺墓1基、時期不明の溝2条が検出された。遺物としては、縄文時代中期後葉から晩期後葉までの多量の土器、土製品、石器・石製品が検出されている。特に縄文晩期の住居址から検出されたイノシシ形土製品、手燭形土器・土偶・土版・円形土版・ヒスイ製の垂飾、貯蔵穴状の土坑からまとめて出土した安行2式の5個体の土器などは注目される。また、弥生時代後期の木棺墓からは甕や鉢形土器とともに23点のガラス玉が検出された。

<貝 塚>

縄文時代中期後葉から晩期前葉までの、土坑の覆土内貝層50地点・住居址の覆土の一部や炉址の覆土内貝層6地点・遺物包含層中1地点・柱穴状のピット内貝層211地点・その他3地点の計271地点が検出されたが、主体となる時期は後期前葉と後葉に大別される。貝層の主体はイボキサゴ・ウミナ・アラムシロ・ツメタガイ・アカニシ・ハマグリ・アサリ・シオフキなどであり、イノシシ・シカなどの獣骨、サメ・エイ・マイワシ・ギバチ・ウナギ・ボラ・スズキ・キス・クロダイ・マアジ・サバ・ハゼ・コチ・フグ・カレイ・シタビラメなどの魚骨も貝層中から検出されているが、これらの組成は時期や地点によってかなり相違しており、当時の生業活動や周辺部の環境を考えるうえで貴重なデータとなることが予想される。また貝層中からは埋葬人骨2体、骨角貝製品も検出されている。

<遺物包含層>

調査区のほぼ中央に位置する浅い谷状の地形の両側に、厚さ平均50cmほどで堆積していたが、土採り以前には調査区の全域にわたってさらに厚く堆積していたものと思われる。包含層中からは縄文時代中期から晩期までの多量の土器片とともに、土偶・土版・耳飾・有孔円盤などの土製品、石剣・石棒などの石製品が多数出土している。また、調査区の西端の小区画からは堀之内1・2式期の土器捨て場とみられる地点が検出され、4×10mほどの範囲の中で少なくとも30個体以上の土器が出土した。

注

- 1) 忍澤成視「能満分区遺跡群」『市原市文化財センター年報 平成元年度』1994
- 2) 平成元年当時この一帯は雑木林となっており、遺跡の保存状況は市道部分の調査区域と同様に良好であったと思われる。しかし調査終了直後、一帯が建設業者の資材置き場とされた際大規模な削平と建設用廃材の埋設を受け、標高約41.5mの人為的な平坦地とされてしまった。平成元年以前の地形図（第2図）と近隣住民からの聞き込みによると、当地は標高42m程で中央部に北側から入り込む窪地を有する地形を呈していたことが明らかとなった。

Ⅱ 遺構と遺物

1 土器捨て場

S-1号遺構（第5図～15図）

ここで扱うものは、土器を主体とした遺物がある一定の範囲内に面的に集中して検出された地点である。当遺跡の他の箇所いわゆる遺物包含層での遺物のかたとは明らかにその密度・完形に近い遺物の多さの点で異なることから、捨て場的な性格もった遺構とみなし、さらに住居址や土坑など明確な掘り込みを有する遺構とも異なることからこれらとは区別するためにS-1号遺構と呼称した。

検出された地点は、調査区の北西端の小区画1A・1B区の西壁に接した4×10mほどの範囲内に存在する。この区画内は当遺跡のなかで、最もカクランの被害のすくなかった箇所であり、包含層内の遺物が層位的にとらえられ、また包含層中に住居址の掘り込み面を確認できた唯一の地点でもある。したがって、数年前の土採りというカクランさえなかったら、今回調査範囲の他の地点においても同様の状況がとらえられた可能性は高い。また、平成元年に調査した今回の調査区の西側に隣接する地点でも、道路幅140mにわたってほぼ全面にS-1号遺構と同様の状況で遺物が検出された。この調査面積はわずかに700㎡であったが、出土した遺物総数はタバコ約150箱分に当たる量であり、いかに遺物が集中していたかがわかる。この調査に関しての整理作業はおこなわれていないので、詳細についてここで述べることができないが、1A・1B区とかなり類似した状況であったことを記憶している。

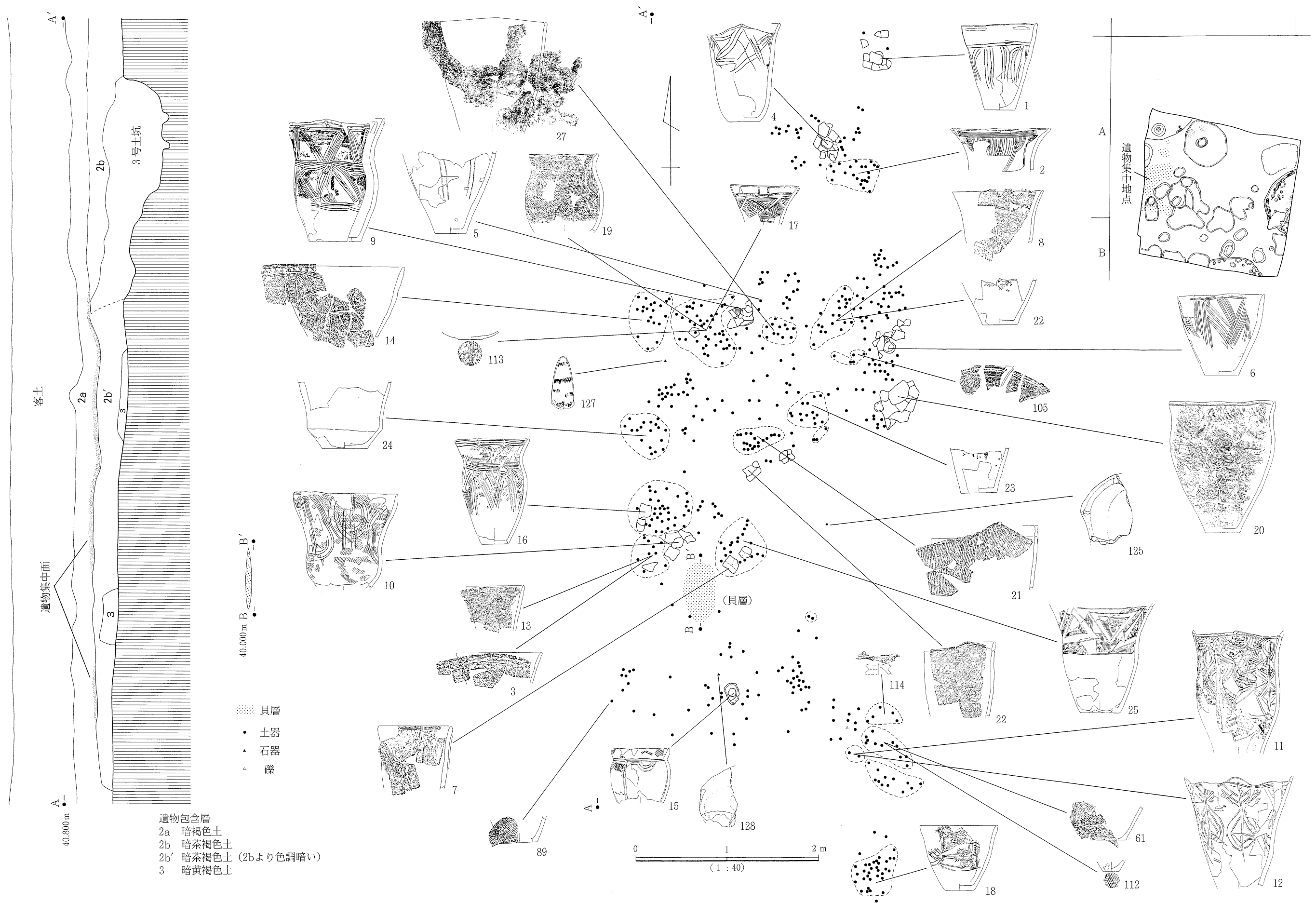
1A・1B区での基本層序は、60～70cmの客土の下に、2a層と呼称する20～30cmの暗褐色土層、2b層と呼称する20～30cmの暗茶褐色土層、部分的に3層と呼称する10cmほどの暗黄褐色土層となる。2a層上面のレベルは40.700m～40.800mであり、平成元年以前の地形図によるとこのあたりのレベルは41.000mほどで、表土が20～30cmあったとすると遺物包含層はほぼ保存されているとみてよい。

遺物の集中箇所は2a層と2b層のちょうど境界あたりに存在する。2a層と2b層の遺物については、遺物包含層の章の中で詳述するが、2b層中に堀之内1式以前の遺物、2a層中に後期中葉以降の遺物が多くみられる傾向にある（第185図）。また、住居址の節で詳述するが、後期後葉の3号住居址が2b層を掘り込んで構築されている状況もとらえられており（第20図）、2a層と2b層が時間的隔たりをもって形成されたものであることを裏付けている。

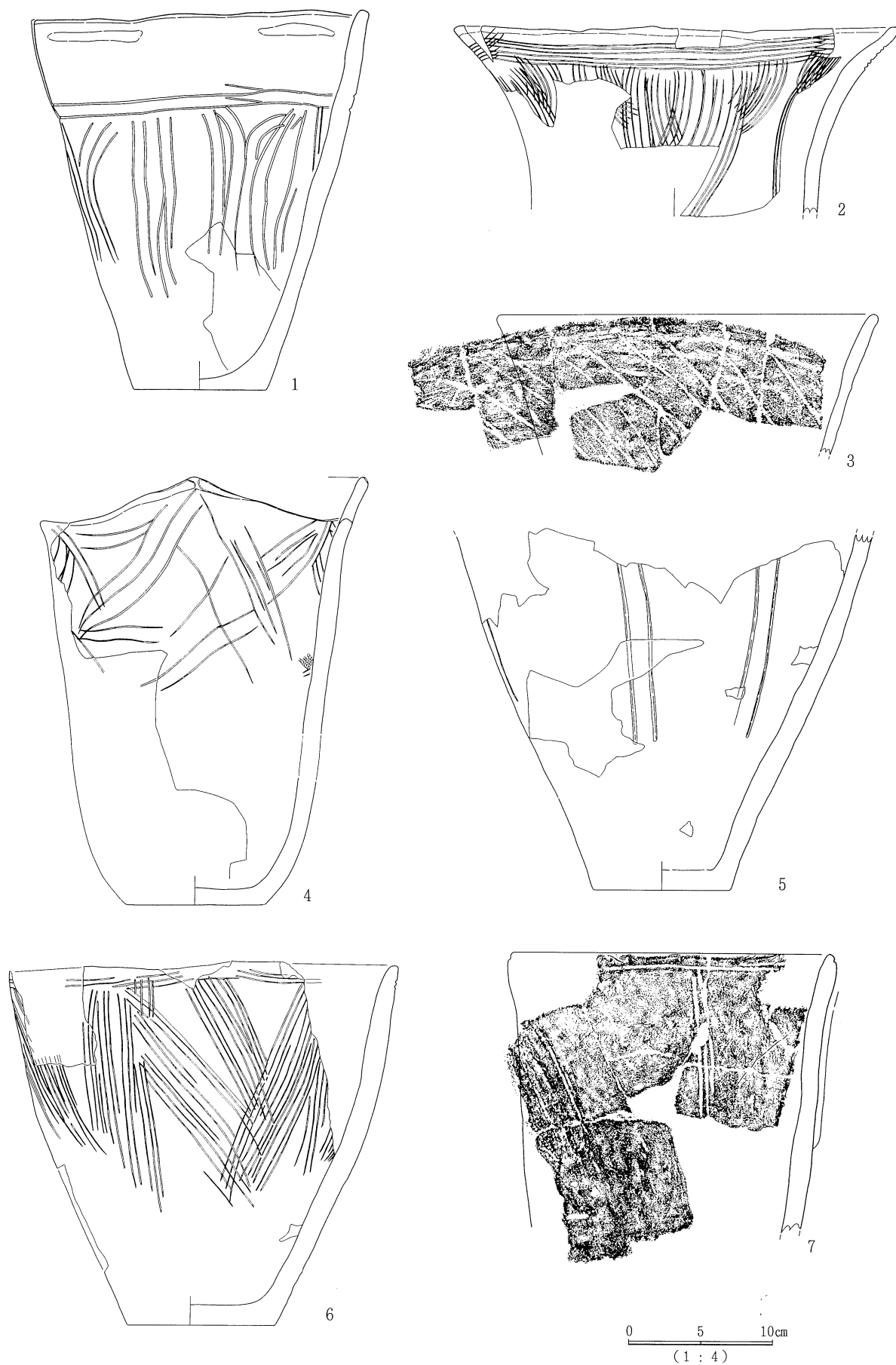
出土遺物

土器を主体とした遺物は4×10mほどの範囲に集中して検出されたが、5箇所ほどの小さなまとまりをもっていた。土器は完形品は少ないが、それに近い状態でその場につぶれたようなものが多く、これらのまとまりを越えた接合関係はない。完形品に近い状態の土器の周囲には、たくさんの別個体のものと考えられる小破片も検出されている。また、貝塚の章で詳述するが、60×30cm・厚さ10cmほどの小規模な貝層も形成されており、日常生活で生じた不要品の捨て場としての性格を色濃く示す遺構ととらえている。

土器の主体は第15図に示すように95%以上が堀之内1・2式であり、それ以外の加曾利B式以降の



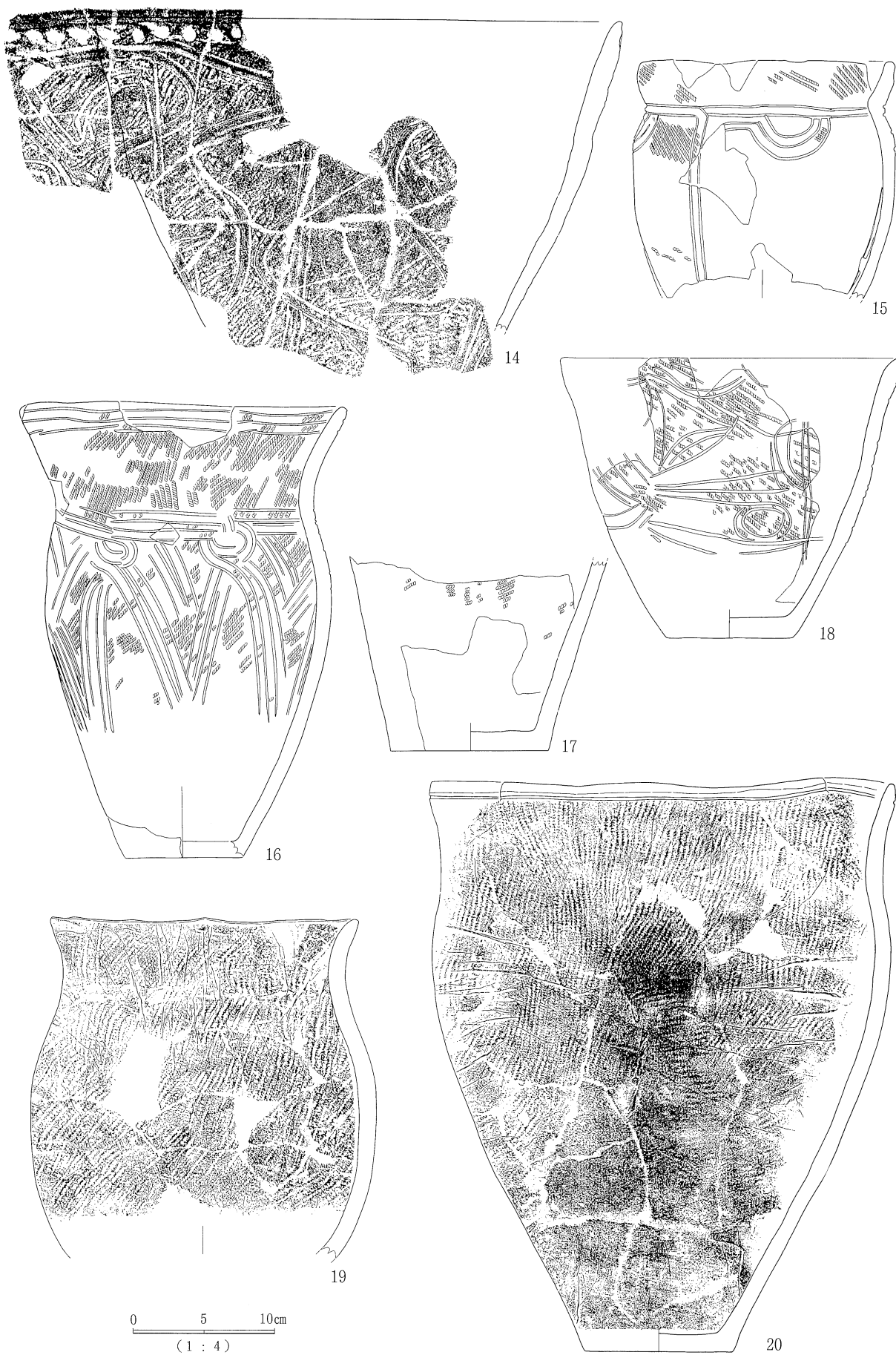
第5図 S-1号遺構遺物出土状況図



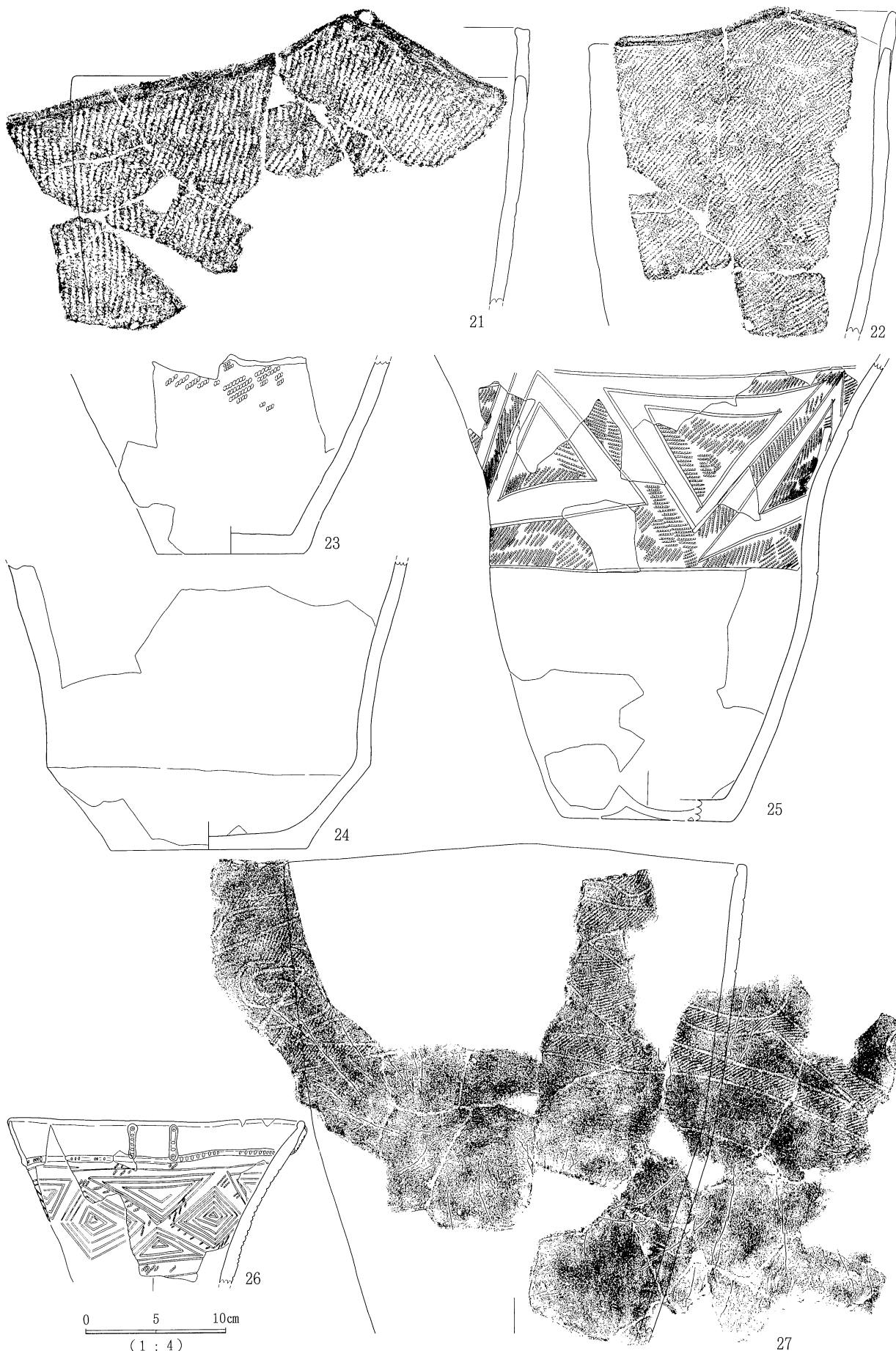
第6図 S-1号遺構出土遺物 (1)



第7図 S-1号遺構出土遺物(2)



第8図 S-1号遺構出土遺物(3)



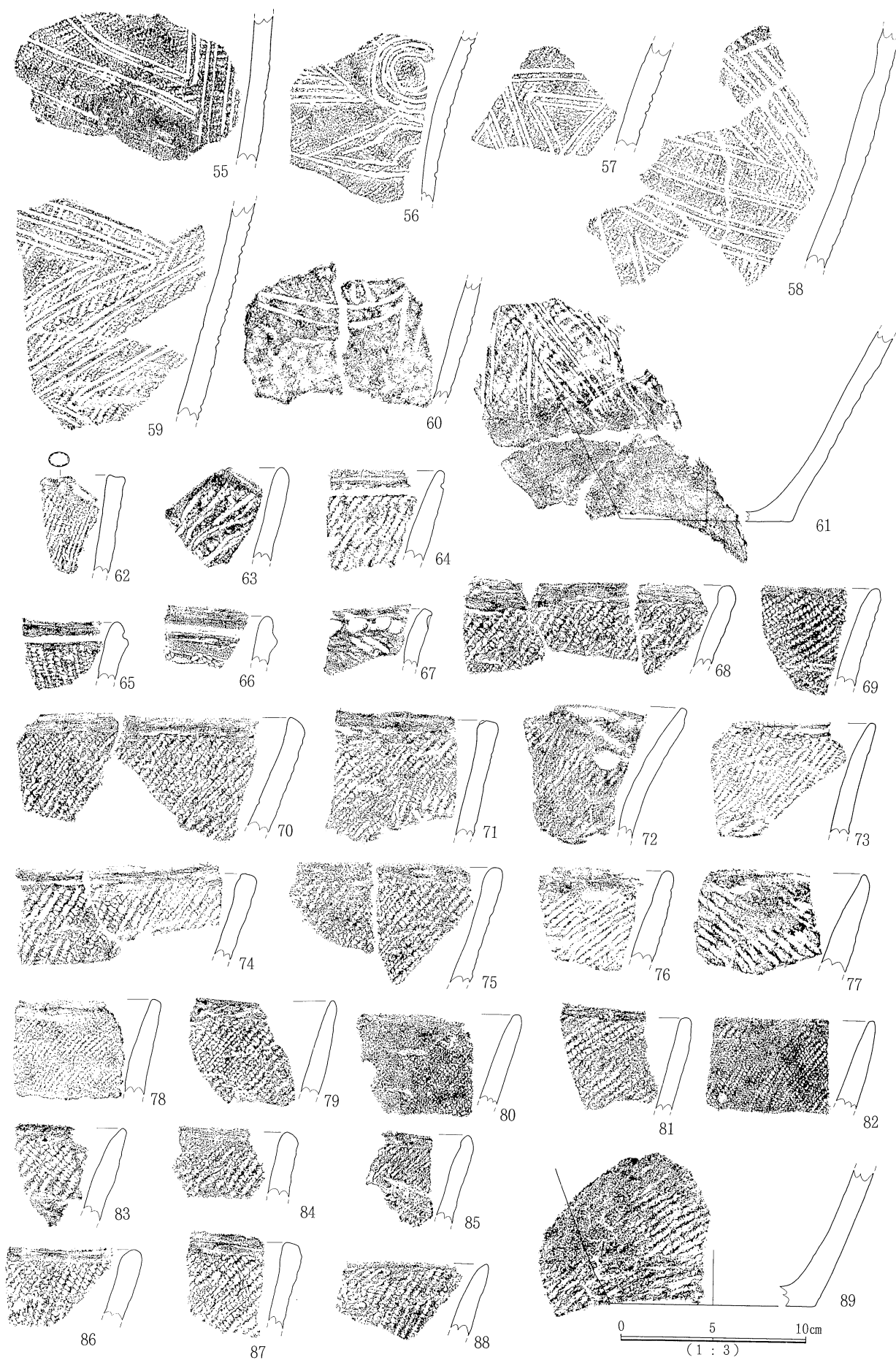
第9図 S-1号遺構出土遺物(4)

第2表 S-1号遺構出土土器観察表

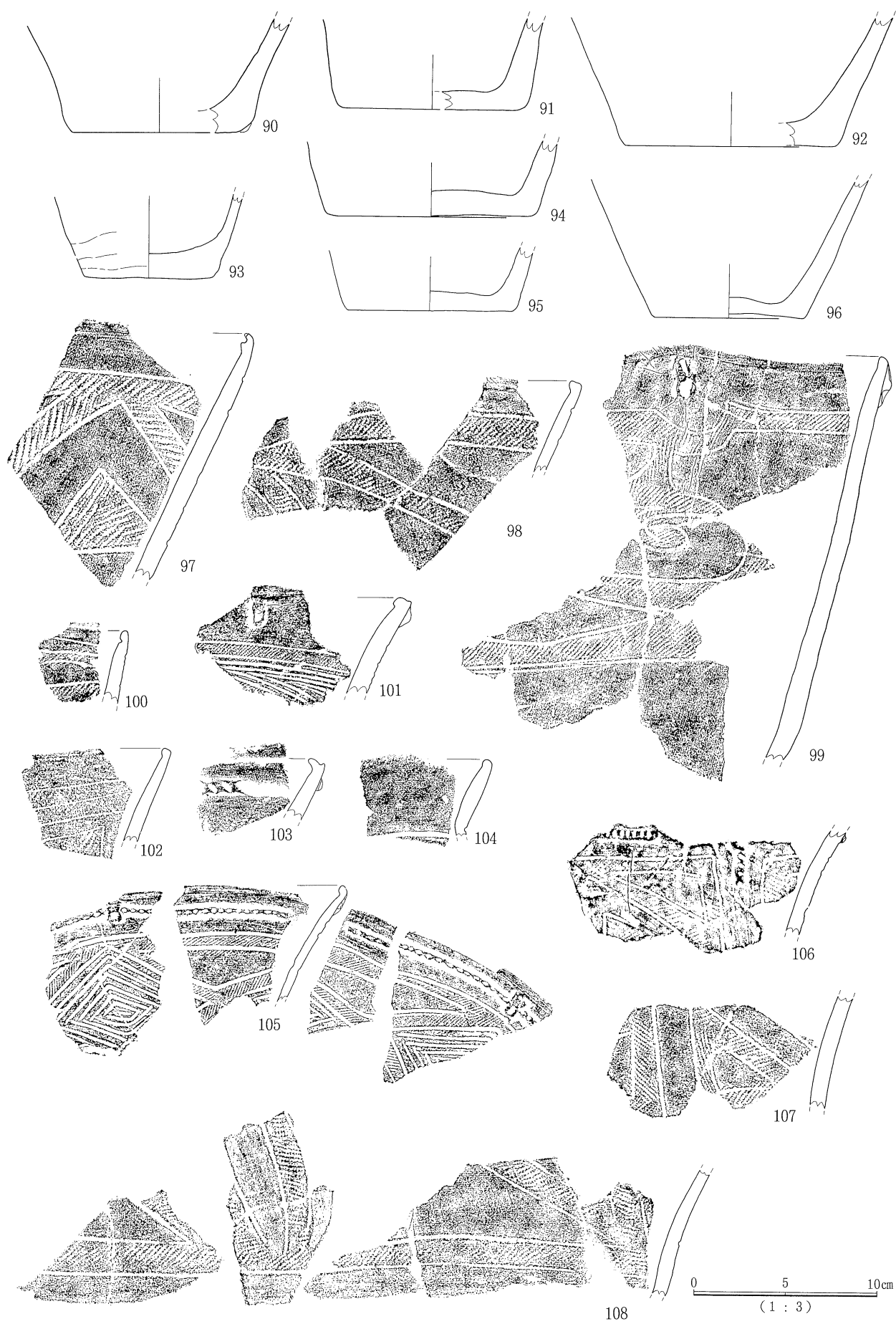
No.	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	地 文
1	23.5	9.3	26.5	—
2	推定31.0	—	(13.2)	—
3	推定26.6	—	(9.8)	—
4	推定24.0	推定9.7	29.9	—
5	—	9.5	(24.7)	—
6	推定27.1	10.2	25.3	—
7	推定23.0	—	(19.1)	—
8	推定28.2	—	(16.0)	単節LR
9	24.8	11.7	37.3	単節LR
10	32.4	—	(29.3)	無節L
11	28.4	—	(37.6)	無節R
12	推定33.9	—	(34.2)	単節LR
13	推定18.4	—	(13.9)	単節LR
14	推定37.2	—	(21.8)	単節LR
15	18.4	—	(16.8)	無節R
16	23.2	推定8.3	32.5	単節LR
17	—	11.2	13.9	単節LR
18	推定24.2	8.9	19.8	単節RL
19	24.4	—	(24.1)	単節LR
20	33.0	10.3	40.7	単節LR
21	推定32.8	—	(19.5)	単節LR
22	推定22.2	—	(23.0)	単節RL
23	—	10.5	(14.3)	単節LR
24	—	14.0	(20.5)	—
25	—	推定12.0	(32.9)	単節LR
26	21.3	—	(12.1)	単節LR
27	推定33.4	—	(35.0)	単節LR



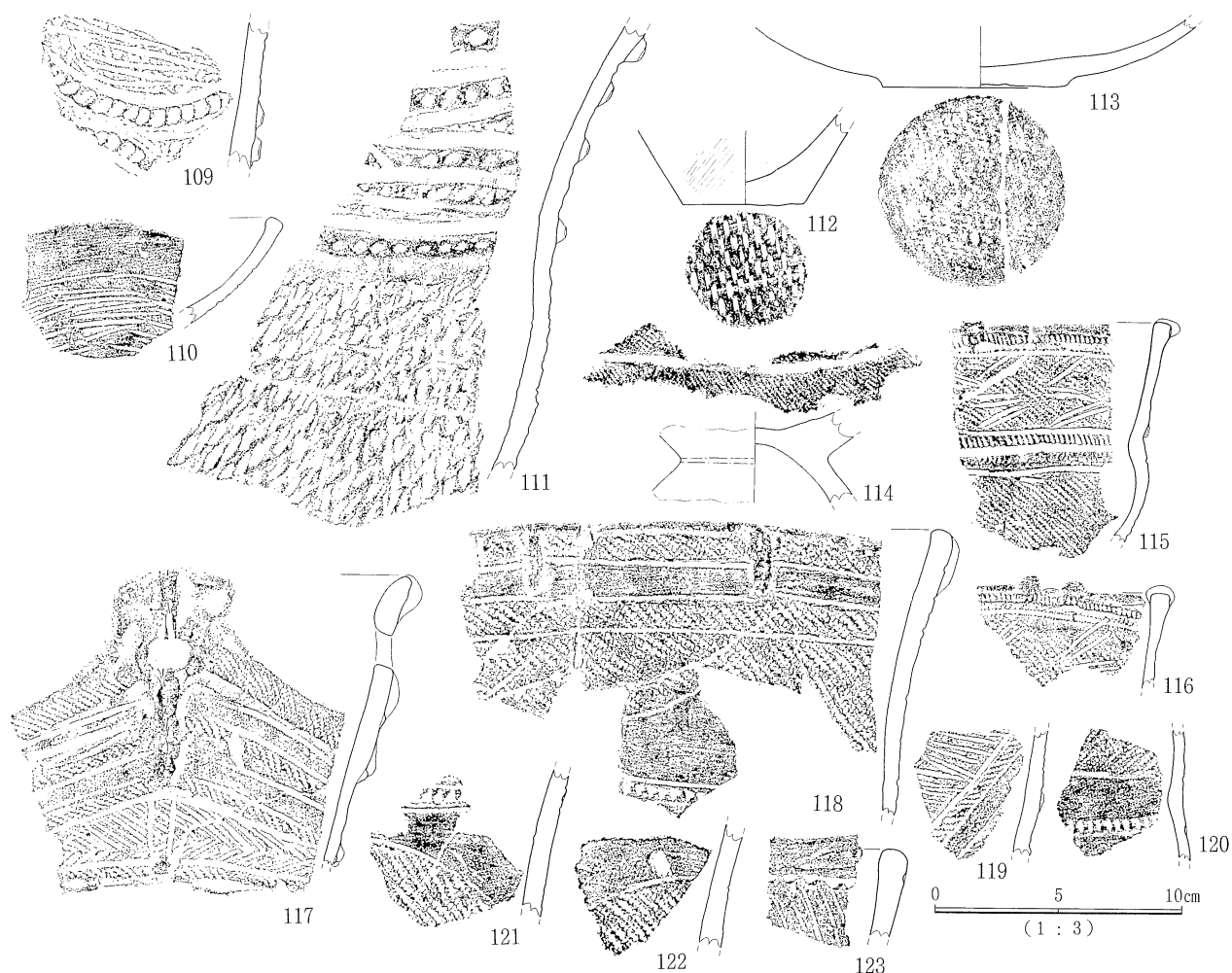
第10図 S-1号遺構出土遺物 (5)



第11図 S-1号遺構出土遺物(6)



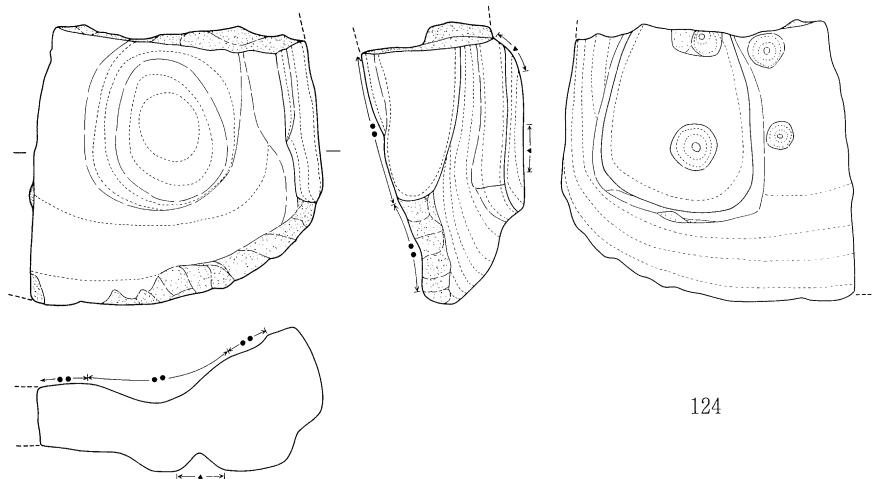
第12图 S-1号遺構出土遺物(7)



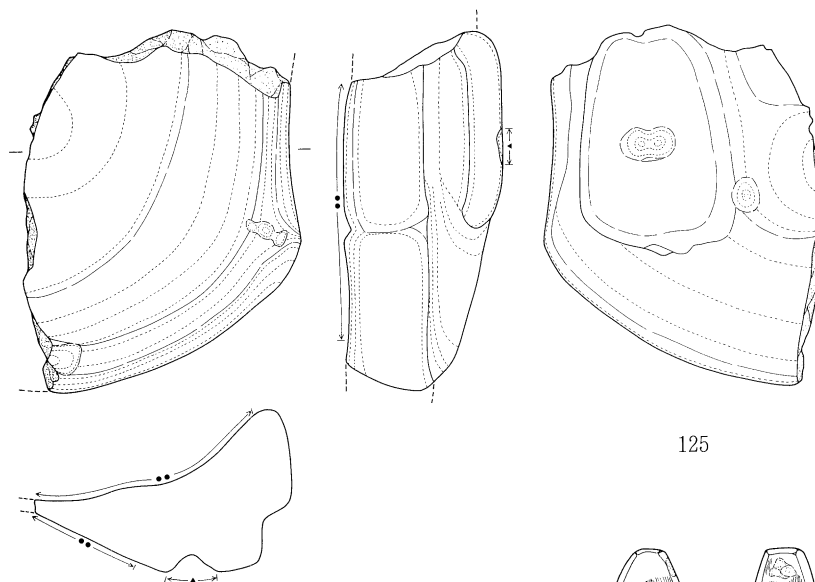
第13図 S-1号遺構出土遺物 (8)

遺物（第13図）も本来は2a層中に帰属すべきものと考えられ、かなり限定された期間のなかで廃棄された一括資料として非常に貴重なものと考えられる。かなり完形に近い資料もあるが、大部分がその一部を欠失するものである。器形を復元できる資料は27個体あり（第6～9図・第2表）、この他比較的大型破片のものを加えると少なくとも30個体以上の土器が廃棄されていることになる（第10～13図）。

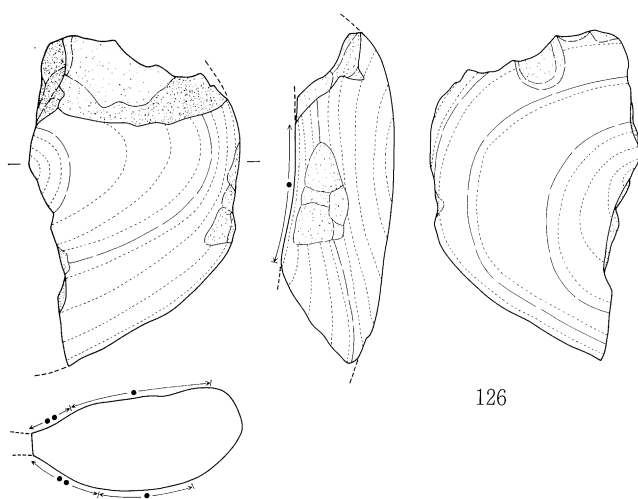
土器以外の遺物としては、第14図に示した石皿3点・磨製石斧1点・土器片錘1点がある。このうち、124と125の石皿は裏面に脚部の作り出しを有する資料で、直接接合しないが、同一個体の可能性がある。また裏面は凹石としても使用されている。



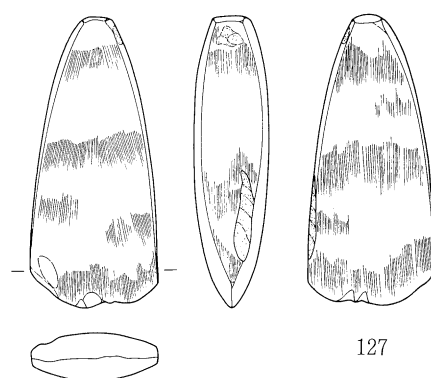
124



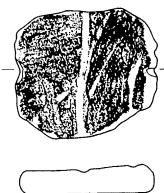
125



126



127



128

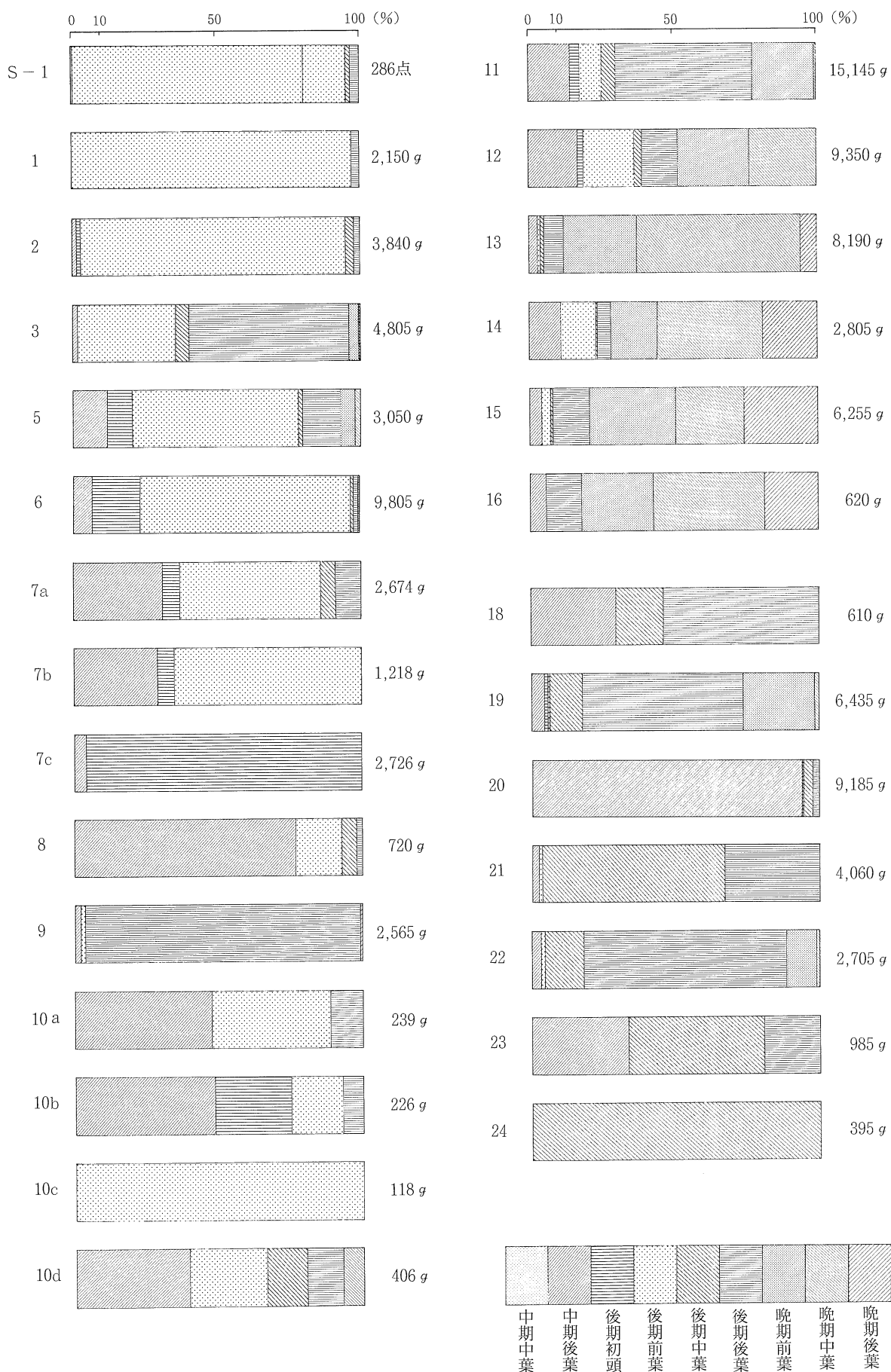
0 5 10cm
(1 : 3)

第14図 S-1号遺構出土遺物(9)

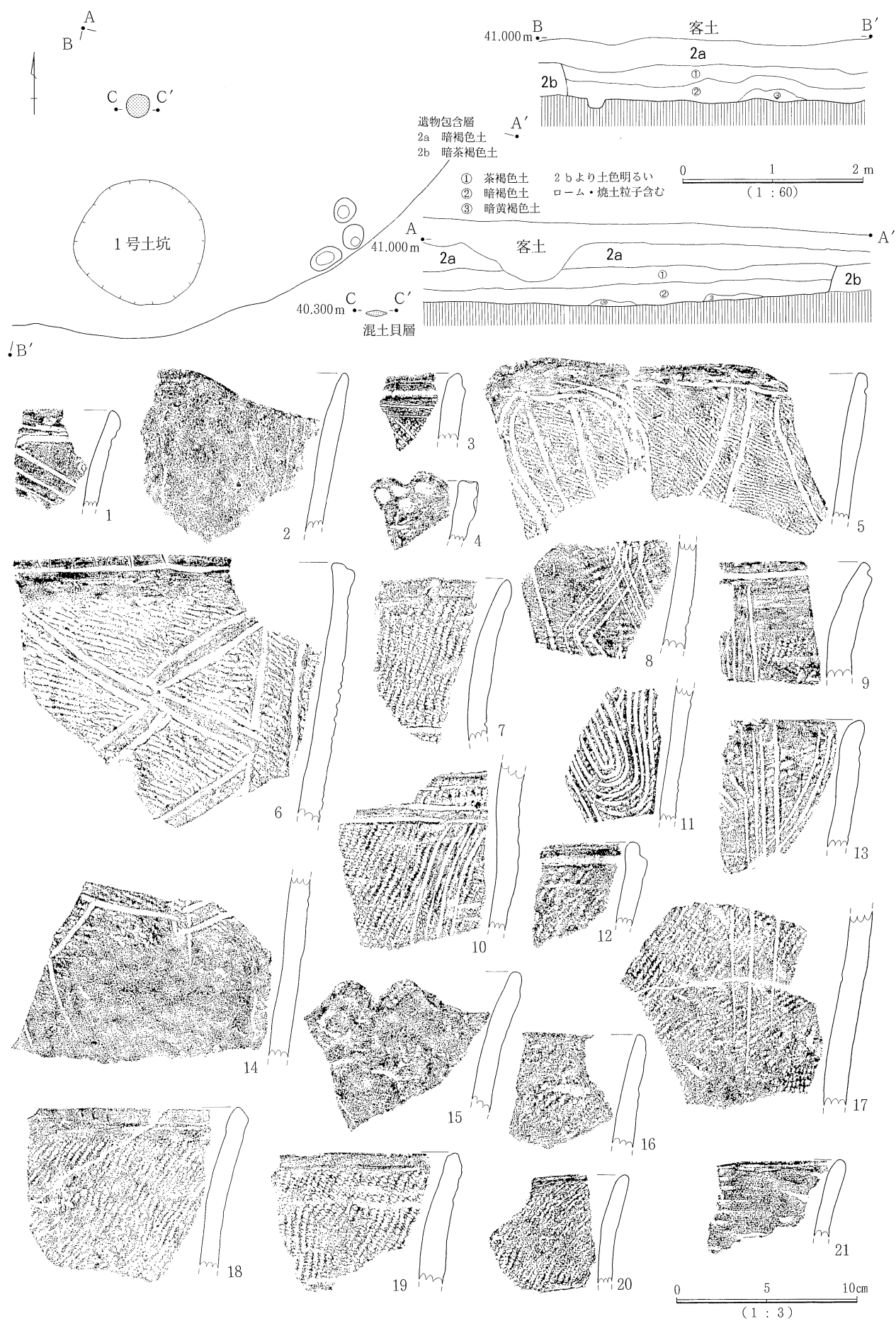
第3表

能満上小貝塚遺跡住居址リスト

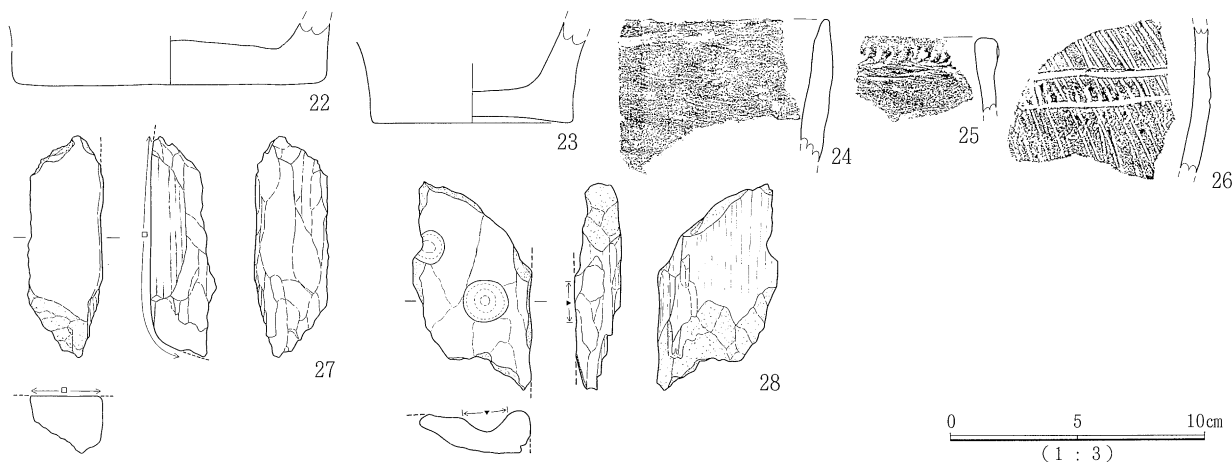
No.	グリッド	時 期	発掘調査時No.	規模 (m)	備 考
1	1 A	堀之内 1	11	(5.0)×(2.7)	覆土内に小貝ブロックあり
2	1 A	堀之内 1	9	5.0×4.5	炉址覆土をサンプリング
3	1 A・1 B	安 行 2	1	7.2×(3.0)	覆土の一部をサンプリング
4	1 B	—	15	5.9×(1.6)	
5	2 B	堀之内 1	2 - a	9.2×(7.9)	
6	2 B	称 名 寺	2 - c	6.3×(5.2)	柱穴内にテフラが検出されたものあり
7a	2 B・2 C	中期末～ 後期前葉	2 - b ₁	9.3×(5.0)	柱穴内覆土は貝層 炉址覆土をサンプリング 柱穴内にテフラが検出されたものあり
7b	2 B・2 C	後期前葉	2 - b ₂	7.9×(5.0)	柱穴内・炉址覆土は貝層
7c	2 C	称 名 寺	14	10.0×(6.3)	覆土の一部・柱穴内覆土・炉址覆土は貝層 炉址覆土をサンプリング
8	2 C	加曽利 E	30号土坑	3.0×3.0	覆土は貝層
9	2 C	後期後葉	7	7.0×6.4	入り口部に埋甕あり
10a	2 C	後期前葉	7 - b ₁	7.3×(4.0)	柱穴内覆土は貝層
10b	2 C	後期前葉	7 - b ₂	7.3×(4.0)	柱穴内覆土は貝層 柱穴内にテフラが検出されたものあり
10c	2 C	堀之内 1	7 - b ₃	9.5×9.5	柱穴内覆土は貝層
10d	2 D・3 D	後期前葉	7 - c	8.0×(6.4)	柱穴内・炉址覆土は貝層 炉址覆土をサンプリング
11	2 D	安 行 3a	10	6.9×6.6	P - 1～4 の柱穴内覆土に貝層あり 覆土内にテフラブロックあり 覆土の一部・焼土ブロックをサンプリング
12	3 B	晩期前～中葉	3	11.5×(7.5)	P - 33の柱穴内覆土に貝層あり 覆土の一部・炉址覆土をサンプリング
13	3 B・4 B	晩期中葉	4	7.6×(3.9)	覆土の一部・焼土ブロックをサンプリング
14	3 C	晩期中葉	5	(6.1)×6.1	
15	3 D	晩期中葉	8	$\frac{12.7 \times 10.7}{10.0 \times 8.9}$	住居の拡張あり
16	3 D	晩期中葉	6	$\frac{6.2 \times (4.8)}{5.9 \times 5.1}$	住居の建て替えあり
17	6 E	後期後葉	確認時に検出	—	1 号人骨
18	7 C	後期後葉	18	6.6×(2.5)	
19	7 C	安 行 3 a	12	5.2×(5.0)	
20	7 C	加曽利 E	13	5.7×(5.5)	
21	7 D	後期中～後葉	19	8.0×7.0	炉址覆土をサンプリング
22	7 D	安 行 1	16	6.7×5.9	炉址覆土をサンプリング
23	7 D	加曽利 B	17	(4.5)×4.0	
24	7 D	加曽利 B	20	6.0×(5.0)	
確①	1 B - 49	堀之内 1	確 認	—	
②	2 A - 94	称 名 寺	確 認	—	
③	3 D - 90	晩期前葉	確 認	—	
④	7 C - 04	晩期前葉	確 認	—	
⑤	8 D - 90	—	確 認	—	
⑥	7 E - 68・69 78・79	加曽利 E	確 認	—	
⑦	10 D - 50	—	確 認	—	



第15図 住居址出土土器組成



第16図 1号住居址実測図および出土遺物 (1)



第17図 1号住居址出土遺物 (2)

2 住居址

本遺跡から検出された住居址は、本調査範囲で29軒、確認調査範囲で7軒の計36軒である。しかし数年前に土採りのカクランを受けたことから、覆土の一部あるいはかなりの部分が取り除かれているものも多く、その残存状況は良好とは言えない。特に調査区中央の浅い谷状地形の東側に隣接する、4 C・4 Dの一部、5 C・5 D・5 E、6 C・6 D・6 Eの一部ではいわゆる黒土部分が全て取り除かれた状態であり、住居址覆土はおろか床・壁・炉址もほとんど検出不可能であった。しかしこの範囲には柱穴状のピットが無数に検出されており、なかにはピット覆土中に貝層を伴うものもあった。したがって、明確にその形態や規模をとらえることは困難であるが、この範囲内にも住居址群が及んでいたことは確かであり、住居址総数は50軒前後はあったものとみている。

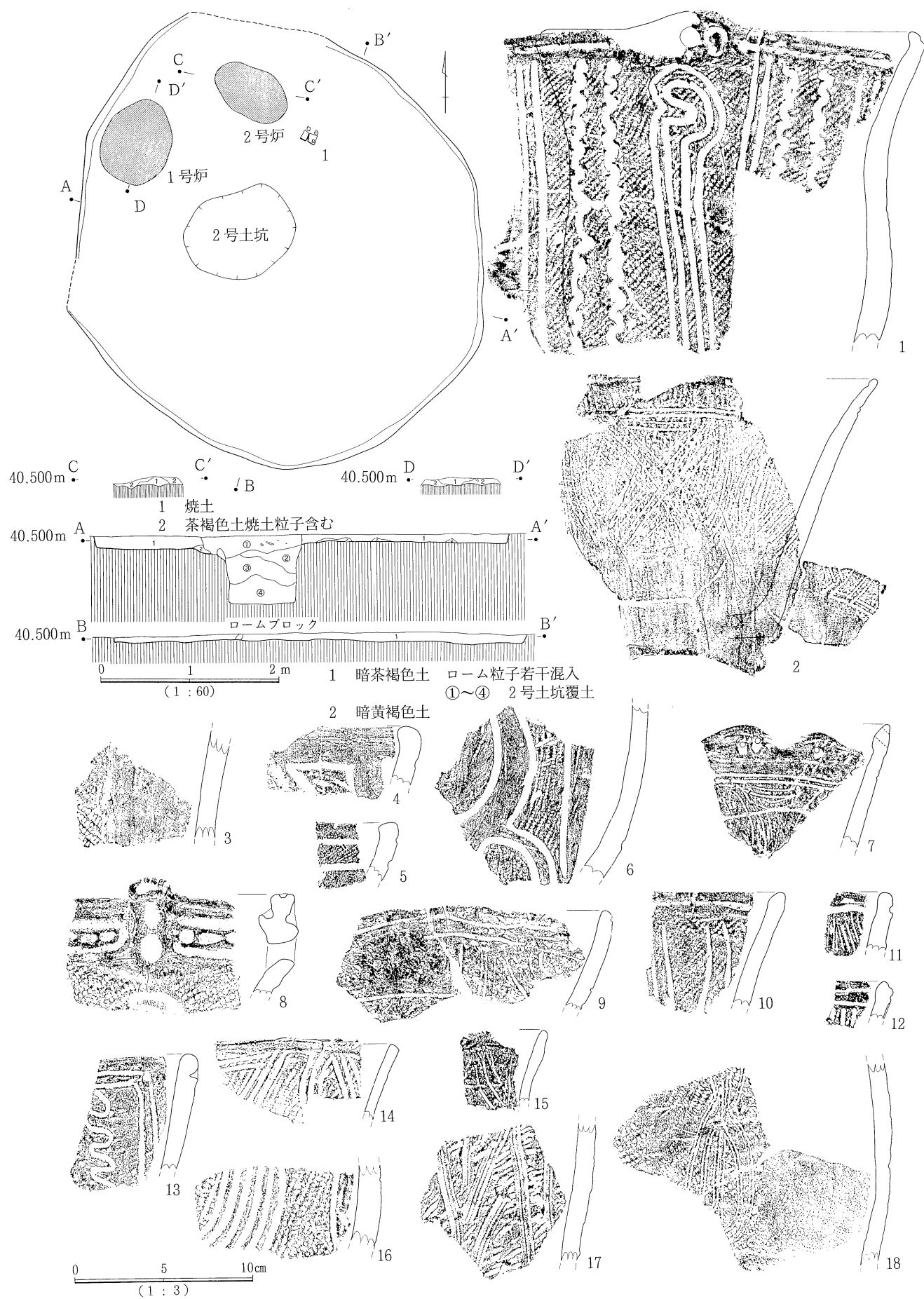
検出された住居址のリストを第3表に、出土した土器の時期別の組成を第15図に示した。本遺跡では縄文中期後葉から晩期中葉までの住居址が検出されているが、その内訳は中期後葉3、後期初頭3、後期前葉10、後期中葉2、後期後葉6、晩期前葉4、晩期中葉5、不明3軒である。

1号住居址 (第16図)

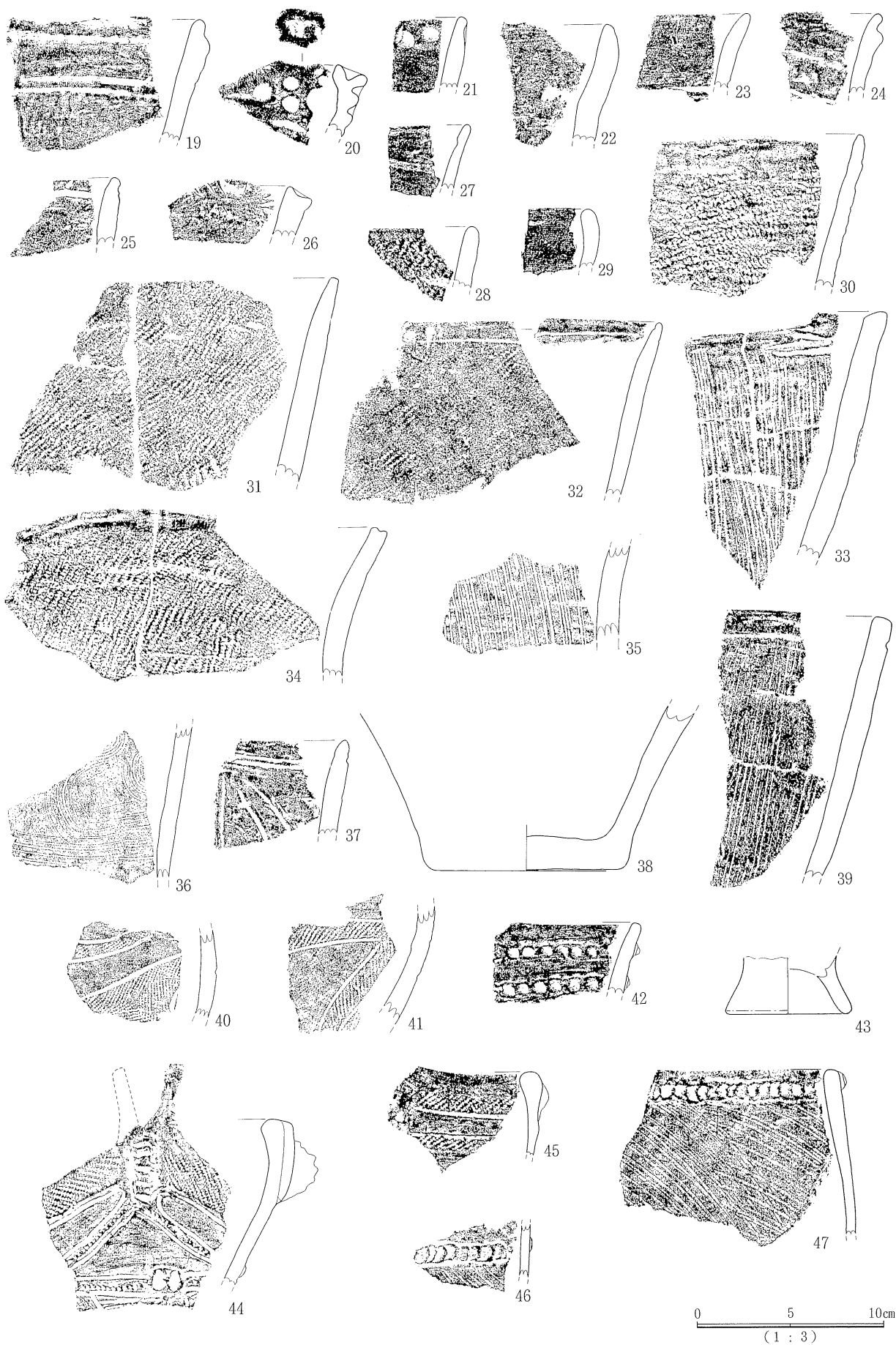
調査区北西端の小区画から検出された、住居址の南東隅の一部の調査である。遺物包含層である2a層除去後にプランを把握した。覆土は下部がローム・焼土粒子を含む暗褐色土、上部が茶褐色土(遺物包含層である2b層に類似するがやや土色が明るい)である。壁面はしっかりととらえられたが、柱穴はしっかりしたもののがほとんどなく、床面も概して軟弱である。プラン内に1号土坑が存在するが、断面の観察によるとこの土坑が1号住居址覆土を掘り込んでいることが明らかで(第107図)、後期後葉の1号土坑の方が新しい。また貝塚の章で詳述するが、覆土中に小規模な貝ブロックを検出している。

出土遺物 (第16・17図)

出土土器の97%が堀之内1式の破片資料であった(第15図)。また石棒・凹石各1点(27・28)も出土した。



第18図 2号住居址実測図および出土遺物 (1)



第19図 2号住居址出土遺物(2)

2号住居址（第18図）

直径5m程の不正円形のプランをもつ。遺構確認面は遺物包含層2b層中にあり、覆土はローム粒子を若干含む暗茶褐色土であった。床面はソフトローム直上にあり、概して軟弱であった。炉址は、北側に2箇所検出したが、その覆土をサンプルして分析したところ1号炉からわずかではあるが魚骨を検出した。柱穴は確認できなかった。また、中央付近に後期前葉の2号土坑があるが、断面観察によるとこちらのほうが住居址より新しい。

出土遺物（第18・19図）

出土土器の92%が堀之内1式であった。1のようにかろうじて器形を復元できる大型破片もあるがほとんどはそれ以下の破片資料である。1は口径推定21.9cm、残存器高17.2cmの深鉢形土器で、RL単節縄文を地文とし、その上に沈線による縦位の直線文・波状文・蕨状文をもつ。

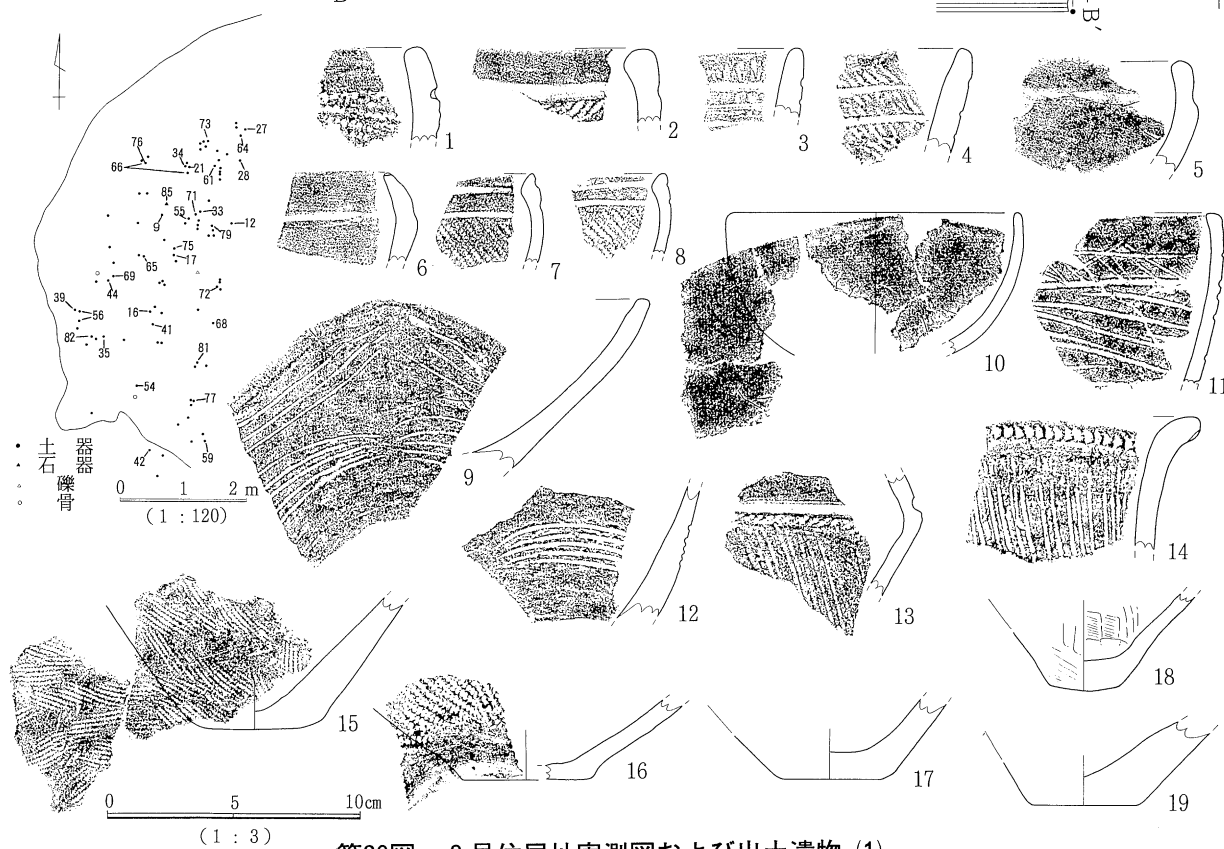
3号住居址（第20図）

調査区北西端の小区画から検出された、住居址西側の一部の調査である。住居全体からすると1/3程度とみられる。現存最大長7.2mを測る。遺構確認面は、遺物包含層である2a層除去後の2b層直上にあり、覆土中に焼土や炭化物を多く含むことから、その識別は容易であった。断面観察からも、遺物包含層である2b層を掘り込んで構築されていることは明らかで、遺物包含層の形成時期の証拠となる。壁面は30～40cmと比較的しっかりとしており、浅い壁溝がめぐりその内部に壁柱穴が認められる。床面はしっかりとしており、部分的に焼土・炭化物・炭化材が検出され何らかの原因で火を受けた可能性が高い。炉址は中央部付近にあるが、この覆土と住居址覆土の一部をサンプルとして分析したところ、焼けた獣骨2が検出された。住居址南西隅の床下からは250×120cm、深さ40cmほどの長楕円形の落ち込みが検出され中から20に図示した深鉢形土器の大型破片がまとまって出土した。土層の断面観察、遺物の時期からも3号住居址構築以前のものとみられる。

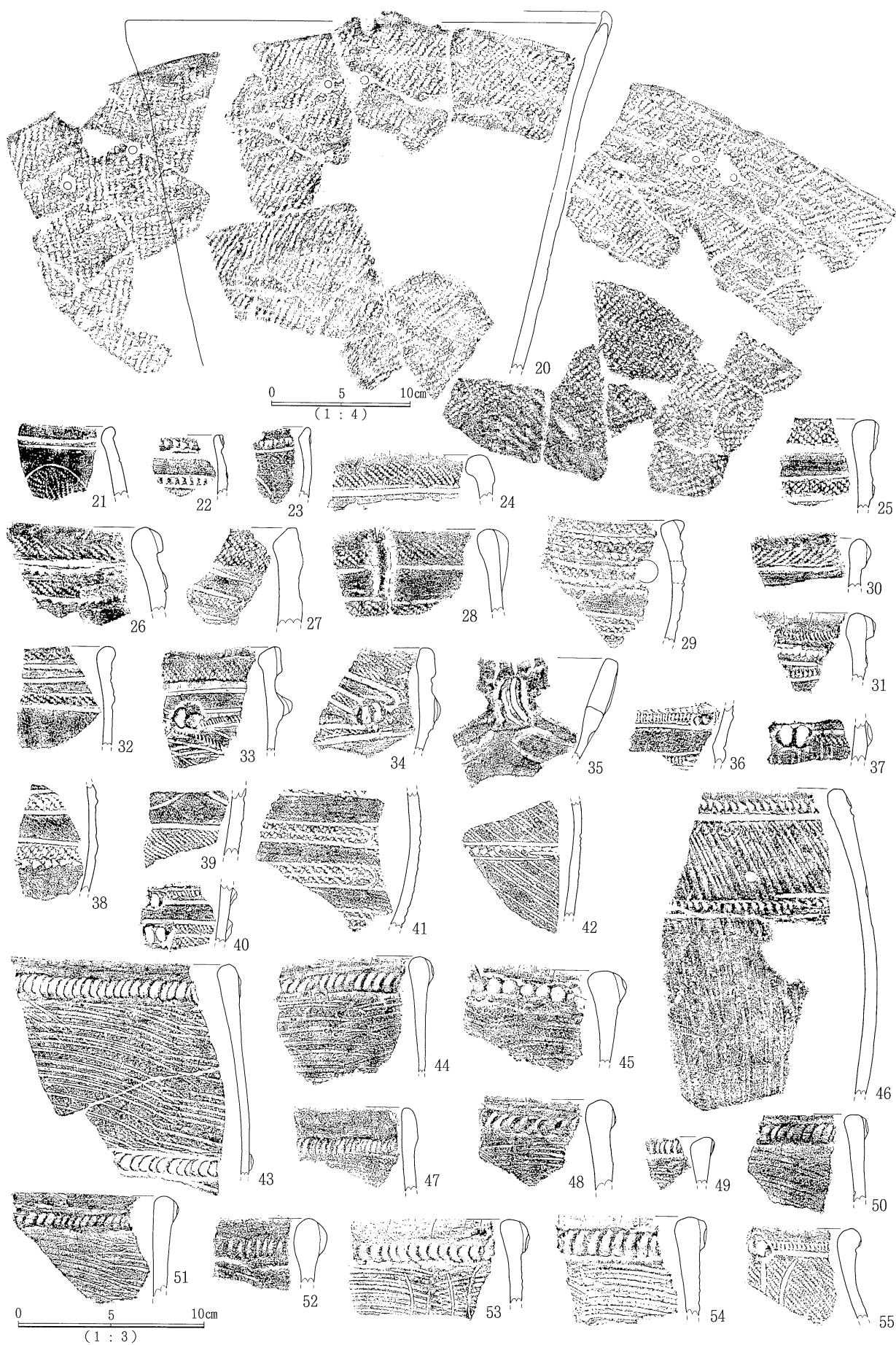
出土遺物（第20～22図）

出土土器の55%が安行1・2式であった。破片資料が多く、56の粗製土器の大型破片がかろうじて器形を復元できるものである。口径推定26.0cm、残存器高11.9cm。横位の紐線文の間には、2本の沈線による区画文が連続し、その内部をRL単節縄文が埋めている。また縦位の紐線文もみられる。20は堀之内2式の粗製深鉢形土器で、口径推定34.8cm、残存器高24.9cm。器面全体にLR単節縄文を施す。3対の補修孔が認められる。2次焼成を受けたとみられ、器表面は危うい状態である。

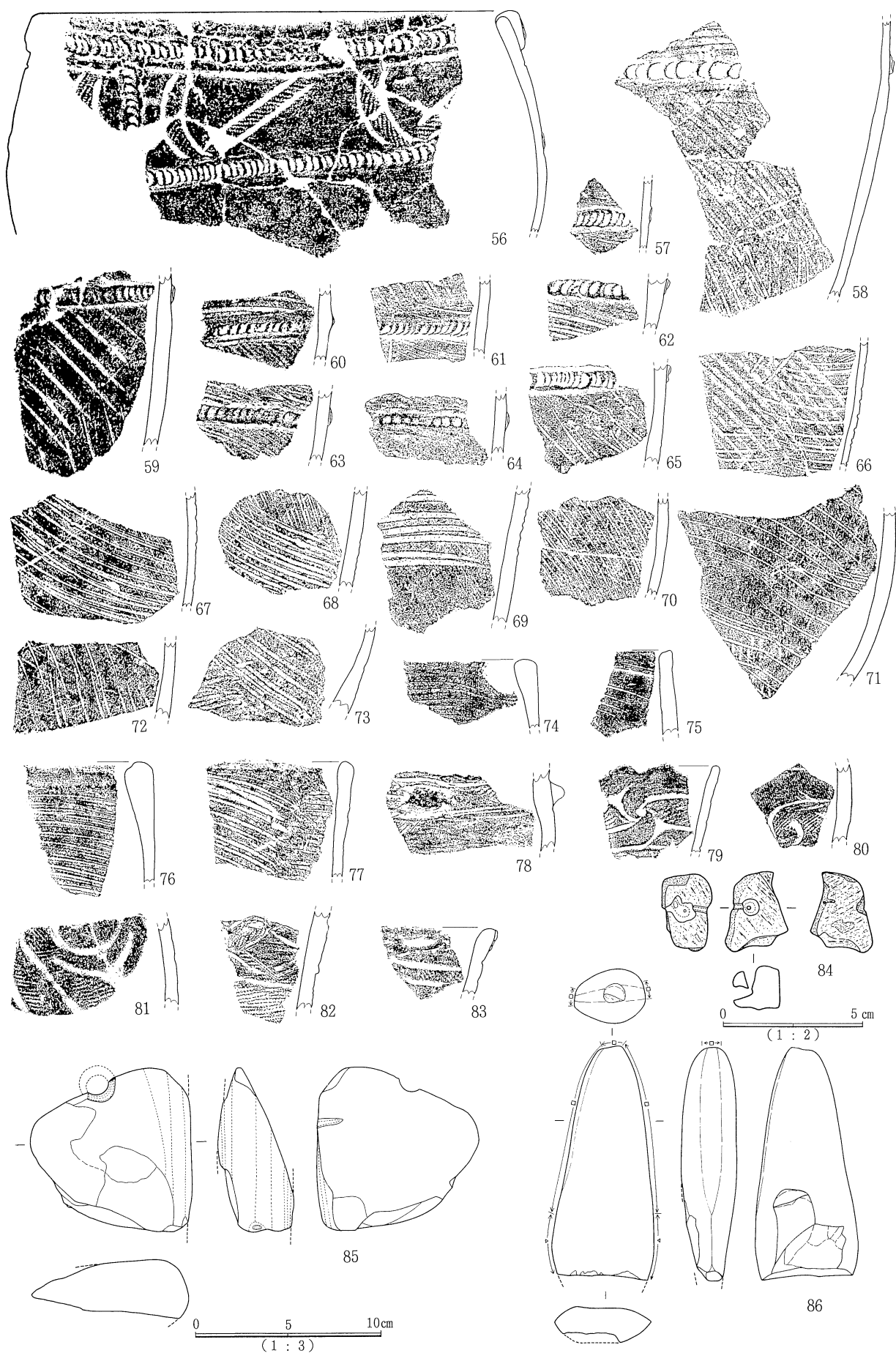
その他、軽石製浮子、凹石、磨製石斧各1点（84～86）、チャート・珪質頁岩・黒曜石製のフレーク11点、結晶片岩系のフレーク1点、焼成粘土塊6点が検出された。凹石と磨製石斧には被熱の痕跡が認められた。



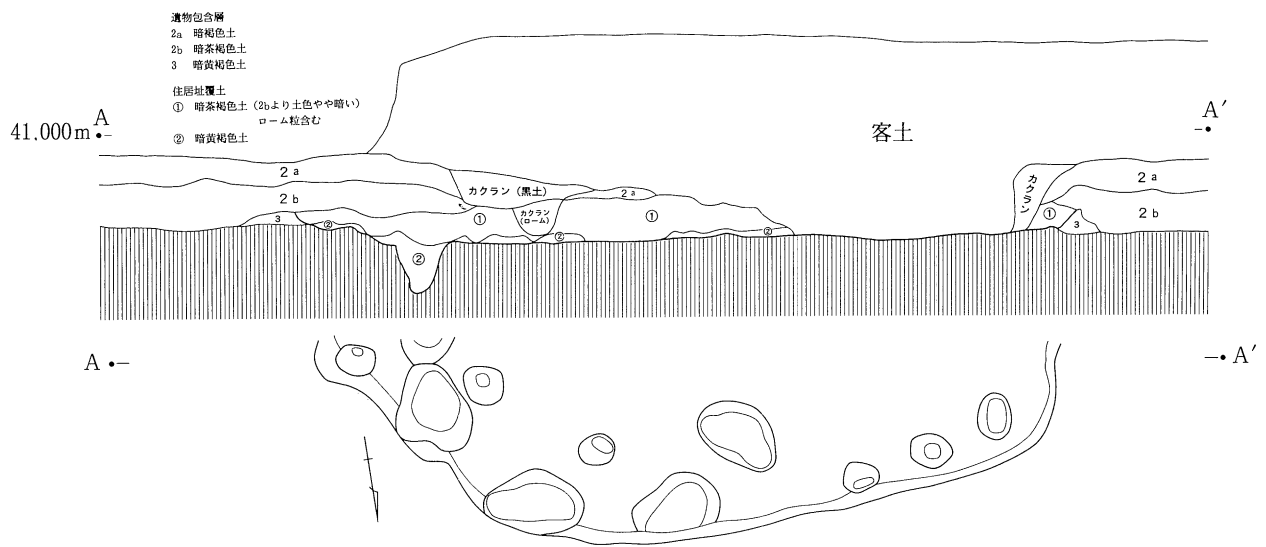
第20図 3号住居址実測図および出土遺物 (1)



第21図 3号住居址出土遺物(2)



第22图 3号住居址出土遺物 (3)



第23図 4号住居址実測図

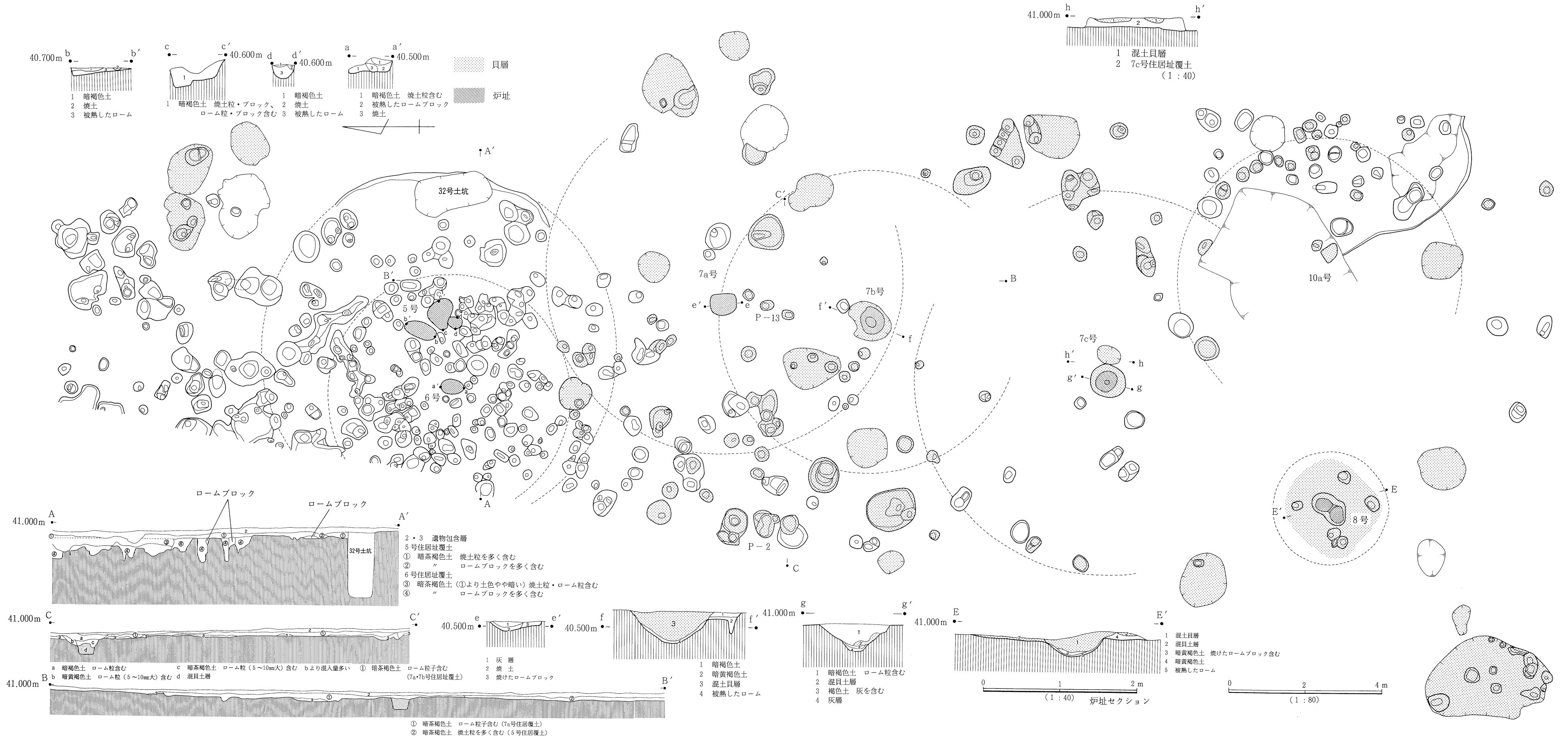
4号住居址（第23図）

調査区北西端の小区画から検出された、住居址北側の一部の調査である。住居全体からすると1/3程度とみられる。現存最大長5.9mを測る。遺構確認面は遺物包含層2b層中にあり、覆土はローム粒子を若干含む暗茶褐色土（2b層に類似するがやや土色が暗い）であった。床面はソフトローム直上にあり、概して軟弱であった。壁際に柱穴状のピットがみられるが、いずれも浅いものである。

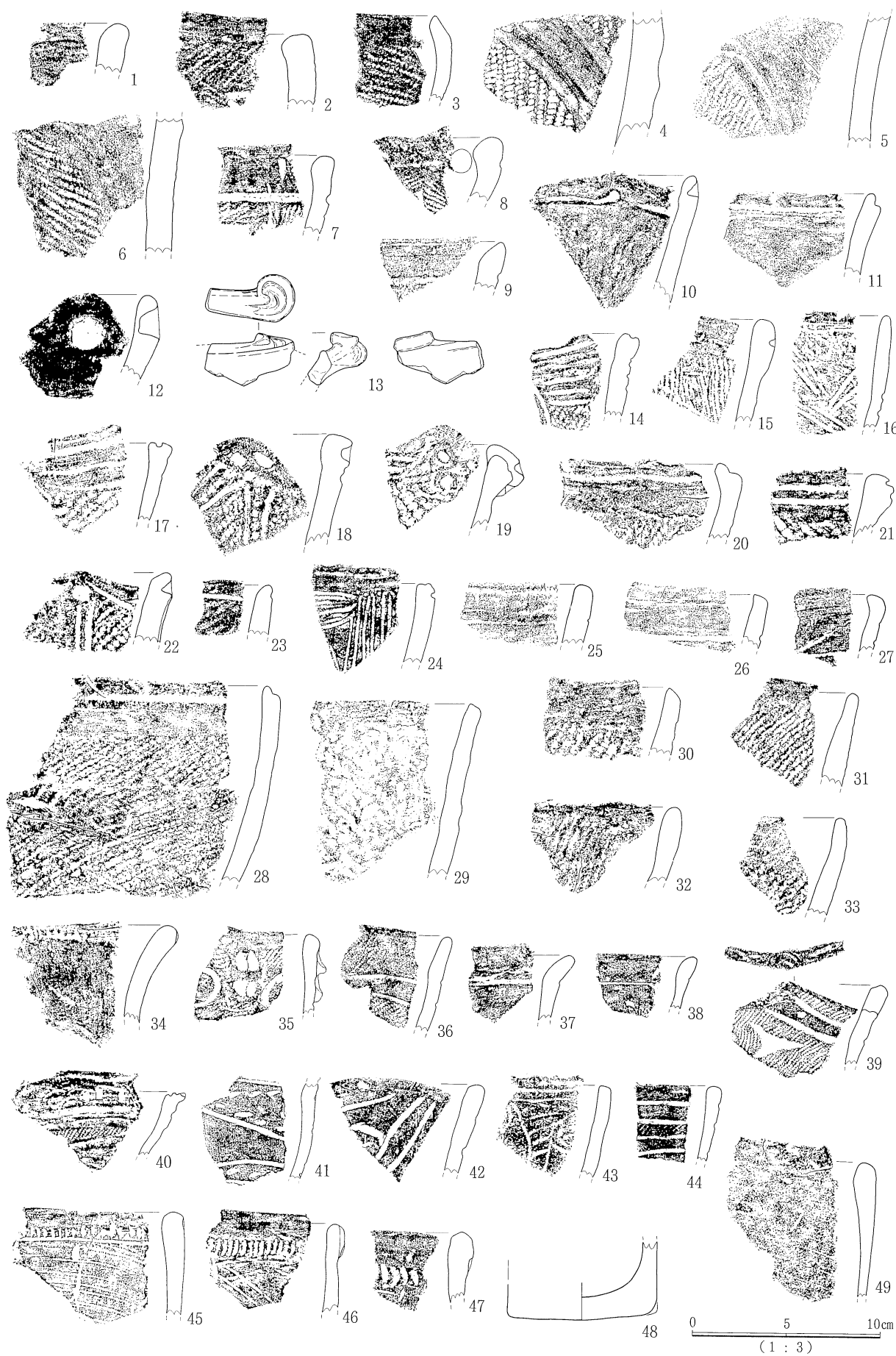
出土遺物

全く検出できなかった。

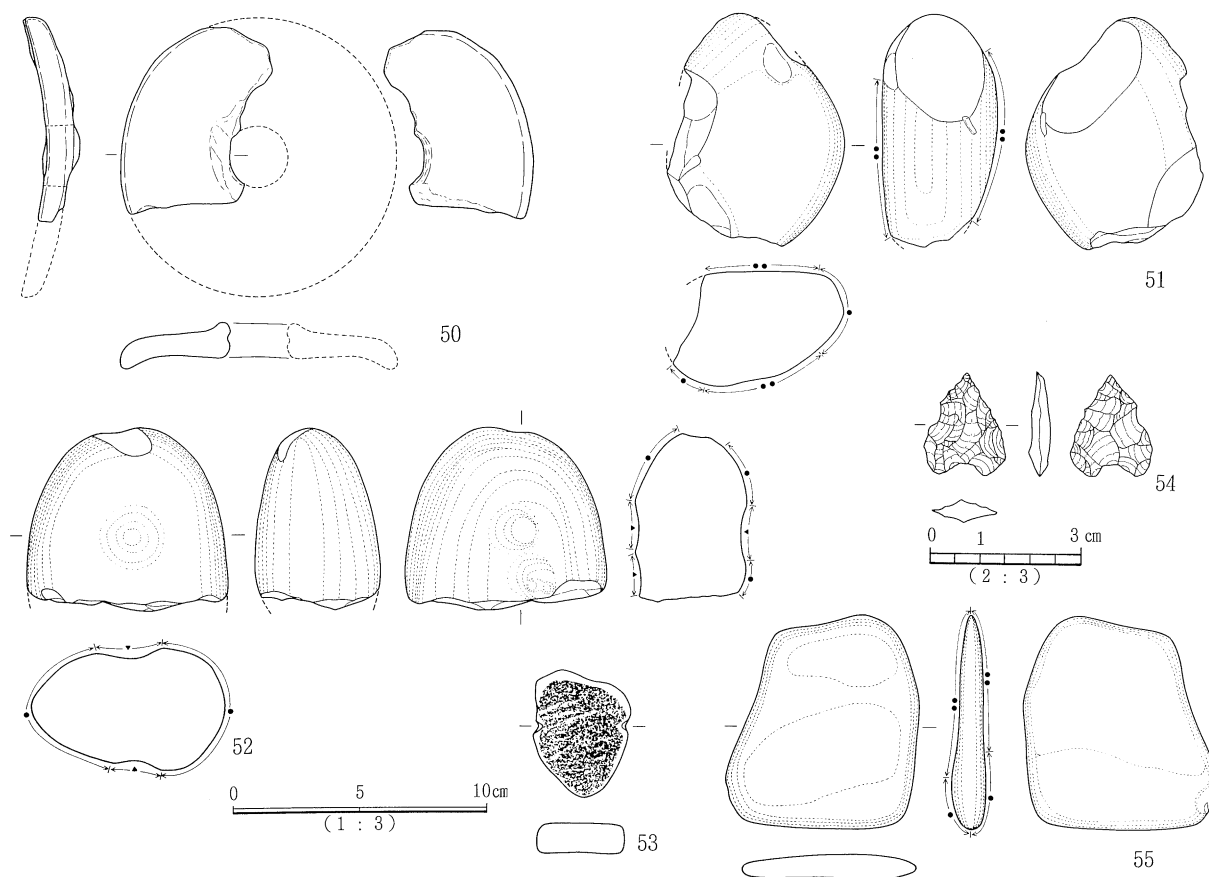
5・6・7a・7b・7c・8号住居址と、後述する9・10a・10b・10c・10d号住居址を検出した調査区の西側区域（2B・2C・2D・3C・3D区）は、土採りによるカクランの被害が大きく、遺物包含層と遺構覆土の大部分が削平を受けていた。このため、住居址のプランや規模を把握するのが困難であった。ただし、住居の壁や床面の一部、炉址が残存している箇所もあり、また、柱穴状のピットが多数検出でき、ピット覆土内に小規模な貝層を形成するものが多くみられることから、これらを手掛かりに住居址の存在を確認した。柱穴状のピットの数から推定するとかなりの住居址が重複していることが推定される。貝層は、柱穴状のピット内と炉址覆土内にほぼ限られて存在し、住居址覆土全面に存在するタイプのものはみられなかった。本来は住居址覆土全面に広がっていたものが、後世の土採りの際に削平された可能性も否定できないが、この区域には少なからず遺物包含層や遺構覆土が残存していた訳で、すべてが削平されていたのではないことから考えると、その中に面的にある程度の広がりをもつ貝層が残存していてもよさそうである。もし仮に、柱穴状のピット内と炉址覆土内のもに限定して貝層が形成されたとすれば、特異な事例となる。



第24図 5, 6, 7a・b・c, 8号住居址実測図



第25图 5号住居址出土遺物(1)



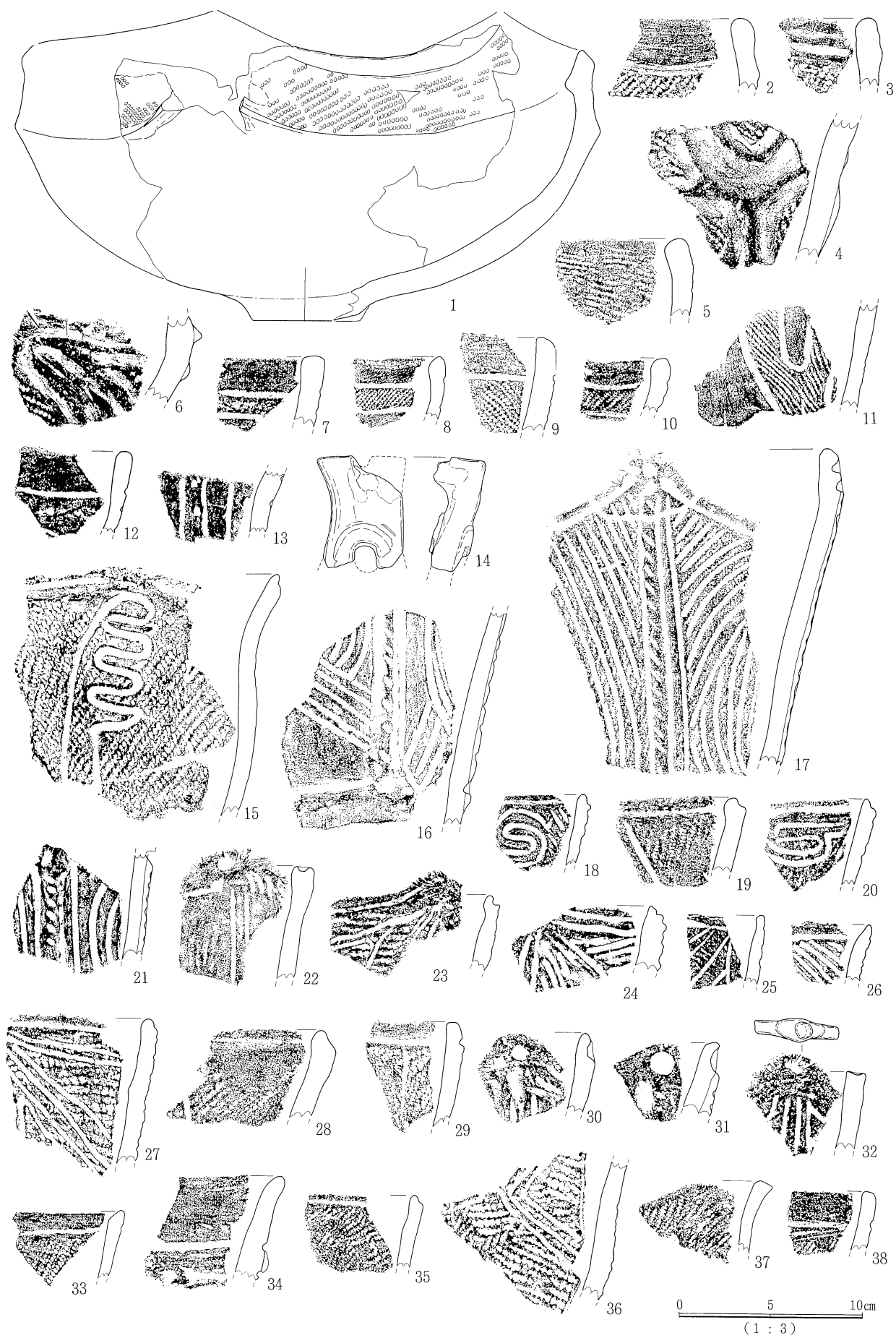
第26図 5号住居址出土遺物(2)

5号住居址(第24図)

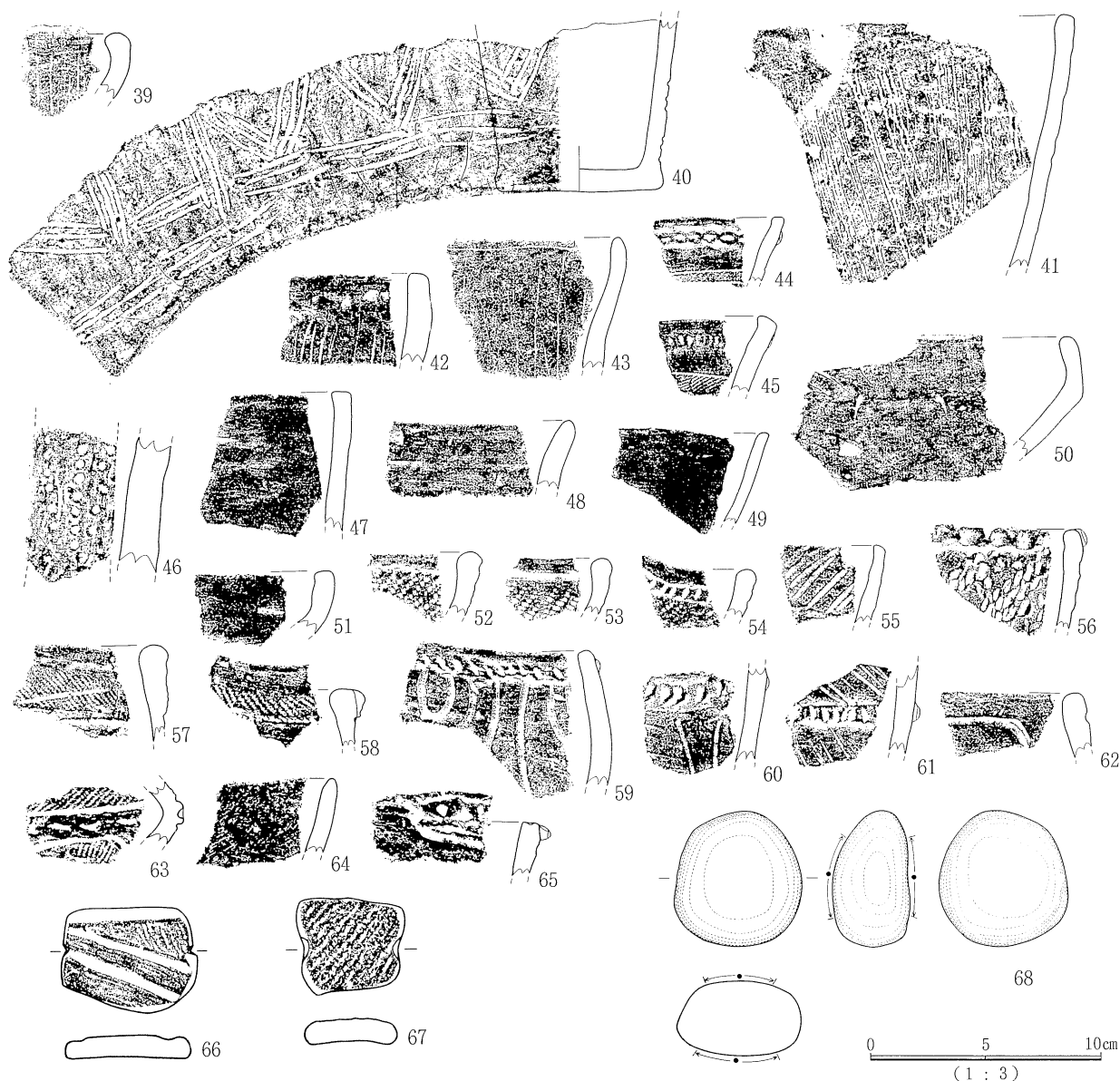
西側の一部が調査範囲外のため未調査である。壁は東側の一部分のみ検出できたが、柱穴の配列から直径9.2mほどの円形の住居プランが推定できる。炉址は中央部付近に3箇所の焼土の分布をみた。住居の中央よりやや西側の部分では、直径約6mの範囲に貼床が認められ、床下から6号住居址を検出した。また東側の壁に重なるように検出された32号土坑は、5号住居址より新しい晩期のものである。

出土遺物(第25・26図)

出土土器の58%が堀之内1式の破片資料である。磨石、凹石、石鏃、砥石各1点(51,52,54,55)、頁岩・チャート製のフレーク3点、蓋形土製品、土器片錘各1点(50,53)も出土している。



第27图 6号住居址出土遗物(1)



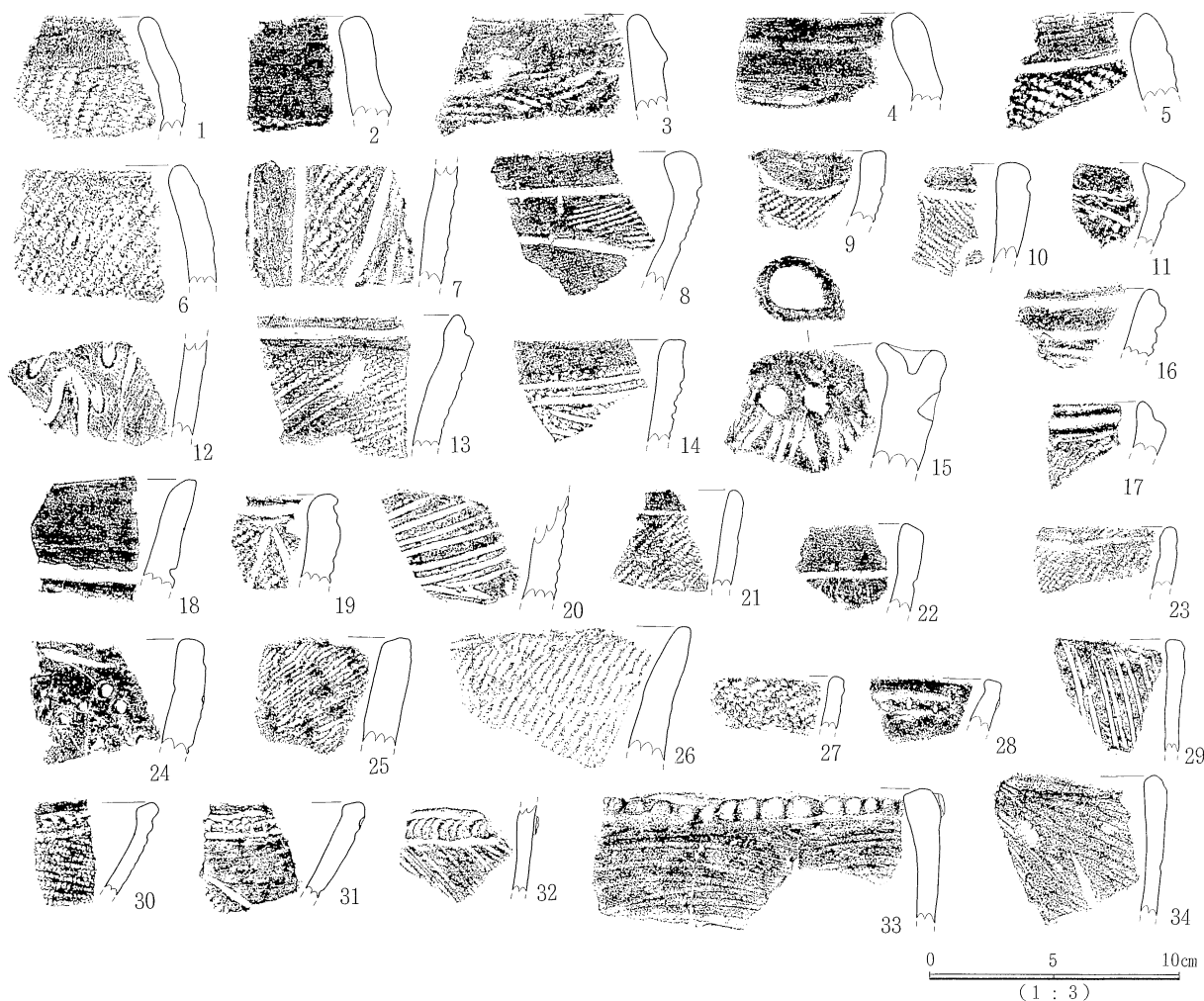
第28図 6号住居址出土遺物(2)

6号住居址(第24図)

西側の一部が調査範囲外のため未調査である。壁は明確にはとらえられなかったが、柱穴の配列から直径6.3mほどの円形プランの住居址を推定している。この範囲内には、柱穴状のピットが多数重複し、床面は安定した状態ではとらえられなかったがほぼ中央に炉址を検出した。

出土遺物(第27・28図)

出土土器の23%が加曽利E～称名寺式、74%が堀之内1式である。堀之内1式の比較的大型の破片(15～17)や底部の資料(40)もあるが、多くはそれ以下の小破片である。1は口縁部から底部までが1/2ほど残存する器形を復元できる称名寺式の浅鉢形土器である。口径推定30.0cm、底径6.0cm、器高14.8cm、6単位の波状口縁となる。口縁部には微隆起によって区画された文様帯があり内部にLR単節縄文が施される。口唇部は鋭角に尖る。土器片錘2点(66,67)、磨石1点(68)、チャート製のフレーク2点、緑泥片岩のフレーク1点も出土した。



第29図 7a号住居址出土遺物

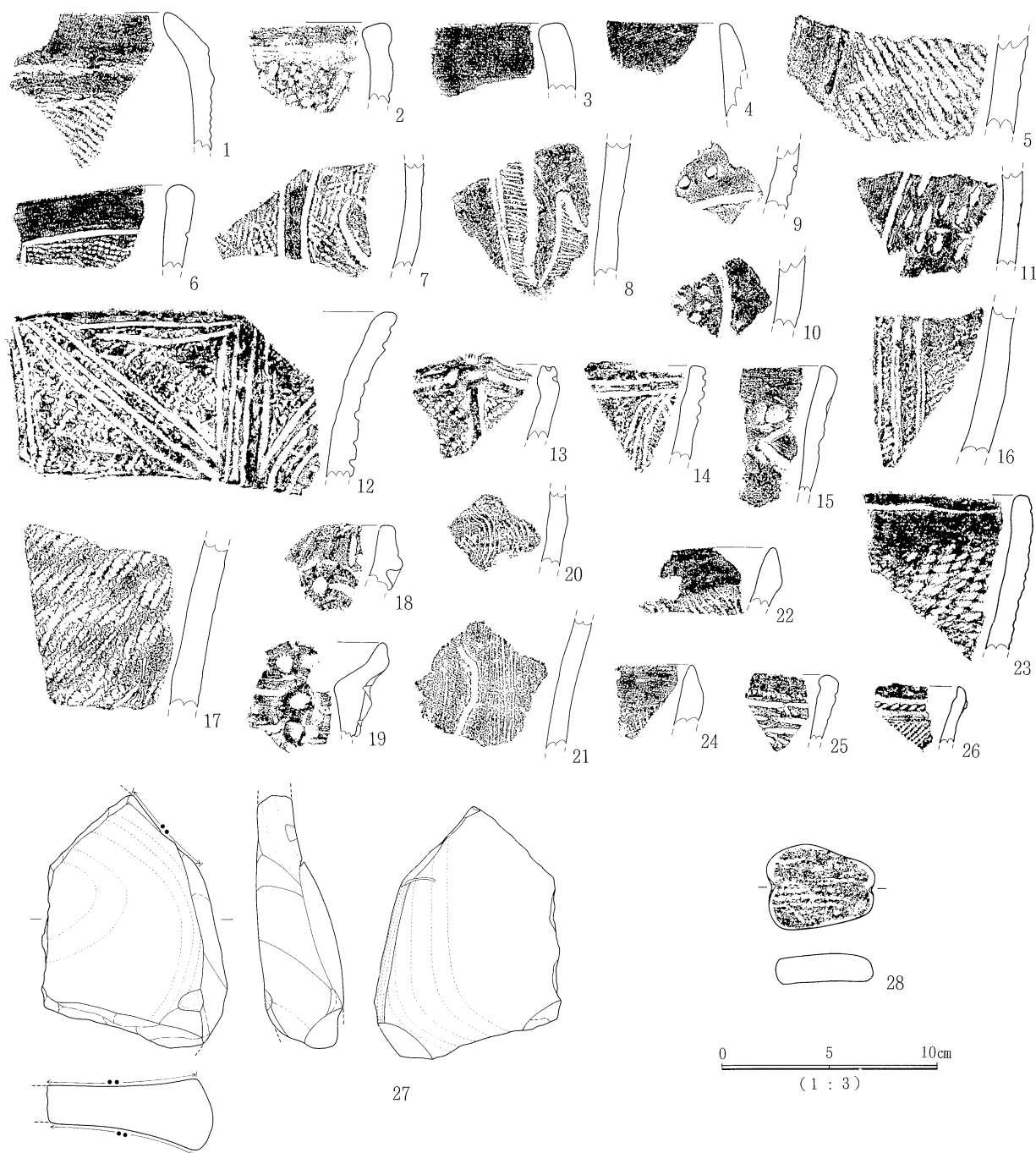
7a号住居址（第24図）

7a～c号住居址は、5・6号住居址の南に隣接する遺構で重複しながら南北方向に連なっている。この周辺部は、5・6号住居址と同様に土採りによるカクランが激しく、遺物包含層と遺構覆土の大部分が削平され、遺構確認が極めて困難な地区であった。したがって、住居プランの把握は、壁の部分が取られないため炉址の位置と柱穴の配列に頼らざるをえなかった。壁柱穴状の小ピットが多数検出されたが、その内ピット覆土内に貝層を伴うものを手掛かりにその配列を検討しおよその住居規模を把握した。

7a号住居址は、炉址を中心に直径9.3mほどの円形プランの住居址を推定した。東側の壁柱穴が検出できなかったが、西側では覆土内に貝層を伴う柱穴状のピットがめぐる。

出土遺物（第29図）

覆土がほとんど把握できなかったために、柱穴覆土内の遺物はその大半を占め、したがって遺物量は少ない。土器は加曾利E・称名寺・堀之内1式、わずかにそれ以降の時期のものも含まれているが堀之内1式が全体の49%を占める。全て破片資料である。この他、覆土中より棒状鯨骨製品（第165図-15）1点が出土している。



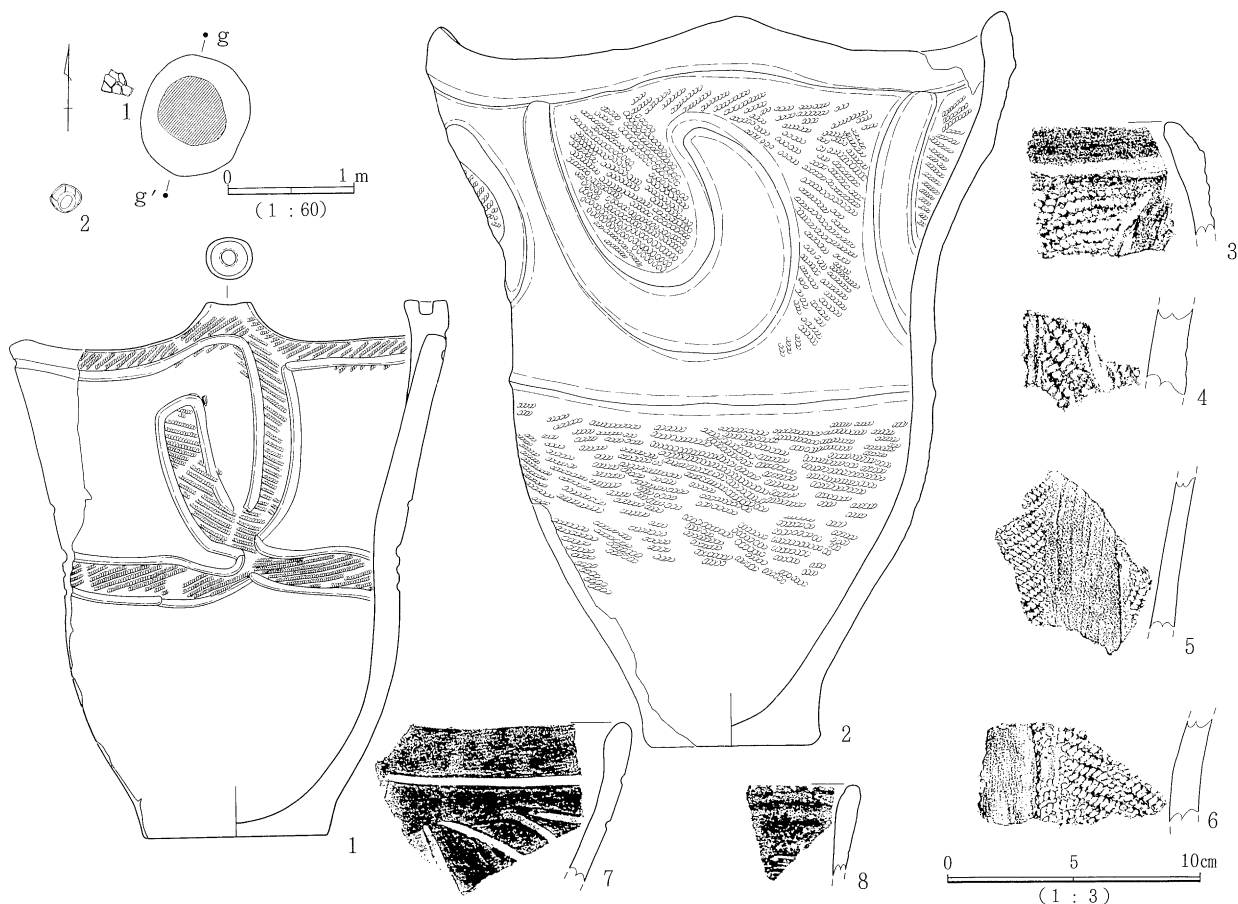
第30図 7b号住居址出土遺物

7b号住居址（第24図）

7b号住居址は、炉址を中心に直径7.9mほどの円形プランの住居址を推定した。南側の壁柱穴が検出できなかったが、北側では覆土内に貝層を伴う柱穴状のピットがめぐる。また、炉址覆土内は貝層であった。

出土遺物（第30図）

覆土がほとんど把握できなかったために、柱穴覆土内の遺物がその大半を占め、したがって遺物量は少ない。土器は加曽利E・称名寺・堀之内1式の破片資料がみられるが、堀之内1式が全体の65%を占めその主体となる。この他、石皿1点、土器片錘1点（27,28）が出土している。



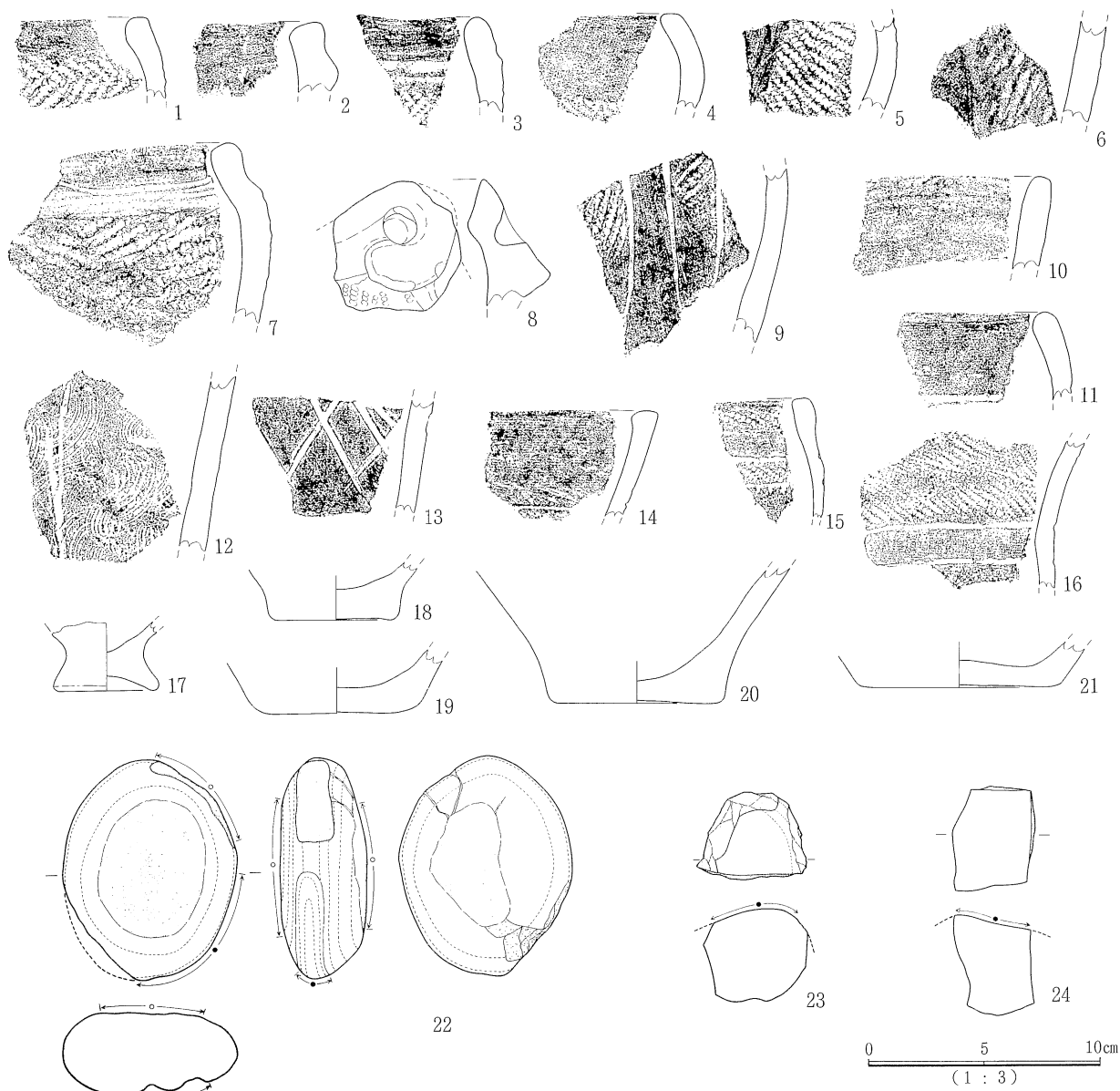
第31図 7c号住居址出土遺物

7c号住居址（第24図）

7c号住居址は、炉址を中心に直径10mほどの円形プランの住居址を推定した。南側の壁柱穴が検出できなかったが、北側では覆土内に貝層を伴う柱穴状のピットがめぐる。また、炉址覆土内とこの東に隣接する地点にも若干の貝層があった。炉址の西脇60cmのところに埋設土器があった。

出土遺物（第31図）

覆土がほとんど把握できなかったために、炉址周辺部と柱穴覆土内の遺物がその全てである。土器は加曽利E・称名寺式がみられるが、このうち炉址の西脇の床面直上から出土した1は、口径復元17.8cm、底径推定7.3cm、器高21.1cmを測る深鉢形土器の大型破片資料である。沈線区画内はLR単節縄文で埋められる。2は炉址の西脇に埋設されていた深鉢形土器である。底部の一部を欠くが、ほぼ完形となる資料である。口径22.3cm、底径推定7.0cm、器高28.8cmを測る。胴部上半の微隆起による区画外と胴部下半部はLR単節縄文が施される。口唇部は鋭角に尖る。



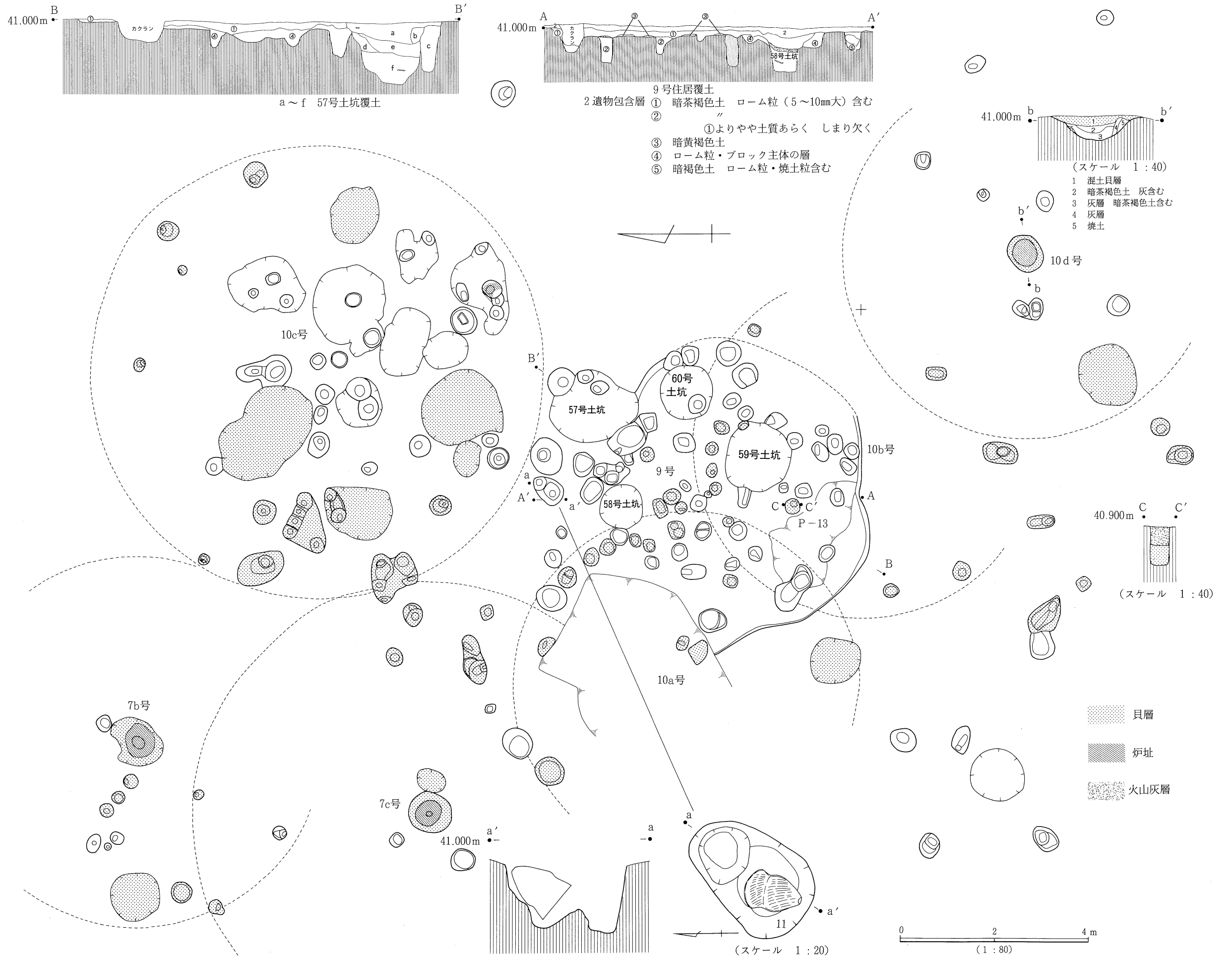
第32図 8号住居址出土遺物

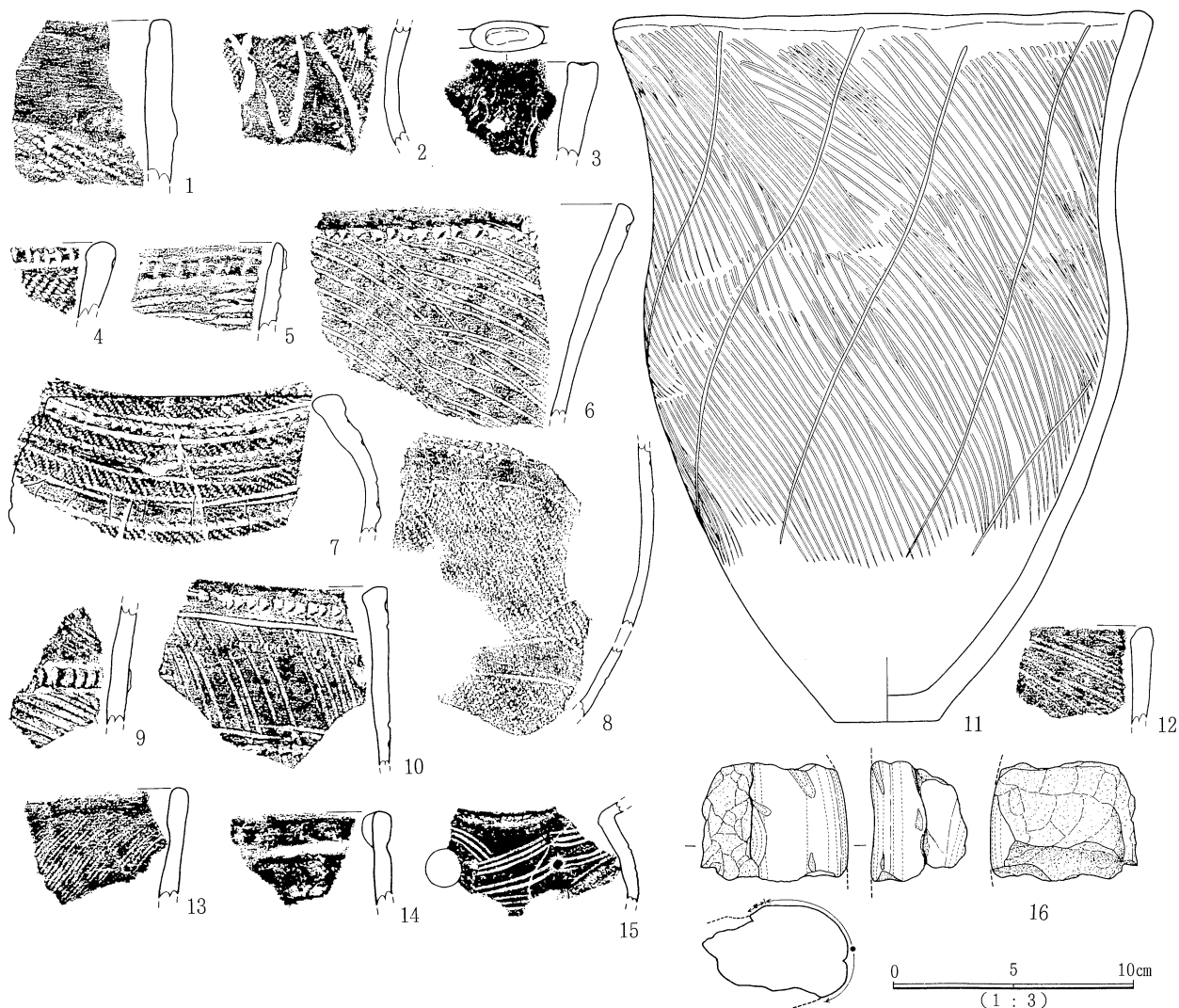
8号住居址（第24図）

7c号住居址の南に隣接する。当初、直径2 mの範囲に貝層が検出されたことから土坑内の地点貝層として調査をすすめたところその下部から、炉址とその周囲に4本の柱穴状のピットが検出された。さらに周辺部の精査をすすめたが、柱穴状のピットはこれ以外には検出できなかったことから、炉址を中心に直径3 m程のプランをもつ住居址状の施設と推定した。

出土遺物（32図）

土器は加曽利E・堀之内1式、わずかにそれ以降の時期のものも含まれているが加曽利E式が全体の77%を占める。全て破片資料である。この他、敲石1点、磨石2点（22,23,24）が出土している。





第34図 9号住居址出土遺物

9号住居址（第33図）

出入口施設を北側に有する、7.0×6.4mの不正円形のプランをもつ住居を想定した。南半部に部分的に壁が残存し、壁柱穴状のピットを有するが、床面は軟弱で炉址は検出できなかった。出入口施設と考えられる部分の中央（奥壁から北に6.5mの地点）に、70×50cmほどの楕円形のピットがあり、内部から完形の深鉢形土器が横倒しの状態で出土した。土器を利用した幼児埋葬の可能性があるので、内部の土をそのまま持ち帰り精査したが、内部からはハマグリ・イボキサゴなど保存状況の悪い一握りほどの貝とともに数点の骨片が検出されたが、人骨と断定できるものはなかった。また住居プラン内には、住居の北側から続く後期後葉の土坑群の一部（57,58,60号土坑）が存在し、また7a・7b・7c号住居址から連なる、後期前葉の住居址群の覆土に貝層を伴う柱穴の一部が重なっている。

出土遺物（第34図）

覆土が薄かったため土器の出土量は多くないが、曾谷～安行1式を主体とする。このうち11は、出入口施設付近のピット内から埋納されたかたちで出土した完形の粗製深鉢形土器である。口径22.7cm、底径4.4cm、器高29.7cmを測る。その他、磨石1点（16）も出土した。

10a号住居址（第33図）

10a～d号住居址は、7a～c号住居址の東に隣接する遺構で、10c以外は重複しながら北西～南東方向に連なっている。この周辺部は、7a～c号住居址と同様に土採りによるカクランが激しく、遺物包含層と遺構覆土の大部分が削平され、遺構確認が極めて困難な地区であった。したがって、住居プランの把握は、壁の部分にとらえられないため炉址の位置と柱穴の配列に頼らざるをえなかった。壁柱穴状の小ピットが多数検出されたが、その内ピット覆土内に貝層を伴うものを手掛かりにその配列を検討しおよその住居規模を把握した。

10a号住居址は炉址がカクランのため検出できず、また西側の壁柱穴も不明確であったが、西側では覆土内に貝層を伴う柱穴状のピットが並び、直径7.3mほどの円形プランを想定した。

出土遺物（第35図）

覆土がほとんど把握できなかったために、柱穴覆土内の遺物がその全てで、したがって遺物量は少ない。土器は加曽利E・堀之内1式が全体の89%、わずかにそれ以降の時期のものも含まれている。

10b号住居址（第33図）

炉址はおそらく9号住居址のため検出できず、また南側の壁柱穴も不明確であったが、北側では覆土内に貝層を伴う柱穴状のピットが並び、直径7.3mほどの円形プランを想定した。

出土遺物（第35図）

覆土がほとんど把握できなかったために、柱穴覆土内の遺物がその全てで、したがって遺物量は少ない。土器は加曽利E・称名寺・堀之内1式が全体の93%、わずかにそれ以降の時期のものも含まれている。

10c号住居址（第33図）

10c号住居址はこの区域の住居群のなかで最も不明確なものであり、住居址として認定することができるかどうか疑問が残るが、散在的に覆土内に貝層を伴う柱穴状のピットが存在することから、それらを取り込む9.5mほどの円形で範囲を示した。この範囲内には、後期後葉の土坑群が存在し、仮に炉址が存在したとしてもこれらによって壊されている可能性が高い。

出土遺物（第35図）

覆土がほとんど把握できなかったために、柱穴覆土内の遺物がその全てで、したがって遺物量は極めて少ない。土器は堀之内1式の小破片が出土したのみである。

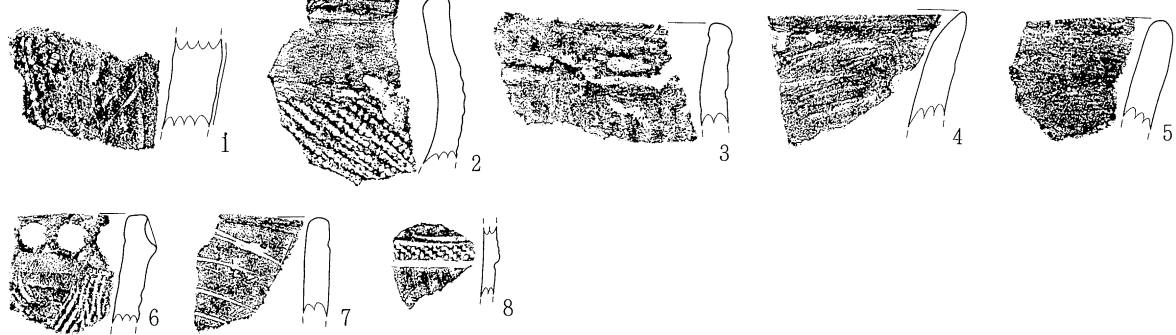
10d号住居址（第33図）

炉址は検出できたが、壁柱穴状のピットがうまく配列せず、一応炉址を中心とした8mほどの円形のプランを想定した。炉址覆土には貝層を伴う。また炉址内の覆土をサンプルして分析したところ、焼けた獣骨・魚骨が検出された。

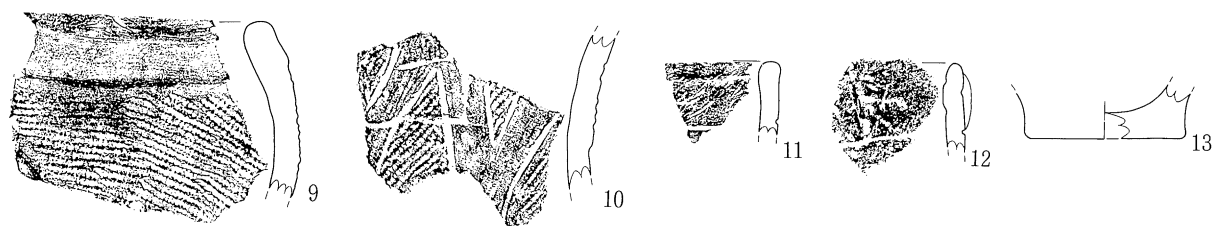
出土遺物（第35図）

土器は加曽利E・堀之内1式が全体の66%を占めるが、それ以降の時期のものも含まれている。その他、チャート製のコア2点（46）が出土した。

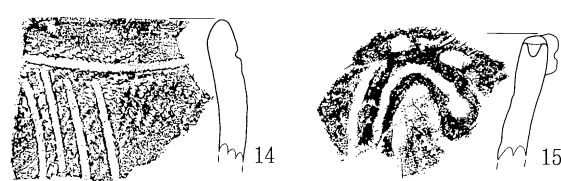
10a号住居址



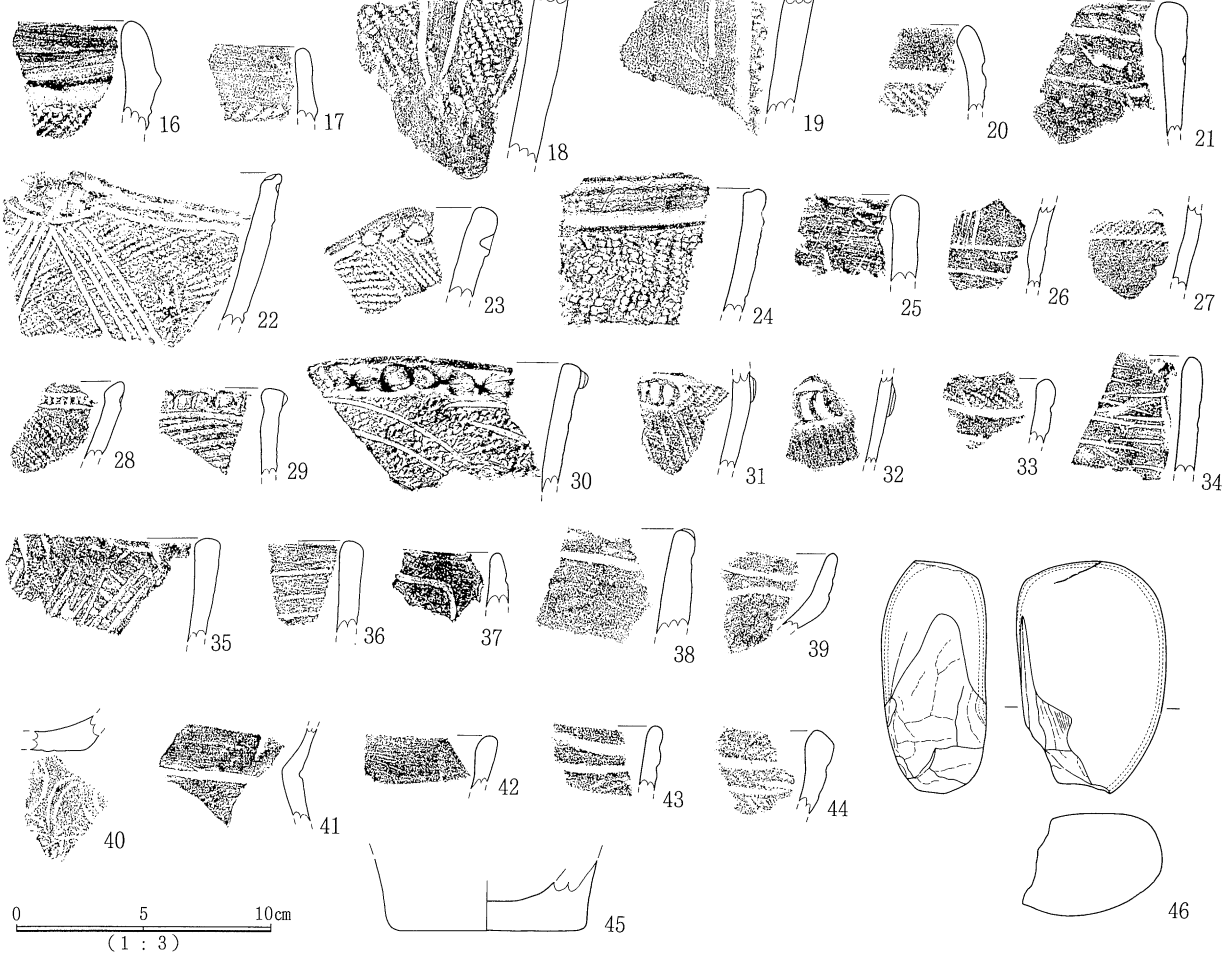
10b号住居址



10c号住居址



10d号住居址



第35图 10a・b・c・d号住居址出土遺物

11号住居址（第36図）

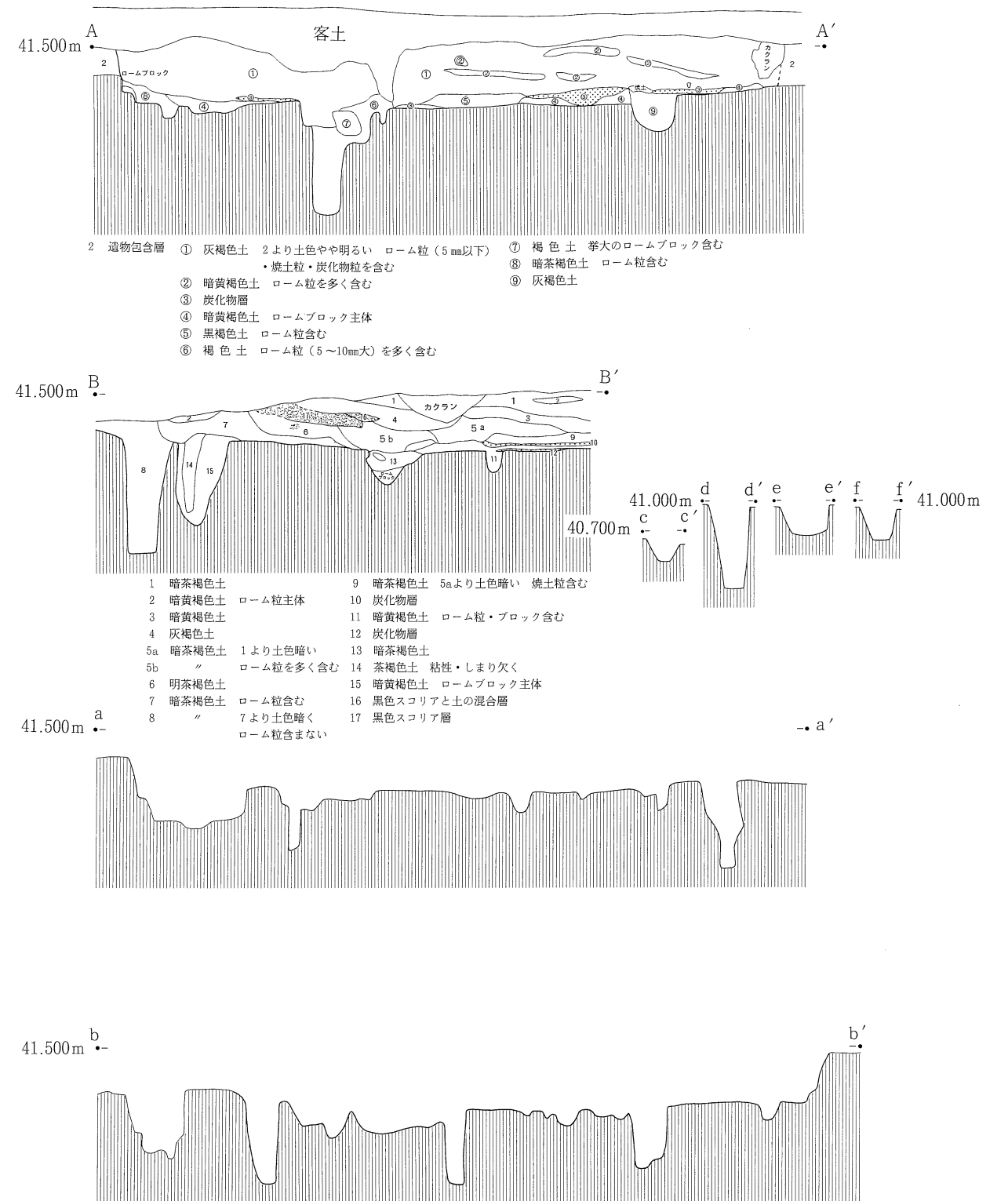
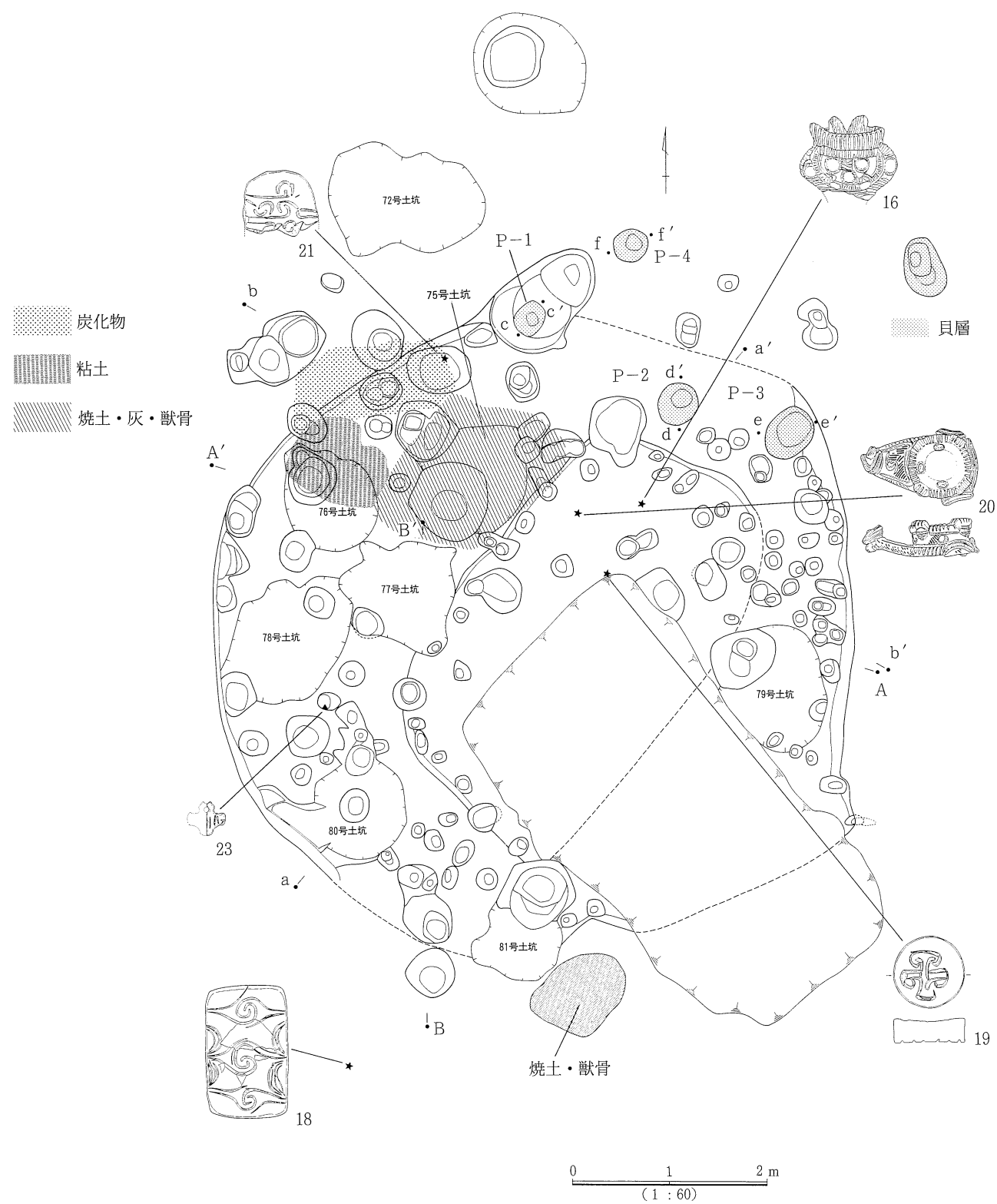
壁が部分的に検出できなかったところもあるが、一辺およそ3.5m、最大長7m、後述する12号住居址と同様に六角形のプランを有するが出入口施設は明らかでなく、一部を後世のカクランによって壊されているため炉址の位置も不明である。この住居址には、中央部に4.4×2.5m、深さ10cmほどの長方形の掘り込みがあり、壁際には小さなピットがめぐっており、何らかの内部施設と判断した。この部分を中心にして西よりに、炭化物、粘土、焼土・灰・焼けた獣骨類が集中する箇所があり、これらと同一レベル（床面より10cmほど上）から4点の土製品（手燭形土器・土偶・土版・円形土版）がまとまって出土した。また住居址の南端に焼けた獣骨類を含む最大長90cmほどの楕円形を呈する焼土ブロックがあり、その西脇から1点の大型の土版が出土した。焼土をサンプルして分析したところ、多量の焼けた獣骨片とともにわずかに魚骨も検出された。また、住居の北側に位置する4箇所の柱穴内覆土には貝層が形成されていた。詳細は貝塚の章で述べる。また、住居址の南側の覆土中より、幅約120cm、厚さ約15cmでレンズ状に堆積するテフラ層が認められた。詳細については第V章2節で述べる。

出土遺物（第37～48図）

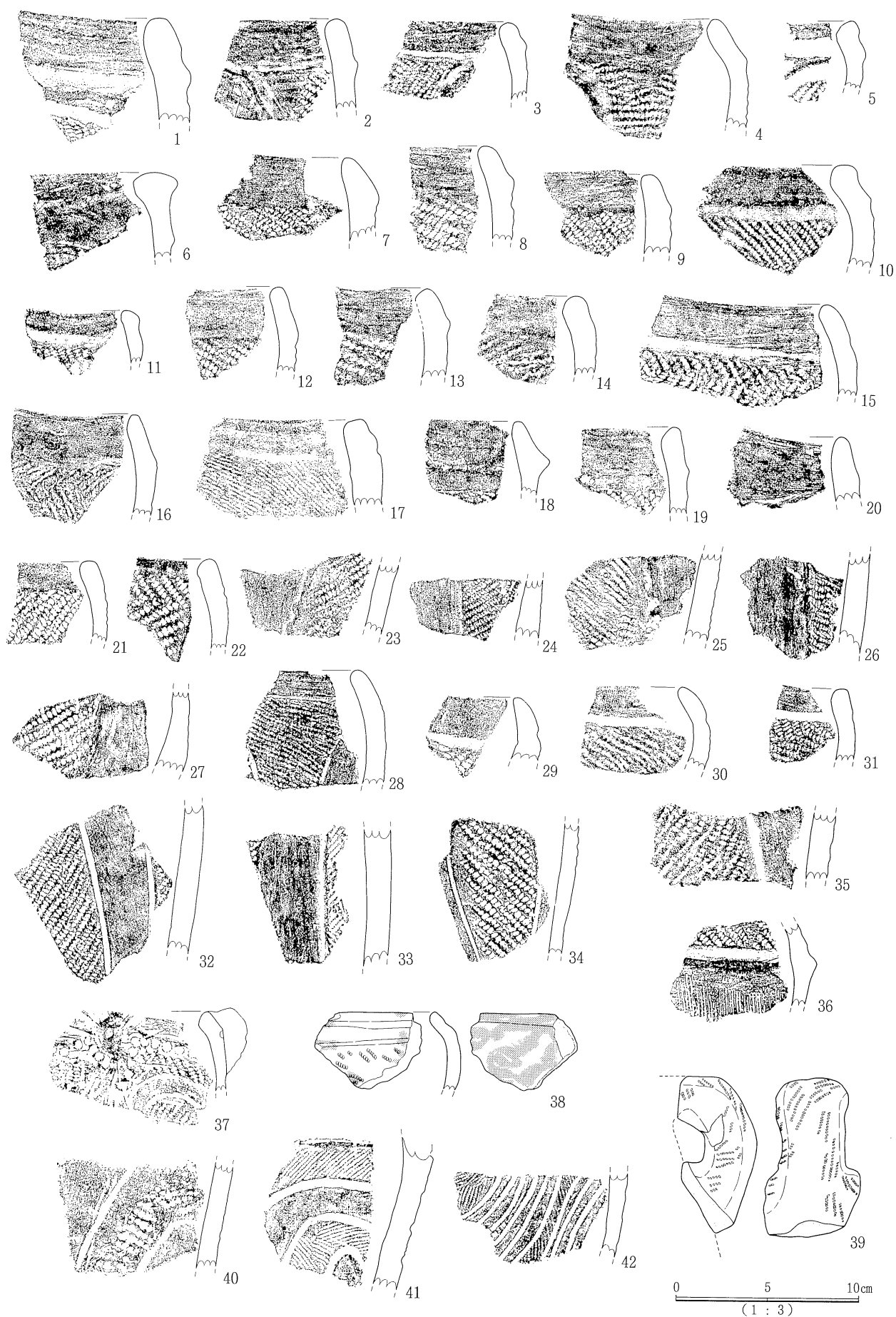
本遺跡で検出した住居址のなかで最も多くの遺物を出土した。土器は中期後葉から晚期中葉までのものがみられるが、その主体は後期後葉から晚期前葉で、全体の69%を占める。破片資料が多いが、器形復元可能な個体も数点ある。256は口径推定24.9cm、底径9.8cm、器高8.9cmを測る浅鉢形土器である。257は口径6.0cm、現存器高7.0cmを測る小型の注口土器である。258は口径推定13.3cm、底径8.2cm、器高6.4cmを測る浅鉢形土器である。口縁部と胴部下半に無節縄文が施される。269は口径推定16.7cm、底径推定1.1cm、器高推定19.6cmを測る粗製深鉢形土器である。

本住居址からは、土製品、石器・石製品が多数出土した。その内訳は、土器片錘4点（1～4）土製円盤3点（5～7）、耳飾6点（8～13）、土偶2点（14、16）、人面付土器1点（15）、土版2点（18、21）、円形土版1点（19）、手燭形土器1点（20）、未詳土製品1点（17）、石製垂飾3点（22～24）、小形磨製石斧1点（25）、石鏃4点（26～29）、チャートを主体としたコア・フレーク64点（30～32）、石棒1点（33）、結晶片岩系コア・フレーク9点、磨石14点（35～41, 43～47）、凹石1点（34）、石皿2点（42, 48）、軽石製品2点（49, 50）である。この他、柱穴内・覆土内より加工痕の認められる鹿角3点が検出されているが（第166図-34, 35, 36）、いずれも被熱している。また、28の石鏃は焼土サンプルを水洗・選別した結果得られた資料で、基部の両側に浅い抉りを有するアメリカ式に属するタイプのものである。

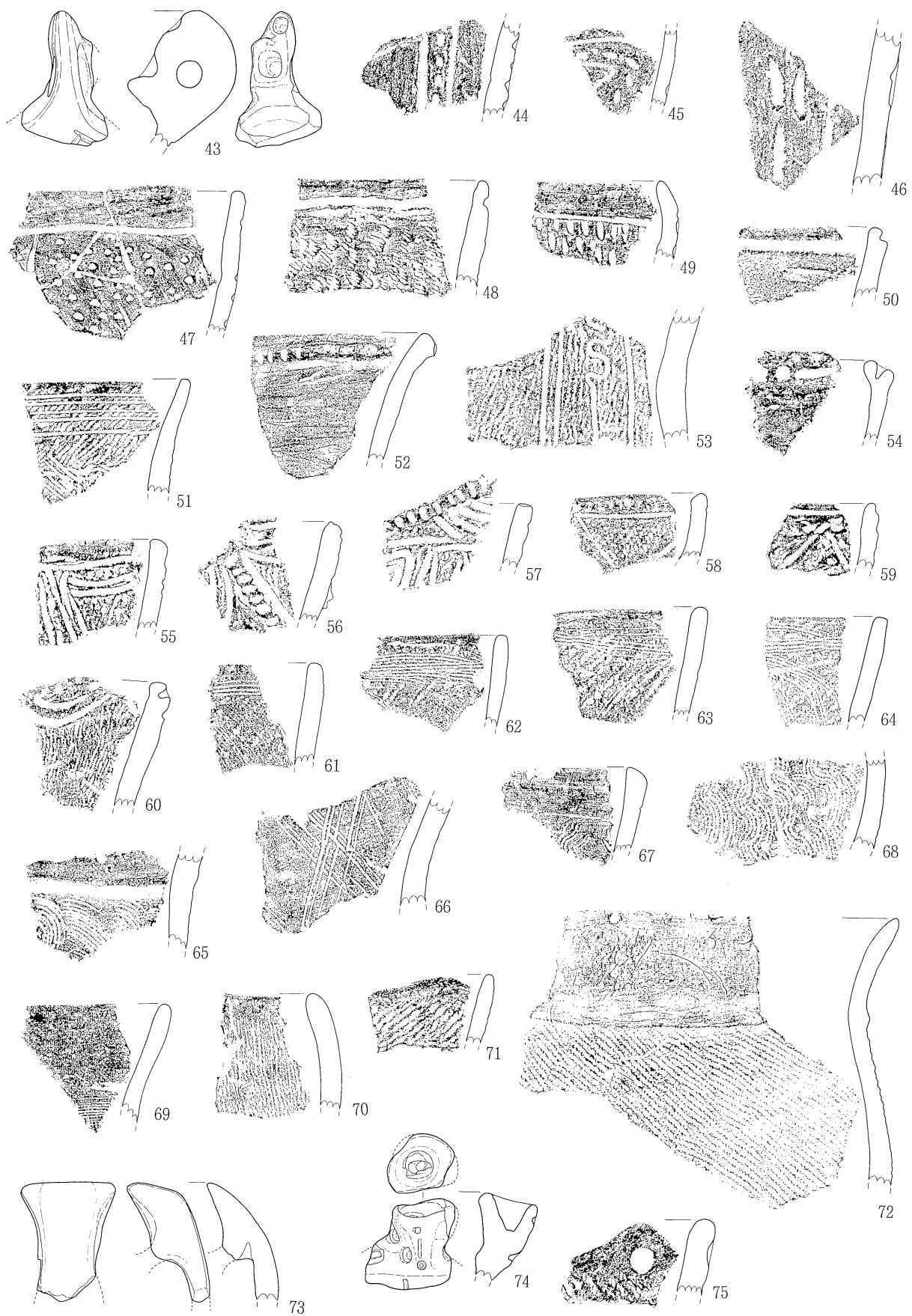
このうち、床直付近出土の土製品・石製品は、本住居址の時期を決定する上でも重要な意味をもつので、以下に詳述する。



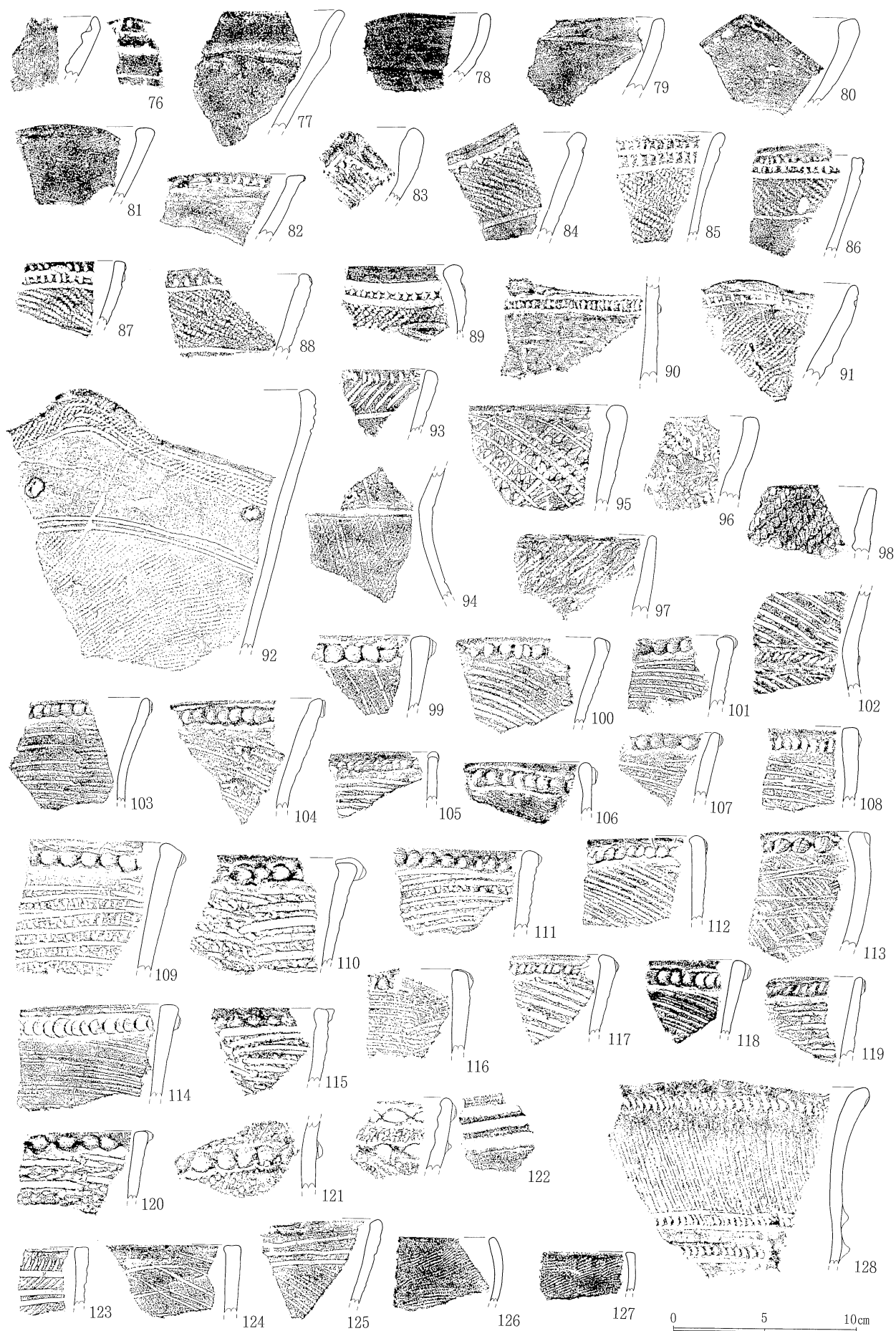
第36図 11号住居址実測図



第37图 11号住居址出土遺物 (1)



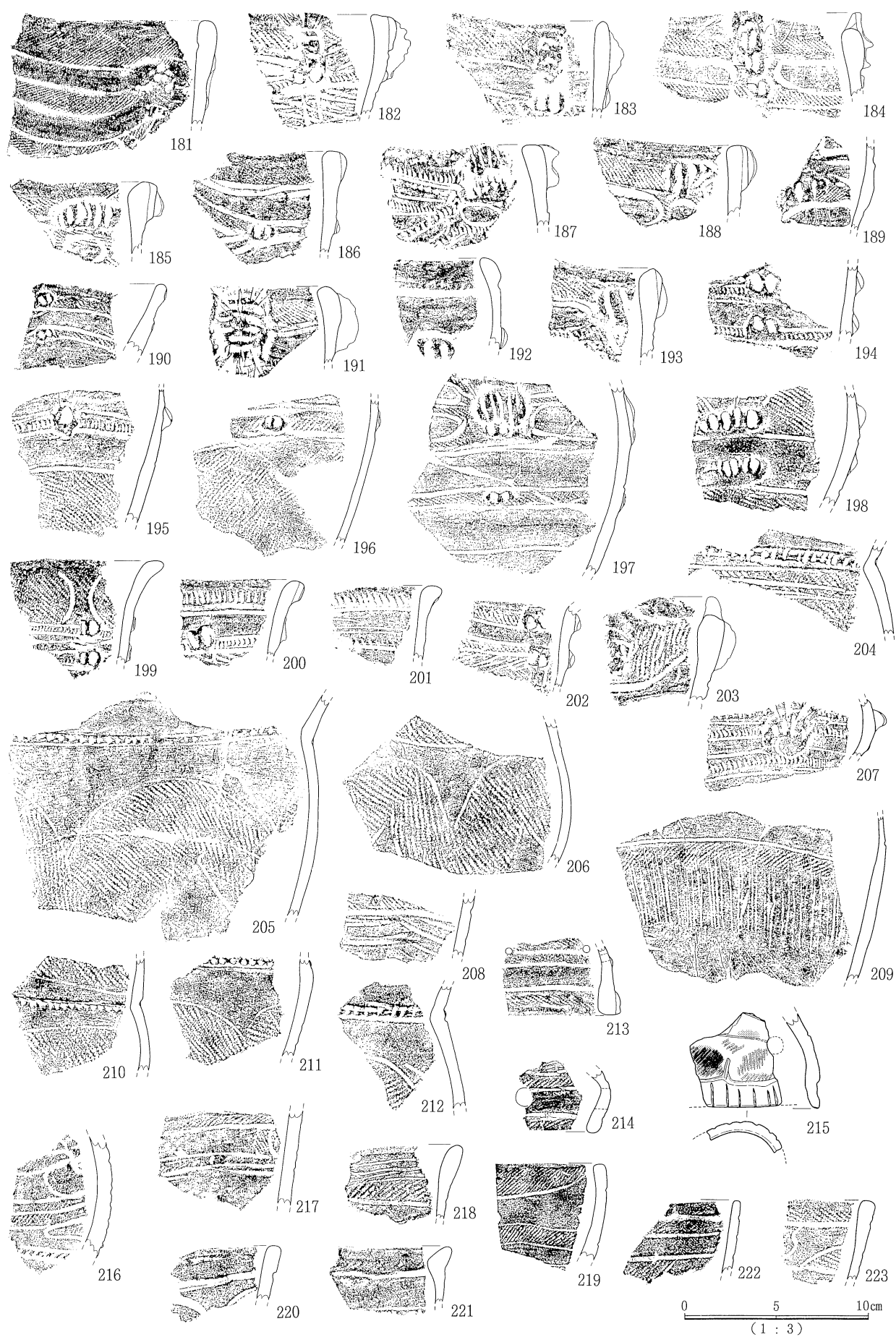
第38図 11号住居址出土遺物 (2)



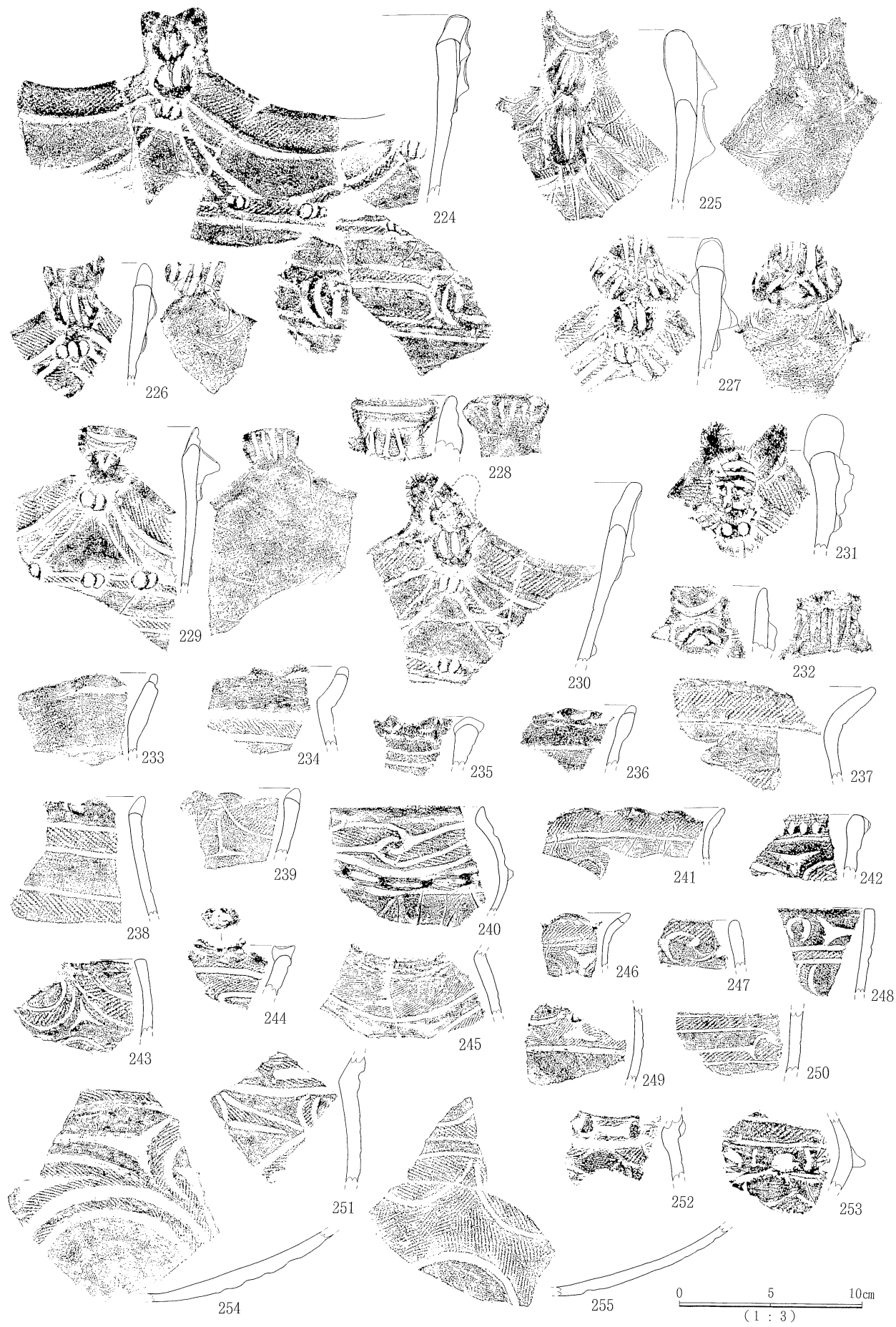
第39图 11号住居址出土遗物 (3)



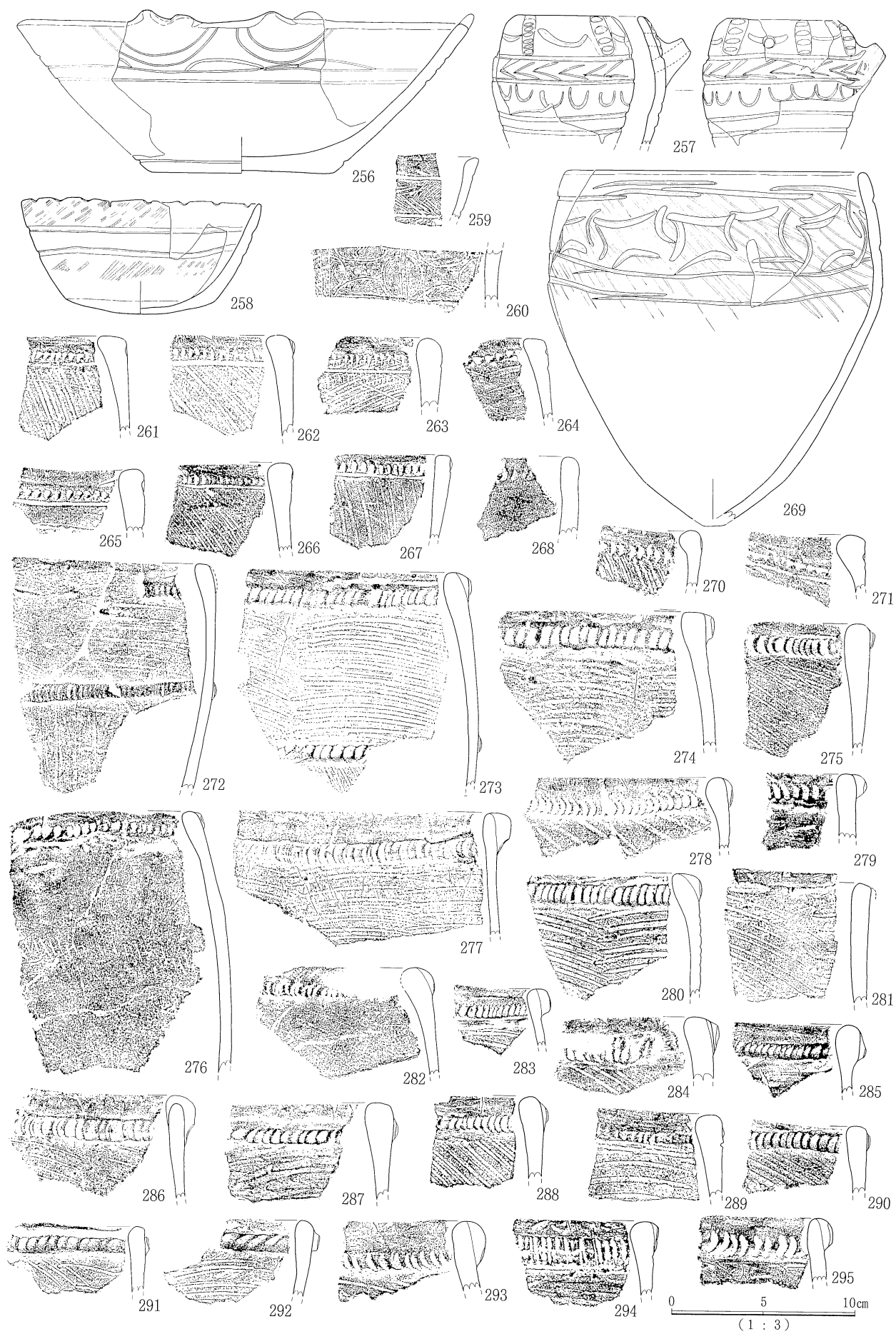
第40图 11号住居址出土遺物 (4)



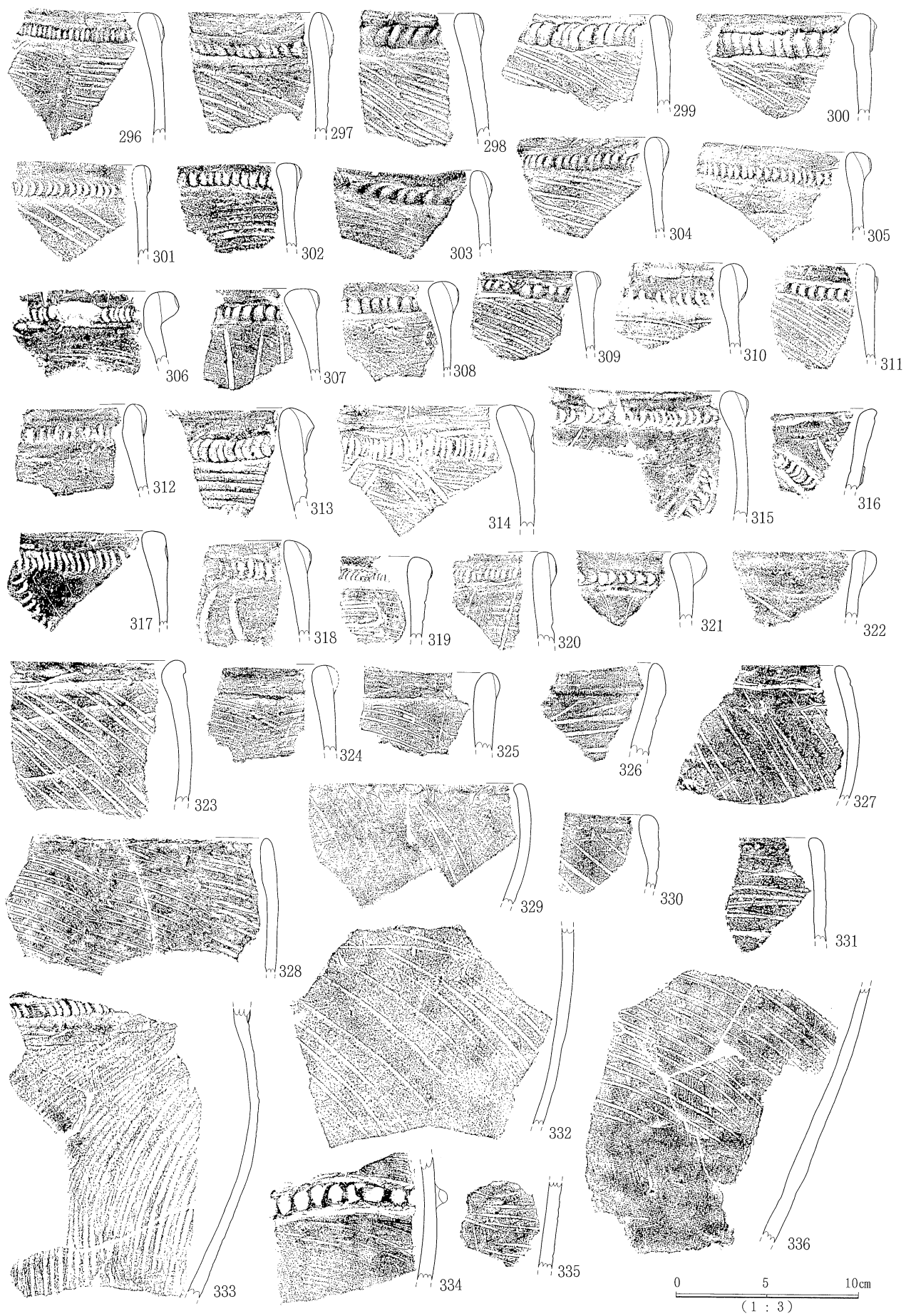
第41图 11号住居址出土遺物 (5)



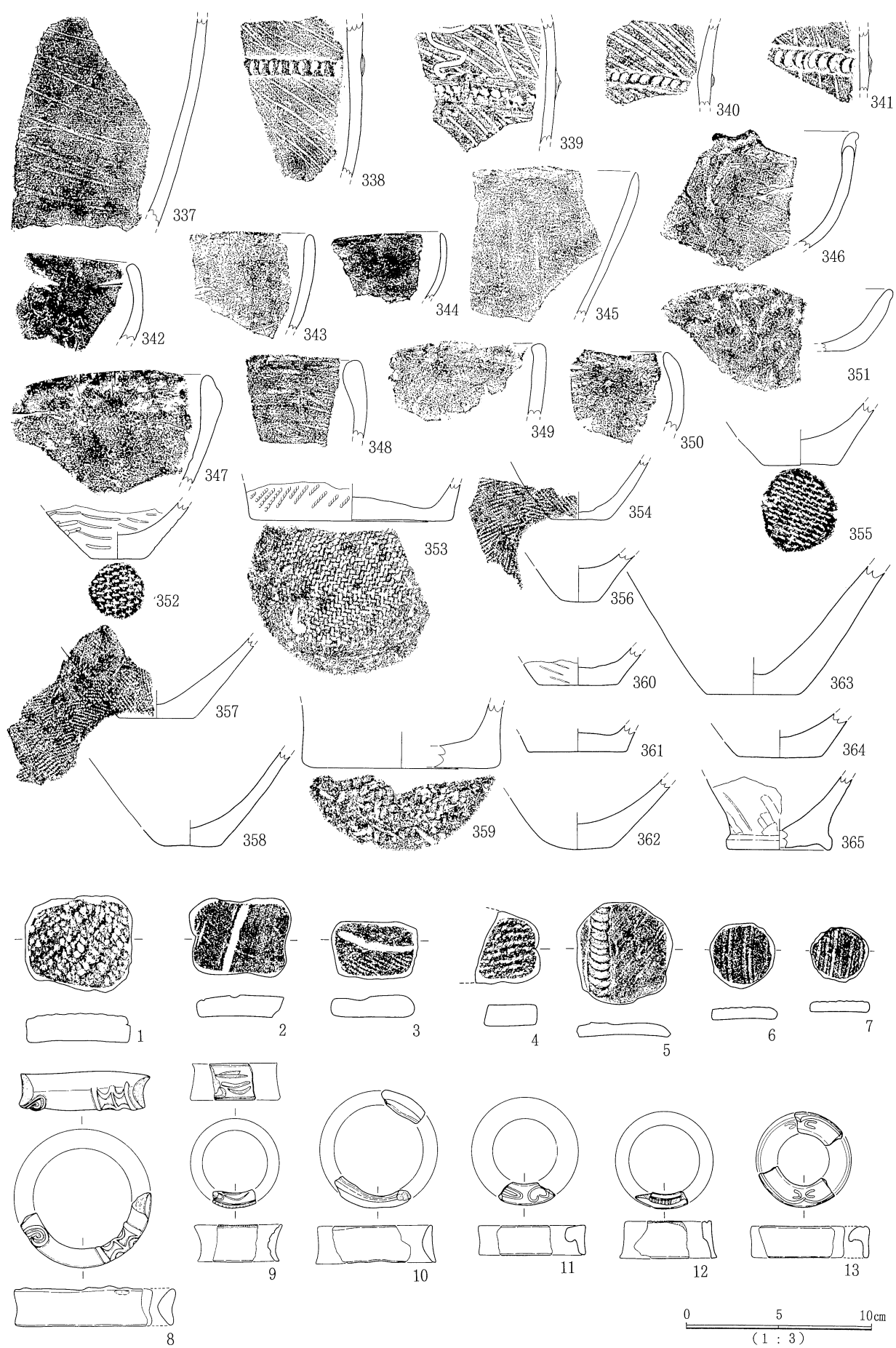
第42图 11号住居址出土遺物 (6)



第43图 11号住居址出土遗物 (7)



第44图 11号住居址出土遺物 (8)



第45图 11号住居址出土遗物 (9)

手燭形土器 (20)

最大長12.1cm・最大幅7.9cm・高さ3.9cm・重さ171.4g。皿状の器部の側壁には孔が3箇所あり、頂部には4箇所の小突起が付される。両側面と背面、持ち手部分前面には立体的な装飾があり、背面と持ち手部分上面には沈線による入組文が、裏面にも沈線による文様が施される。沈線内部には赤彩の痕跡が認められる。また沈線文の区画内はR Lの細かい単節縄文でうめられている。皿状の器部を上にし、置かれたようなかたちで検出された。完形品。

土版 (18)

最大長13.7cm・最大幅8.5cm・厚さ3.8cm・重さ560g。表裏両面に沈線による入組文が3組みられ、表面にはさらにこれらの文様間の両端に沈線による連続する弧状の文様が施される。中央の一部を欠損する。

土版 (21)

最大長6.8cm・最大幅7.8cm・厚さ1.5cm・重さ81.4g。表面には沈線による入組文を連ねた文様がみられるが、裏面は無文である。半欠品。

円形土版 (19)

類例を見ない製品であるので仮称する。直径7.4cm・厚さ2.5cm・重さ166.9gの円形の土製品で、表裏に沈線による文様のあること、耳飾とするには大型で重量があることから形態は異なるが土版に近いものと考えこの名称を用いた。表面には沈線による複数の入組文を組み合わせた文様が（足の部分の表現がないが、ヒトの姿をモチーフとした文様にもみえる。同様の文様は第297図-67の遺物包含層中の土器にも認められた。）、裏面には沈線による渦巻き文がみられる。また周縁部が非常に摩耗している。渦巻き文のある面を上にして検出された。完形品。

土偶 (16)

最大長8.7cm・最大幅10.1cm・厚さ4.6cm・重さ216.1g。ミミズク土偶の頭部。沈線内部には赤彩の痕跡が認められる。顔の部分を下に向けて出土した。

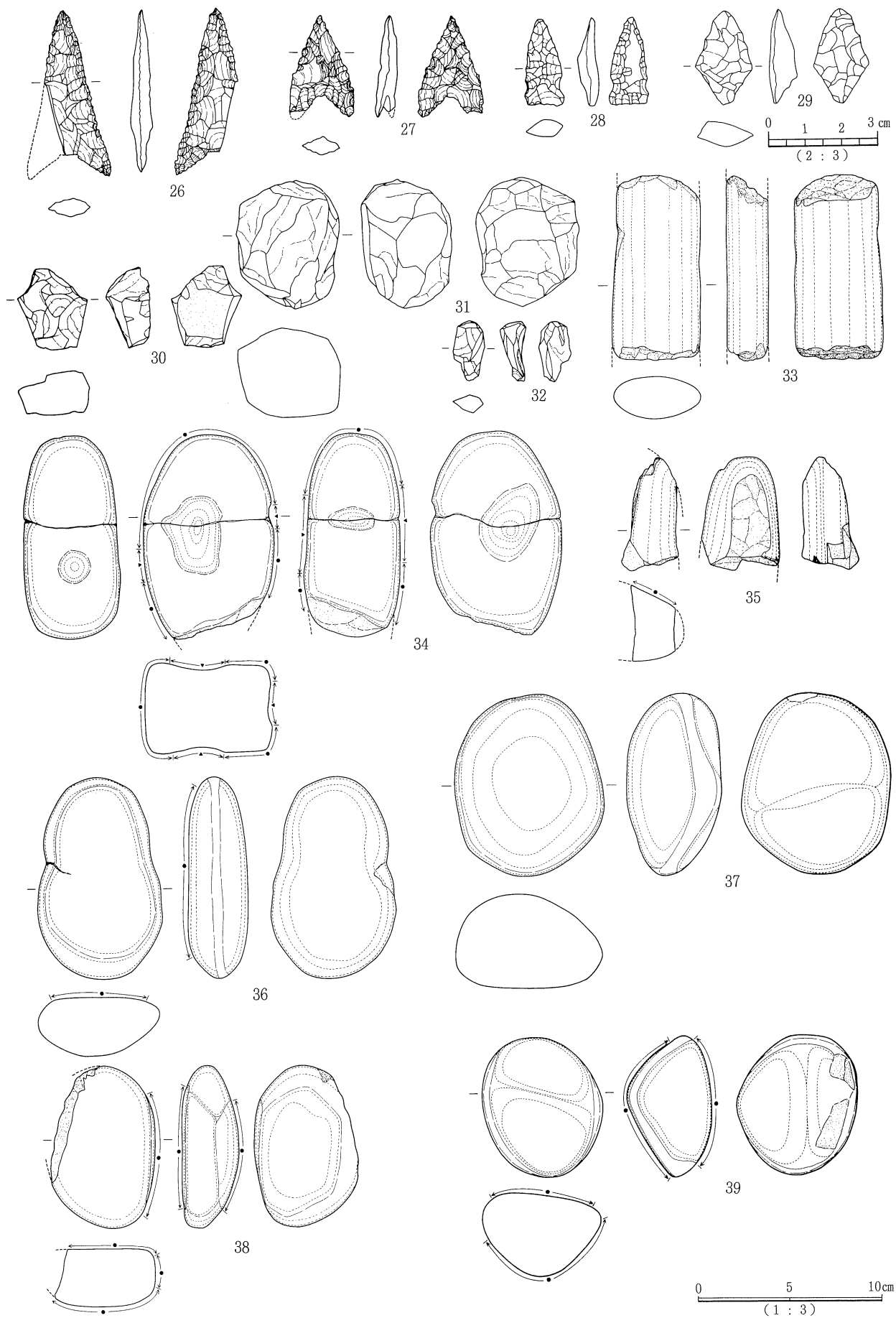
ヒスイ製垂飾 (23)

最大長3.5cm・最大幅1.9cm・厚さ1.0cm・重さ5.5g。ちょうど真ん中で割れているが、左右対称の「十」字形をした形態が推定できる。上部に孔があり、縦方向の刻み目が表裏に3本、横方向の刻み目が裏面の下端に1本みられる。非常に濃い緑色をしている。半欠品。

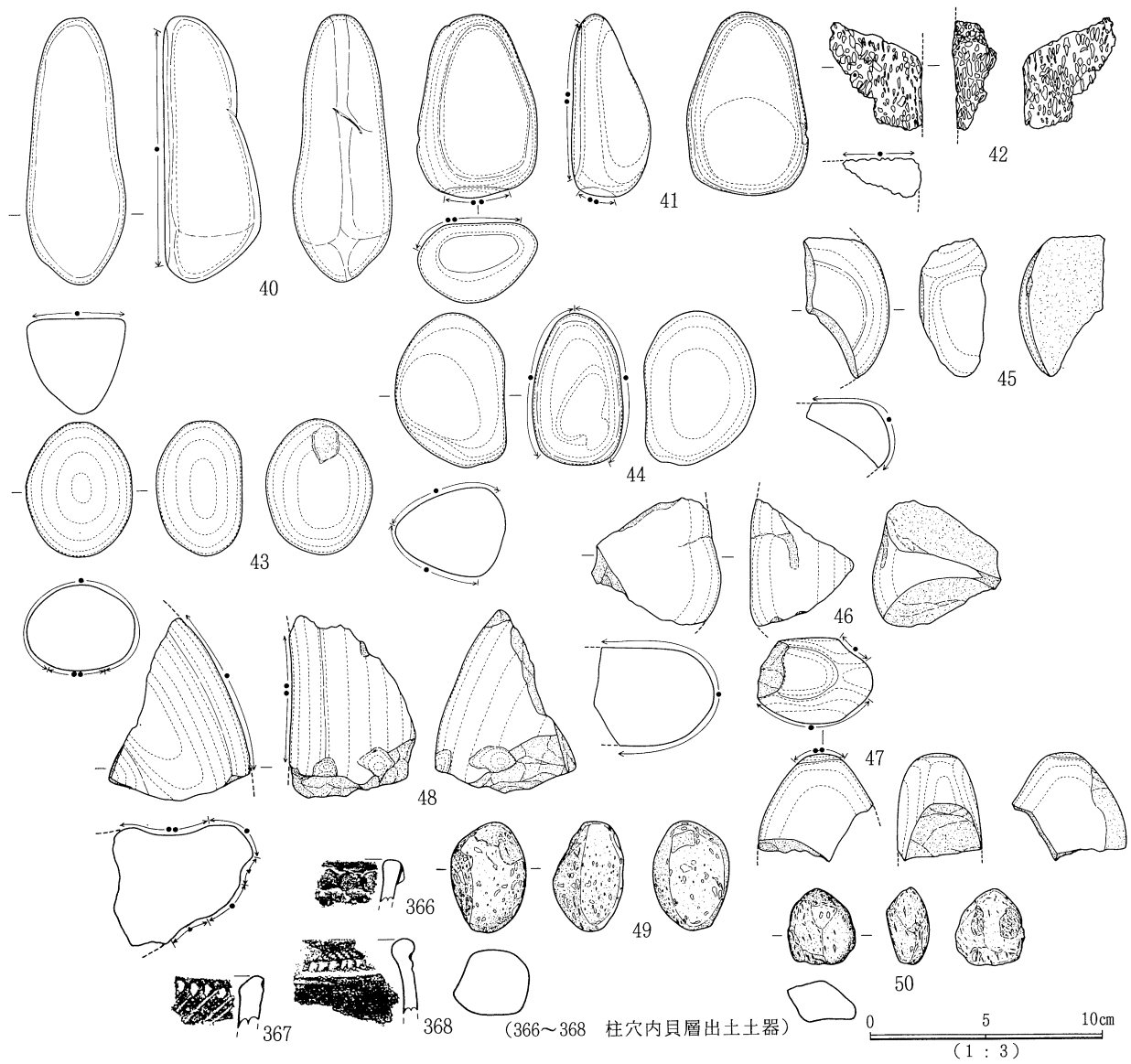
11号住居址は、住居規模は大きくないが、内部に長方形の施設を有する点で通常の住居とは異なり、しかもこの周辺から炭化物、粘土、焼土、灰、焼けた獣骨類とともに4点の器種の異なる祭祀に関係する道具とみられる土製品を出土したことから、特殊な住居であった可能性がある。しかもこれらの製品は、床面の近くに置かれた様な出土状況を示すことから、単に廃棄されたとみるよりも、使用直後の状態（遺棄に近い状態）とみる方が妥当と思われ、何らかの祭祀的行為がおこなわれた直後の痕跡をとどめているとみられる。また、4点の土製品のうち、土偶と土版は壊れたかたちで、手燭形土器と円形土版は完形で出土しており、これらの製品の使用方法を考える上でも重要な事例である。



第46図 11号住居址出土遺物 (10) 縮尺：14~21=1/3, 22=2/3, 23~25=1/2



第47図 11号住居址出土遺物 (11) 縮尺 : 26~29=2/3, 30~38=1/3



第48図 11号住居址出土遺物 (12)

12号住居址（第49図）

壁部分を確認することはできなかったが、床面、炉址、柱穴ともにしっかりとえられ、特に柱穴は非常に深いものが多かった。柱穴の配列から一辺およそ5m、6角形プランに出入口部施設をもつ長軸11.5mの規模の住居を想定した。出入口部施設の方向は南東である。柱穴が多数重複し、炉址も大小6箇所確認され、出土遺物も中期後葉から晩期中葉までのものがみられることから、長期間にわたって営まれたものと推測される。住居プラン内からは、2基の土坑（82,83号）が検出されている。また、住居址の覆土の一部と炉址覆土をサンプルして分析したところ、焼けた獣骨類が多数検出された。詳細はⅢ章で述べるが、柱穴覆土内に貝層を形成しているものが1例あった。

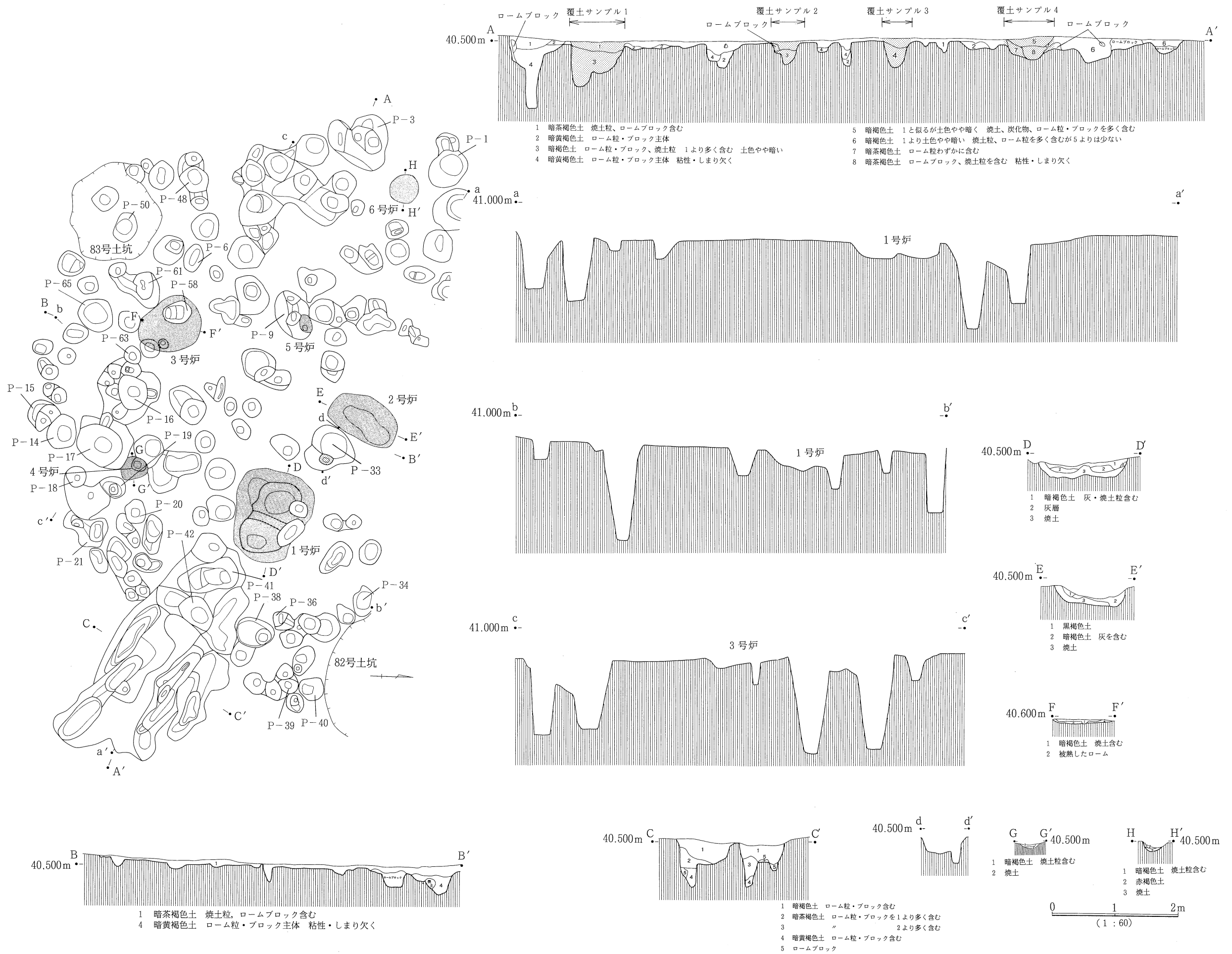
出土遺物（第50～57図）

土器は、加曽利E～堀之内1式が37%、後期後葉が12%、晩期前葉が25%、晩期中葉が23%である。ほとんどが器形を復元することができない破片資料であるが、143は口径15.8cm、底径5.4cm、器高5.2cmの、唯一器形を復元できる浅鉢形土器である。口縁部には4箇所の突起があり、その下にそれらを連結するように内部に列点をもった沈線区画が4単位みられる。また底部を巡るように同様の列点をもった沈線区画文がある。

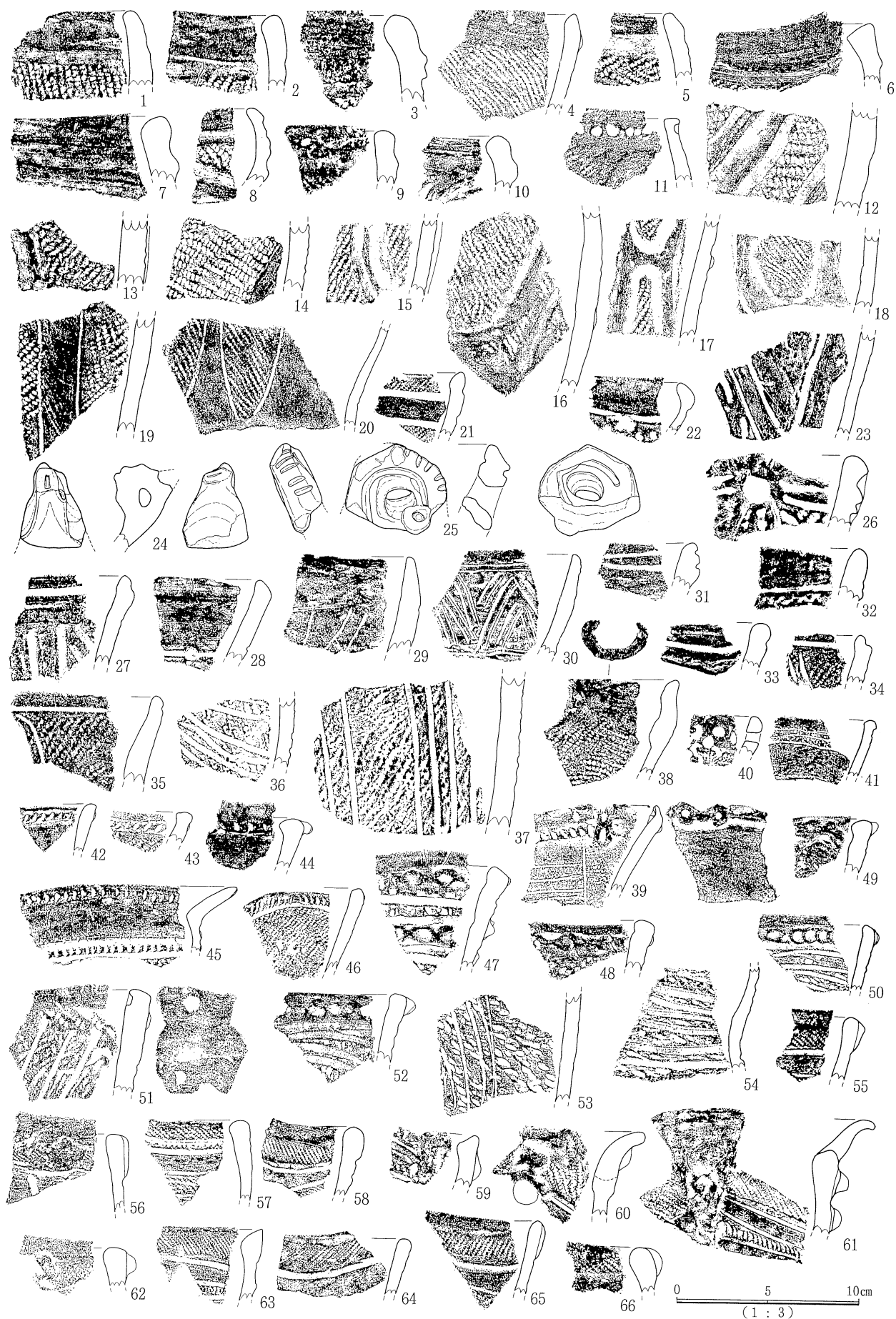
この他、本住居址からは土製品、石器・石製品が多数出土している。その内訳は、イノシシ形土製品1点（1）、動物形土製品？1点（3）、土偶2点（2,4）、有孔円盤3点（6,7,8）、土器片錘4点（5,9,10,11）、土製円盤2点（12,13）、耳飾2点（14,15）、焼成粘土塊15点、チャートを主体としたコア・フレーク34点（16）、石錐1点（18）、石鏃2点（19,40）、小型磨製石斧1点（20）、磨製石斧2点（21,22）、独鈷石1点（23）、石棒4点（26,27,28,30）、石剣6点（24,25,29,31,32,33）、石皿2点（34,35）、砥石1点（36）、磨石3点（37,38,39）、垂飾1点（17）、軽石製品1点である。このうち、特記すべきこととして、後述する15号住居址出土のイノシシ形土製品の胴体部分に接合する右後足が、覆土上層から出土したことがあげられる。また、3の動物形土製品？の足には沈線による「I」字文が、30の石棒には線刻による「I」字文が施され、独鈷石（23）、石剣5点（24,25,29,31,32）、石棒1点（26）、磨石1点（39）に被熱の痕跡が認められた。

また、覆土および覆土サンプル中より、鹿角素材1点（第166図－31）と骨鏃1点（第165図－3）が、4号炉覆土中より弭形角製品の破片1点（第165図－5）が検出されたが、いずれも被熱していた。

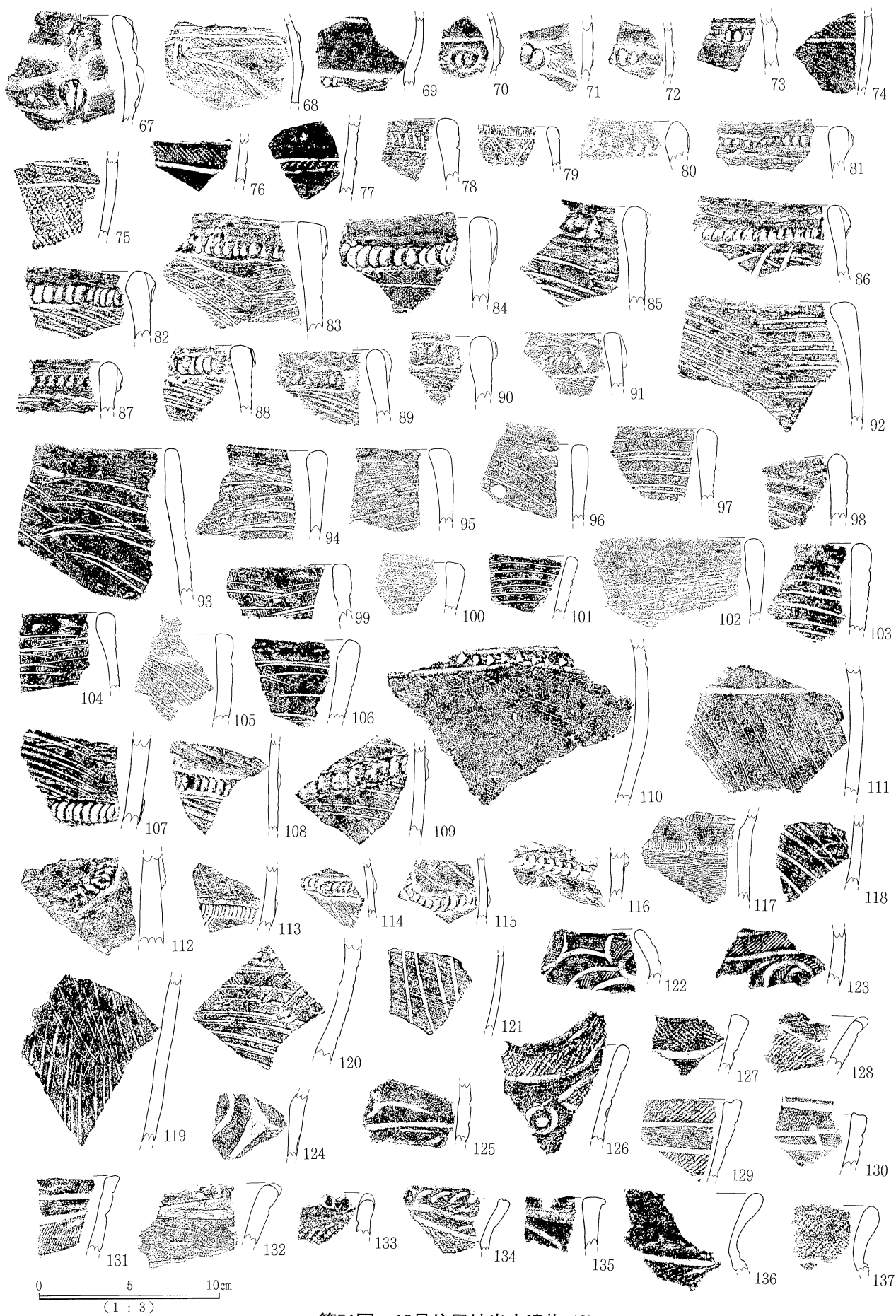
第V章3節で詳述するが、不明発泡体が覆土中や柱穴内より多数検出されたことも付記しておく。



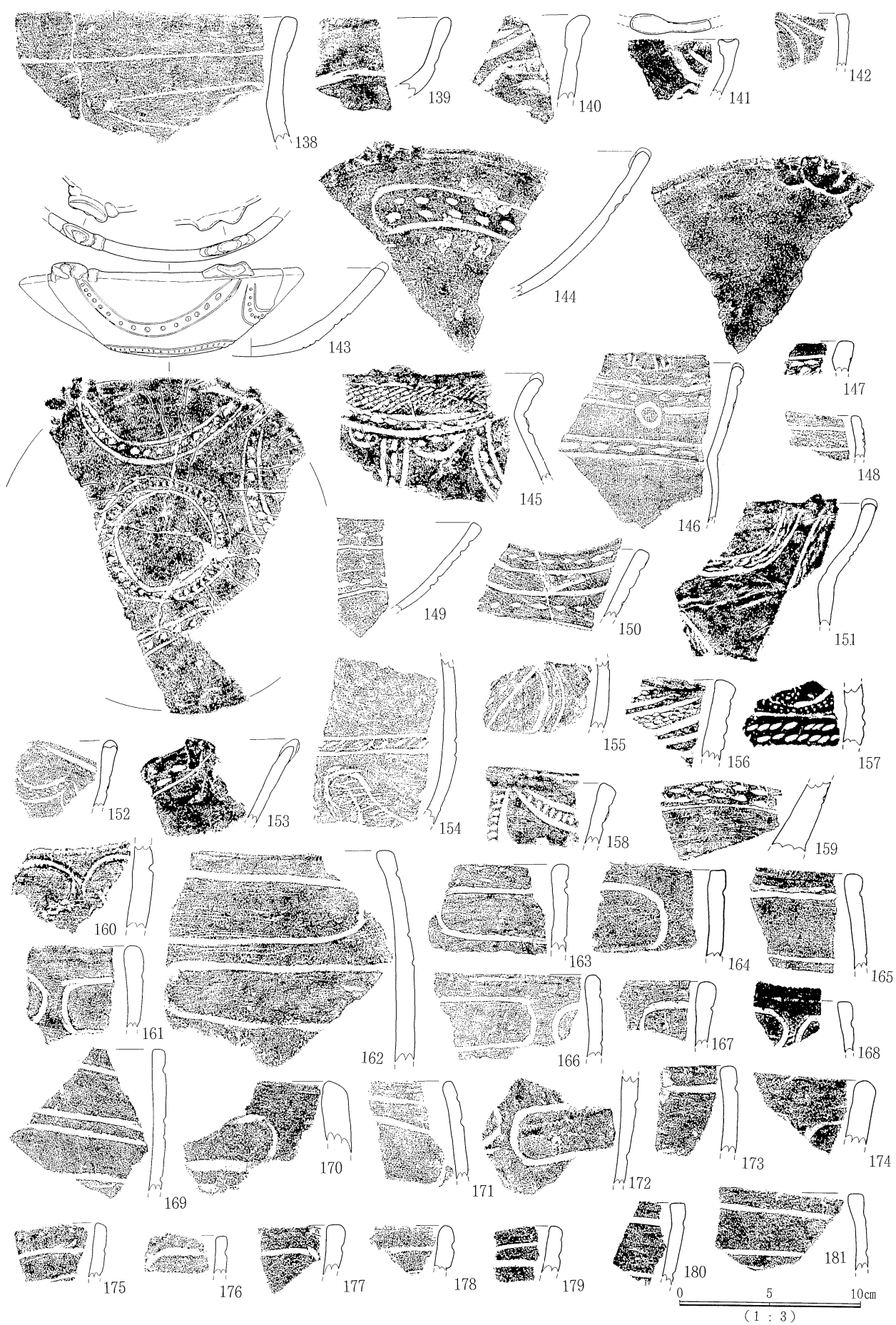
第49図 12号住居址実測図



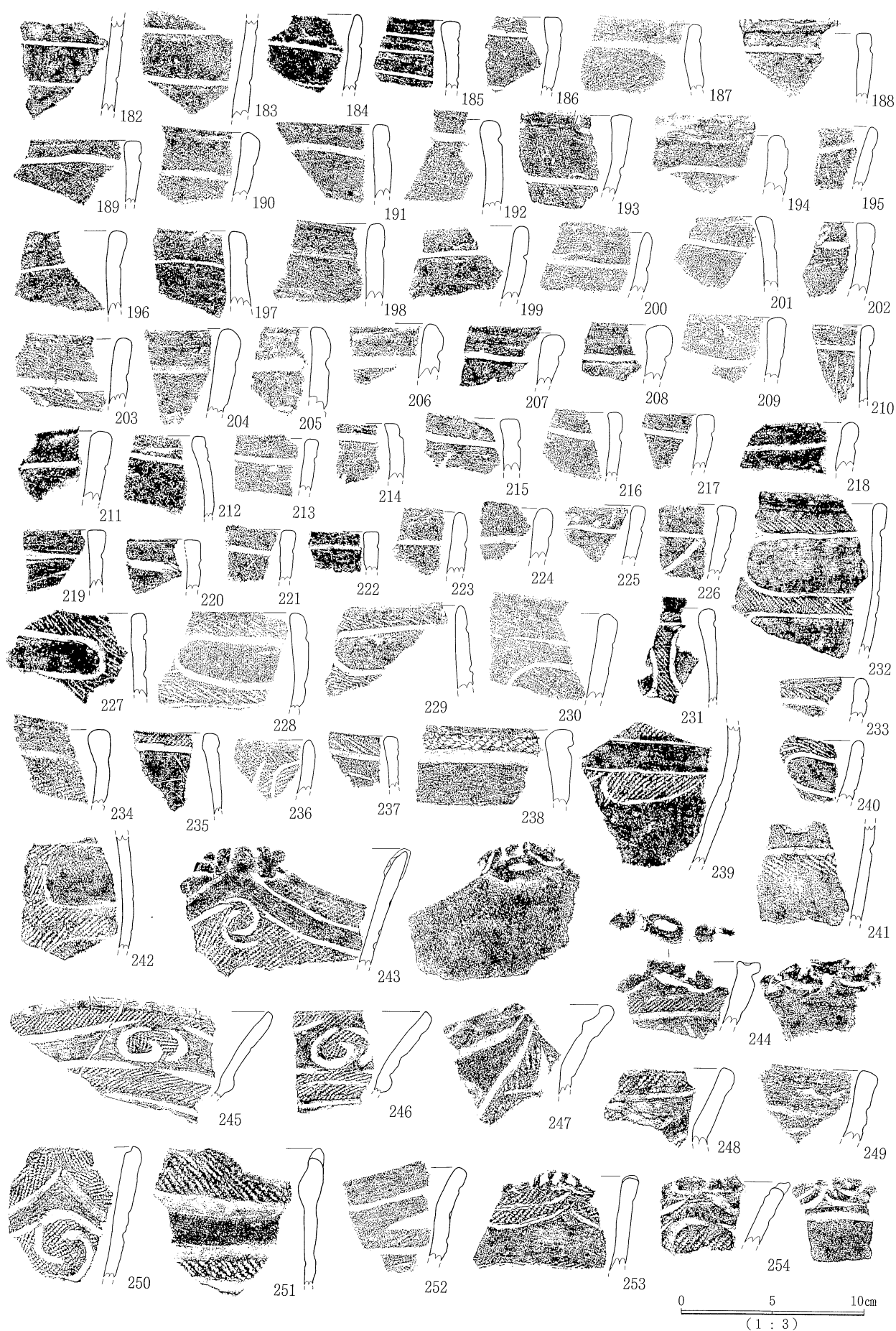
第50图 12号住居址出土遺物 (1)



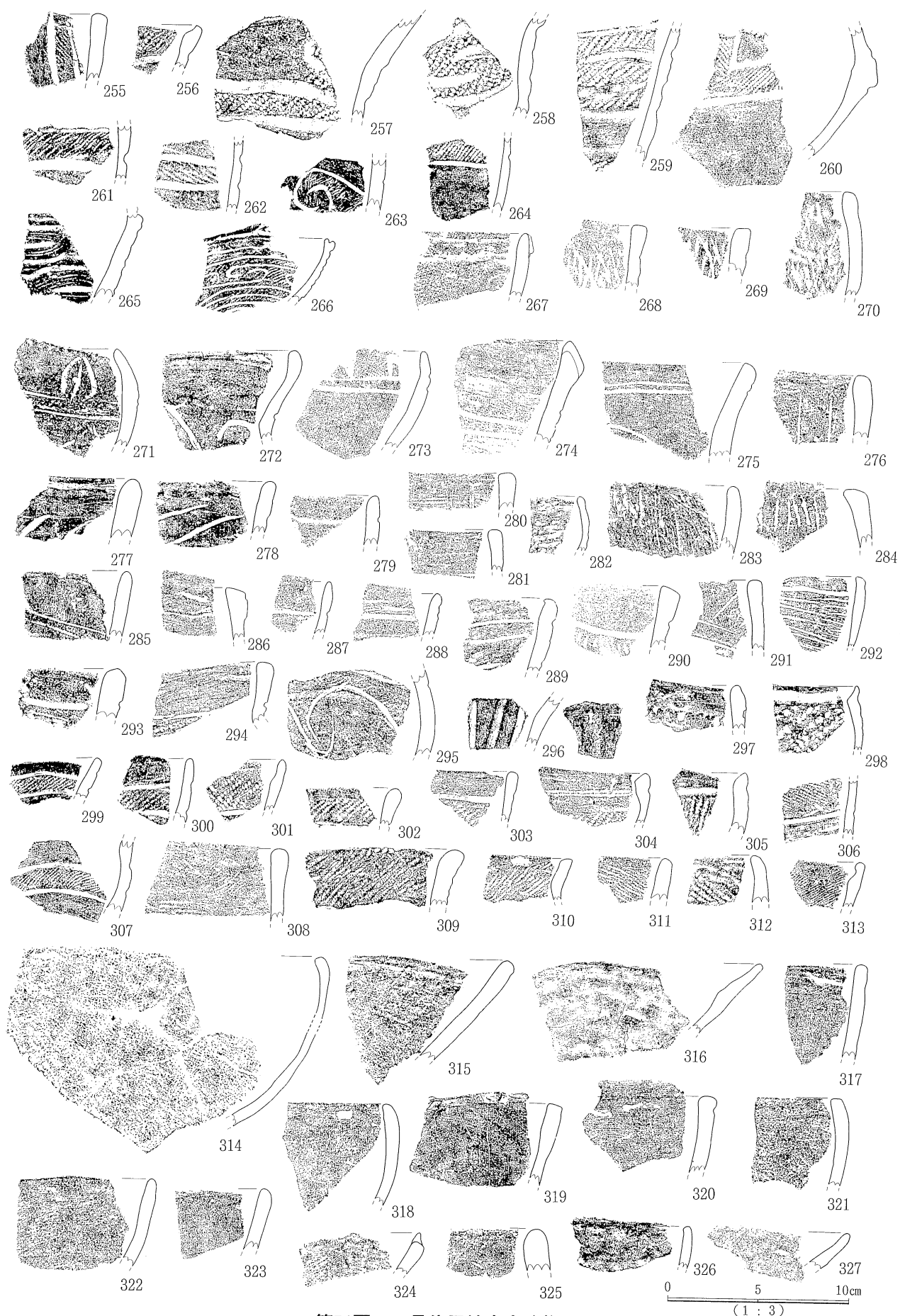
第51图 12号住居址出土遺物 (2)



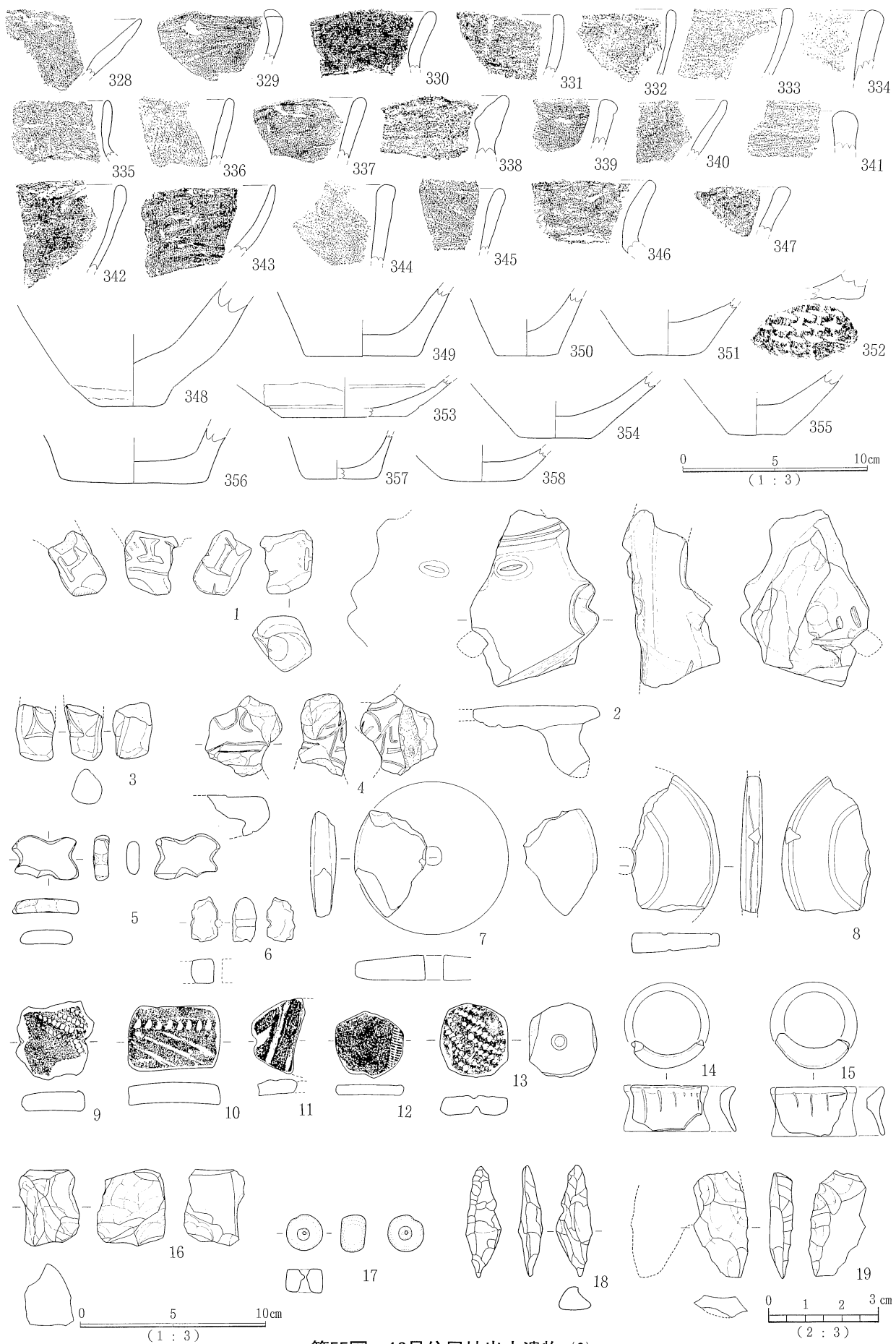
第52图 12号住居址出土遗物 (3)



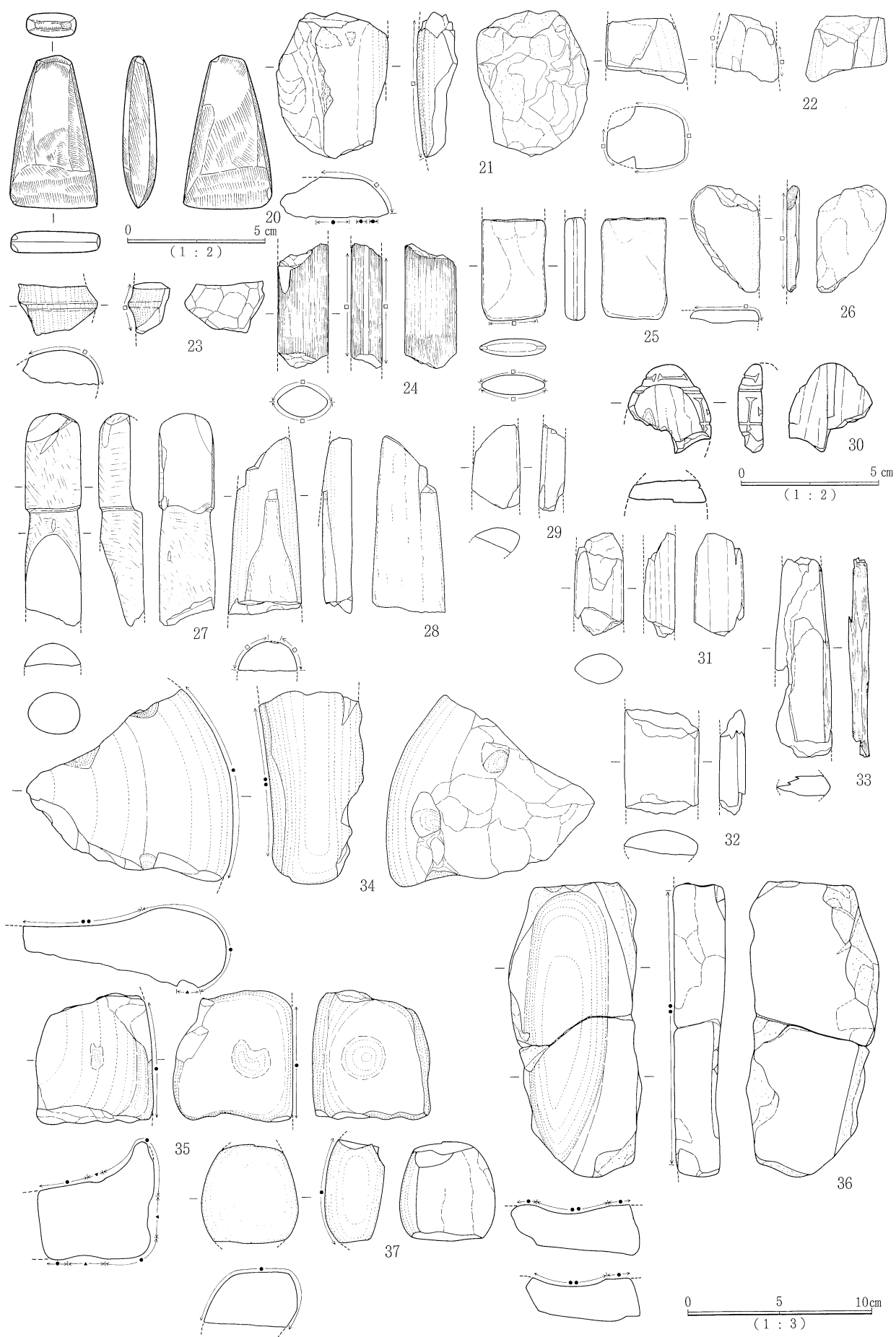
第53图 12号住居址出土遺物 (4)



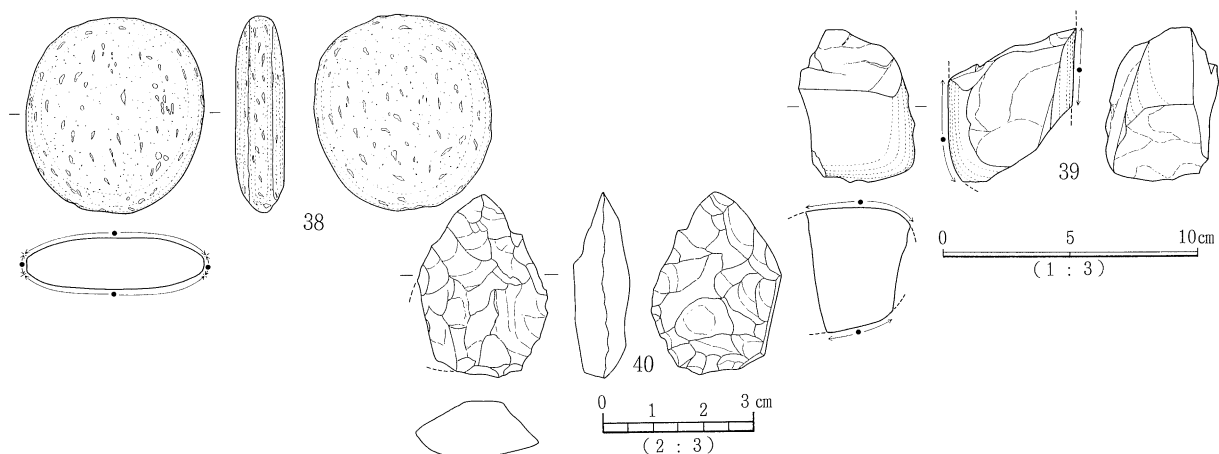
第54図 12号住居址出土遺物 (5)



第55図 12号住居址出土遺物 (6) 縮尺：17~19=2/3, それ以外は1/3



第56図 12号住居址出土遺物 (7) 縮尺: 20・30=1/2、それ以外は1/3



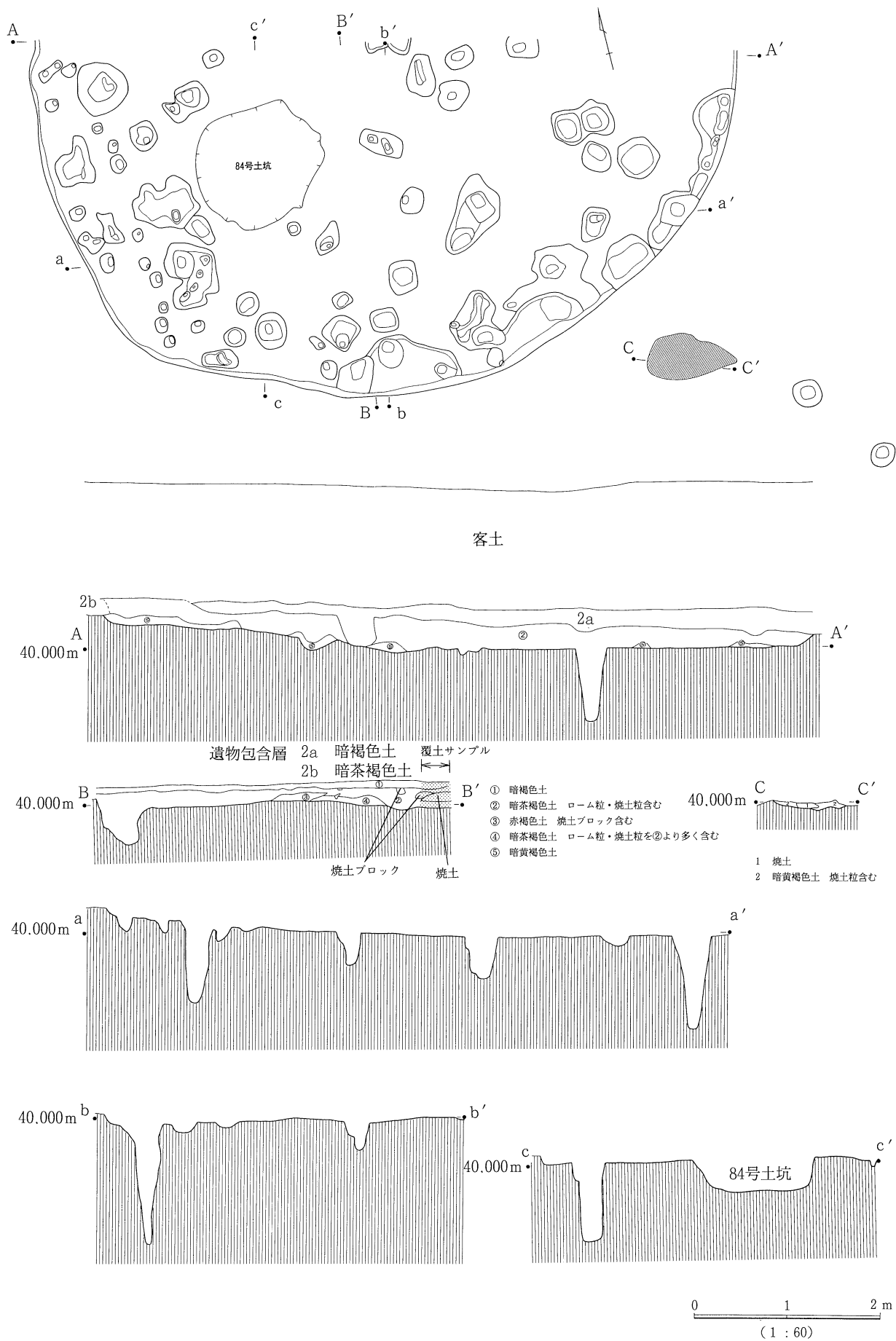
第57図 12号住居址出土遺物 (8)

13号住居址 (第58図)

北側部分が調査範囲外のため未調査であるが、住居全体の50%は調査していると思われる。壁部分、床面、柱穴ともにしっかりと検出できるが、炉址は調査範囲内にはなかった。直径7.6mほどの円形プランの住居と推定される。住居中央、調査区境界の壁付近の床面より5cmほど浮いた面から、直径40~50cm、厚さ10cmほどの焼土ブロックが検出されており、何らかの原因で火を受けた可能性がある。この焼土ブロックと住居址覆土の一部をサンプルして分析したところ、焼けた獣骨類が検出された。また、住居址の南東約1mの地点からも、長軸約90cmの楕円形を呈する焼土痕跡が認められた。

出土遺物 (第59~69図)

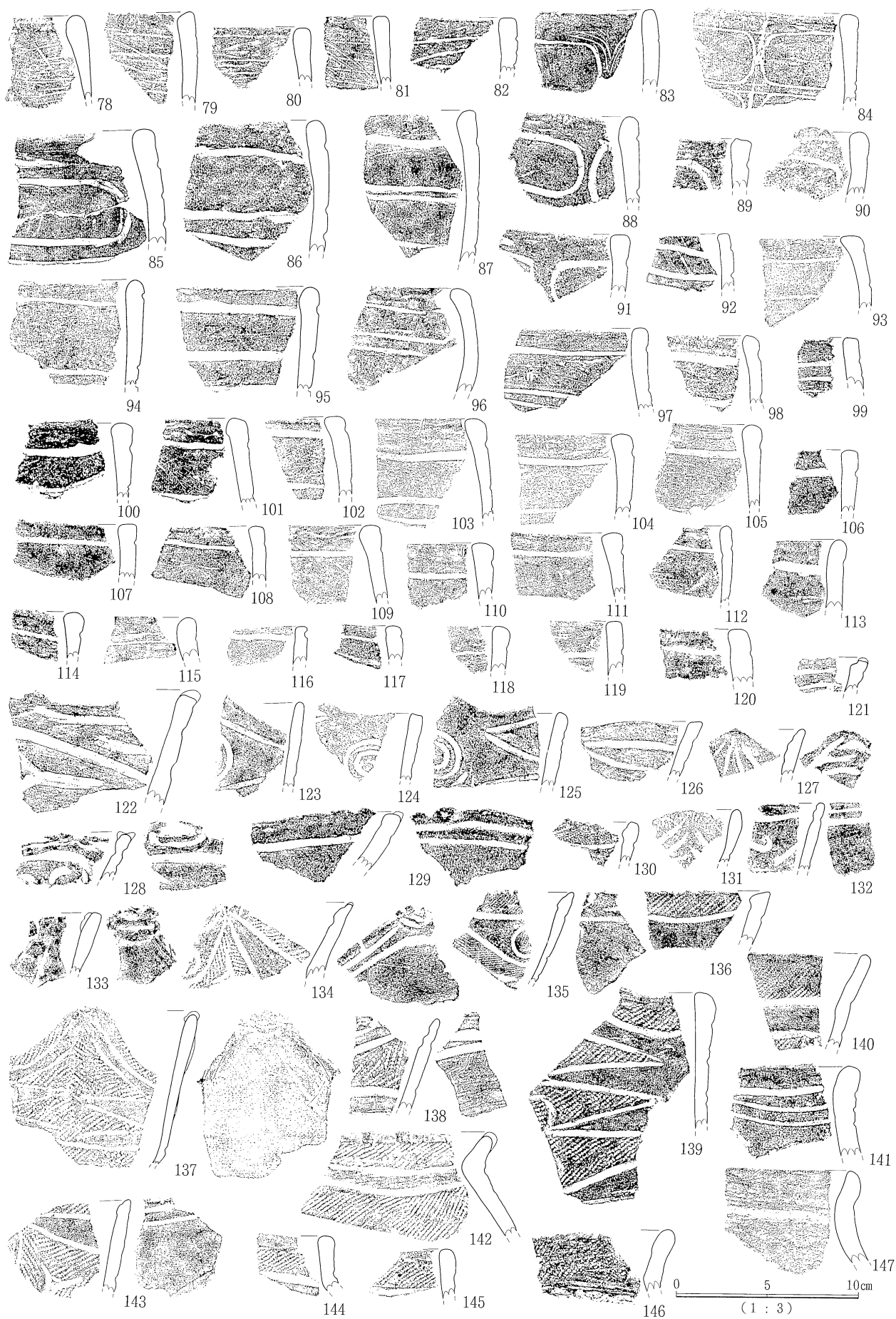
土器は晩期前葉~中葉が主体で全体の82%を占める。ただし、全て破片資料で器形を復元できるものはほとんどない。この他、有孔円盤1点(1)、耳飾1点(3)、土偶?1点(5)、土製円盤?1点(4)、未詳土製品6点(384,385,386,2,6,8)、チャート主体のコア・フレーク40点(11)、石錘1点(7)、石剣4点(9,10,12,13)、磨石1点(14)、軽石製品1点が出土している。



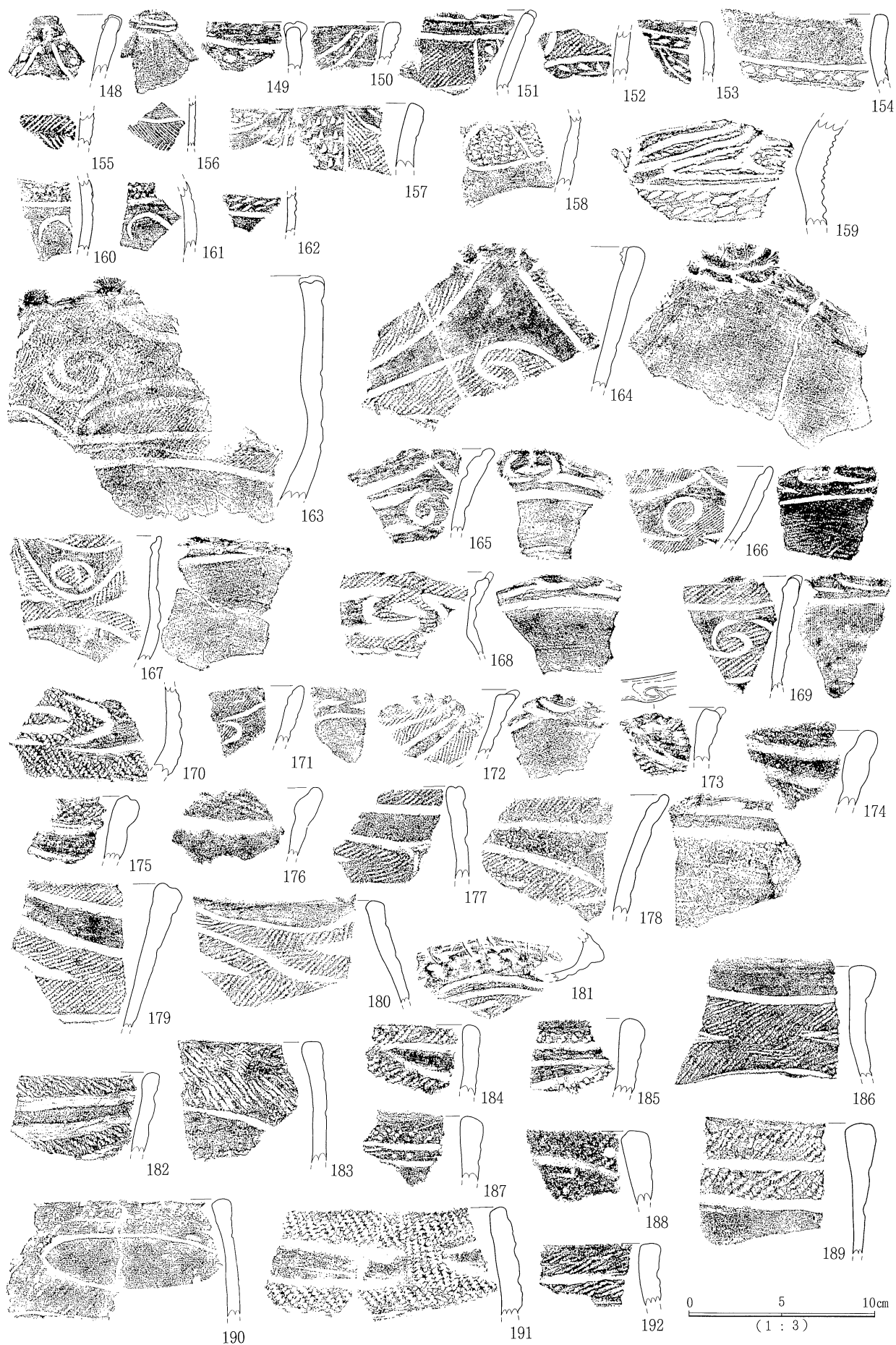
第58図 13号住居址実測図



第59图 13号住居址出土遗物 (1)



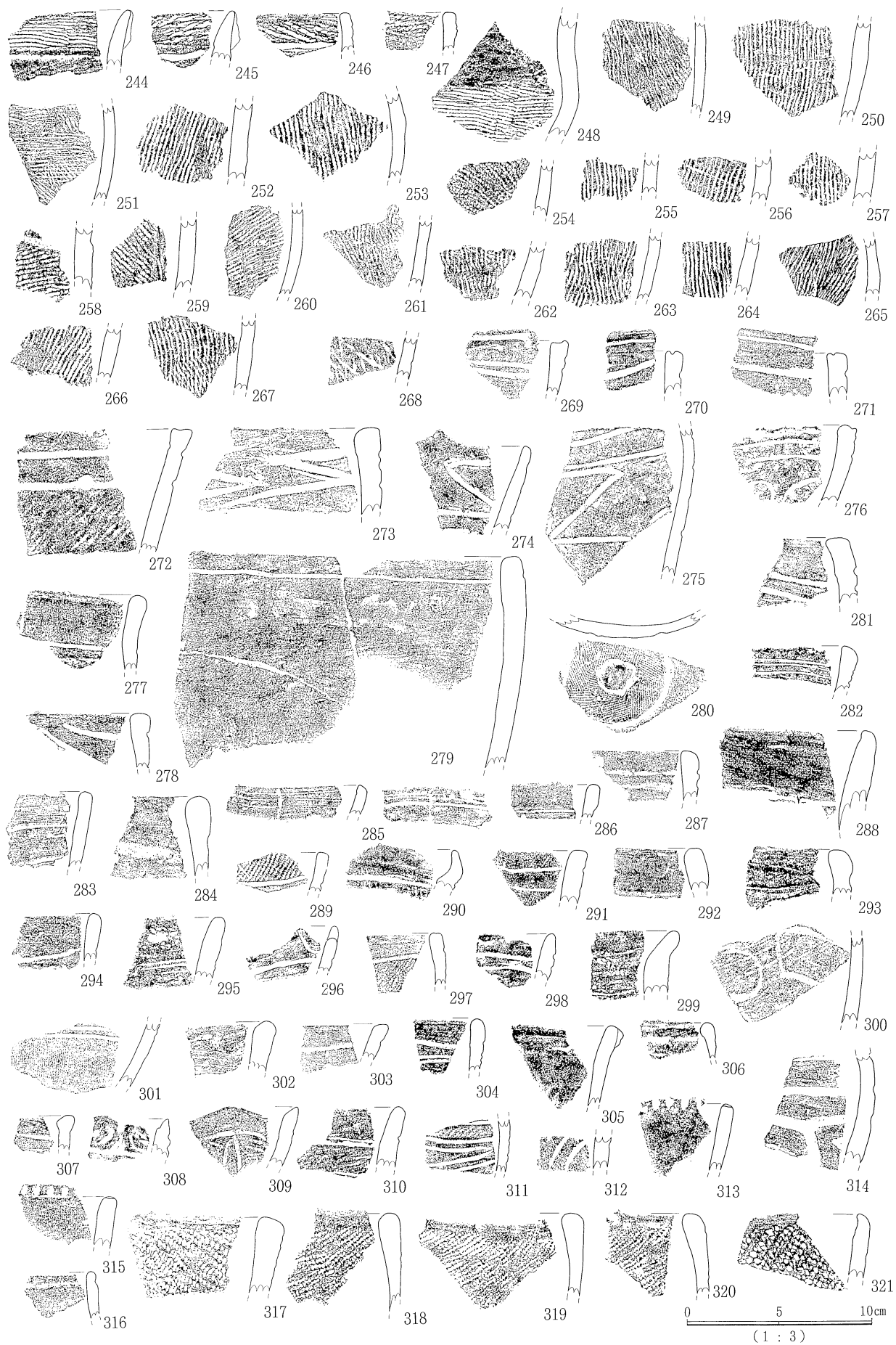
第60图 13号住居址出土遗物 (2)



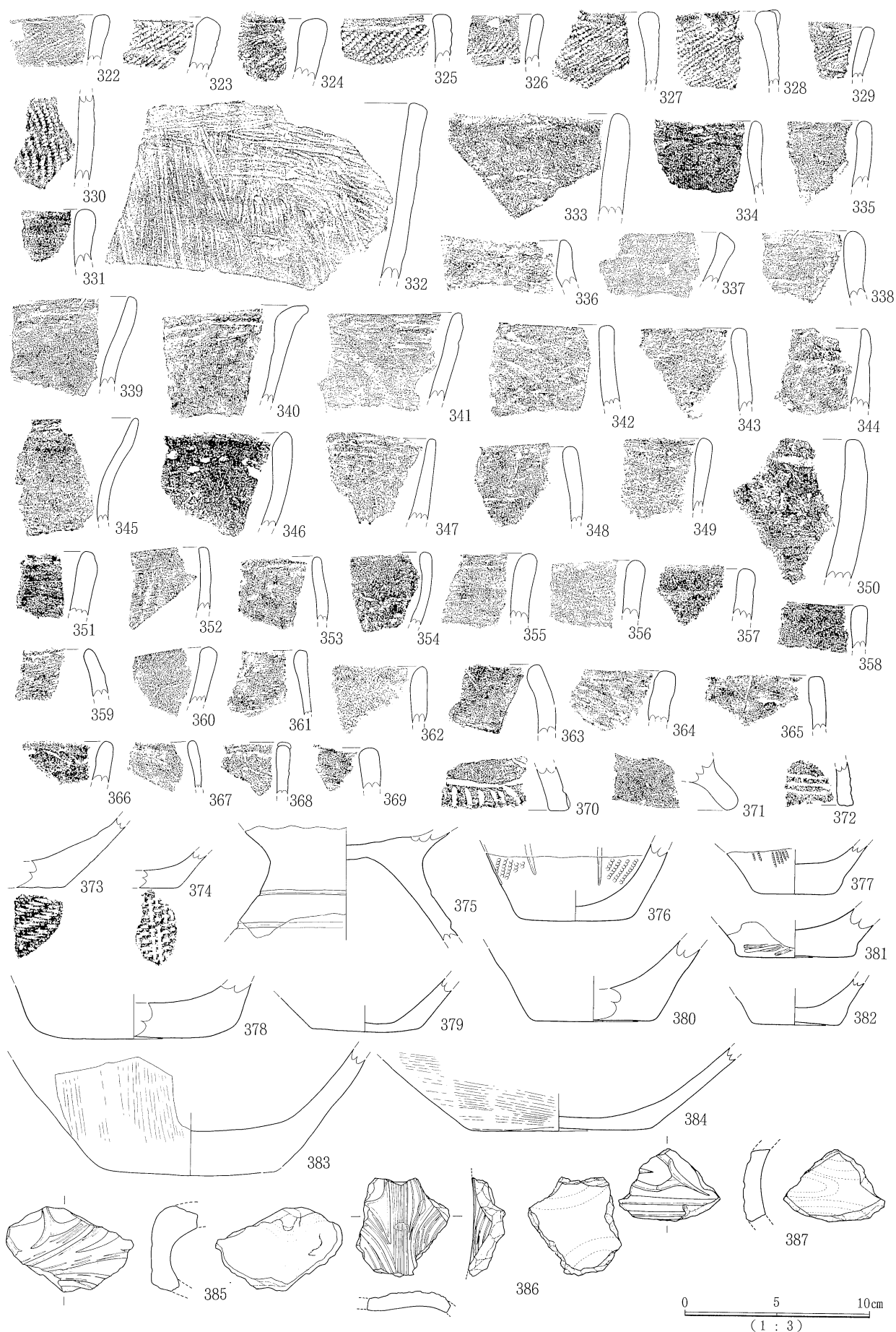
第61图 13号住居址出土遺物 (3)



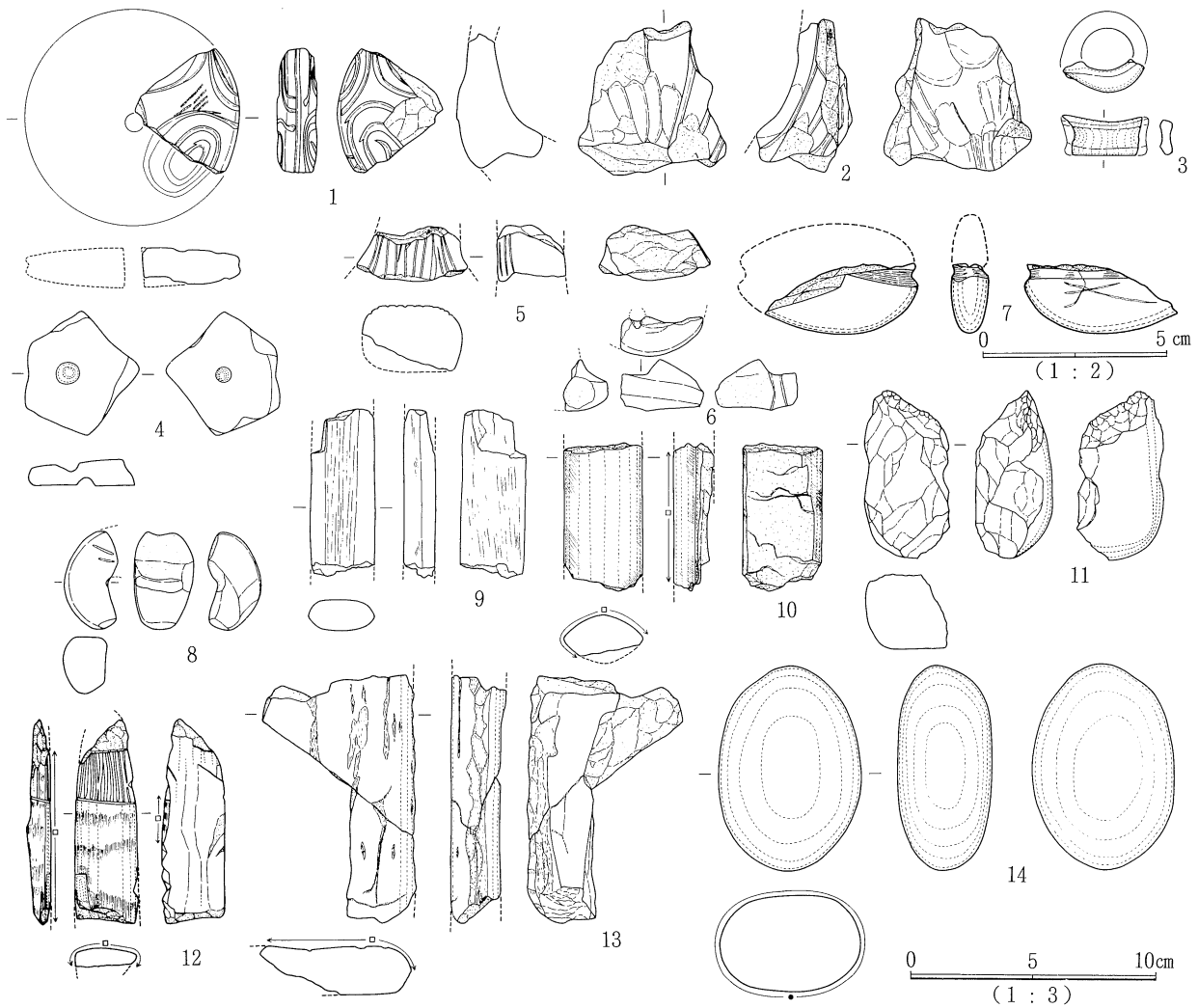
第62图 13号住居址出土遺物 (4)



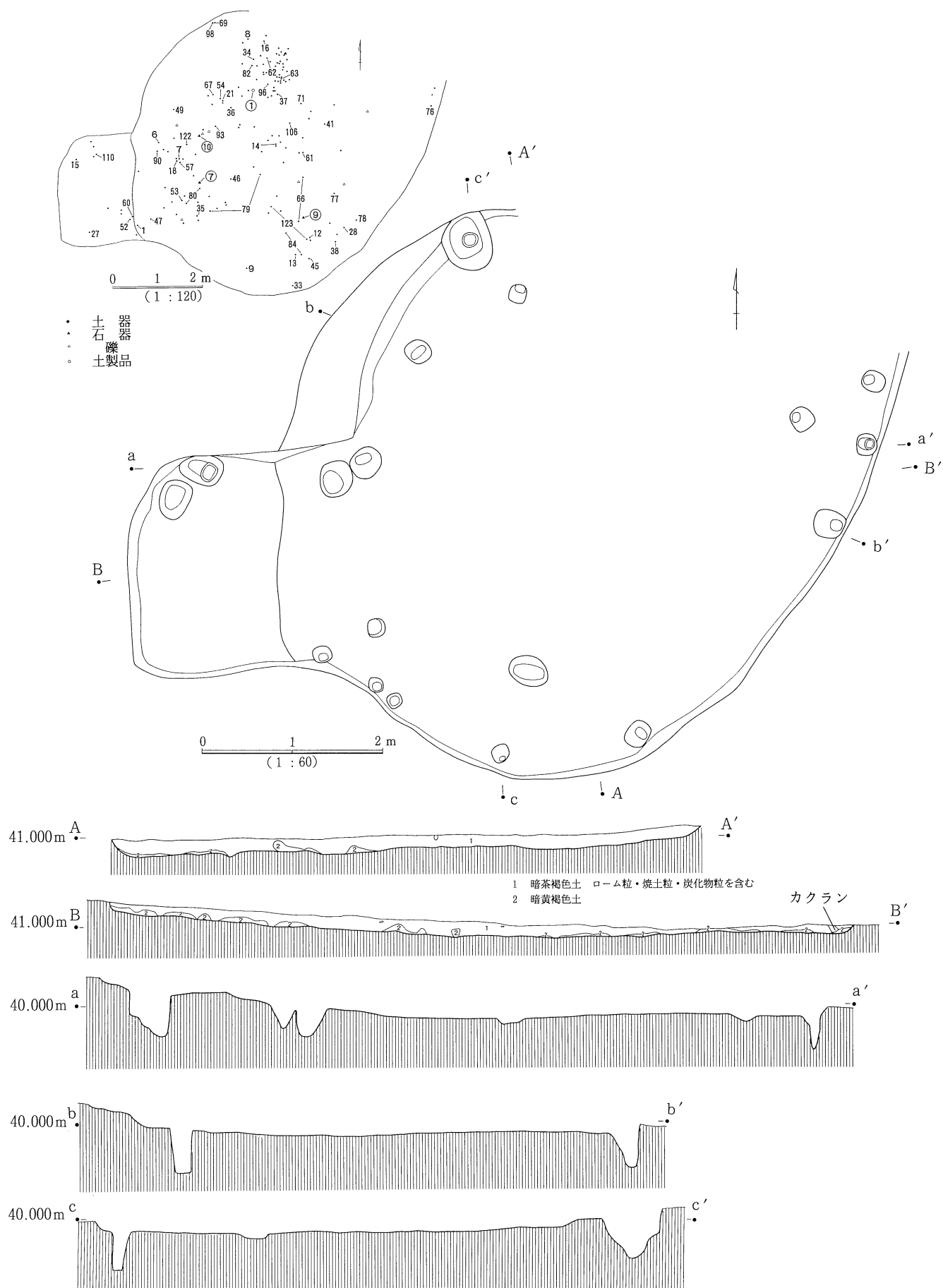
第63图 13号住居址出土遺物 (5)



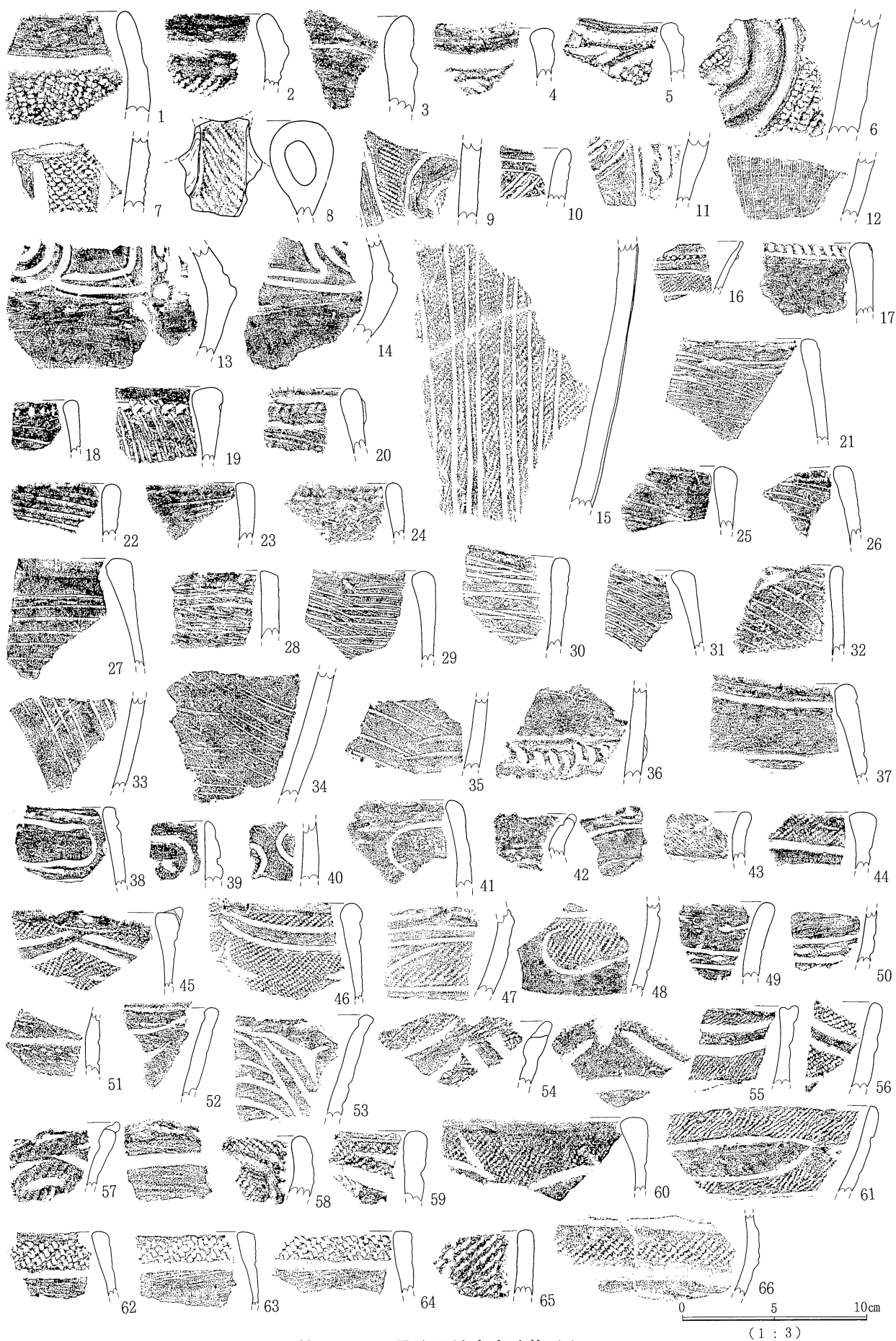
第64图 13号住居址出土遺物 (6)



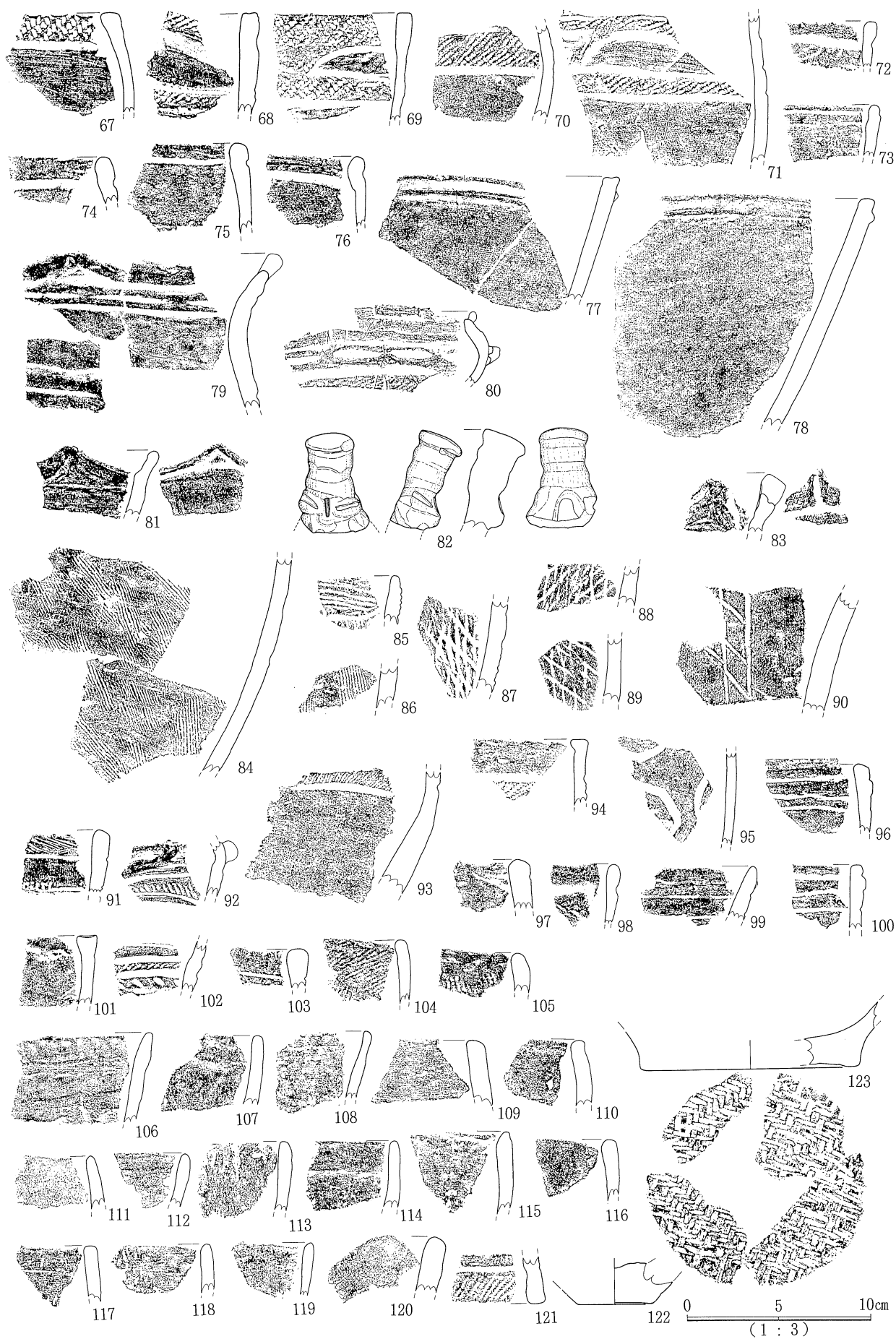
第65回 13号住居址出土遺物 (7) 縮尺 : 7は1/2、それ以外は1/3



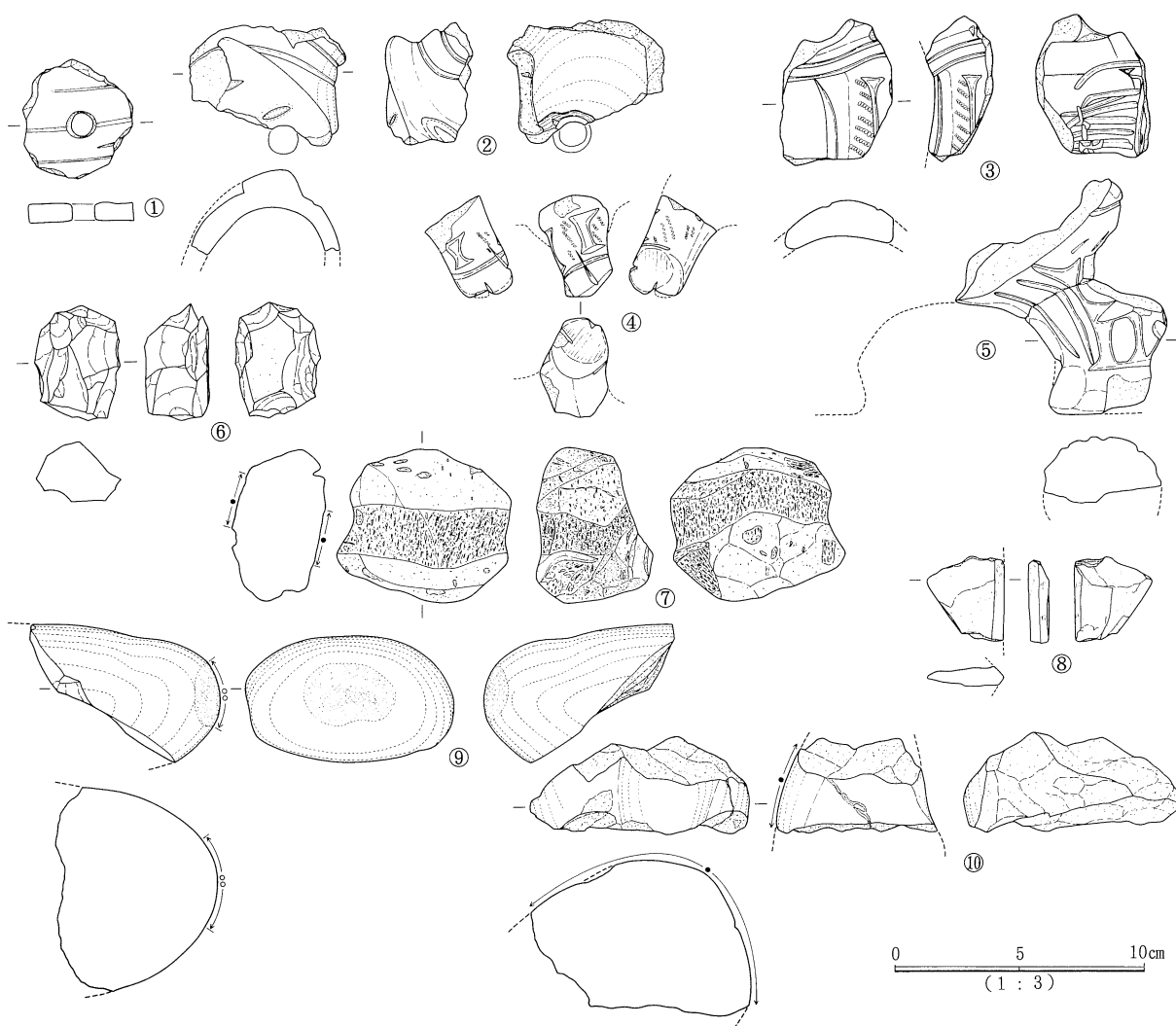
第66図 14号住居址実測図



第67图 14号住居址出土遺物 (1)



第68图 14号住居址出土遺物 (2)



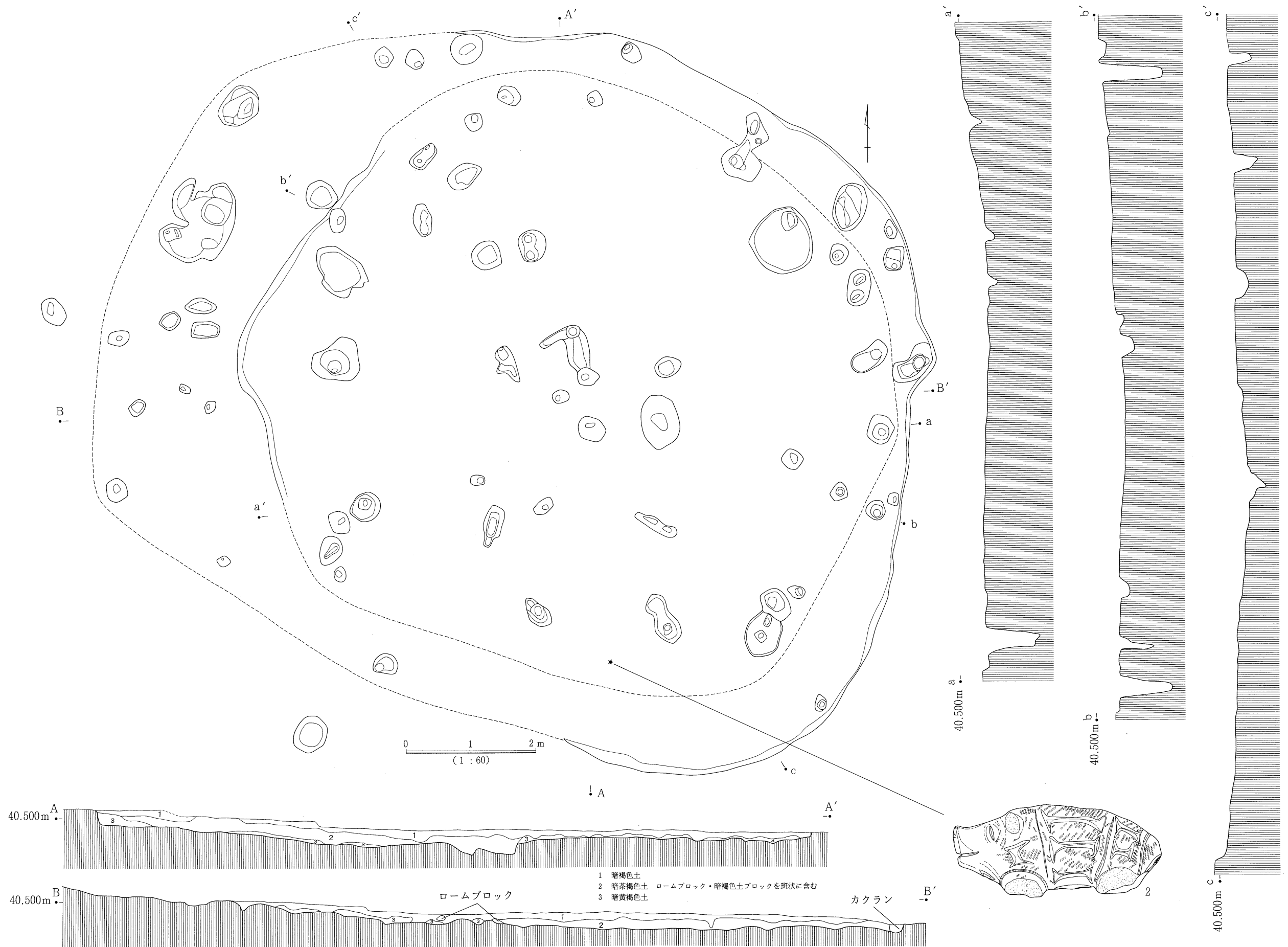
第69図 14号住居址出土遺物 (3)

14号住居址 (第66図)

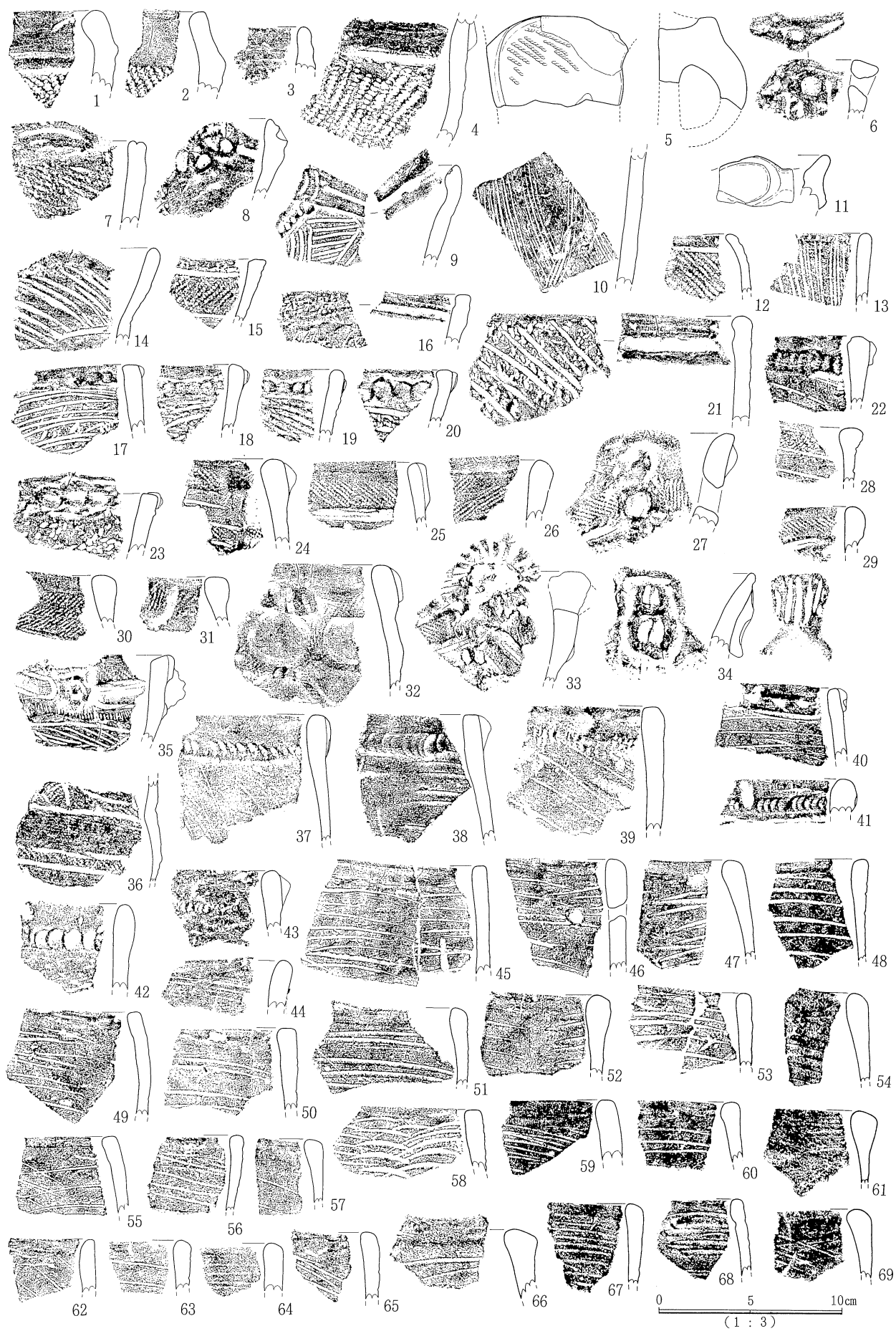
浅い壁と柱穴が確認でき、短軸6.1mの楕円形のプランを呈するが、床面は軟弱で炉址も検出できなかった。西側の張り出しは、別の遺構がからんでいるものととらえた。

出土遺物 (第67～69図)

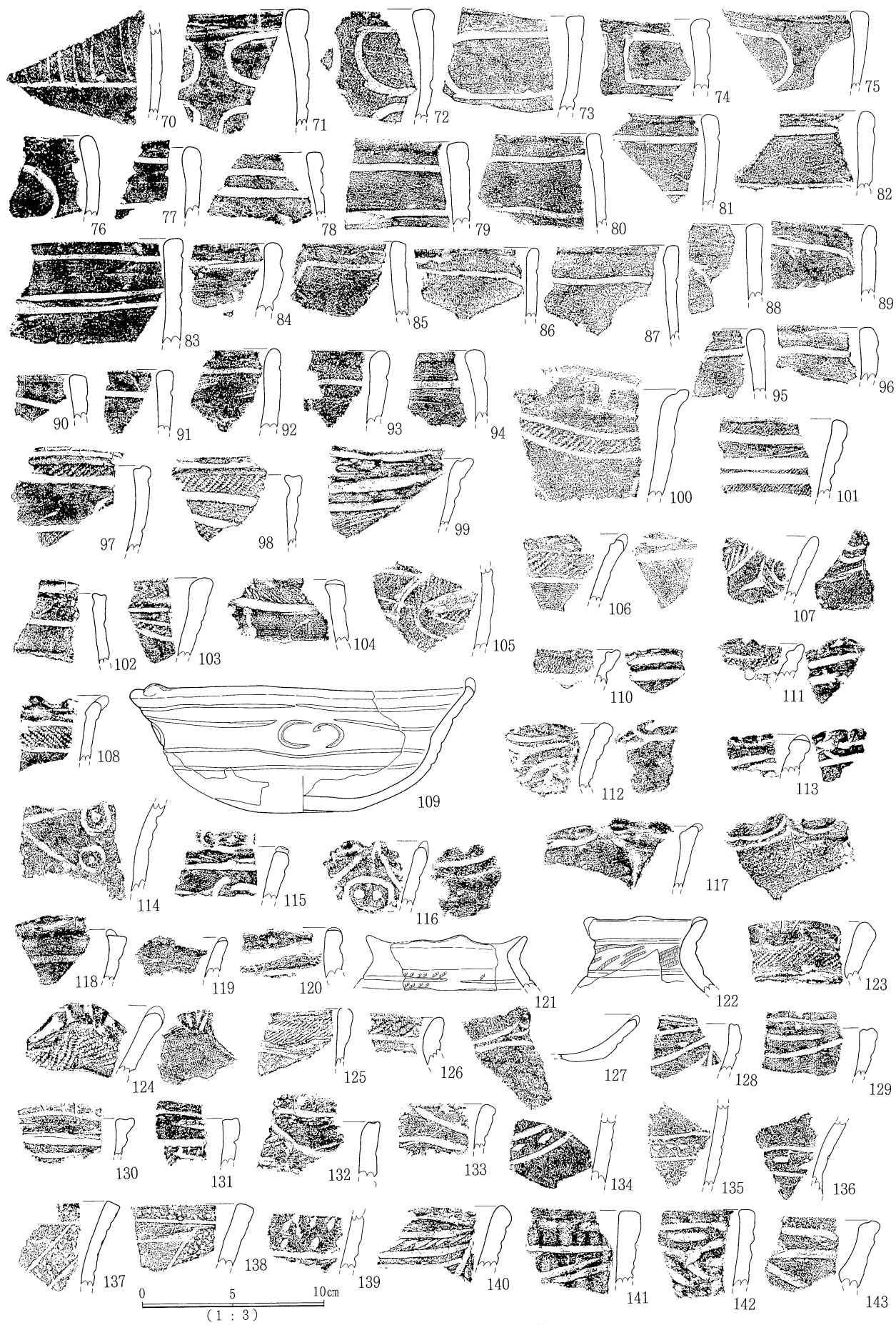
土器は晩期前葉～後葉が主体で全体の72%を占める。ただし、全て破片資料で器形を復元できるものはない。この他、土製円盤1点 (1)、「I」字文をもつ土偶2点 (③, ⑤)、イノシシ形土製品1点 (④)、未詳土製品1点 (②)、珪質頁岩・チャート製のコア・フレーク3点 (⑥)、軽石製の浮子1点 (⑦)、石剣1点 (⑧)、結晶片岩系フレーク3点、敲石1点 (⑨)、石皿1点 (⑩) が出土している。特記事項としては、後述する15号住居址出土のイノシシ形土製品の胴体部分に接合する左後足が、住居覆土上層中から出土したことがあげられる。



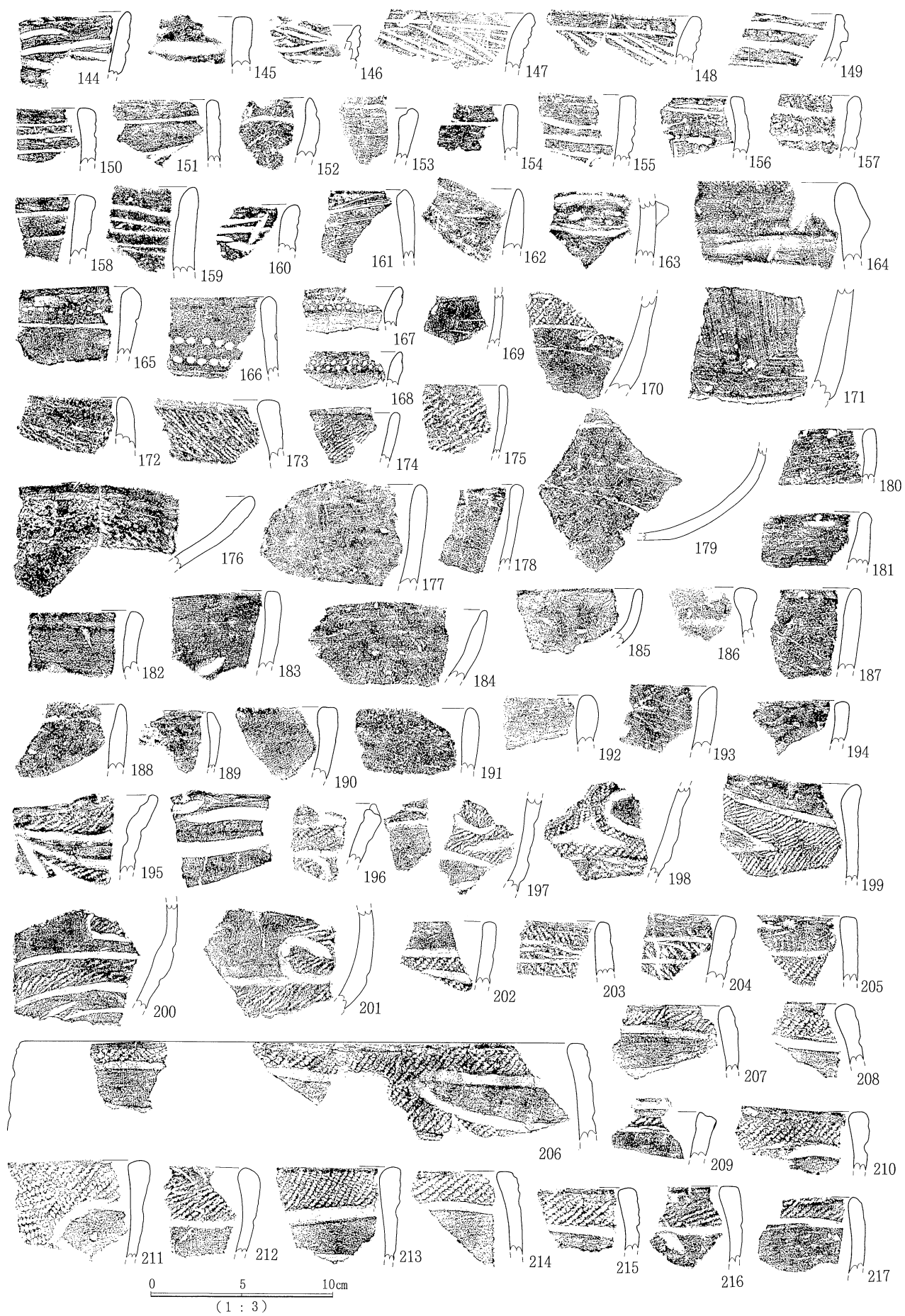
第70図 15号住居址実測図



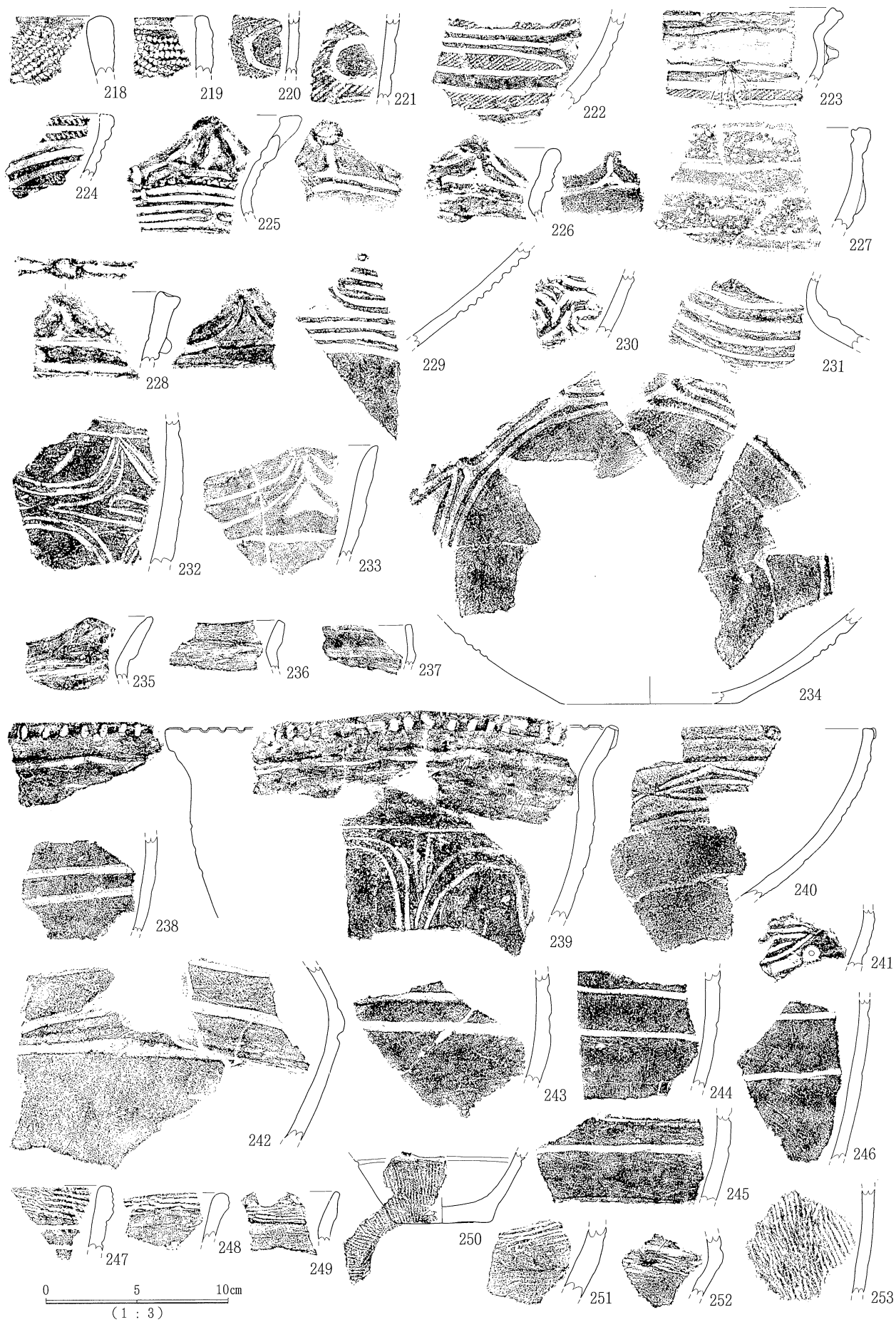
第71图 15号住居址出土遗物 (1)



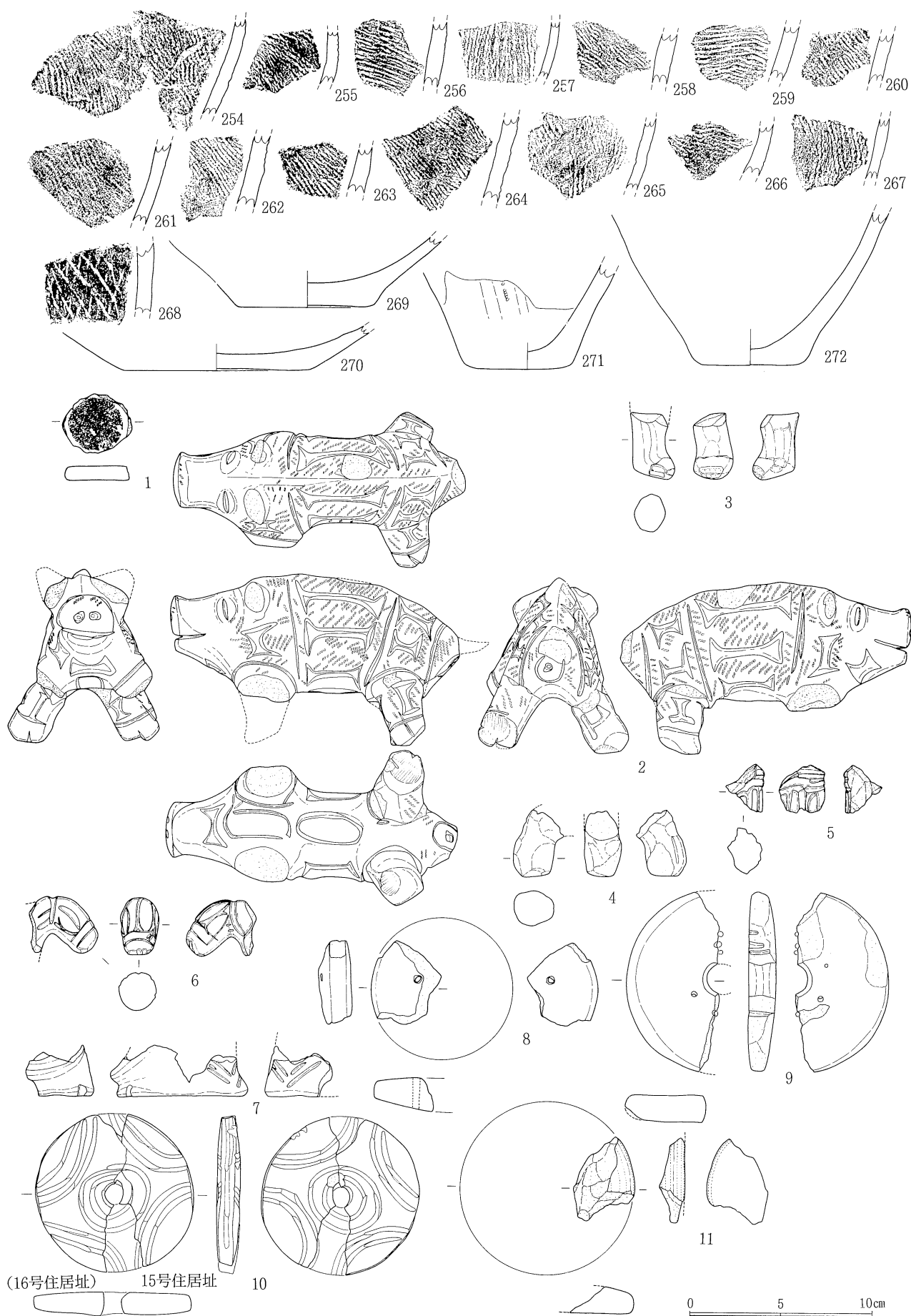
第72图 15号住居址出土遺物 (2)



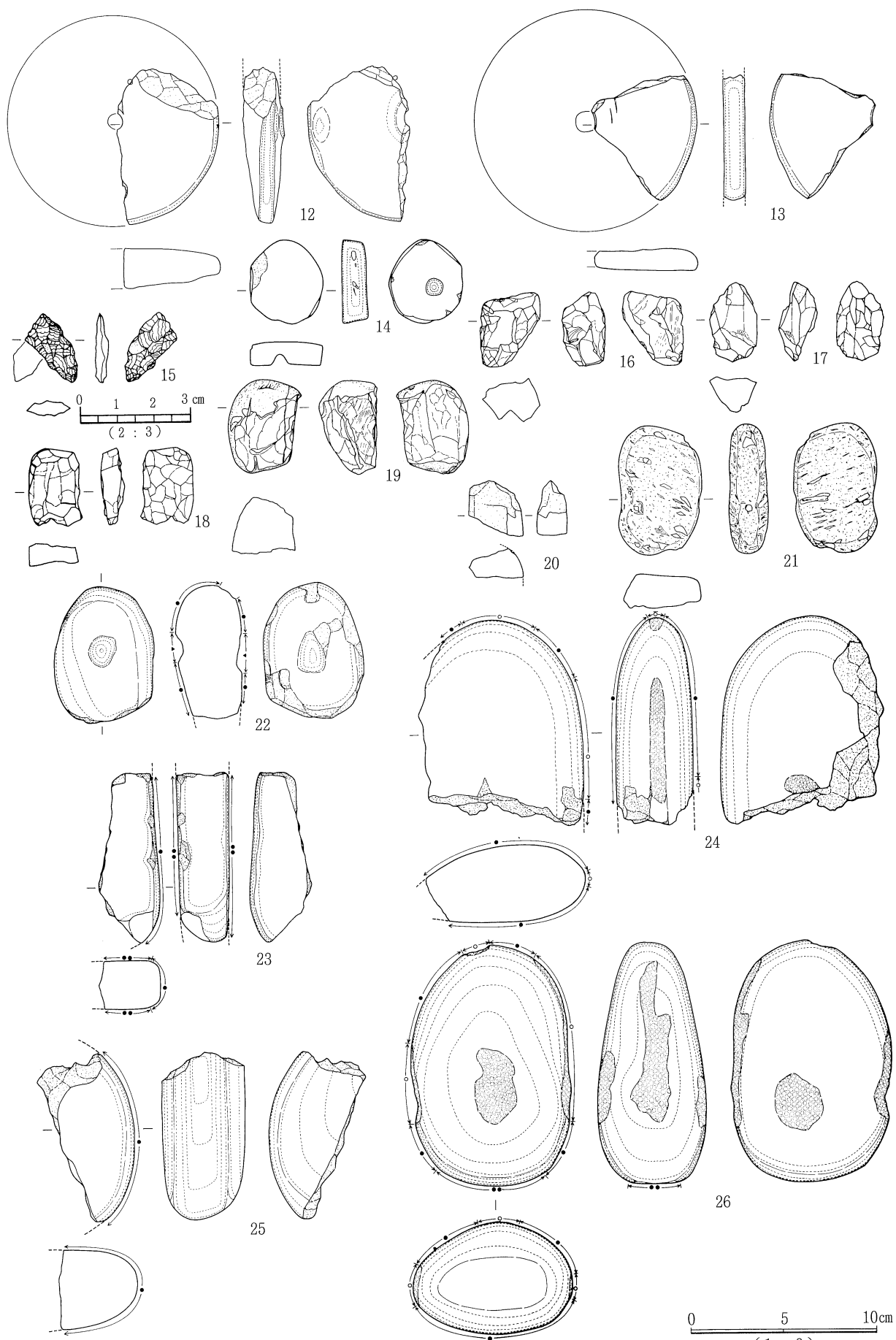
第73图 15号住居址出土遺物 (3)



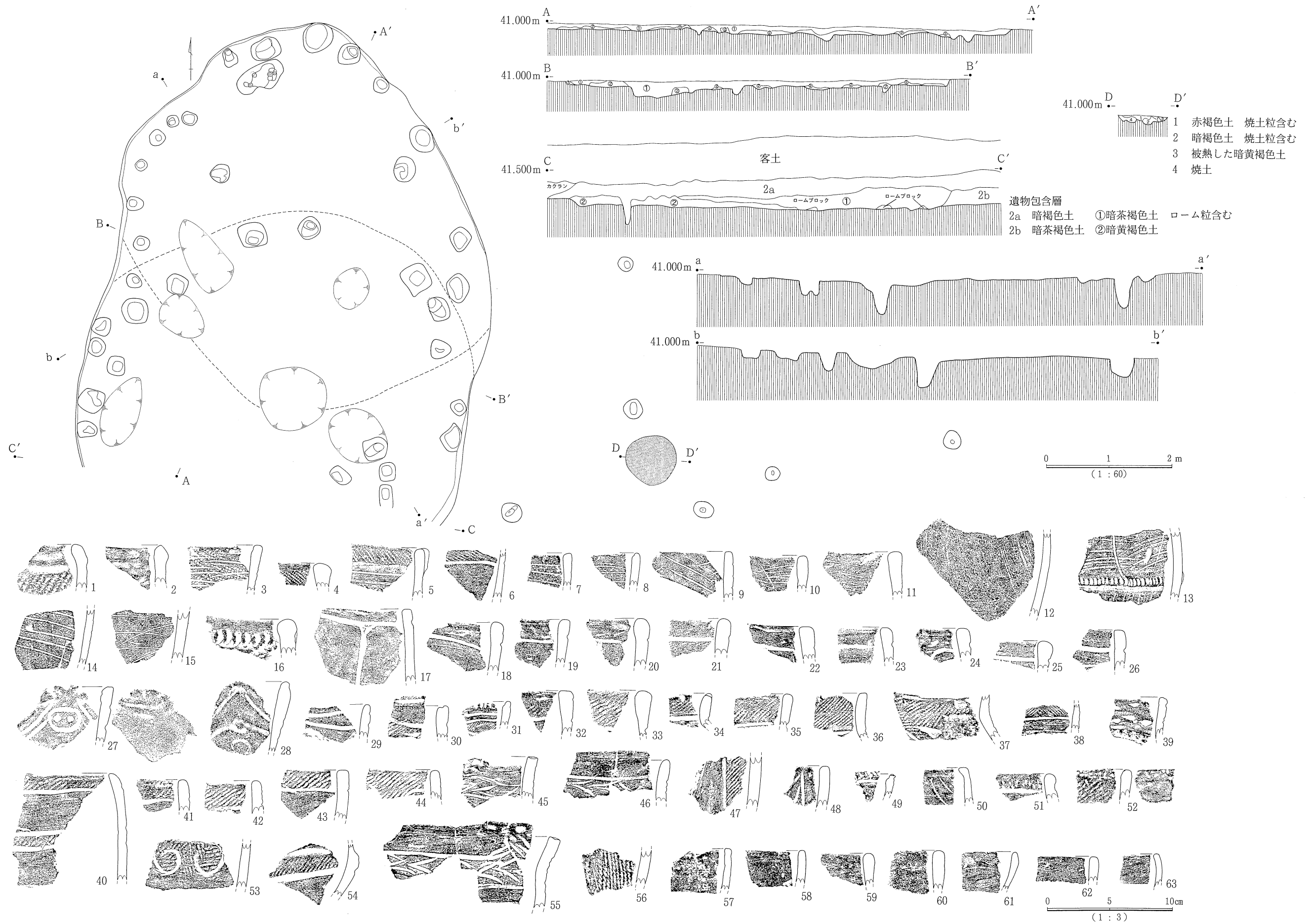
第74图 15号住居址出土遺物 (4)



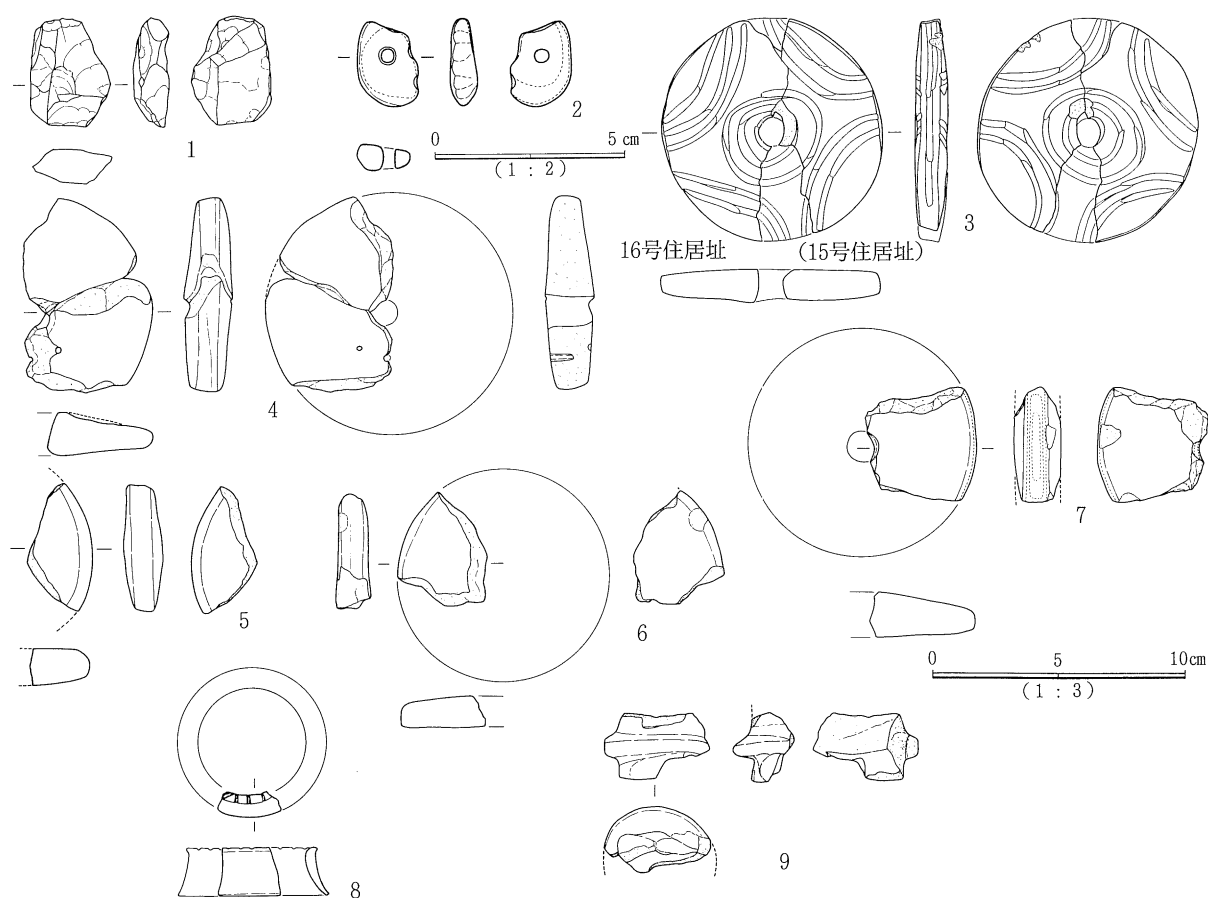
第75图 15号住居址出土遺物 (5)



第76图 15号住居址出土遺物 (6)



第78図 16号住居址実測図および出土遺物 (1)



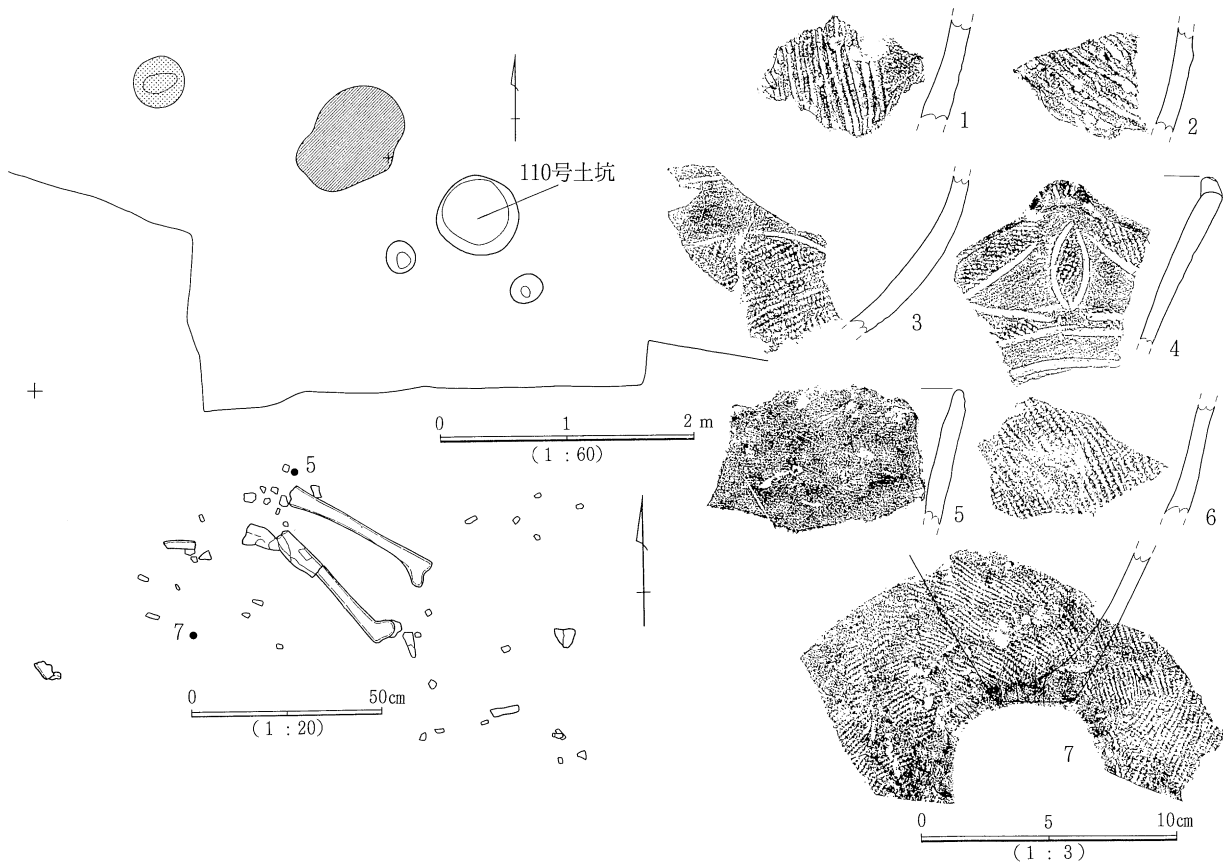
第79図 16号住居址出土遺物 (2)

16号住居址 (第78図)

浅い壁と柱穴の配列から5.9×5.1mと短軸6.1mの2軒の楕円形プランのものが重複したものとみられるが、床面は軟弱で炉址は確認されていない。また、住居址の東約3mの地点から、直径約80cmの円形の範囲で焼土痕跡が認められた。

出土遺物 (第78・79図)

土器は晩期前葉～後葉が主体で全体の82%を占める。ただし、全て破片資料で器形を復元できるものはない。この他、頁岩・チャート製のコア・フレーク3点(1)、結晶片岩系のフレーク5点、垂飾1点(2)、有孔円盤5点(3～7)、耳飾1点(8)、未詳土製品1点(9)が出土している。



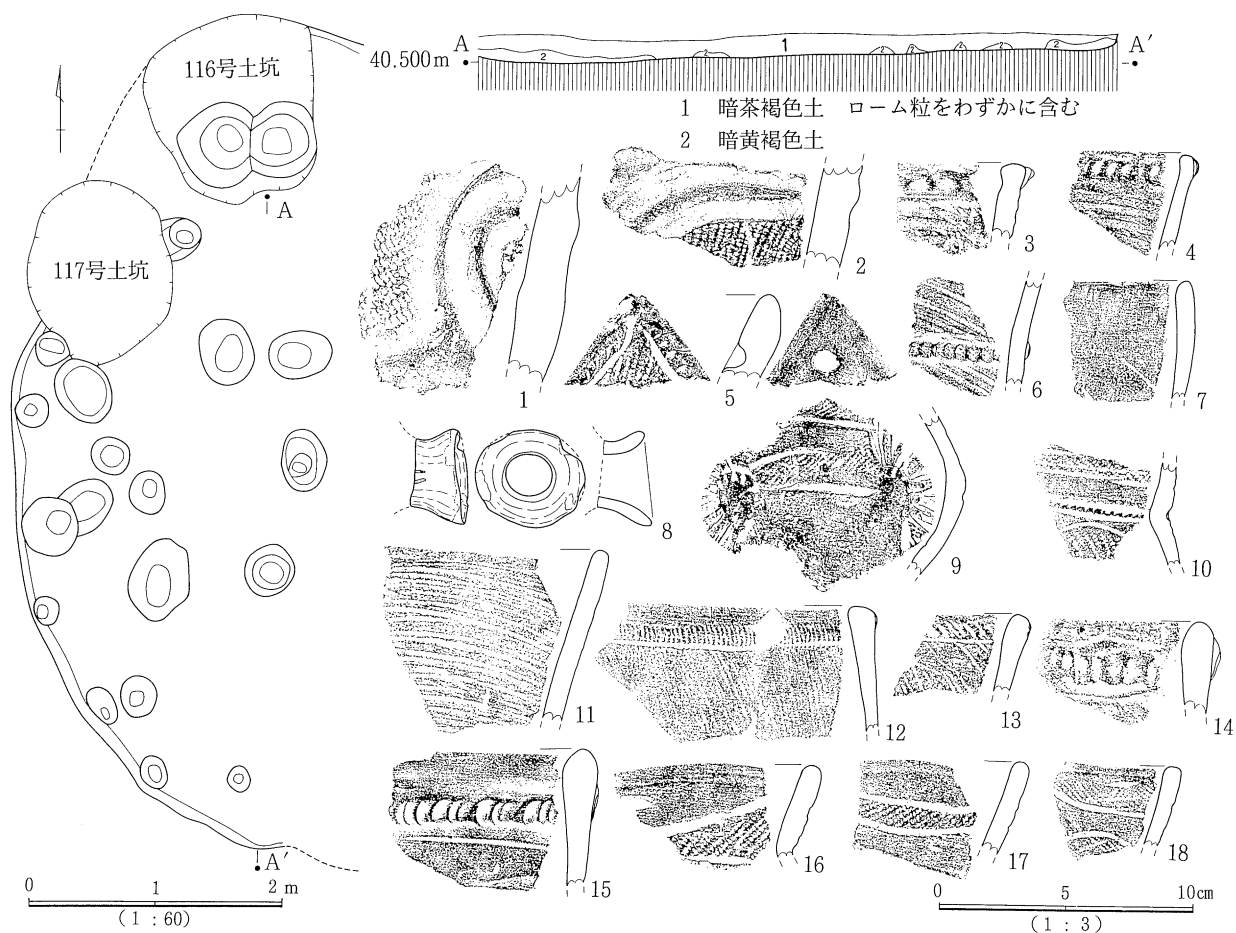
第80図 17号住居址実測図および出土遺物、1号人骨実測図

17号住居址（第80図）

住居の南半分は調査範囲外のため未調査である。炉址の痕跡と柱穴状のピット数基を検出したが、覆土の大部分と床面の一部が削平を受け、住居形態・規模など詳細は不明である。炉址の東約50cmには110号土坑がある。この土坑の覆土、住居覆土の一部、炉址覆土の一部、柱穴覆土の一部、に残存状態は悪いが貝層が形成されていた痕跡が認められ、埋葬人骨の一部（左右の大腿骨）が検出された。本来は、住居址覆土内に面的に広がる貝層が存在していた可能性がある。また住居覆土中から、クロダイの前上顎骨・歯骨などの魚骨や獣骨も検出されている。

出土遺物

後期後葉の土器片数点が出土したにとどまる。



第81図 18号住居址実測図および出土遺物

18号住居址（第81図）

住居址の東側がカクランを受けているため、調査できたのは全体の1/3程度である。浅い壁部分と幾つかの柱穴を検出したが、炉址は調査範囲ではみつからずしっかりした床面もとらえられなかった。現存する最大長6.6m、円形もしくは楕円形のプランとみられる。またプラン内には116・117 2基の土坑が存在する。

出土遺物

後期後葉の土器が54%を占めるが、いずれも器形復元のできない小破片である。8は異形土器の口の部分の破片である。



第82図 19・20号住居址実測図

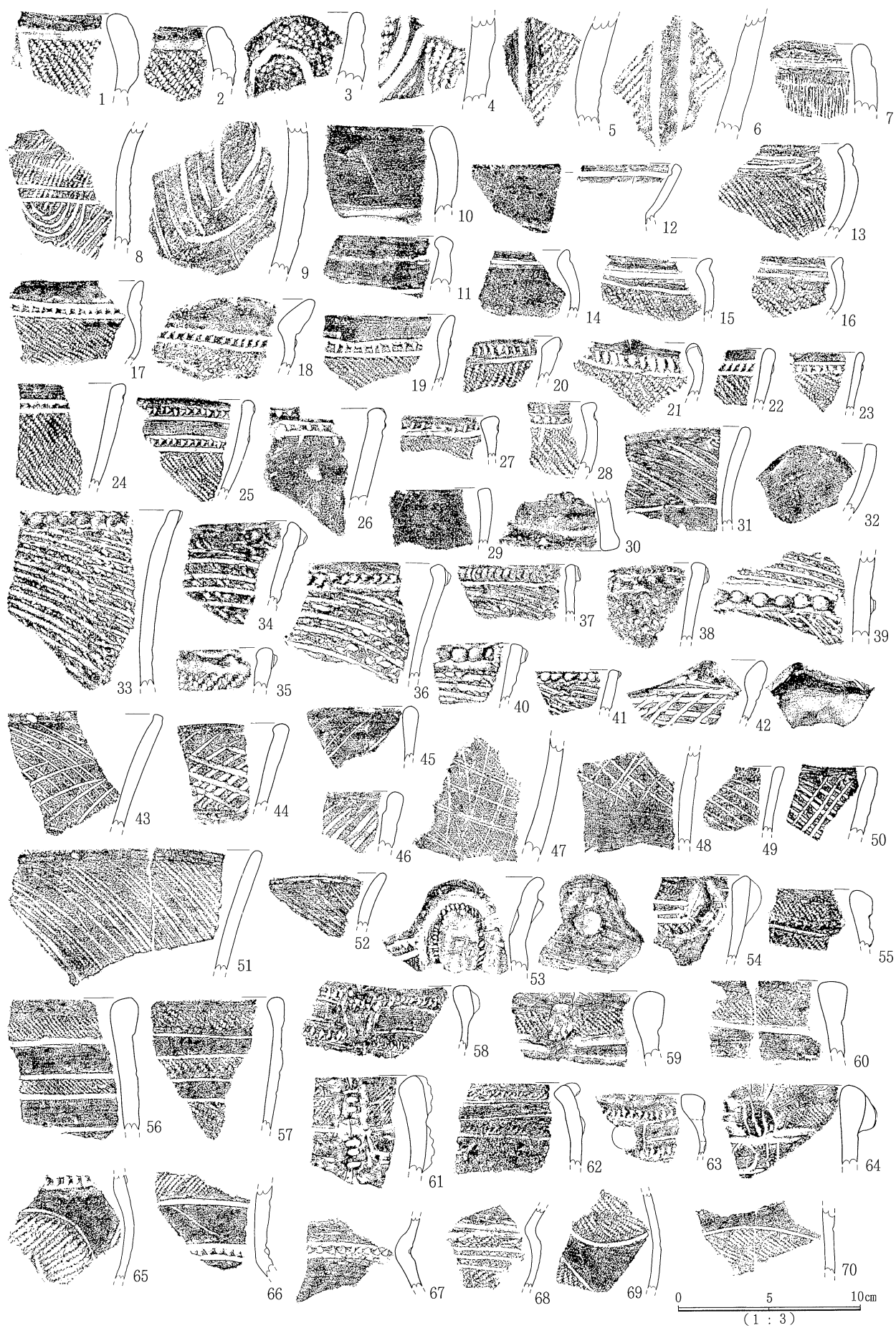
19号住居址（第82図）

北側が調査範囲外のため未調査であるが、全体のおよそ90%は調査できたものと思われる。壁、柱穴、炉址、床面とも比較的しっかりと検出できた本遺跡では数少ない事例となった。一辺約3mの5ないし6角形プランに出入口部を有する最大長6.6mのものとみられるが、出入口部は北側の未調査部分にあると思われる。東側で一部20号住居址と重複している。床面付近が一部焼けており、柱穴内に炭化材が検出された箇所も認められることから、何等かの原因で火を受けた可能性が強い。また、プラン内で114号土坑と重複するが住居構築以前の中期後葉のものである。

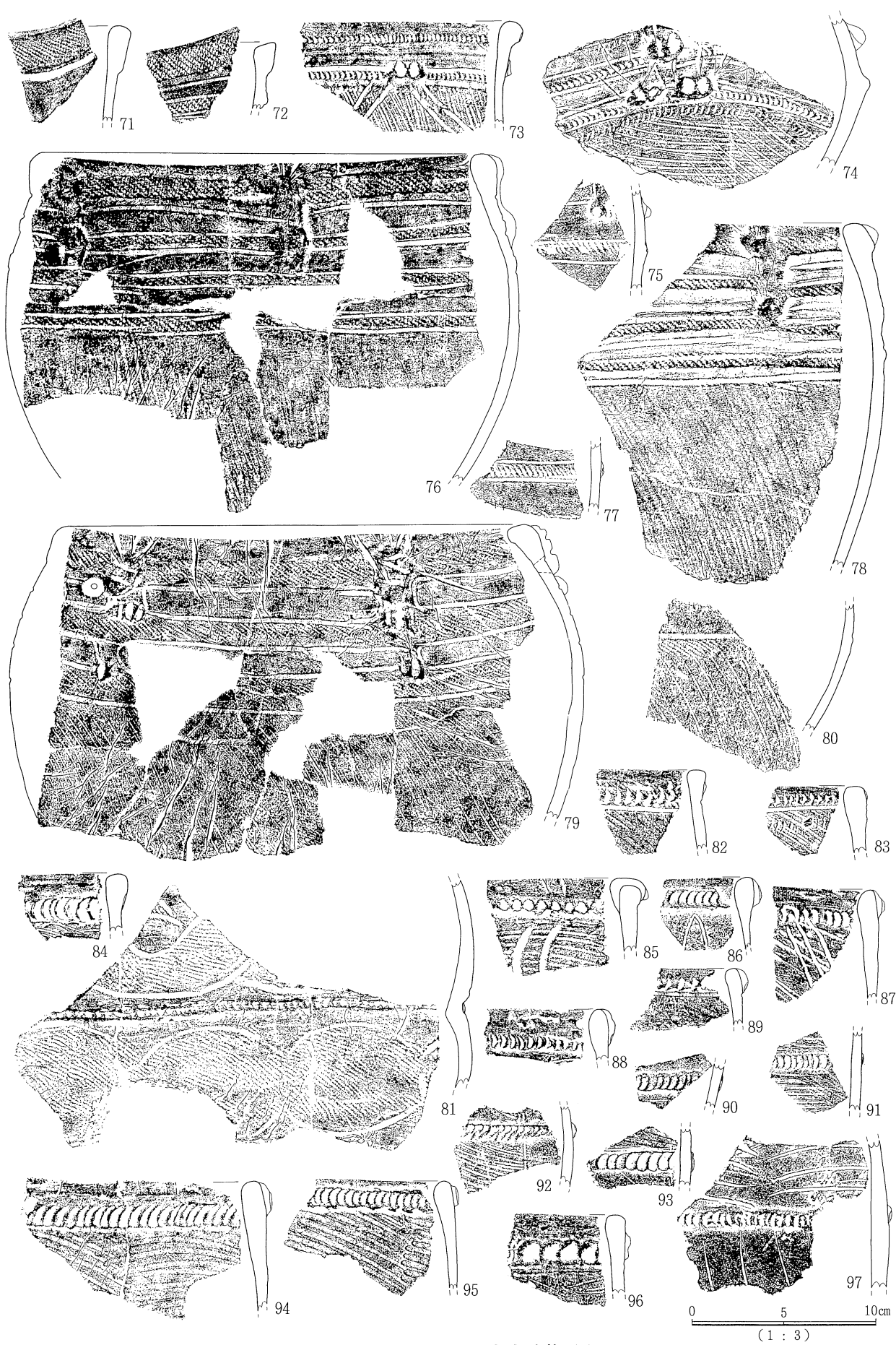
出土遺物（第83～86図）

土器は後期後葉から晩期前葉が全体の81%と主体を占める。破片資料が多いが、器形復元可能な大破片資料、完形もしくは完形に近い資料も出土している。76は口径推定24.4cm・残存器高17.8cm、R L単節縄文が施される。79は口径推定25.0cm・残存器高16.1cm、R L単節縄文が施される。98は口径推定26.8cm・残存器高12.1cm。105は床面より10cmほど上から検出されたもので、口径20.0～20.6cm、底径5.3cm、器高9.3cm、口縁部が4単位の波状となる浅鉢形土器で、沈線区画内はR L単節縄文が施される。106は口径15.0cm、底径3.3cm、器高15.5cmの小型の深鉢形土器で、沈線区画内にはR L単節縄文が施される。この他、土器片錘3点（1～3）、チャートを主体するコア・フレーク7点（4,5）、凹石3点（6,7,9）、砥石1点（8）、磨石4点（10～13）が出土している。砥石と凹石1点（7）、磨石3点（11,12,13）には被熱した痕跡が認められる。

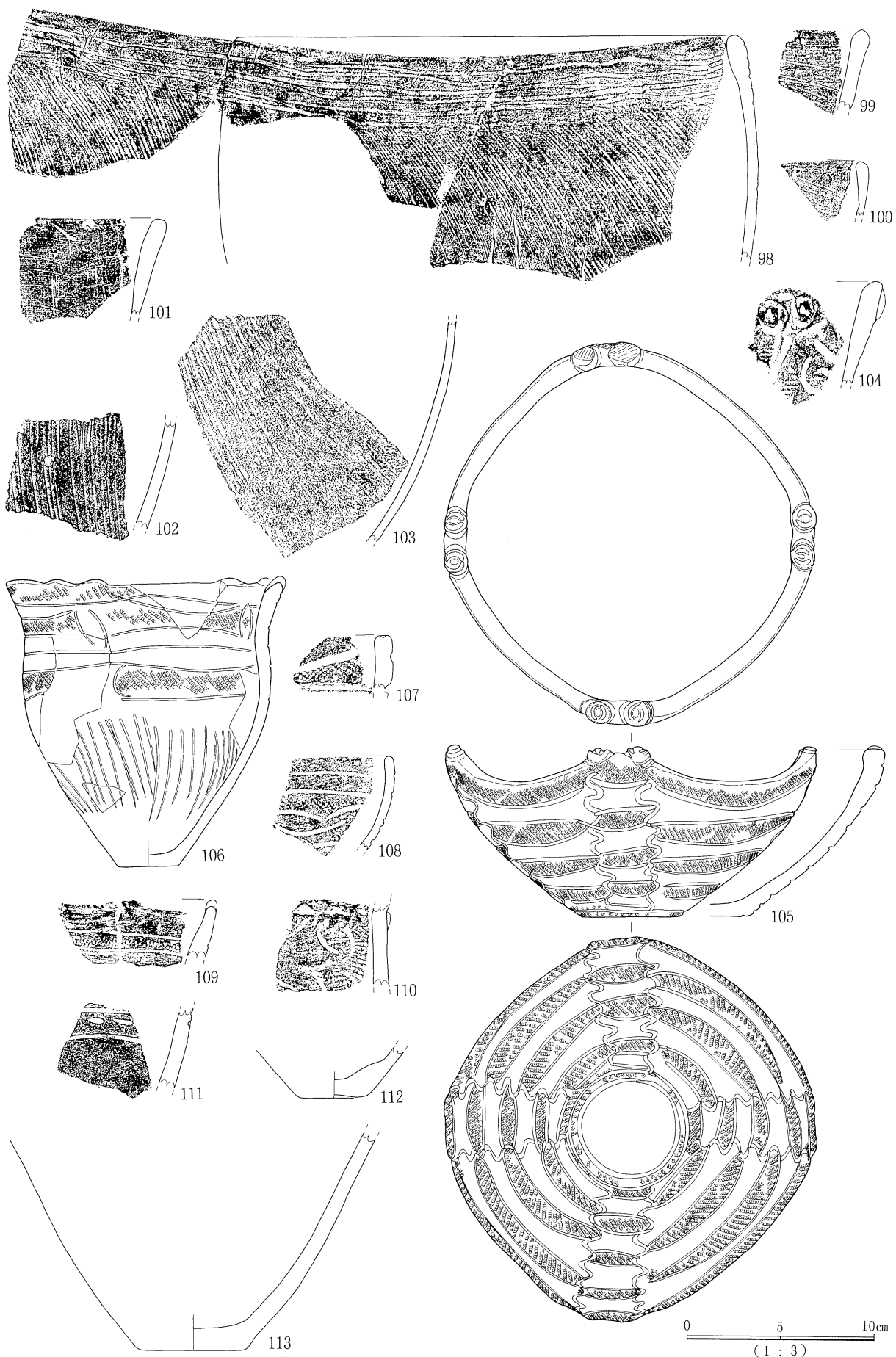
19号住居址は、住居形態・規模ともに前述の11号住居址と類似する。出土遺物の時期からも両者ともに晩期前葉に位置付けられ、住居の一部に火を受けた痕跡が認められることでも共通点が見出せるが、19号住居址からは方形の内部施設や焼けた獣骨類、祭祀関係の土製品は検出されておらず、この事例からも11号住居址の特異性が明らかとなる。



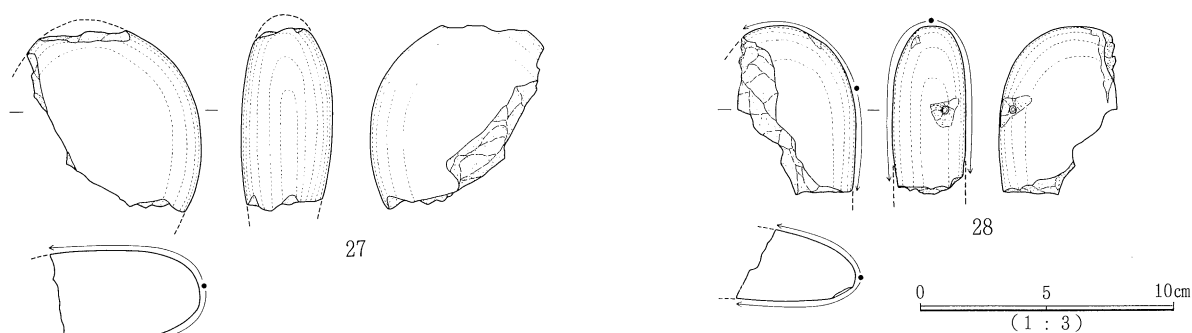
第83图 19号住居址出土遺物 (1)



第84图 19号住居址出土遺物 (2)



第85图 19号住居址出土遗物 (3)



第77図 15号住居址出土遺物 (7)

15号住居址 (第70図)

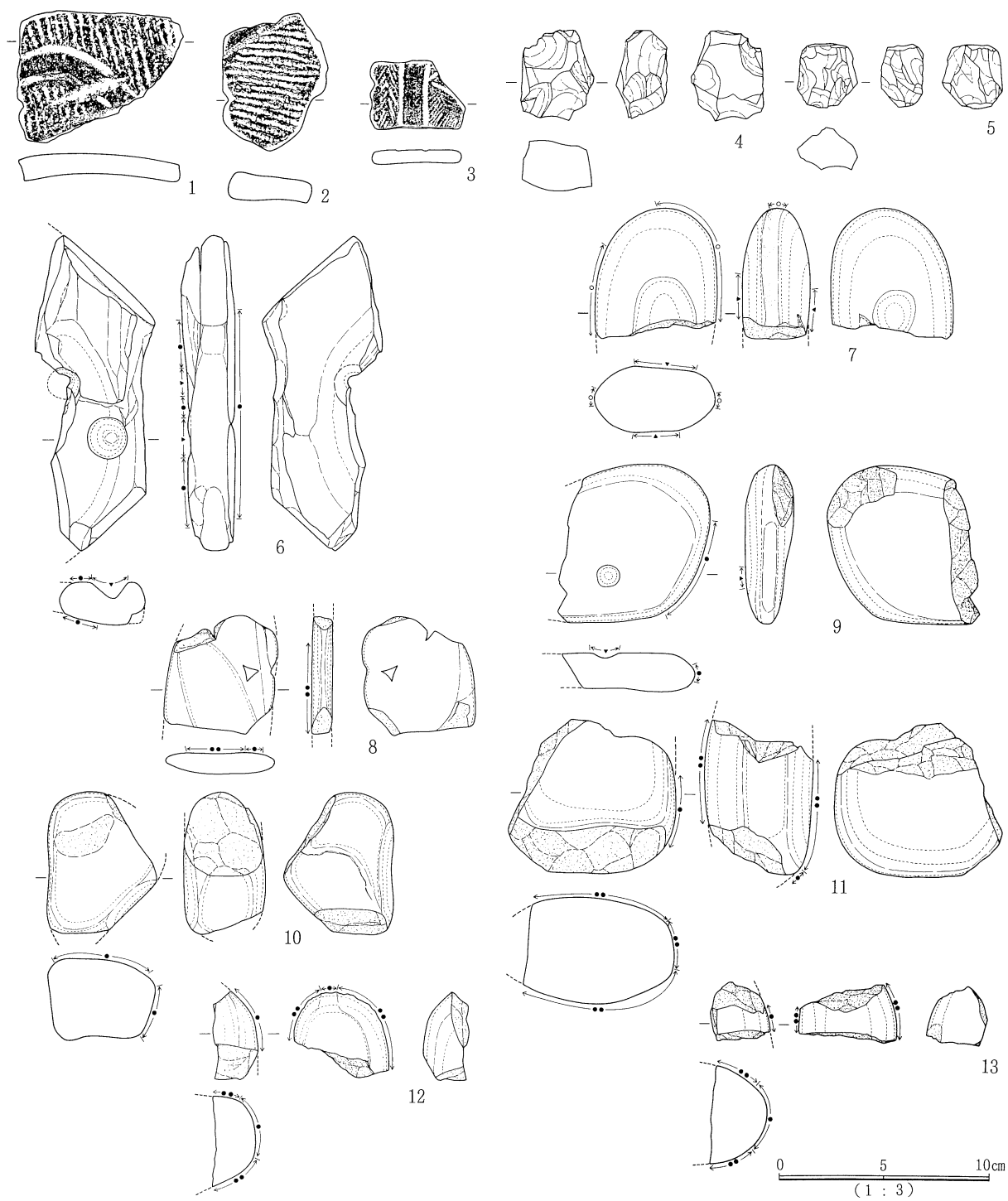
本遺跡検出の住居址のうち最大規模を有する。残存した壁の一部と柱穴の配列から、 $12.7 \times 10.7 \text{ m}$ ・ $10.0 \times 8.9 \text{ m}$ の2時期の楕円形プランのものが想定できるが、床面は軟弱で炉址の痕跡は確認できなかった。

出土遺物 (第71～77図)

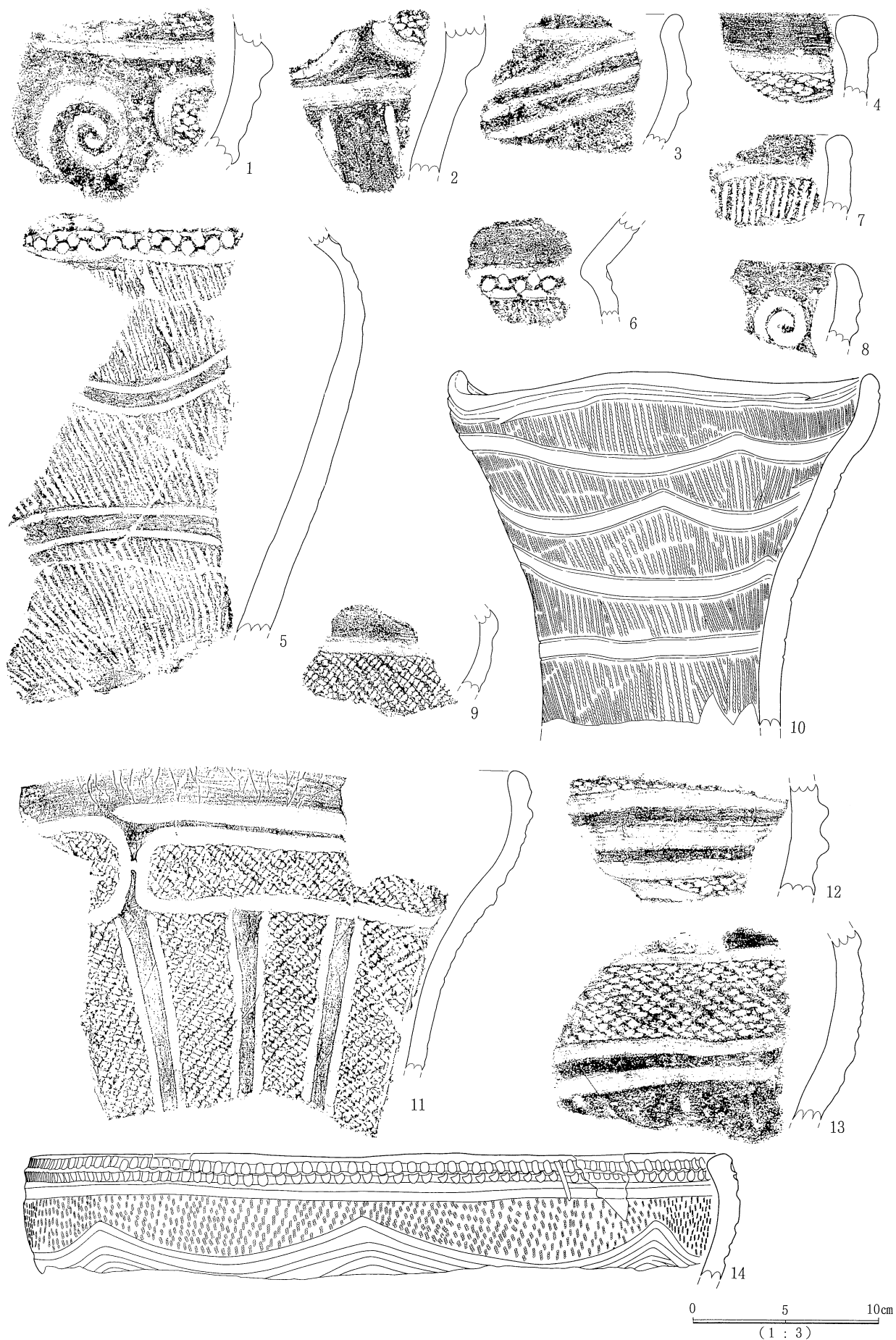
土器は晩期前葉～後葉が主体で全体の80%を占める。ただし、ほとんどが破片資料で器形を復元できるものはわずかである。109は、口径 19.1 cm 、底径 5.0 cm 、器高 7.2 cm を測る浅鉢形土器である。この他、イノシシ形土製品1点(2)、動物形土製品?1点(3)、土偶4点(4～7)、有孔円盤6点(8～13)土製円盤2点(1,14)、石鏃1点(15)、チャートを主体とするコア・フレーク20点(16～19)、軽石製品4点(21)、磨石4点(23,25,27,28)、凹石1点(22)、敲石2点(24,26)、石棒1点(20)が出土している。土偶のうち2点(5,6)には「I」字文が施されている。

特記事項としては、住居址の南側の壁よりの地点から床面より5cmほど浮いた状態で出土したイノシシ形土製品があげられる。体の左側面を上に向け、前後4本の足と尾・耳を欠く胴体部分のみの姿で検出された。整理作業の過程で、本住居址より北約20mに位置する12号住居址と、北約10mに位置する14号住居址の覆土上層(調査時点では遺物包含層としてグリッドごとに取り上げた部分)から右後足(第55図-1)と左後足(第69図-④)がそれぞれ出土し本住居址出土の胴体部分と接合することが判明した(2)。全長 16.1 cm ・体高 9.4 cm ・幅 8.3 cm ・重さ 525 g 、鼻と尖った背中(たてがみ)、つま先立ちの後足の表現が極めて写實的にイノシシの姿を表している。また体には「I」字文が18箇所施され、その間をLRの細かい単節縄文でうめている。また腹の部分には沈線による楕円形の区画文が2箇所みられ、尻の穴の表現までである。後足の接地面とその周囲には擦れてできたとみられる光沢があり、その扱われかたを示す使用痕とみなせるかもしれない。

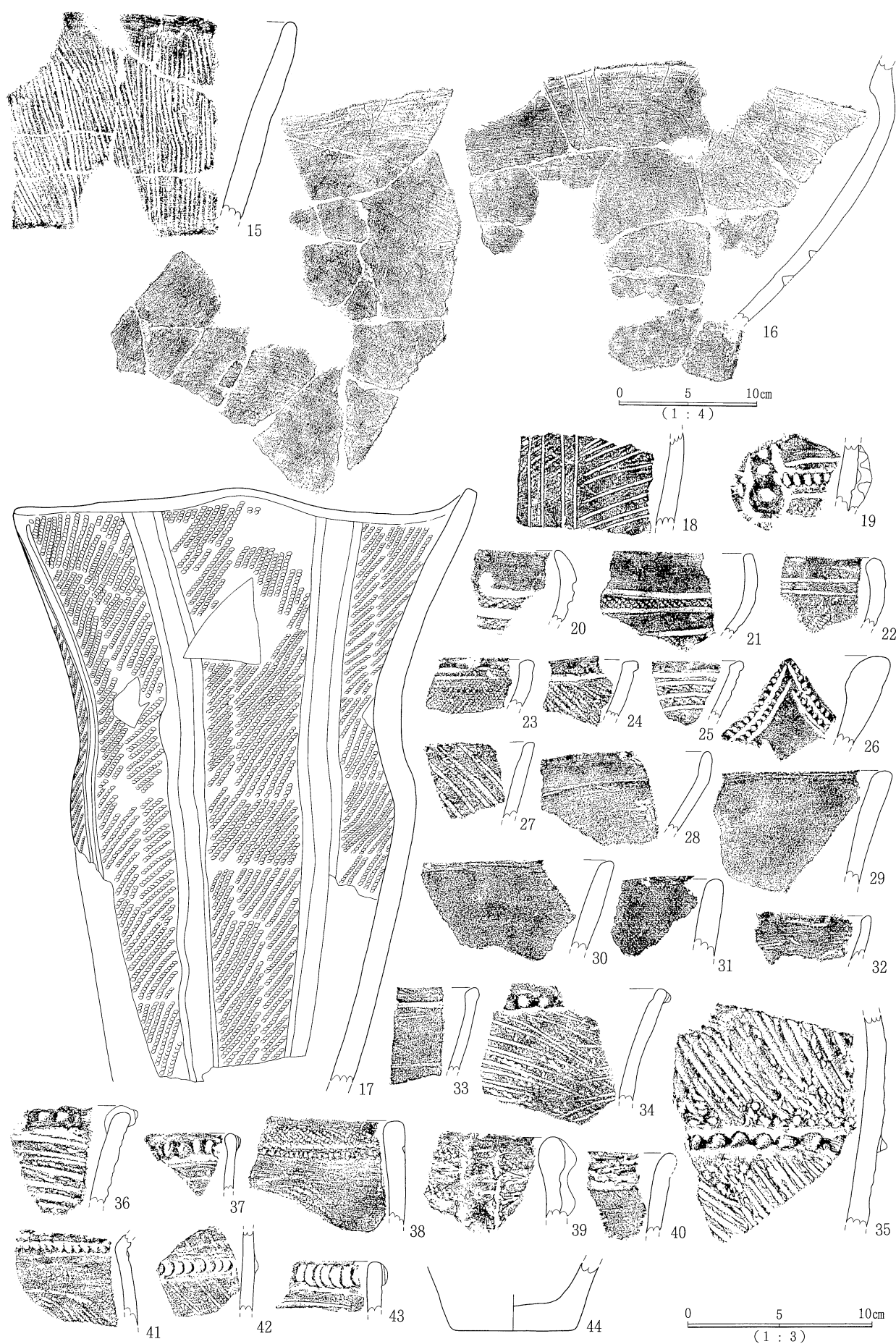
また覆土上層から出土した10の表裏に沈線文様をもつ有孔円盤は、後述する16号住居址の同じく覆土上層から出土した有孔円盤(第79図-3)と接合した。



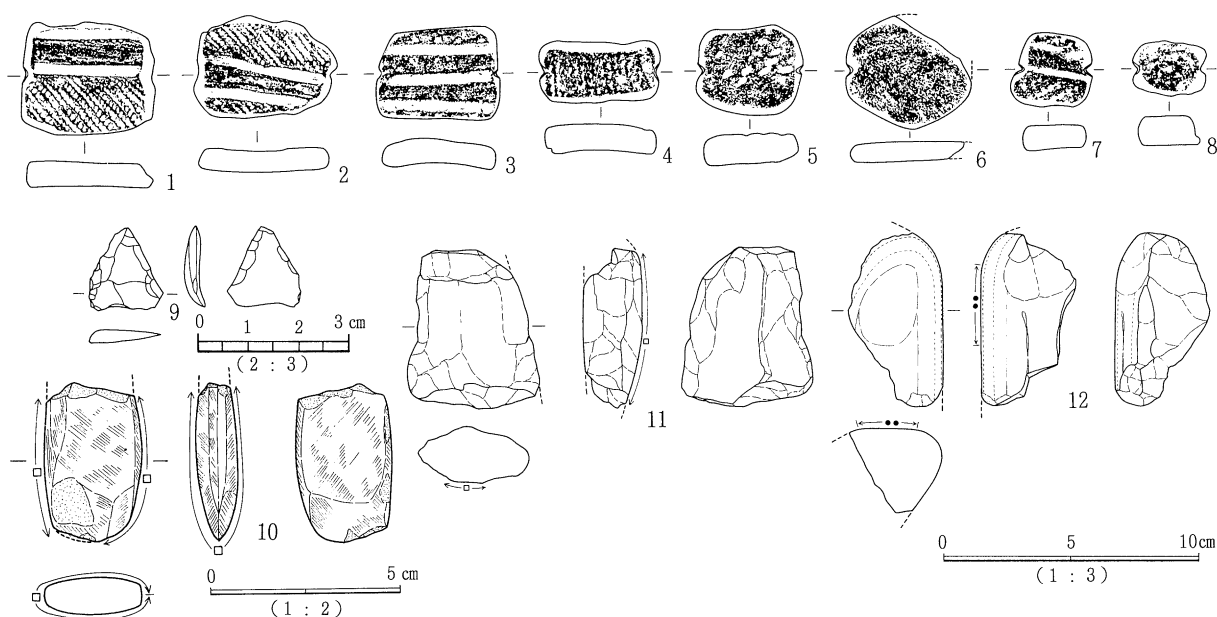
第86図 19号住居址出土遺物 (4)



第87图 20号住居址出土遺物 (1)



第88图 20号住居址出土遺物 (2)



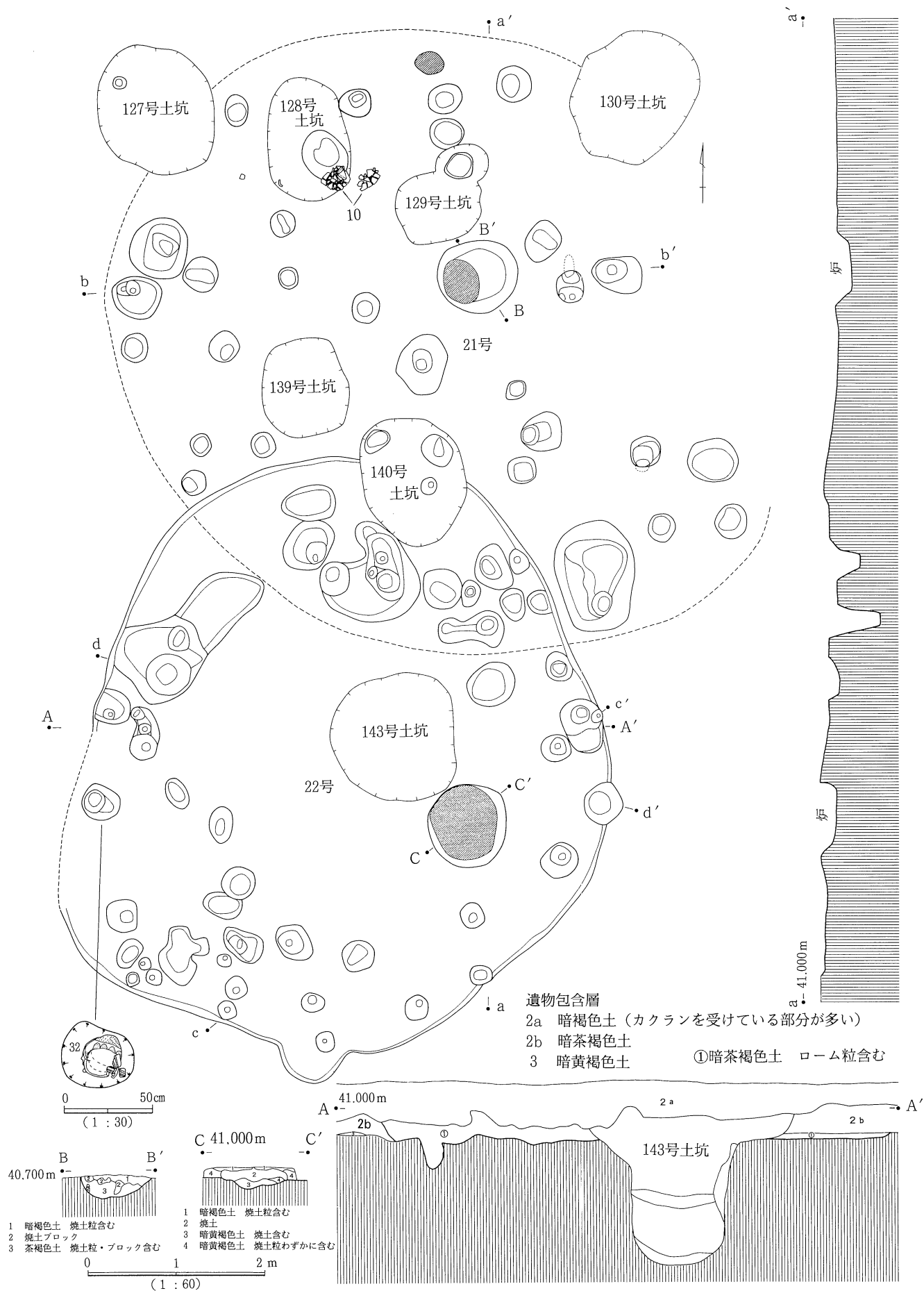
第89図 20号住居址出土遺物 (3)

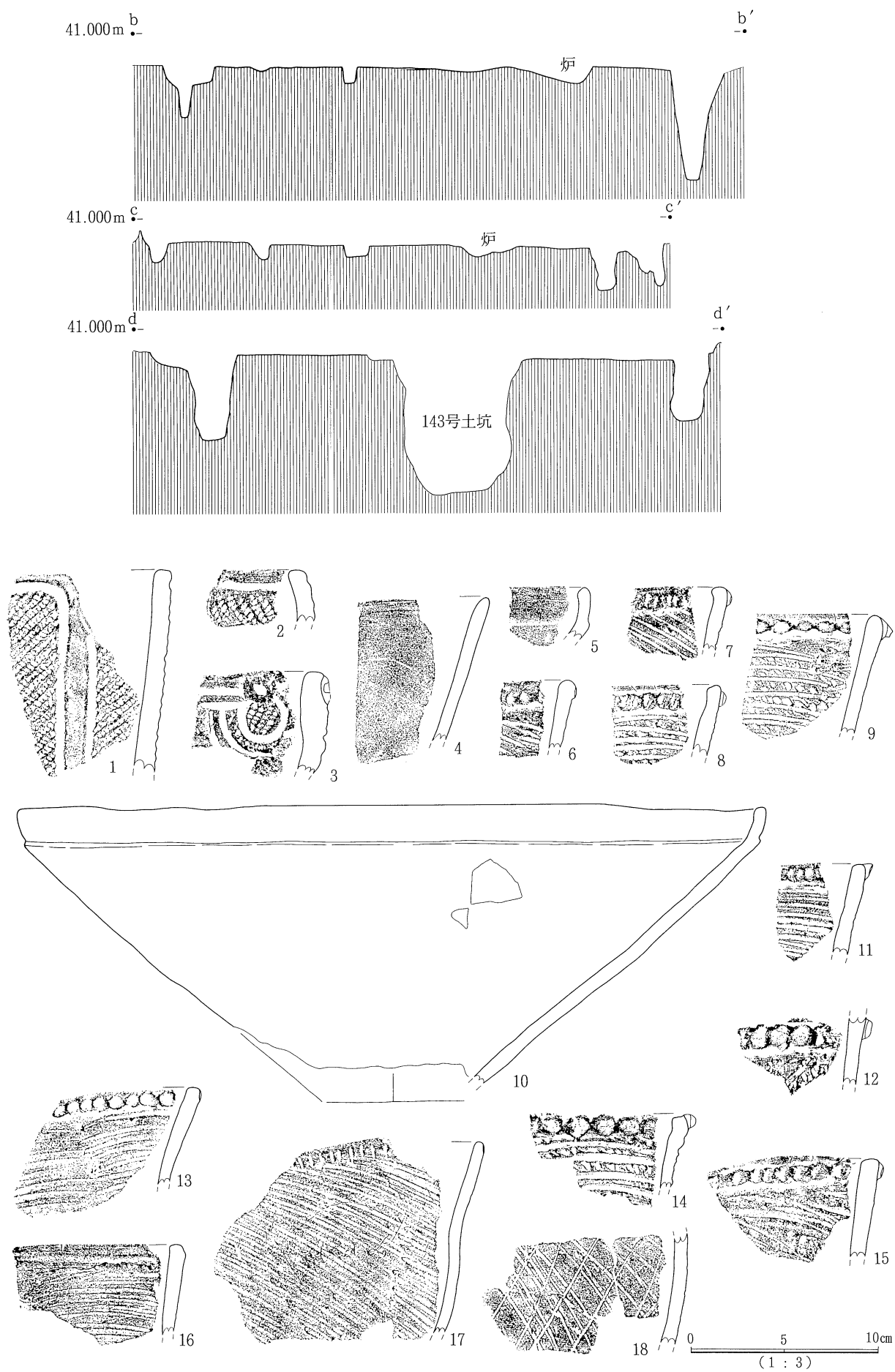
20号住居址 (第82図)

北側が調査範囲外のため未調査であるが、全体のおよそ80%は調査できたものと思われる。西側の壁の一部が19号住居址によって壊されるが、炉址、柱穴は比較的しっかりととらえられた。直径5.7mの円形のプランと思われる。中央部に埋甕炉がある。またプラン内には3基の土坑 (121~123号) があるが、いずれも時期不明である。

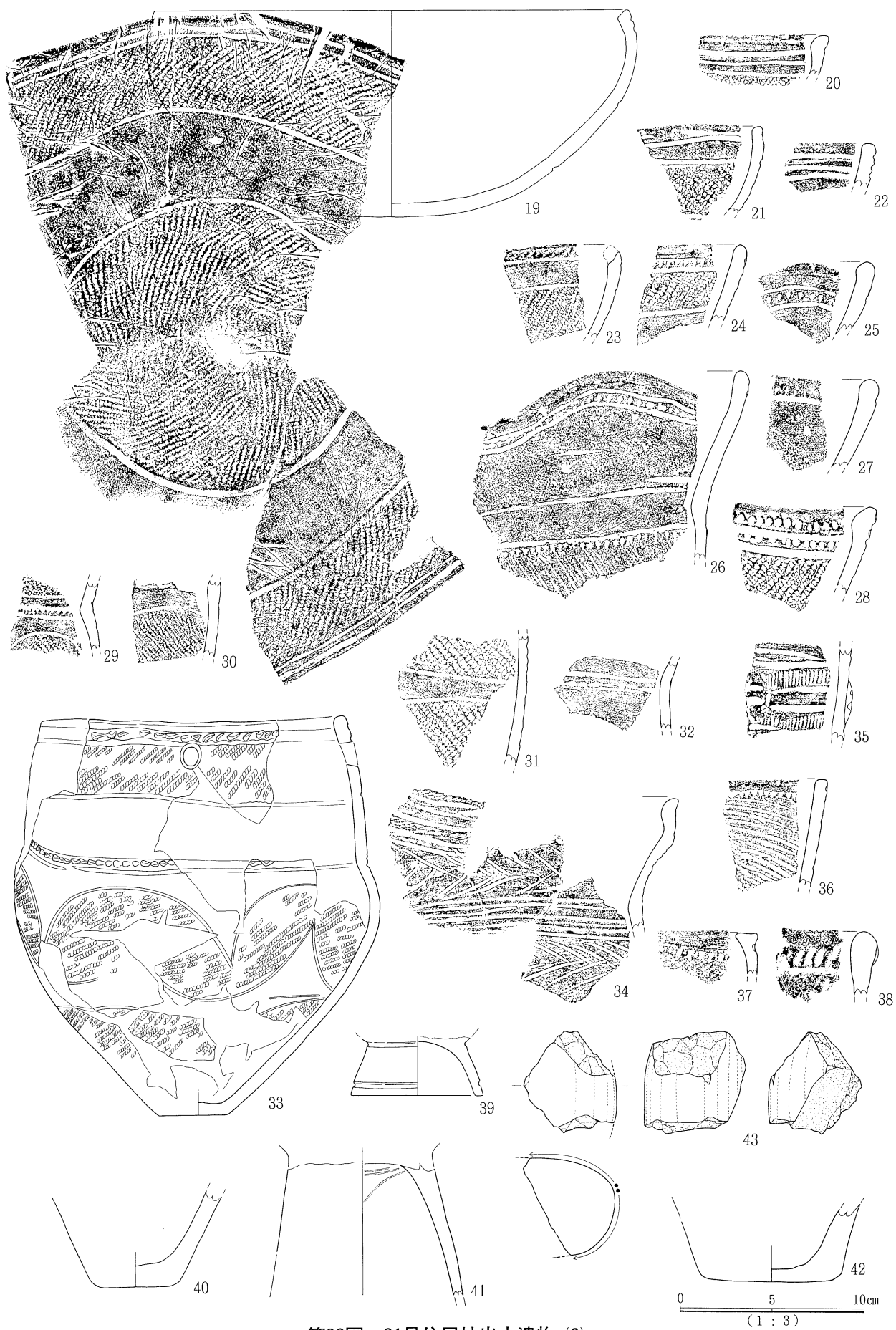
出土遺物 (第87~89図)

土器は中期後葉が94%を占める。10は炉址内に埋設されていた土器で、胴部下半を欠く。口径23.5cm、残存器高19.3cmの深鉢形土器で、地文は撚糸文である。14は口径38.0cm、残存器高6.9cmの深鉢形土器で、地文にはL R L 複節縄文を施す。17は、口径推定25.3cm、残存器高32.5cmの深鉢形土器で、口縁部がゆるい波状を呈し、R L 単節縄文を地文にし、口縁直下より二本一組の浅い沈線を縦位に垂下する。二本の沈線間は地文が磨り消される。この他、土器片錘8点 (1~8)、石鏃1点 (9)、黒曜石製フレーク1点、打製石斧1点 (11)、小型磨製石斧1点 (10)、磨石1点 (12) が出土している。

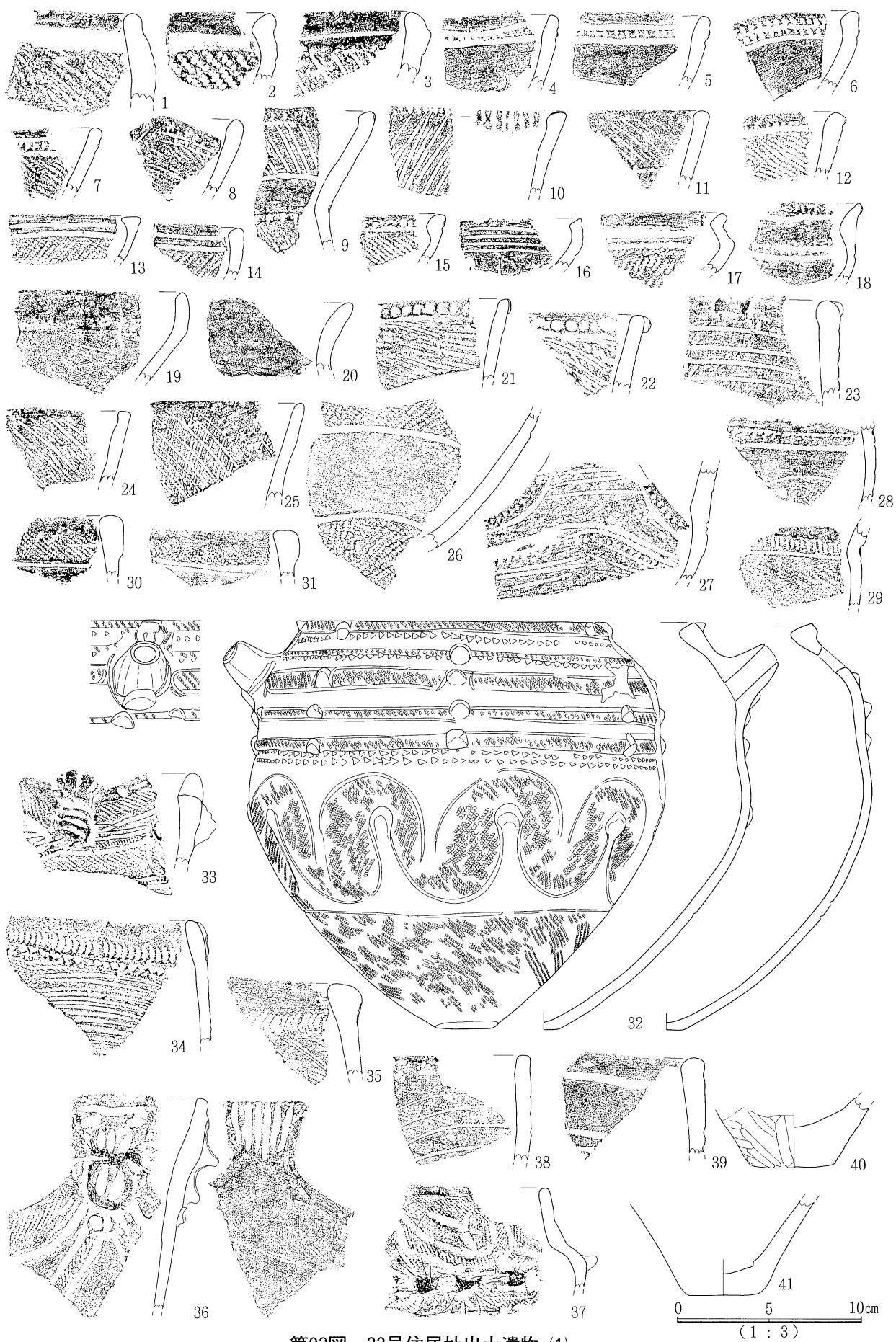




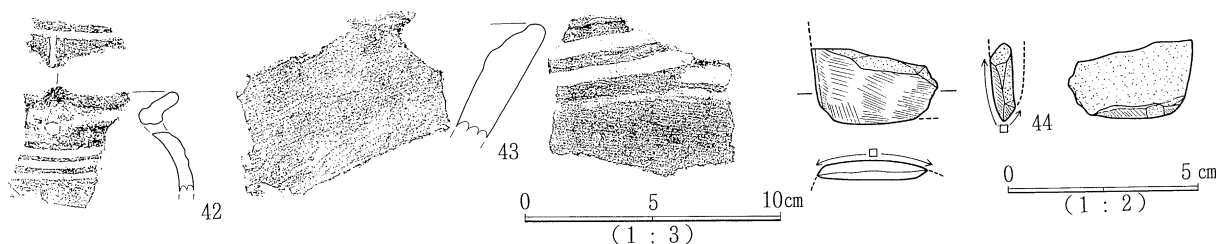
第91図 21・22号住居址実測図(2) および 21号住居址出土遺物(1)



第92図 21号住居址出土遺物 (2)



第93図 22号住居址出土遺物 (1)



第94図 22号住居址出土遺物 (2)

21号住居址 (第90図)

炉址・柱穴状のピットは検出できたが壁の部分が検出できず、住居形態・規模は推定にとどまる。8.0×7.0mほどの楕円形プランを想定した。南側の一部で後述する22号住居址と重複する。また、プラン内に6基の土坑(127~130,139,140号)がある。

出土遺物 (第91・92図)

土器は後期中葉から後葉が主体で、全体の97%を占める。10は床面より10cmほど上から検出されたもので、口径40.4cm、残存器高15.0cmを測る無文の浅鉢形土器である。19は、口径26.1cm、器高11.3cmを測る浅鉢形土器である。沈線区画内はL R単節縄文が施される。33は口径推定16.9cm、底径3.8cm、器高21.9cmを測る瓢形土器である。沈線区画内はL R単節縄文が施される。この他、磨石1点(43)が出土している。

22号住居址 (第90図)

炉址・柱穴・壁ともに検出できたが、床面は軟弱であった。6.7×5.9mの楕円形プランを呈し、炉址は東側に寄る。また、プラン内に2基の土坑(140,143号)があるが、143号は断面観察によると22号住居址の覆土を切って作られている。

出土遺物 (第93・94図)

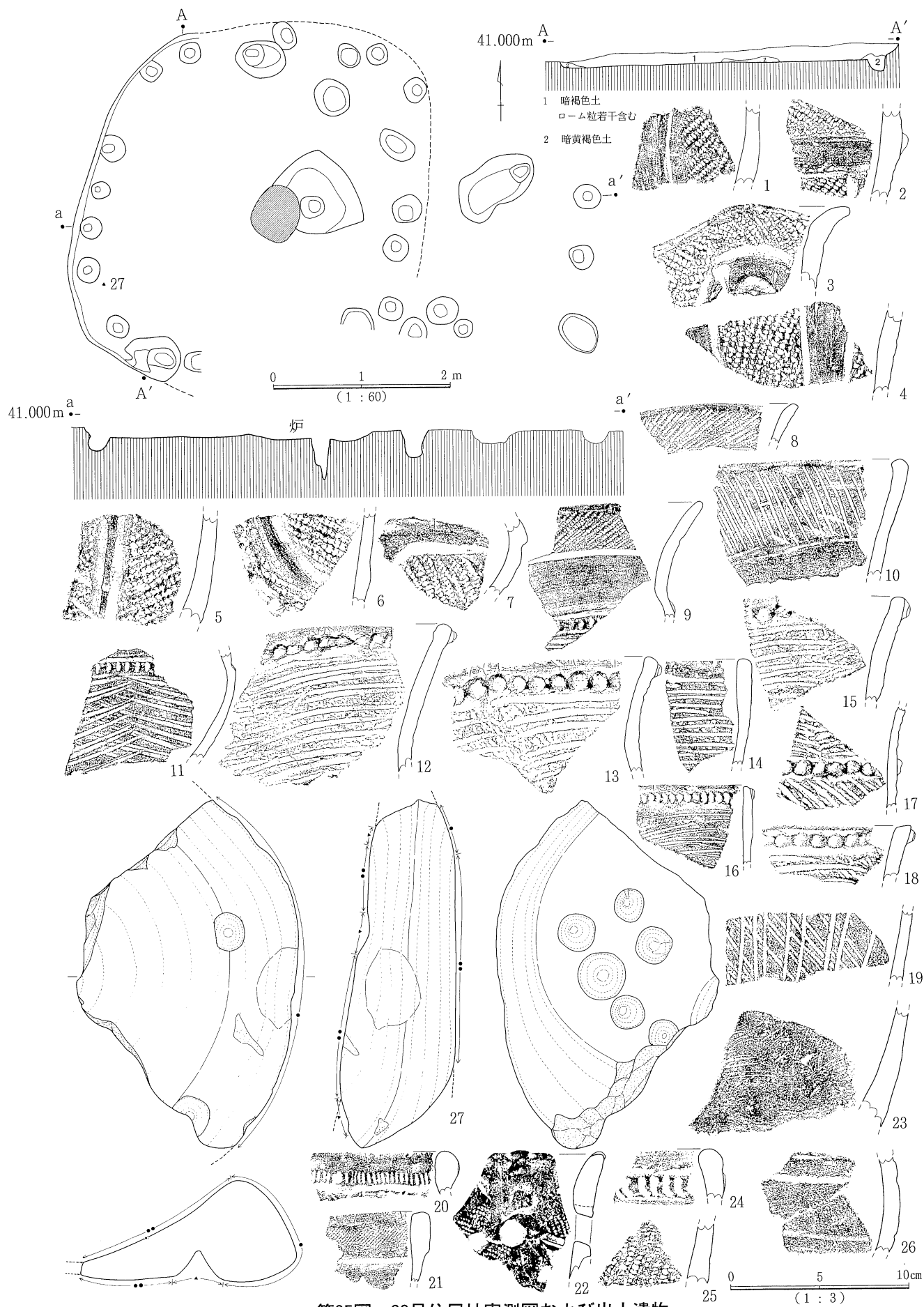
土器は後期中葉から晩期前葉までを主とした器形復元のできない破片資料がほとんどであるが、32に図示した住居西側の壁柱穴内から出土した安行1式の注口土器がほぼ完形に近い唯一の資料で、本住居址の時期決定の材料となる。口径推定16.4cm、底径3.0cm、器高22.4cm、沈線区画内はR L単節縄文が施される。この他、チャート製コア1点、小型磨製石斧1点(44)が出土した。

23号住居址 (第95図)

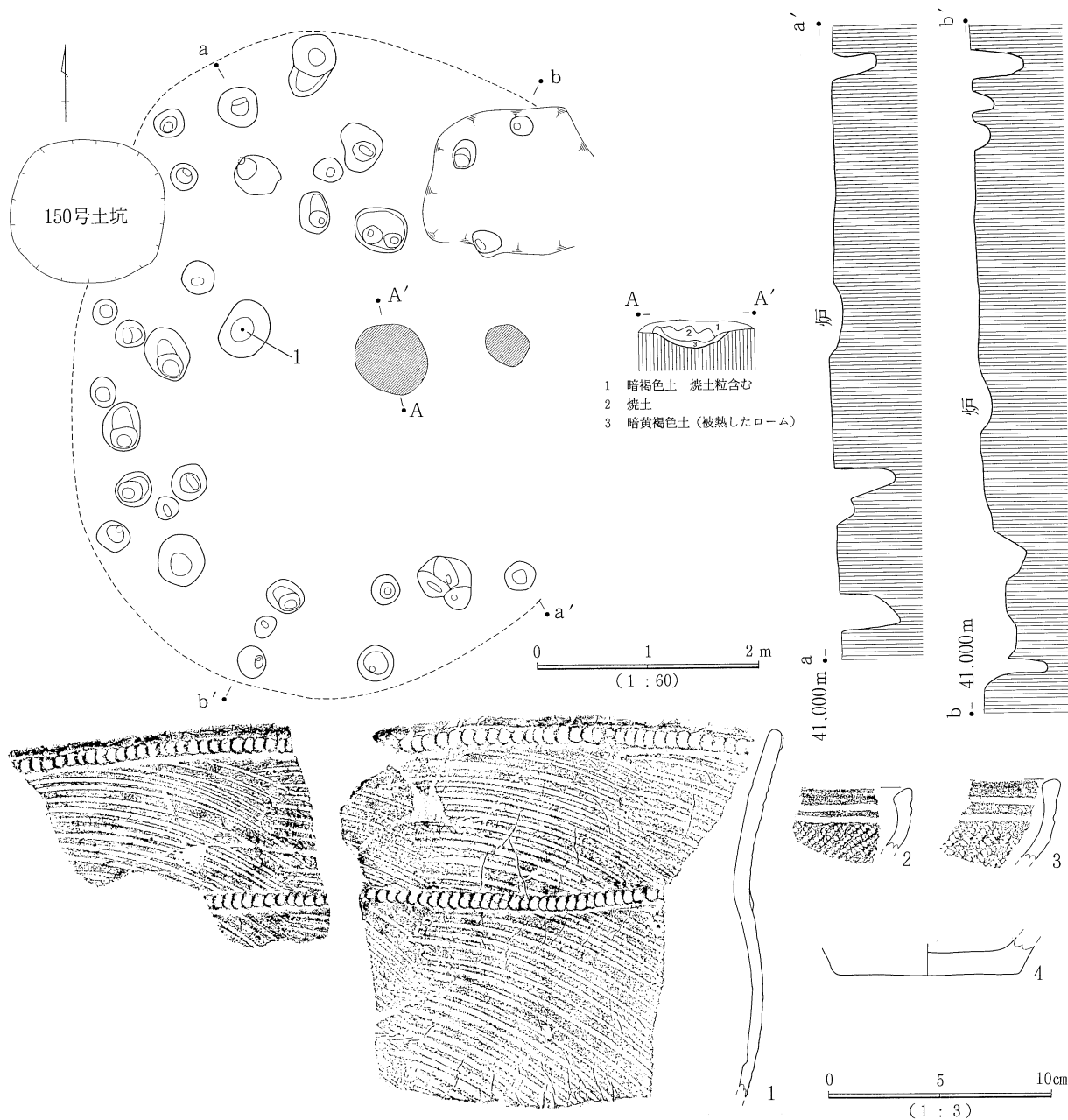
壁部分は西側でしかとえられなかったが、柱穴の配列から形態・規模の推定が可能である。炉址をほぼ中央にもつ、4.0mほどの円形もしくは楕円形プランのものを想定した。南東部は、調査範囲外のため未調査である。

出土遺物

土器は中期後葉、後期中葉・後葉のものがみられ、後期中葉のものが42%でやや多いが、全て器形復元のできない小破片資料である。この他、石皿1点(27)が出土している。



第95図 23号住居址実測図および出土遺物



第96図 24号住居址実測図および出土遺物

24号住居址（第96図）

炉址は検出できたが壁部分がとられられず、柱穴の配列から長軸6.0mの楕円形プランの住居と推定した。東側の一部は調査範囲外のため未調査である。

出土遺物

覆土がほとんどとられられなかったため、出土遺物もわずかであった。1はほぼ床面直上から検出された加曽利B式の粗製深鉢形土器の大型破片資料である。

遺跡範囲確認調査時検出の住居址

今回の調査対象面積は工事対象の13,927㎡であったが、このうちの建物建設によって削平される5,735㎡が本調査範囲であった。本調査範囲の周辺部については、2×2m・2×4m・4×4mのグリッド調査によって遺跡範囲の確認をおこなったが、この際に7軒の住居址と3基の土坑を検出した。住居址については部分的な調査であるため、炉址や床面の一部の検出にとどまっている。

①号住居址（第97図）

1B-49グリッドで、床面の一部を検出した。

出土土器は後期後葉から晩期の破片資料が主体である。器形を復元できる個体は6のみである。口径32.0cm、底径9.1cm 器高34.7cmを測る無文の深鉢形土器である。後期前葉の所産とみたい。

②号住居址（第98図-1～3）

2A-94グリッドで、住居のプランの一部を検出し、覆土の一部を調査した。

器形を復元できる個体は3のみである。口径推定15.6cm、底径5.8cm 器高21.2cmを測る称名寺式の深鉢形土器である。また、この土器の傍らより最大長20cmほどの粘土塊が出土した。

③号住居址（第98図-4～33）

3D-90グリッドで、炉址と床面の一部を検出した。

出土土器は後期中葉から晩期の破片資料である。その他、土偶の足の部分1点（33）が出土した。

④号住居址（第99図-1～38）

7C-04グリッドで、炉址と床面の一部を検出した。

出土土器は中期後期から晩期の破片資料である。

⑤号住居址（第99図-39～48）

8D-90グリッドで、壁と柱穴の一部を検出した。掘り込みは比較的しっかりととらえられた。

出土土器は少なく、いずれも小破片資料である。48は異形土器の口の部分の破片である。

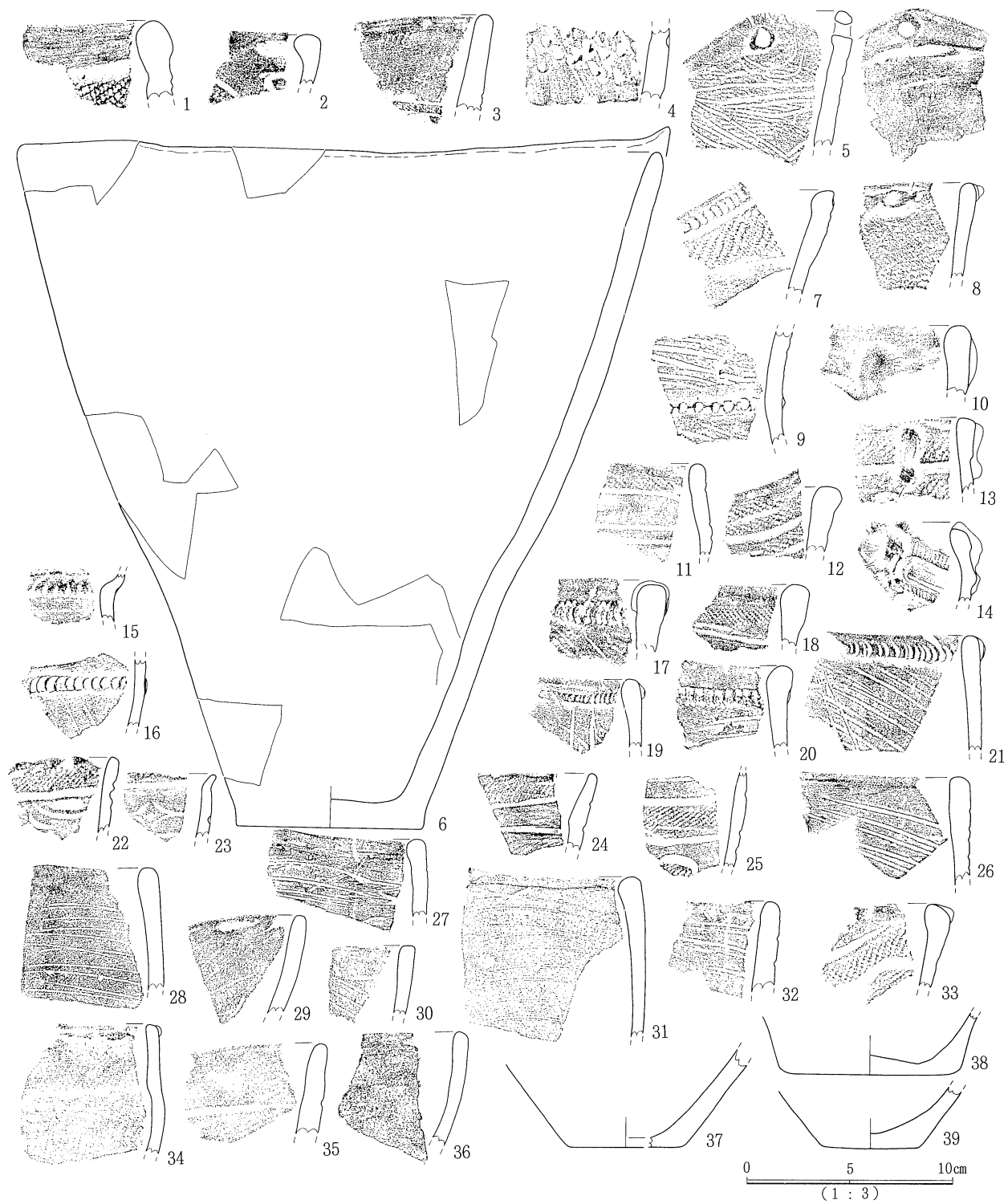
⑥号住居址（第100図）

7E-68・69・78・79グリッドで、炉址と床面の一部を検出した。

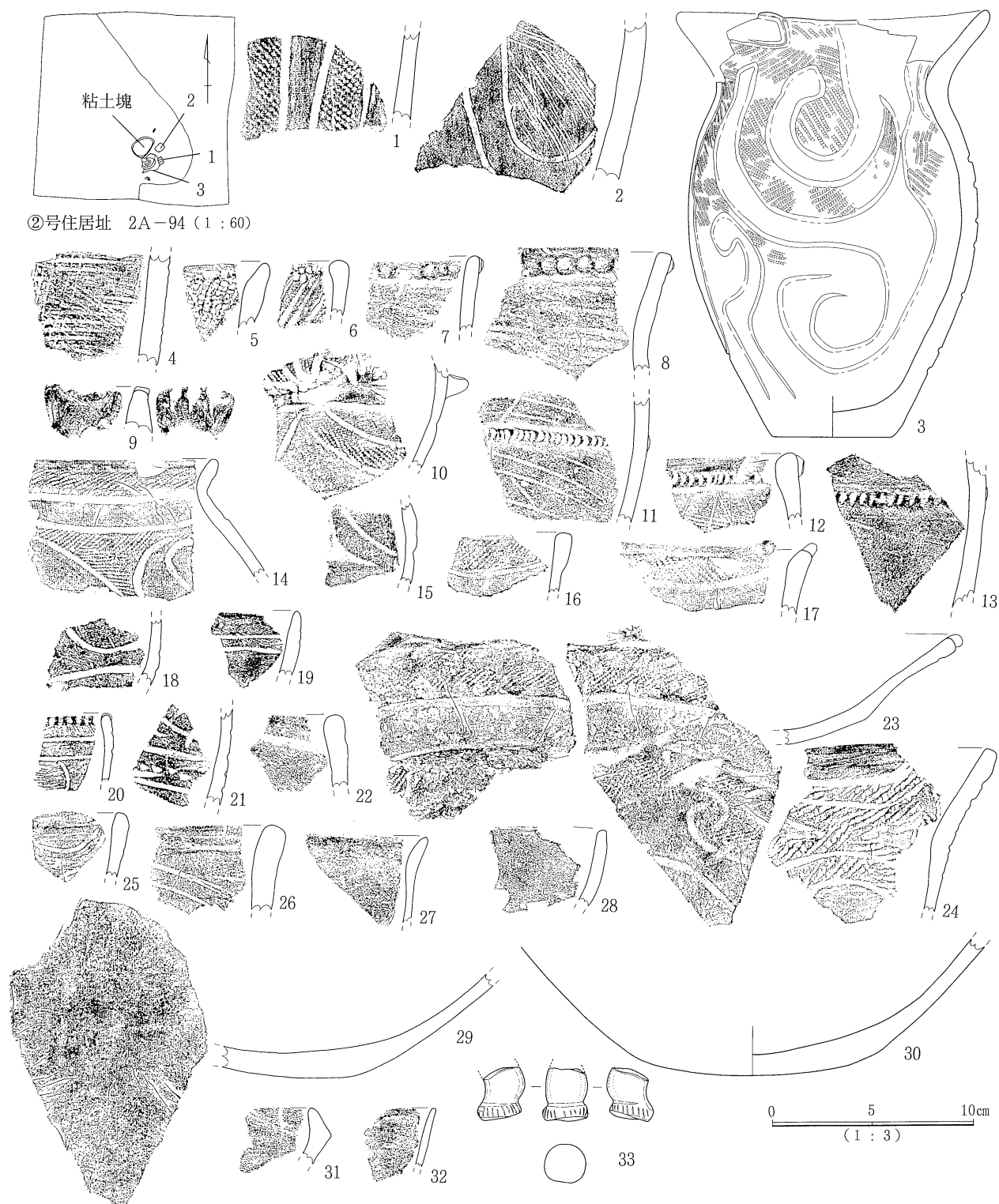
2は炉址の南2～3mの床直から出土した加曽利E式的大型破片資料であるが、口径は復元できないがかなり大型の個体となろう。その他、凹石1点（6）と軽石製品1点（7）が出土した。

⑦号住居址（第101図）

10D-50グリッドで、炉址と床面の一部を検出した。炉址は最大長約1mを測る。調査区の東端、谷部斜面に立地するものとみられ、床面の標高は38.7m、今回検出の住居址の中では最も低い位置にある。出土土器は、中期中葉から後期後葉までのものが混在するが、後期中葉のものがやや多い。



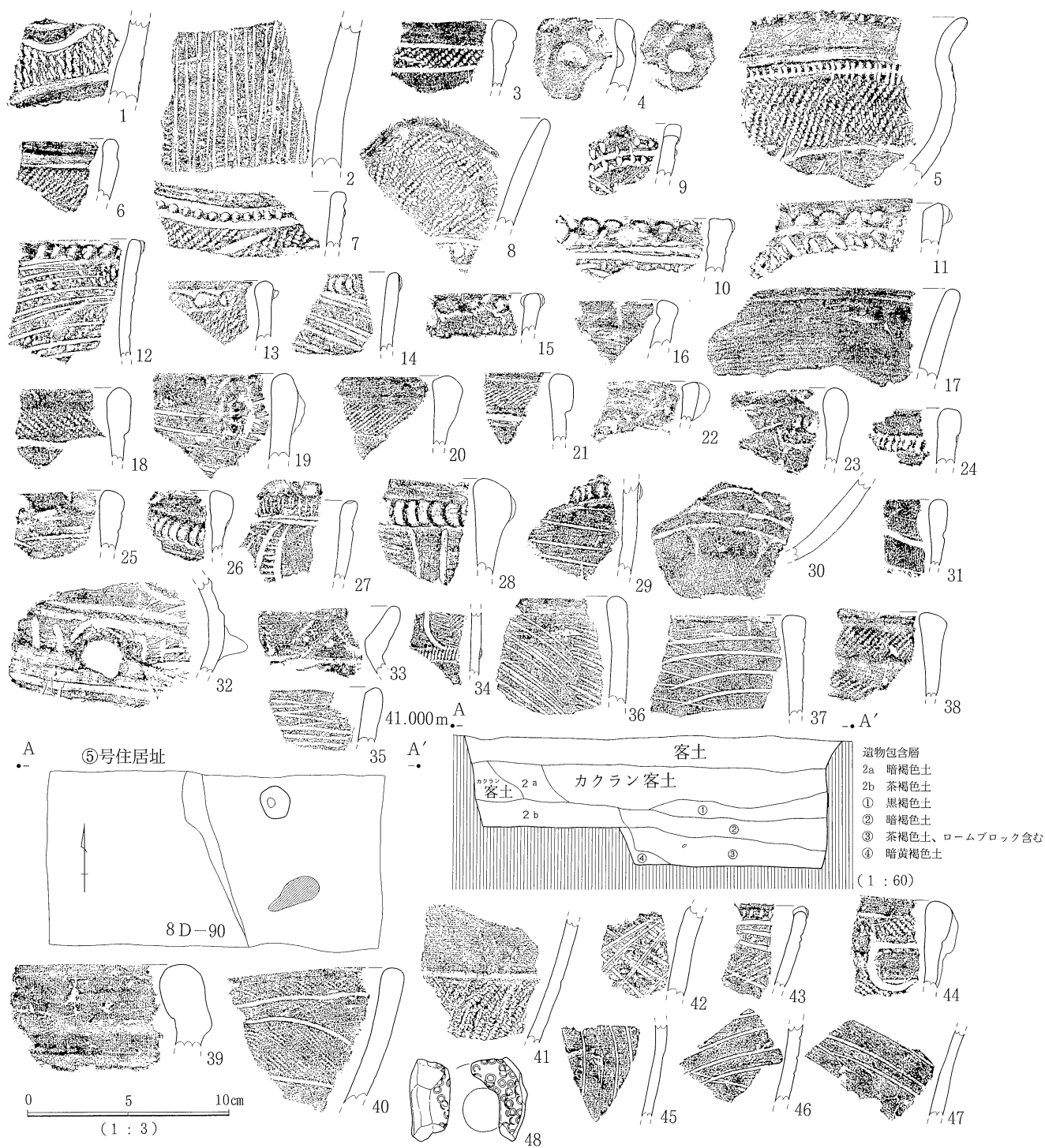
第97図 確認①号住居址出土遺物



第98図 確認②, ③号住居址実測図および出土遺物

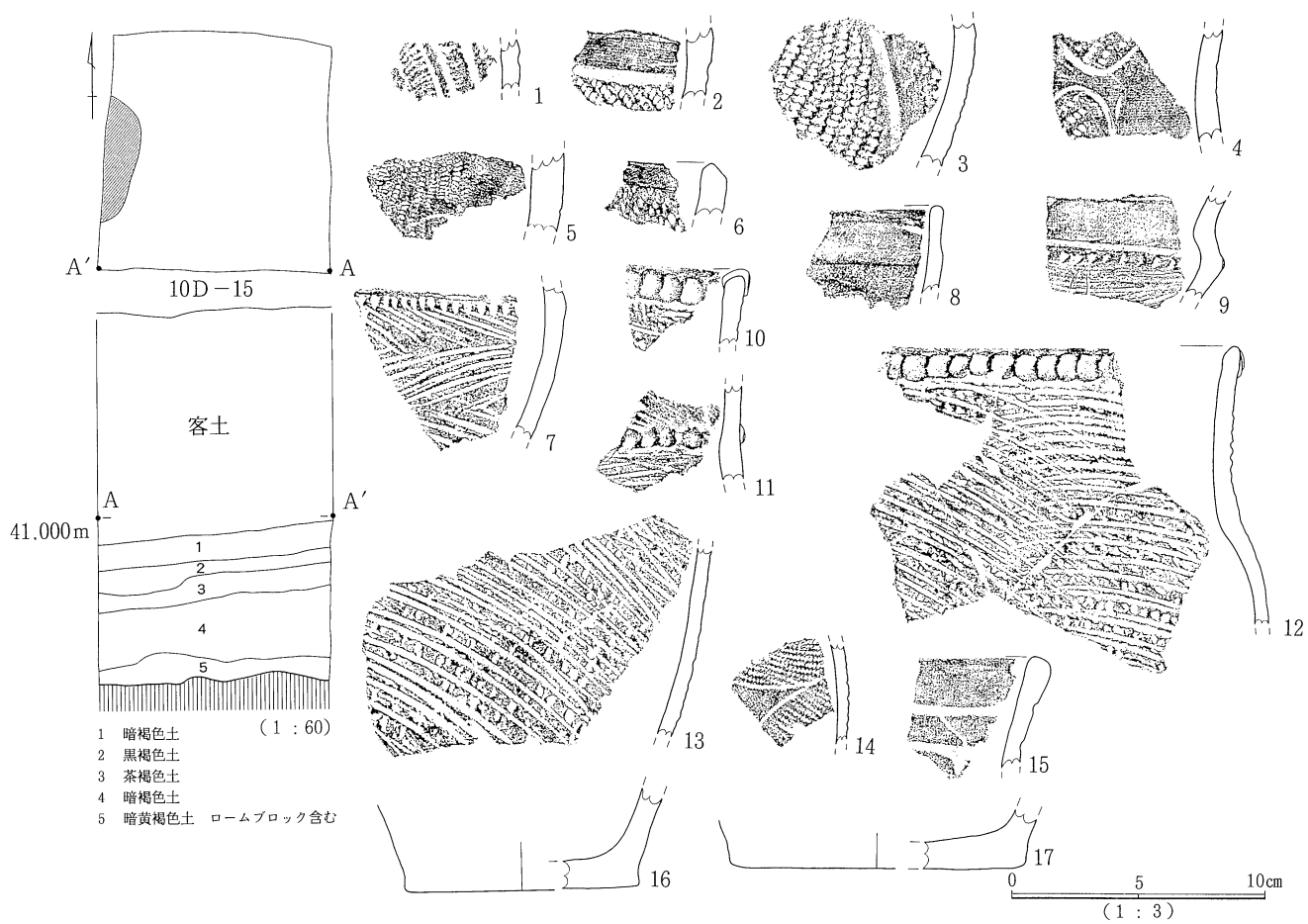
1 ~ 3 : ②号住居址

4 ~ 33 : ③号住居址



第99図 確認④、⑤号住居址実測図および出土遺物

1 ~ 38 : ④号住居址
39 ~ 48 : ⑤号住居址



第101図 確認⑦号住居址実測図および出土遺物

第4表 住居址出土土製品計測表

No.	器 種	遺 構	層 位	残存状況	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備 考	挿図No.
1	土器片錘	S-1号	2b層	完 形	5.0	5.6	1.1	38.6		14図-128
1	焼成粘土塊	3号住居址	柱 穴		5.5	4.3	3.0	48.6		
2	“	“	覆 土		6.1	4.7	4.6	81.8	指頭痕	
3	“	“	“		5.5	3.4	2.5	35.2	指頭痕	
4	“	“	“		4.2	3.2	1.7	15.4	指 紋	
5	“	“	“		2.9	2.4	2.4	15.8		
6	“	“	“		3.6	2.8	2.0	13.4		
7	土器片錘	5号住居址	柱 穴	半 欠	5.0	3.8	1.2	23.7		26図-53
8	蓋形土製品	“	覆 土	破 片	7.6	5.9	1.4	41.6		26図-50
9	土器片錘	6号住居址	覆 土	完 形	4.2	4.7	1.1	28.0		28図-67
10	“	“	“	“	4.6	5.9	1.0	33.1		28図-66
11	土器片錘	7b号住居址	炉	完 形	4.0	5.0	1.4	27.5		30図-28
12	土器片錘	11号住居址	覆 土	完 形	4.3	5.5	1.2	30.0		45図-2
13	“	“	“	半 欠	3.9	3.5	1.1	17.0		45図-4
14	“	“	“	完 形	5.2	5.8	1.6	55.6		45図-1
15	“	“	“	“	3.1	4.7	1.2	19.2		45図-3
16	土製円盤	“	“	“	5.5	5.2	0.9	25.2		45図-5
17	“	“	“	“	3.5	3.5	0.7	11.5		45図-6
18	“	“	“	“	2.9	3.1	0.6	5.5		45図-7
19	耳 飾	“	“	半 欠	7.1	2.2	1.0	20.6	赤 彩	45図-8
20	“	“	“	“	4.0	2.0	0.7	6.3		45図-10
21	“	“	“	“	4.0	1.7	1.1	8.2		45図-13
22	“	“	“	破 片	2.9	2.0	0.8	2.7		45図-12
23	“	“	“	“	2.3	2.0	0.8	2.3	赤 彩	45図-9
24	“	“	“	“	3.1	1.6	1.1	4.5		45図-11
25	土 偶	“	床 直	半 欠	8.7	10.1	4.6	216.1	赤 彩	46図-16
26	“	“	覆 土	破 片	4.3	5.6	2.6	46.5		46図-14
27	土 版	“	床 直	半 欠	6.8	7.8	1.5	81.4		46図-21
28	円形土版	“	“	完 形	7.4	7.4	2.5	166.9		46図-19
29	土 版	“	住居外	“	13.7	8.5	3.8	560.0		46図-18
30	手燭形土器	“	床 直	“	12.1	7.9	3.9	171.4	赤 彩	46図-20
31	人面付土器	“	覆 土	破 片	5.3	6.1	2.0	25.4	赤 彩	46図-15
32	未詳品	“	“	“	6.0	4.0	2.0	33.4		46図-17
33	土器片錘	12号住居址	柱 穴	完 形	3.6	5.0	1.2	24.6	P-1	55図-10
34	“	“	“	“	4.3	4.3	1.1	22.2	“	55図-9
35	“?	“	柱 穴	一部欠	2.4	3.6	0.9	8.4	P-16	55図-5
36	“	“	覆 土	半 欠	4.1	2.9	0.9	9.6		55図-11
37	土製円盤	“	“	完 形	3.6	3.6	0.5	8.6		55図-12
38	“	“	覆 土	完 形	4.0	3.7	1.1	18.3	未貫通孔	55図-13
39	有孔円盤	“	柱 穴	破 片	2.4	1.5	1.3	5.0	P-63	55図-6
40	“	“	覆土上層	半 欠	7.4	4.8	1.2	41.1	文様あり	55図-8
41	“	“	“	破 片	5.8	4.0	1.4	26.5		55図-7
42	耳 飾	“	柱 穴	半 欠	4.0	2.7	1.0	6.8	P-16	55図-15
43	“	“	柱 穴	“	4.0	2.5	0.9	7.9	P-17	55図-14

第4表 つづき

No.	器 種	遺 構	層 位	残存状況	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備 考	挿図No.
44	イノシシ形土製品	12号住居址	覆土上層	破 片	3.5	3.2	2.9		右後足	55図-1
45	動物形土製品?	"	"	破 片	3.1	2.1	2.1	10.9	「I」字文	55図-3
46	土 偶	"	"	半 欠	9.6	7.1	5.3	110.2		55図-2
47	" ?	"	覆 土	破 片	4.4	4.2	2.6	26.1		55図-4
48	焼成粘土塊	"	柱 穴		3.7	3.4	2.6	19.7	P-16	
49	"	"	"		5.1	2.5	1.8	14.3	"	
50	"	"	"		3.5	2.4	2.0	12.0	"	
51	"	"	"		3.6	2.5	1.7	9.0	"	
52	"	"	"		3.1	2.1	1.9	5.6	"	
53	"	"	"		3.2	1.9	1.1	3.8	"	
54	"	"	"		1.6	1.5	1.2	1.9	"	
55	"	"	柱 穴		3.8	2.2	2.1	16.7	P-20	
56	"	"	柱 穴		3.6	3.7	4.1	36.7	P-48	
57	"	"	覆 土		7.8	6.4	5.2	193.6	指 紋	
58	"	"	"		5.6	4.2	2.1	39.4	指頭痕	
59	"	"	"		2.7	2.4	1.3	5.3		
60	"	"	"		4.0	2.8	2.0	14.7		
61	"	"	"		4.5	3.8	2.6	29.1		
62	"	"	"		4.2	2.9	2.1	17.0		
63	有孔円盤	13号住居址	覆 土	破 片	5.1	4.3	1.6	27.5	文様あり	65図-1
64	土製円盤?	"	"		5.1	4.6	1.1	20.1	未貫通孔	65図-4
65	耳飾?	"	"	半 欠	1.7	3.3	0.5	4.7		65図-3
66	土偶?	"	"	破 片	2.2	4.6	2.8	22.2		65図-5
67	未詳品	"	"		4.0	1.8	2.3	18.2		65図-8
68	"	"	"		2.1	3.4	2.0	7.9		65図-6
69	"	"	"	破 片	6.3	6.0	3.9	78.8		65図-2
70	"	"	"	"	4.6	6.9	2.5	34.8		64図-385
71	"	"	"	"	3.9	5.5	1.5	19.6		64図-387
72	"	"	覆土上層	"	5.4	5.1	2.0	29.7		64図-386
73	土製円盤?	14号住居址	覆 土	完 形	4.8	4.4	0.8	16.5	貫通孔	69図-①
74	イノシシ形土製品	"	覆土上層	破 片	4.1	3.5	3.0		左後足	69図-④
75	土偶?	"	覆 土	破 片	5.9	4.6	2.7	35.6	「I」字文	69図-③
76	"	"	覆土上層	"	9.5	8.5	2.6	138.4	「I」字文	69図-⑤
77	未詳品	"	覆 土	"	4.9	6.3	3.5	47.9		69図-②
78	土製円盤	15号住居址	覆 土	完 形	3.3	3.8	0.8	11.3		75図-1
79	"	"	"	完 形	4.5	3.9	1.4	27.0	未貫通孔	76図-14
80	有孔円盤	"	"	破 片	4.1	3.5	1.4	12.4		75図-11
81	"	"	覆土上層	破 片	6.7	5.7	1.2	44.4		76図-13
82	"	"	"	半 欠	8.5	5.5	2.3	77.7	小孔あり	76図-12
83	"	"	"	"	10.0	5.2	1.5	77.7	小孔あり	75図-9
84	"	"	"	破 片	4.6	3.9	1.9	24.9	小孔あり	75図-8
85	"	"	"		8.7	8.7(4.3)	1.4	100.0	16号住と接合 文様あり	75図-10
86	イノシシ形土製品	"	床 直		16.1	8.3(6.4)	9.4(7.1)	525.0	右後足12号住居土 左後足14号住居土	75図-2
87	動物形土製品	"	覆 土	破 片	3.7	2.5	2.2	16.7		75図-3

第4表 つづき

No.	器 種	遺 構	層 位	残存状況	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備 考	挿図No.
88	土 偶	15号住居址	覆 土	破 片	3.1	3.8	2.1	21.5	「I」字文	75図-6
89	〃	〃	〃	〃	2.6	2.1	2.5	7.9	「I」字文	75図-5
90	〃	〃	覆土上層	破 片	3.7	2.8	2.0	17.9		75図-4
91	〃 ?	〃	〃		2.8	3.8	7.6			75図-7
92	有孔円盤	16号住居址	覆土上層	半 欠	8.7	4.9	1.5		文様あり	79図-3
93	〃	〃	〃	破 片	4.5	4.4	1.8	33.2		79図-7
94	〃	〃	〃	〃	4.5	3.5	1.4	19.4		79図-6
95	〃	〃	〃	半 欠	7.7	5.1	1.9	59.2	小孔あり	79図-4
96	〃	〃	覆土上層	破 片	5.0	2.6	1.6	16.9		79図-5
97	耳 飾	〃	柱穴	〃	2.5	1.9	0.9	2.5		79図-8
98	未詳品	〃	覆土上層	〃	2.6	4.1	2.4	16.2		79図-9
99	土器片錘	19号住居址	覆 土	一部欠	6.3	7.9	1.4	51.3		86図-1
100	〃	〃	〃	半 欠	6.5	5.0	1.5	45.0		86図-2
101	〃	〃	〃	一部欠	3.3	4.5	0.6	12.3		86図-3
102	土器片錘	20号住居址	覆 土	完 形	4.4	5.3	1.0	35.5		89図-1
103	〃	〃	〃	〃	4.1	5.7	1.0	27.6		89図-2
104	〃	〃	〃	〃	3.7	4.9	1.2	25.5		89図-3
105	〃	〃	〃	一部欠	4.4	4.9	0.8	19.7		89図-6
106	〃	〃	〃	完 形	2.1	2.9	1.1	6.5		89図-8
107	〃	〃	〃	〃	3.5	4.2	1.2	23.1		89図-5
108	〃	〃	〃	〃	2.4	4.8	1.2	17.6		89図-4
109	〃	〃	〃	〃	2.9	3.2	1.0	10.4		89図-7
110	土 偶	確認③号住居址	覆 土	破 片	2.7	2.3	2.2	13.3		98図-33

第5表 住居址出土石器・石製品計測表

No.	器 種	遺 構	層 位	残存状況	材 質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備 考	挿図No.
1	磨製石斧	S-1号	2b層上面	完 形	砂 岩	11.5	5.0	3.0	280.8		14図-127
2	石 皿	S-1号	"	半 欠	砂 岩	13.0	8.3	4.5	441.0		14図-126
3	"	S-1号	"	破 片	安山岩	14.3	11.0	6.3	770.0		14図-125
4	"	S-1号	"	破 片	安山岩	11.0	11.6	6.4	705.0		14図-124

1	凹 石	1号住居址	覆 土	破 片	結晶片岩	8.2	4.7	1.9	59.4	被熱	17図-28
2	石 棒	"	"	"	" (点紋緑泥)	8.8	3.0	2.6	78.3		17図-27
3	フレーク	3号住居址	覆 土		黒曜石	3.2	1.6	0.7	3.2		
4	"	"	"		珪質頁岩	2.1	1.3	0.6	1.2		
5	"	"	"		チャート	4.5	2.6	1.4	15.2		
6	"	"	"		"	2.5	2.2	1.4	10.1		
7	"	"	"		"	1.5	1.1	0.5	1.2		
8	"	"	"		"	1.9	1.8	1.1	3.7		
9	"	"	"		"	1.8	1.0	0.4	0.9		
10	"	"	"		"	3.0	1.7	1.3	5.4		
11	"	"	"		"	2.1	1.6	0.7	2.4		
12	"	"	"		"	2.2	1.9	0.9	2.5		
13	"	"	"		"	2.7	2.0	0.6	4.6		
14	浮 子	"	"	完 形	軽 石	2.9	2.2	1.8	3.3		22図-84
15	磨製石斧	"	"	一部欠	硬砂岩	12.6	5.5	3.0	263.5	被熱	22図-86
16	凹 石	"	"	破 片	結晶片岩(緑泥)	8.9	8.8	4.1	320.0	被熱	22図-85
17	フレーク	"	"	被 熱	結晶片岩	3.3	2.1	0.4	4.0		
18	石 鏃	5号住居址	覆 土	完 形	黒曜石	2.0	1.6	0.4	0.8		26図-54
19	フレーク	"	"		頁 岩	2.6	2.6	1.2	8.4		
20	"	"	"		チャート	3.2	2.1	0.4	2.8		
21	"	"	"		"	3.7	1.5	1.3	7.7		
22	磨 石	"	"	一部欠	砂 岩	9.2	7.0	4.6	346.0		26図-51
23	凹 石	"	"	半 欠	閃緑岩	7.2	7.9	4.9	428.0		26図-52
24	砥 石	"	"	完 形	ホルソフェルス	8.4	7.7	1.3	109.2		26図-55
25	フレーク	6号住居址	覆 土		チャート	2.2	2.1	1.0	4.8		
26	"	"	"		"	1.8	1.6	0.4	0.9		
27	磨 石	"	"	完 形	安山岩	5.9	5.6	3.4	151.1		28図-68
28	フレーク	"	"		緑泥片岩	4.7	2.3	0.6	9.0		
29	"	"	"		"	2.5	1.9	0.4	1.7		
30	フレーク	7a号住居址	柱 穴		チャート	2.8	2.1	0.7	3.8	貝層中	
31	石 皿	7b号住居址	柱 穴	破 片	砂 岩	11.8	8.7	4.1	358.0	貝層中,被熱	30図-27
32	磨 石	8号住居址	覆 土	破 片	安山岩	4.3	4.7	4.1	85.5	貝層中	32図-23
33	"	"	"	"	砂 岩	4.6	3.6	4.3	95.0	貝層中	32図-24
34	敲 石	"	"	一部欠	安山岩	9.6	7.6	3.8	380.0	貝層中	32図-22
35	磨 石	9号住居址	覆 土	破 片	安山岩	5.0	6.1	4.0	115.0		34図-16
36	コ ア	10d号住居址	覆 土		チャート	9.2	5.9	4.1	342.0		35図-46
37	"	"	"		"	3.6	2.5	2.1	14.9		
38	石 鏃	11号住居址	床 直	完 形	チャート	2.4	1.1	0.6	1.2	炭土サンプル中	47図-28
39	"	"	覆 土	"	"	2.5	1.5	0.7	2.2		47図-29

第5表 つづき

No.	器 種	遺 構	層 位	残存状況	材 質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備 考	挿図No.
40	石 鏃	11号住居址	覆 土	一部欠	黒曜石	2.7	1.7	0.6	1.5		47図-27
41	〃	〃	〃	〃	安山岩	4.5	1.8	0.6	2.5		47図-26
42	フ レ ーク	〃	〃		黒曜石	1.1	0.9	0.3	0.2		
43	〃	〃	〃		〃	2.5	1.0	0.4	0.9		
44	〃	〃	〃		〃	2.2	1.6	1.0	2.4		
45	〃	〃	〃		〃	3.7	2.4	1.0	5.5		
46	〃	〃	〃		〃	2.5	1.6	0.5	1.5		
47	〃	〃	〃		〃	2.2	1.8	1.2	2.5		
48	〃	〃	〃		〃	2.7	0.8	0.3	0.7		
49	〃	〃	〃		〃	2.8	1.3	0.9	1.8		
50	〃	〃	〃		玉 髓	0.9	0.6	0.2	0.1		
51	〃	〃	〃		〃	2.0	1.5	0.5	1.4		
52	〃	〃	柱 穴		石 英	3.8	1.7	0.9	5.2		
53	コ ア	〃	覆 土		チャート	4.4	3.8	2.4	39.9		47図-30
54	〃	〃	〃		〃	7.1	5.6	4.9	272.2		47図-31
55	〃	〃	〃		〃	4.0	3.8	2.4	49.9		
56	〃	〃	〃		〃	6.1	5.4	4.3	150.6		
57	〃	〃	〃		〃	3.1	2.9	1.9	22.7		
58	〃	〃	〃		〃	4.1	3.6	2.0	35.3		
59	〃	〃	〃		〃	4.9	3.4	2.6	61.0		
60	〃	〃	〃		〃	4.1	3.6	1.3	26.4		
61	〃	〃	〃		〃	3.0	2.8	2.1	9.9		
62	〃	〃	〃		ノジュール	4.4	2.8	1.3	15.6		
63	フ レ ーク	〃	〃		チャート	3.2	1.7	1.4	6.1		47図-32
64	〃	〃	〃		〃	3.3	2.5	1.1	9.1		
65	〃	〃	〃		〃	1.4	1.0	0.3	0.6		
66	〃	〃	〃		〃	3.0	2.2	2.1	11.3		
67	〃	〃	〃		〃	10.9	10.9	0.7	1.6		
68	〃	〃	〃		〃	3.0	2.6	1.6	14.0		
69	〃	〃	〃		〃	3.6	2.2	0.8	7.1		
70	〃	〃	柱 穴		〃	2.6	2.0	0.8	3.5		
71	〃	〃	〃		〃	1.7	1.1	0.4	0.5		
72	〃	〃	覆 土		〃	1.7	1.4	0.4	1.0		
73	〃	〃	〃		〃	2.4	1.8	0.8	3.2		
74	〃	〃	〃		〃	2.1	1.5	1.0	2.5		
75	〃	〃	〃		〃	2.5	1.4	0.6	2.6		
76	〃	〃	〃		〃	2.7	1.7	0.7	2.0		
77	〃	〃	〃		〃	2.6	2.6	2.2	10.7		
78	〃	〃	〃		〃	2.4	1.7	0.8	3.3		
79	〃	〃	〃		〃	2.6	1.9	0.6	1.8		
80	〃	〃	〃		〃	2.6	1.7	1.5	7.0		
81	〃	〃	〃		〃	1.5	1.4	0.7	1.3		
82	〃	〃	〃		〃	2.1	1.6	1.7	6.5		
83	〃	〃	〃		〃	2.5	2.1	0.7	3.5		

第5表 つづき

No.	器 種	遺 構	層 位	残存状況	材 質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備 考	挿図No.
84	フレーク	11号住居址	覆 土		チャート	2.6	1.2	0.8	2.3		
85	〃	〃	〃		〃	3.5	1.7	1.3	9.7		
86	〃	〃	〃		〃	2.3	2.2	0.7	3.2		
87	〃	〃	〃		〃	2.0	1.5	0.3	1.0		
88	〃	〃	〃		〃	3.9	2.4	0.9	8.3		
89	〃	〃	〃		〃	2.2	1.8	1.1	5.5		
90	〃	〃	〃		〃	2.5	1.9	1.0	7.0		
91	〃	〃	〃		〃	2.4	1.5	1.1	4.1		
92	〃	〃	〃		〃	2.1	1.6	0.9	3.0		
93	〃	〃	〃		〃	2.7	1.3	0.8	2.5		
94	〃	〃	〃		〃	3.4	1.3	0.5	3.3		
95	〃	〃	〃		〃	2.3	1.8	0.5	1.9		
96	〃	〃	〃		〃	2.4	1.8	0.7	3.1		
97	〃	〃	〃		〃	2.1	1.3	0.6	1.4		
98	〃	〃	〃		〃	2.0	1.4	0.5	1.0		
99	〃	〃	〃		〃	1.4	1.0	0.3	0.4		
100	〃	〃	〃		〃	1.0	0.7	0.2	0.2		
101	小型磨製石斧	〃	〃	完 形	蛇紋岩	7.6	2.2	1.0	32.9		46図-25
102	フレーク	〃	〃		〃	2.5	1.9	0.8	3.6		
103	〃	〃	〃		〃	2.0	1.6	1.0	3.0		
104	〃	〃	〃		〃	1.9	1.1	0.5	1.0		
105	〃	〃	〃		〃	1.8	1.3	0.6	1.3		
106	〃	〃	〃		〃	1.7	0.8	0.5	0.8		
107	軽石製品	〃	〃	完 形	軽 石	4.8	3.2	3.0	11.6		48図-49
108	〃	〃	〃	〃	〃	3.2	2.9	1.8	2.7		48図-50
109	磨 石	〃	〃	〃	砂 岩	7.6	6.6	4.6	271.4	被熱	47図-39
110	〃	〃	〃	〃	〃	6.6	4.8	3.9	176.5	被熱	48図-44
111	〃	〃	〃	一部欠	〃	8.9	5.7	3.1	230.3		47図-38
112	〃	〃	〃	破 片	〃	4.6	4.9	3.6	92.2	被熱	48図-47
113	〃	〃	〃	〃	〃	5.5	5.6	4.4	125.4		48図-46
114	〃	〃	〃	〃	〃	6.0	3.7	2.9	54.1		48図-45
115	〃	〃	〃	完 形	安山岩	11.1	6.9	3.3	352.0		47図-36
116	〃	〃	〃	破 片	〃	3.9	2.9	1.7	17.0		
117	〃	〃	〃	〃	〃	3.3	3.0	1.3	14.6		
118	〃	〃	柱 穴	完 形	チャート	10.0	8.2	5.2	570.0		47図-37
119	〃	〃	覆 土	破 片	ホルンフェルス	6.2	3.1	4.3	88.1		48図-35
120	〃	〃	〃	完 形	蛇紋岩	7.9	5.2	3.4	199.4		48図-41
121	〃	〃	〃	〃	流紋岩	5.8	4.5	3.7	138.7	被熱	48図-43
122	〃	〃	〃	〃	玄武岩	11.5	4.3	4.1	247.4		48図-40
123	凹 石	〃	〃	一部欠	安山岩	11.2	7.2	5.3	615.0		47図-34
124	石 皿	〃	〃	破 片	〃	7.8	6.1	5.5	165.9		48図-48
125	〃	〃	〃	〃	〃	4.7	4.0	1.9	19.0		48図-42
126	石 棒	〃	〃	〃	結晶片岩(緑泥)	10.1	4.9	2.3	201.1		47図-33
127	コ ア	〃	〃		結晶片岩	12.0	8.0	1.0	185.7		

第5表 つづき

No.	器 種	遺 構	層 位	残存状況	材 質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備 考	挿図No.
128	フレーク	11号住居址	覆 土		結晶片岩	6.0	4.1	1.7	44.8		
129	〃	〃	〃		〃(緑泥)	5.3	4.3	0.9	24.2		
130	〃	〃	〃		結晶片岩	7.8	3.5	1.0	29.7		
131	〃	〃	〃		〃	7.6	4.2	0.9	33.7		
132	〃	〃	〃		〃	2.6	1.7	0.4	2.2		
133	〃	11号住居址	〃		〃	6.4	2.4	0.5	9.6		
134	〃	〃	〃		〃	3.7	1.4	0.4	2.7		
135	〃	〃	〃		〃	2.4	1.4	0.3	1.1		
136	垂 飾	〃	床 直	半 欠	ヒスイ	3.5	1.9	1.0	5.5		46図-23
137	〃	〃	覆 土	完 形	蛇紋岩・滑石	0.7	0.6	0.4	0.3		46図-22
138	〃 ?	〃	〃	〃	石英・チャート	2.4	2.9	2.3	20.0		46図-24
139	石 鏃	12号住居址	柱穴	半 欠	玉 髓	2.9	1.5	0.6	2.5	P-41	55図-19
140	石鏃未製品?	〃	〃	一部欠	チャート	3.6	2.6	1.1	9.0	P-39	57図-40
141	石 錐	〃	〃	完 形	〃	3.0	0.9	0.7	1.3	P-9	55図-18
142	コ ア	〃	〃		〃	4.1	3.2	3.7	59.5	P-15	55図-16
143	〃	〃	〃		〃	4.2	3.7	3.7	81.0	P-6,被熱	
144	〃	〃	覆 土		石 英	5.7	4.6	1.9	49.9		
145	〃	〃	出入口部		黒曜石	3.5	3.1	2.9	30.4		
146	フレーク	〃	〃		〃	2.2	1.7	1.4	4.0		
147	〃	〃	柱 穴		〃	2.9	1.8	0.8	2.7	P-3	
148	〃	〃	覆 土		〃	2.0	1.5	0.6	2.2		
149	〃	〃	出入口部		チャート	3.5	2.0	1.1	8.1		
150	〃	〃	〃		〃	1.7	1.3	0.8	1.7		
151	〃	〃	1号炉		〃	1.9	1.5	0.6	0.9		
152	〃	〃	柱 穴		〃	1.7	1.6	0.2	0.9	P-1	
153	〃	〃	〃		〃	5.0	2.5	1.4	14.6	P-15	
154	〃	〃	〃		〃	3.1	1.8	1.5	11.7	P-20	
155	〃	〃	〃		〃	3.6	2.0	1.7	11.8	〃	
156	〃	〃	〃		〃	3.3	1.8	0.4	2.3	P-34	
157	〃	〃	〃		〃	1.6	0.8	0.7	1.0	P-42	
158	〃	〃	〃		〃	3.6	1.8	1.4	11.1	P-61	
159	〃	〃	〃		〃	1.8	1.7	0.3	1.1	〃	
160	〃	〃	〃		〃	1.4	1.4	0.3	0.4	P-63	
161	〃	〃	〃		〃	2.7	1.4	0.2	0.9	P-65	
162	〃	〃	覆 土		〃	1.9	1.1	0.3	0.6		
163	〃	〃	〃		〃	3.7	2.6	1.4	11.2		
164	〃	〃	〃		〃	2.4	2.2	0.6	2.2		
165	〃	〃	〃		〃	2.3	0.9	0.3	0.8		
166	〃	〃	〃		〃	4.2	2.9	1.5	15.2		
167	〃	〃	〃		〃	3.5	1.8	1.4	7.0		
168	〃	〃	〃		〃	2.8	1.5	0.7	4.1		
169	〃	〃	〃		〃	2.0	1.9	1.2	5.0		
170	〃	〃	〃		〃	1.9	1.9	0.3	0.9		
171	〃	〃	〃		〃	1.6	1.2	0.7	1.1		

第5表 つづき

No.	器 種	遺 構	層 位	残存状況	材 質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備 考	挿図No.
172	フレーク	12号住居址	フク土		チャート	1.7	1.4	0.4	0.6		
173	〃	〃	〃		〃	2.6	1.4	0.4	1.3		
174	〃	〃	〃		〃	1.8	1.1	0.4	0.7		
175	〃	〃	〃		〃	1.5	1.4	0.4	0.8		
176	軽石製品	〃	〃		軽 石	2.9	2.4	1.2	1.9		
177	小型磨製石斧	〃	柱 穴	完 形	蛇紋岩	5.5	3.1	1.2	30.7		56図-20
178	磨製石斧	〃	〃	破 片	安山岩	3.5	4.4	3.4	65.4	P-20	56図-22
179	〃	〃	〃	〃	砂 岩	7.9	6.1	2.3	139.6	P-24	56図-21
180	磨 石	〃	〃	〃	安山岩	6.0	4.6	5.0	143.4	P-38,被熱	57図-39
181	〃	〃	〃	半 欠	砂 岩	5.4	5.3	3.3	134.7	P-50	56図-37
182	〃	〃	フク土	完 形	安山岩 (スコリア質)	7.7	7.0	2.0	68.9		57図-38
183	石 皿	〃	〃	破 片	安山岩	10.5	11.3	5.8	565.0		56図-34
184	〃	〃	〃	〃	〃	7.1	6.4	6.5	308.0		56図-35
185	砥 石	〃	1号, フク土	一部欠	砂 岩	16.1	7.3	2.8	413.0	接合	56図-36
186	石 棒	〃	柱 穴	破 片	粘板岩	9.7	4.0	1.6	89.6	P-18	56図-28
187	〃	〃	フク土	〃	結晶片岩	5.8	3.7	0.7	17.9	被熱	56図-26
188	〃	〃	〃	〃	結晶片岩(緑泥)	3.2	3.0	0.9	7.7	「I」字文	56図-30
189	〃	〃	フク土上層	〃	結晶片岩 (泥質又は雲母)	11.6	3.0	2.5	119.0		56図-27
190	石 剣	〃	柱穴	〃	結晶片岩(緑泥)	6.8	2.7	1.7	48.4	P-6,被熱	56図-24
191	〃	〃	フク土	〃	凝灰岩	5.5	3.5	1.1	31.4	被熱	56図-25
192	〃	〃	フク土上層	〃	結晶片岩(緑泥)	5.6	2.7	1.7	30.0	被熱	56図-31
193	〃	〃	〃	〃	結晶片岩 (点紋緑泥)	5.7	4.1	1.4	46.1	被熱	56図-32
194	〃	〃	〃	〃	結晶片岩(緑泥)	4.6	2.6	1.4	17.3	被熱	56図-29
195	〃	〃	〃	〃	結晶片岩(泥質)	11.0	3.0	1.1	44.5		56図-33
196	独鈷石	〃	フク土	〃	砂 岩	2.8	4.3	2.3	31.4	被熱	56図-23
197	垂 飾	〃	柱 穴	完 形	緑色凝灰岩	1.0	1.0	0.7	0.9	P-61	55図-17
198	フレーク	13号住居址	フク土		玉 髓	2.9	1.9	0.3	1.7		
199	〃	〃	〃		〃	2.3	1.7	0.8	3.0		
200	〃	〃	〃		〃	2.4	1.8	0.6	3.2		
201	コア	〃	〃		チャート	6.8	3.5	3.1	91.6		65図-11
202	〃	〃	〃		〃	8.4	6.1	4.2	34.5		
203	〃	〃	〃		〃	5.4	3.2	2.5	39.7		
204	フレーク	〃	〃		黒曜石	1.6	1.4	0.4	0.6		
205	〃	〃	〃		チャート	3.5	1.7	1.1	7.7		
206	〃	〃	〃		〃	3.4	1.8	0.8	4.1		
207	〃	〃	〃		〃	2.1	1.7	1.2	3.8		
208	〃	〃	〃		〃	2.4	1.4	1.1	3.0		
209	〃	〃	〃		〃	2.5	2.2	1.3	8.0		
210	〃	〃	〃		〃	3.3	2.5	1.2	9.2		
211	〃	〃	〃		〃	2.7	2.4	0.9	4.9		
212	〃	〃	〃		〃	2.7	2.6	0.5	2.8		
213	〃	〃	〃		〃	1.7	1.3	0.3	0.8		
214	〃	〃	〃		〃	2.8	1.3	0.7	3.4		
215	〃	〃	〃		〃	1.4	1.3	0.7	1.6		

第5表 つづき

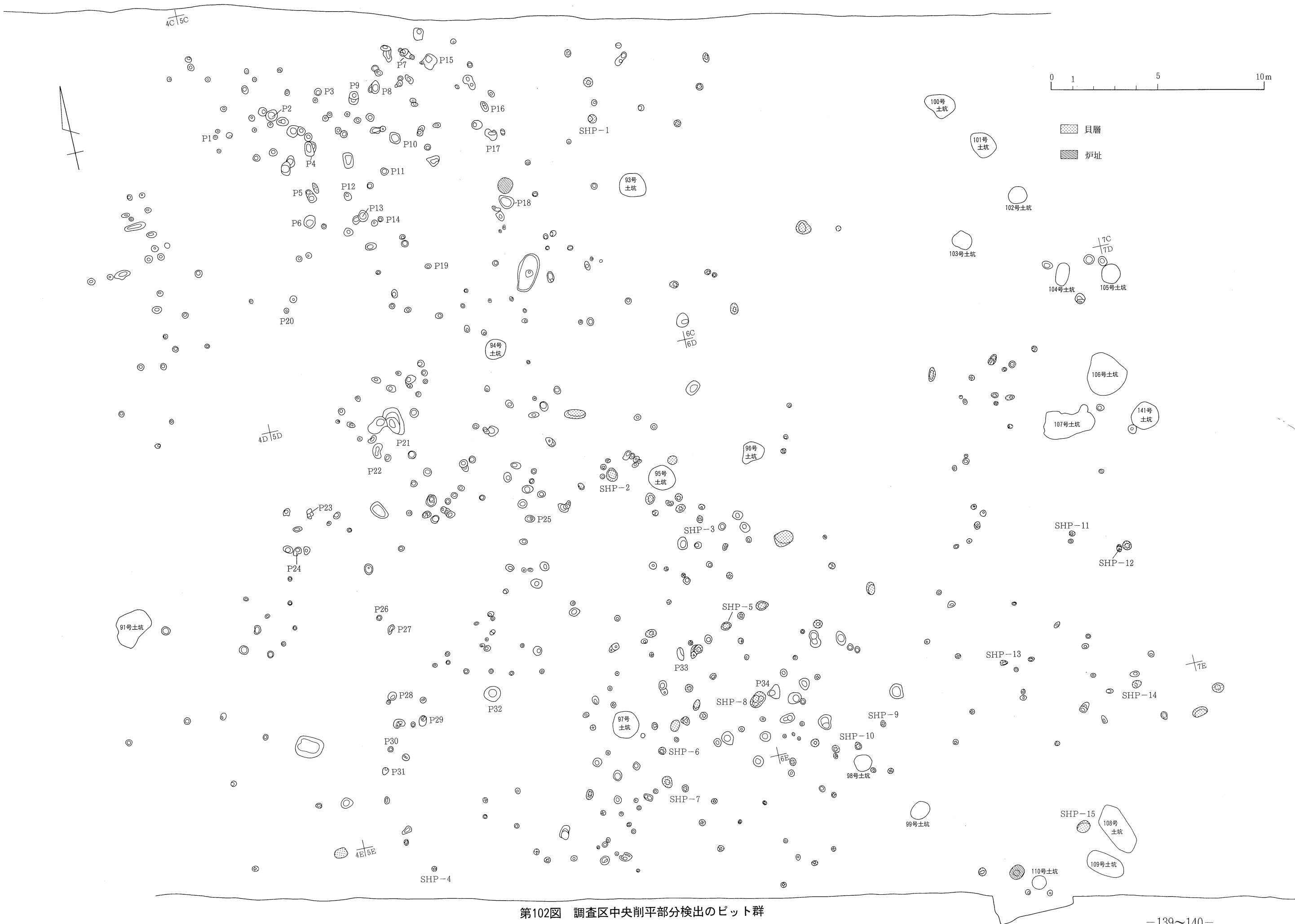
No.	器 種	遺 構	層 位	残存状況	材 質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備 考	挿図No.
216	フレーク	13号住居址	覆 土		チャート	3.3	1.4	1.1	6.6		
217	〃	〃	〃		〃	2.8	1.7	0.8	3.2		
218	〃	〃	〃		〃	2.8	2.4	1.5	12.2		
219	〃	〃	〃		〃	2.3	2.1	1.1	5.9		
220	〃	〃	〃		〃	2.1	1.5	0.8	1.8		
221	〃	〃	〃		〃	2.9	2.5	1.0	6.8		
222	〃	〃	〃		〃	1.4	0.9	0.3	0.4		
223	〃	〃	〃		〃	3.2	1.8	0.7	4.0		
224	〃	〃	〃		〃	3.4	2.4	1.1	6.1		
225	〃	〃	〃		〃	2.4	1.9	0.4	2.0		
226	〃	〃	〃		〃	2.4	1.1	0.3	0.8		
227	〃	〃	〃		〃	2.5	1.5	0.3	1.3		
228	〃	〃	〃		〃	1.9	1.4	0.4	1.6		
229	〃	〃	〃		〃	1.2	1.1	0.3	0.4		
230	〃	〃	〃		〃	2.4	2.1	0.5	1.9		
231	〃	〃	〃		〃	1.8	1.3	0.5	1.3		
232	〃	〃	〃		〃	2.8	2.2	0.7	3.7		
233	〃	〃	〃		〃	1.9	1.7	0.6	1.5		
234	〃	〃	〃		〃	2.3	1.0	0.7	1.6		
235	〃	〃	〃		〃	5.0	3.3	1.5	22.8		
236	〃	〃	〃		〃	4.8	3.4	1.1	18.8		
237	〃	〃	〃		〃	3.5	2.9	1.2	16.4		
238	軽石製品	〃	〃		軽 石	2.3	2.1	1.3	1.5		
239	石 錘	〃	〃	半 欠	チャート	1.9	4.1	1.0	9.7		65図-7
240	磨 石	〃	〃	完 形	安山岩	8.4	5.8	3.9	272.1		65図-14
241	石 剣	〃	〃	破 片	結晶片岩(泥質)	8.3	2.6	1.0	27.8	線刻あり	65図-12
242	〃	〃	〃	〃	〃 (緑泥)	6.1	3.2	1.6	40.9	被熱	65図-10
243	〃	〃	覆土上層	〃	〃 (泥質)	6.9	2.6	1.3	37.9		65図-9
244	〃	〃	覆 土	〃	〃 (緑泥)	10.1	6.4	2.2	130.5		65図-13
245	コ ア	〃	〃		結晶片岩	6.4	3.7	2.7	60.6		
246	フレーク	〃	〃		〃	4.6	1.8	1.2	12.0		
247	〃	〃	〃		〃	3.6	2.1	0.6	6.3		
248	コ ア	14号住居址	覆 土		珪質頁岩	4.6	3.5	2.6	52.7		69図-⑥
249	フレーク	〃	〃		チャート	2.2	2.0	0.7	3.4		
250	〃	〃	〃		〃	2.8	1.7	0.5	2.1		
251	浮 子	〃	〃	完 形	軽 石	6.2	7.1	4.7	33.2		69図-⑦
252	敲 石	〃	〃	半 欠	安山岩	7.7	8.3	5.6	336.0	被熱	69図-⑨
253	石 皿	〃	〃	破 片	〃	4.0	8.9	6.5	219.4	被熱	69図-⑩
254	石 剣	〃	覆土上層	〃	結晶片岩(緑泥)	3.4	3.1	0.8	8.8		69図-⑧
255	フレーク	〃	覆 土		結晶片岩	3.9	1.7	0.9	7.3		
256	〃	〃	〃		〃	3.2	1.7	0.9	4.5		
257	〃	〃	〃	被 熱	〃	4.7	2.2	0.7	8.2		
258	石 鏃	15号住居址	覆 土	半 欠	黒曜石	1.9	1.4	0.3	0.6		76図-15
259	コ ア	〃	〃		玉 髓	2.4	2.2	2.0	13.6		

第5表 つづき

No.	器 種	遺 構	層 位	残存状況	材 質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備 考	挿図No.
260	コ ア	15号住居址	覆 土		チャート	4.2	2.8	1.2	17.2		76図-18
261	〃	〃	〃		〃	4.3	2.5	2.1	17.3		76図-17
262	〃	〃	〃		〃	4.0	3.2	2.3	30.1		76図-16
263	〃	〃	〃		〃	5.0	3.9	3.1	74.1		76図-19
264	〃	〃	〃		〃	2.6	2.5	1.3	11.9		
265	〃	〃	〃		〃	10.5	5.0	4.3	195.2		
266	〃	〃	〃		〃	9.4	4.4	5.1	290.1		
267	〃	〃	〃		〃	1.9	1.6	1.4	5.3		
268	フ レーク	〃	〃		黒曜石	2.3	1.6	0.4	1.3		
269	〃	〃	〃		玉 髓	2.5	1.4	1.2	5.6		
270	〃	〃	〃		〃	2.9	2.6	1.0	5.1		
271	〃	〃	〃		〃	1.9	1.7	0.5	1.3		
272	〃	〃	〃		チャート	4.1	2.3	1.5	13.1		
273	〃	〃	〃		〃	2.7	2.2	0.6	3.4		
274	〃	〃	〃		〃	2.3	1.3	0.9	3.8		
275	〃	〃	〃		〃	2.2	1.9	0.6	2.6		
276	〃	〃	〃		〃	2.1	1.9	0.7	2.8		
277	〃	〃	〃		〃	2.0	1.5	0.5	1.3		
278	〃	〃	〃		〃	2.6	1.6	1.0	2.9		
279	軽石製品	〃	〃	完 形	軽 石	7.0	4.5	2.1	20.1		76図-21
280	〃	〃	〃		〃	3.3	2.5	2.2	3.9		
281	〃	〃	〃		〃	1.9	1.8	1.5	0.9		
282	〃	〃	柱 穴		〃	3.0	2.1	2.2	3.1		
283	磨 石	〃	覆 土	破 片	安山岩	6.6	4.7	2.9	104.3		77図-28
284	〃	〃	〃	半 欠	〃	7.2	6.8	3.6	234.5		77図-27
285	〃	〃	〃	破 片	〃	9.0	5.2	4.5	148.9		76図-25
286	〃	〃	〃	〃	砂 岩	9.1	3.3	2.9	132.2		76図-23
287	凹 石	〃	〃	一部欠	〃	7.4	5.4	3.6	202.4	被熱	76図-22
288	敲 石	〃	〃	半 欠	安山岩	11.2	8.9	4.2	575.0	兼磨石	76図-24
289	〃	〃	〃	完 形	砂 岩	13.0	8.7	5.9	895.0	〃	76図-26
290	石 棒	〃	覆土上層	破 片	結晶片岩	3.0	2.9	1.6	12.0	被熱	76図-20
291	コ ア	16号住居址	覆 土		頁 岩	4.9	2.8	2.0	27.0	被熱	
292	〃	〃	〃		チャート	4.3	3.1	1.4	22.2		79図- 1
293	フ レーク	〃	〃		〃	2.0	1.3	0.4	1.2		
294	垂 飾	〃	〃	完 形	蛇紋岩	2.2	1.6	0.7	3.5		79図- 2
295	フ レーク	〃	〃		結晶片岩	4.0	1.9	0.6	6.6		
296	〃	〃	〃		〃	5.3	3.0	0.6	13.8		
297	〃	〃	〃		〃	3.7	2.4	0.3	4.8		
298	〃	〃	〃		〃	2.7	1.5	0.8	3.7		
299	〃	〃	〃		〃	2.4	1.4	0.4	1.8		
300	フ レーク	18号住居址	覆 土		黒曜石	3.2	2.3	1.0	5.3		
301	コ ア	19号住居址	覆 土		玉 髓	3.2	3.0	1.3	13.0		
302	〃	〃	〃		チャート	4.3	3.5	2.4	45.2		86図- 4
303	〃	〃	〃		〃	3.0	2.9	2.0	20.5		86図- 5

第5表 つづき

No.	器 種	遺 構	層 位	残存状況	材 質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備 考	挿図No.
304	フレーク	19号住居址	覆 土		チャート	1.9	1.3	0.7	1.6		
305	〃	〃	〃		〃	2.9	1.9	0.8	4.5		
306	〃	〃	〃		〃	2.7	2.1	0.9	4.4		
307	〃	〃	〃		〃	2.0	0.7	0.5	1.2		
308	磨 石	〃	〃	破 片	流紋岩	4.2	2.1	4.5	39.2	被熱	86図-12
309	〃	〃	〃	破 片	流紋岩	2.8	2.9	4.6	36.9	被熱	86図-13
310	〃	〃	〃	半 欠	〃	7.3	8.0	5.1	368.0	被熱	86図-11
311	〃	〃	〃	一部欠	閃緑岩	6.8	5.2	3.9	212.9		86図-10
312	凹 石	〃	〃	半 欠	安山岩	7.6	7.2	2.3	191.8	兼磨石	86図-9
313	〃	〃	〃	〃	石 英	6.2	5.8	3.2	158.1	兼敲石,被熱	86図-7
314	〃	〃	〃	〃	結晶片岩	15.0	5.7	2.6	239.6		86図-6
315	砥 石	〃	〃	一部欠	砂 岩	5.6	5.4	1.0	34.6	被熱	86図-8
316	石 鏃	20号住居址	覆 土	完 形	チャート	1.6	1.4	0.4	0.6		89図-9
317	フレーク	〃	〃		黒曜石	2.4	2.0	1.1	4.1		
318	小型磨製石斧	〃	〃	半 欠	蛇紋岩	4.1	2.5	1.1	18.1		89図-10
319	打製石斧	〃	〃	〃	結晶片岩	6.3	5.2	2.3	97.6		89図-11
320	磨 石	〃	〃	破 片	砂 岩	6.8	3.7	3.7	88.6	被熱	89図-12
321	磨 石	21号住居址	柱 穴	破 片	石英斑岩	5.6	5.1	5.5	152.4	被熱	92図-43
322	コ ア	22号住居址	覆 土		チャート	2.3	2.2	1.6	13.1		
323	小型磨製石斧	〃	覆土上層	破 片	砂 岩	2.0	3.3	0.6	4.5		94図-44
324	石 皿	23号住居址	覆 土	〃	安山岩	19.7	12.6	6.6	1,395.0		95図-27
325	軽石製品	確認⑥号住居址	覆 土	完 形	軽 石	8.6	6.0	2.2	30.8		100図-7
326	凹 石	〃	〃	一部欠	結晶片岩 (点紋緑泥)	11.1	9.5	7.7	1,230.0		100図-6



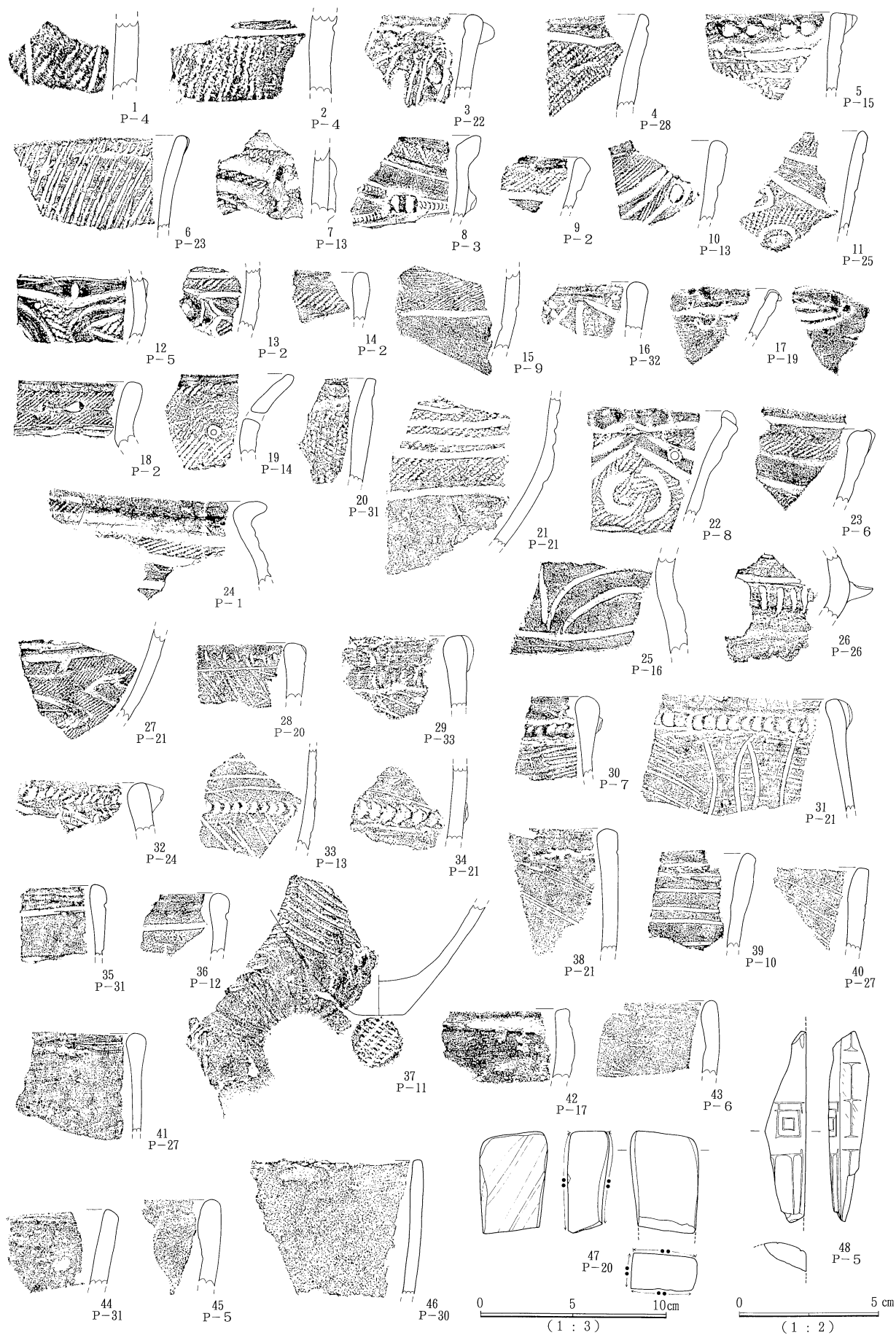
第102図 調査区中央削平部分検出のピット群

3 調査区中央削平部分検出のピット群

本遺跡では後世の攪乱により、遺物包含層や遺構覆土などが部分的に土採りされていたが、なかでも調査区中央部に位置する浅い谷状地形から東側の部分、グリッドの4 C・4 D、5 C・5 D・5 E、6 C・6 D・6 E区は特に被害が著しく、遺物包含層や遺構覆土のほとんど全てが削平をされていた。したがって、この地区では、住居址の覆土・壁・床面・炉址がほとんど検出できなかったが、柱穴状のピット群のみが無数に発見され、住居址のプランや規模・軒数については明らかにできないが、その存在を知ることができた（第102図）。

まず、5 C・5 D区を中心とした覆土中に貝層を伴わないピット群（一部4 C・4 D区にも広がる）からは、覆土中からわずかずつであるが晩期前～中葉の時期を主体とする遺物が出土しており（第103図－1～46）、谷の西側緩斜面部に展開した晩期中葉の住居群が、谷の東側にも展開している可能性を示す貴重な資料となった。土器の他には、コア・フレーク7点、磨石1点（第316図－118）、敲石2点（第104図－49、第325図－221）、砥石1点（第103図－47）、石棒1点（第103図－48）が出土している。このうち、P－5から出土した粘板岩製の石棒は、表面および側面に線刻によって「I」字文が施されており、遺構時期決定の有力な材料の一つとなる。

5 D・5 E、6 D・6 E区を中心とした覆土中に貝層を伴うピット群（一部5 C・6 C区にも広がる）からは、覆土中からわずかずつであるが後期後葉を主体とした時期の遺物が出土しており（第104図－50～80）、東側調査区に分布する当該期の土坑内貝層の内側（谷部より）に、小規模な（住居址）柱穴内貝層が展開していることが明らかになった。土器の他には、コア1点、小型磨石1点（第104図－81）が出土している。なお、これらの石器・石製品については、第IV章2節のなかでまとめて扱うこととする（第38表）。



第103図 調査区中央削平部分検出のピット群出土遺物 (1)